

Canon

Label Create SE

Label Create LITE

カラーラベルプリンター対応
ラベル作成ソフトウェア

ユーザーズガイド

目次

はじめに	1
LabelCreate について	1
動作環境について	1
本書の読みかた	2
商標について	2
略称について	2
お客様へのお願い	2
制限事項	3

第 1 章 LabelCreate SE の基礎

起動と終了	7
起動する	7
終了する	8
作業画面とツールバー	9
作業画面の構成	9
メニューバー	11
ファイルメニュー	11
編集メニュー	11
表示メニュー	12
挿入メニュー	12
レイアウトメニュー	12
データベースメニュー	13
イメージ表示メニュー	13
オプションメニュー	14
ヘルプメニュー	14
標準ツールバー	14
レイアウトツールバー	16
挿入ツールバー	17
ファイルの設定	18

新規ファイルを作成する	18
ファイルを保存する.....	19
編集中のファイルを保存する.....	19
ファイルを別名で保存する	20
ファイルを開く	21
本ソフトウェアで作成したファイルを開く	22
ラベル Pro-1 で作成したファイルを開く	23
レイアウト補助機能の設定	27
ルーラーを表示する.....	27
ガイドバーを使う	28
メニューからガイドバーを作成する	28
ルーラーからガイドバーを作成する	29
複数のガイドバーを一度に作成する	30
ガイドバーの位置を移動する.....	36
ガイドバーを削除する	38
ガイドバーにオブジェクトを吸着させる.....	39
グリッドを使う	40
グリッドを表示する	40
グリッドにオブジェクトを吸着させる	41
表示倍率を変える	42
パレットの設定	44
メニューから色を登録する	44
プロパティから色を登録する.....	47
表示画質の設定	51
画像の表示画質について	51
表示画質を切り替える	52

第 2 章 操作の流れと概要

ラベル作成の基本操作	55
用紙を設定する.....	57
ガイドバーを引く	58
四角形を描く	62

線を描く	65
文字を入力する.....	68
画像を貼り付ける.....	72
バーコードを作成する.....	75
データを保存する.....	78
ラベルを印刷する.....	80
データベースを活用したラベルの作成.....	83
データベースを指定する.....	84
オブジェクトを差し込み形式にする.....	90
文字オブジェクトを差し込み形式にする.....	90
画像オブジェクトを差し込み形式にする.....	92
オブジェクトをマクロ形式にする.....	94
任意の文字列を付加する.....	94
四則演算を使って計算する.....	100
差し込みカラーテーブルを設定する.....	105
データベースを使って印刷する.....	111

第3章 用紙とフォームの設定

用紙の設定.....	117
[用紙] プロパティを設定する.....	117
既定用紙サイズについて.....	119
カスタム用紙を使う.....	120
カスタム用紙を登録する.....	120
カスタム用紙を修正する.....	125
カスタム用紙を削除する.....	127
カスタム用紙をエクスポートする.....	129
カスタム用紙をインポートする.....	130
フォームの設定.....	133
新しいフォームを挿入する.....	133
フォームを編集する.....	134
フォーム名を変更する.....	134
フォームをコピーする.....	135
フォームを移動またはコピーする.....	136

フォームを削除する	138
-----------------	-----

第4章 オブジェクトの操作と作成

オブジェクトの操作	141
オブジェクトを選択する	141
マウスと [Shift] キーを使って選択する	142
マウスで範囲を指定して選択する	143
メニューから選択する	144
オブジェクトを移動する	145
マウスで移動する	145
矢印キーで移動する	145
[切り取り] で移動する	145
[ブロック] プロパティを設定して移動する	147
オブジェクトを削除する	148
オブジェクトをコピーする	149
オブジェクトを変形する	151
オブジェクトを拡大 / 縮小する	151
オブジェクトを回転する	152
オブジェクトを反転する	153
オブジェクトの重ね順を設定する	154
オブジェクトを揃える	155
用紙サイズに合わせた配置にする	155
複数のオブジェクトを整列させる	157
オブジェクトをグループ化する	160
オブジェクトをロックする	161
オブジェクトの作成	163
文字を入力する	163
画像を挿入する	167
直線を描く	171
円を描く	172
四角形を描く	173
多角形を描く	175
円弧を描く	178

連続直線を描く	180
自由曲線を描く	182
ベジェ曲線を描く	184
バーコードを作成する	186
GS1 データバーを作成する	195
二次元コードを作成する	204
ナンバリングオブジェクトを作成する	214
背景を設定する	218
オブジェクトの編集	220
[フォント] プロパティを設定する	222
[塗潰し] プロパティを設定する	225
単色で塗潰す	226
ハッチングで塗潰す	227
イメージで塗潰す	229
グラデーションで塗潰す	233
[文字色] プロパティを設定する	236
[輪郭] プロパティを設定する	237
[枠線] プロパティを設定する	239
[影] プロパティを設定する	241
[ブロック] プロパティを設定する	243
[修飾] プロパティを設定する	245
[線] プロパティを設定する	247
[背景] プロパティを設定する	249

第 5 章 データベース機能の設定

データベース機能の操作	251
本ソフトウェアのデータベース機能について	251
データベースを参照（またはインポート）する	252
データベースを解除（または削除）する	259
差し込み形式に設定する	261
外部データベースと内部データベース	262
「外部データベース」と「内部データベース」について	262
データベースの形式を設定する	263

LITE 用編集項目を設定する.....	265
外部データベースを編集する	266
内部データベースを編集する	267
列タイトルを設定する	271
文字列を検索する.....	272
文字列を置換する.....	274
内部データベースをエクスポートする	277
差し込みカラーテーブルの設定.....	279
カラーテーブルを作成する.....	279
カラーテーブルを設定する.....	283
カラーテーブルをエクスポートする	286
カラーテーブルをインポートする.....	287

第 6 章 マクロ機能の設定

マクロの仕様.....	289
マクロ機能の操作	292
マクロ形式に設定する	292
マクロウィザードを使う	296

第 7 章 印刷設定

印刷の基本操作.....	303
プレビューで確認する.....	303
現在表示しているレコードをプレビューする.....	303
印刷対象のレコードをプレビューする	306
印刷する	310
印刷履歴を確認する.....	315
前月までの印刷履歴を確認する	317
当月分の印刷履歴を確認する.....	318
当月分の印刷履歴を削除する.....	319
レコード情報を設定する.....	320

いろいろな印刷	321
データベースの部数指定項目を選んで印刷する	321
レコードを指定して印刷する	323
条件を指定してレコードを抽出する	333
フォームを指定して印刷する	337
オーバーレイ印刷をする	340
カッターを設定する	346
用紙に合わせてバーコードを調整する	351

第 8 章 LabelCreate LITE の使いかた

起動と終了	359
起動する	359
終了する	360
作業画面とツールバー	361
作業画面の構成	361
メニューバー	362
ファイルメニュー	362
表示メニュー	362
データベースメニュー	363
イメージ表示メニュー	363
オプションメニュー	363
ヘルプメニュー	363
標準ツールバー	364
印刷のしかた	365
ファイルを開く	365
印刷する	368
編集のしかた	373
文字オブジェクト（固定）を編集する	373
内部データベースを編集する	376

第9章 付録

仕様.....	381
F A Q	382
ラベル Pro-1 デザインファイルとの互換性について	386
収録画像一覧.....	410
索引	413

はじめに

このたびは、「LabelCreate（ラベルクリエイト）」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
「LabelCreate」は、簡単な操作で多彩なラベルデザインを作成できる、キヤノン カラーラベルプリンター専用のソフトウェアです。
本ソフトウェアをご使用前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いいたします。

LabelCreate について

「LabelCreate」には、ファイルの作成や保存、オブジェクト編集、および印刷までのすべての作業を行うことができる「LabelCreate SE（ラベルクリエイト SE）」と、おもに印刷のみを行うユーザー専用の「LabelCreate LITE（ラベルクリエイト LITE）」の2種類があります。

「LabelCreate SE」と「LabelCreate LITE」のそれぞれが行える機能は次のようになっています。

項目	LabelCreate SE	LabelCreate LITE
ファイルの新規作成	○	×
ファイルの保存	○	×
オブジェクトの編集	○	△
データベースの設定 / 編集	○	△
印刷	○	○

「○」 可 「×」 不可 「△」 設定により一部可

なお、本書では、第1章～第7章に「LabelCreate SE」の機能説明を、第8章に「LabelCreate LITE」の機能説明を記述しています。お使いになるソフトウェアに合わせてご覧ください。

動作環境について

本ソフトウェアは、次の環境でご利用になれます。

OS ^{※1}	Microsoft Windows XP 日本語版 Microsoft Windows Vista 日本語版 Microsoft Windows 7 日本語版 Microsoft Windows 8 日本語版
メモリー	上記 OS が動作するために必要なメモリー
ディスプレイの表示色	256 色以上（推奨は High Color16 ビット以上）
インストール時のハードディスク 空き容量	80MB 以上

※1 Windows 64 ビット環境では、32 ビット互換モードで動作します。

本書の読みかた

- 本書では、第1章～第7章に「LabelCreate SE」の機能説明を、第8章に「LabelCreate LITE」の機能説明を記述しています。お使いになるソフトウェアに合わせてご覧ください。
- 本書では、Windows 7 をご使用の場合に表示される画面で説明しています。
- 本書では、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 および Windows 8 に関する説明は省略しています。Windows XP、Windows Vista、Windows 7 および Windows 8 に関する操作については、それぞれの取扱説明書でご確認ください。
- 本書で使われている画面は実際と異なる場合があります。
- 本書では、次のようなマークを使用しています。



メモ

操作の参考になることや補足説明が書かれています。お読みになることをおすすめします。

商標について

- LabelCreate、LabelCreate SE、LabelCreate LITE、ラベルクリエイイトは、キヤノンファインテック株式会社の登録商標です。
- Canon、Canon ロゴは、キヤノン株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、Access、Excel は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

略称について

本書に記載されている名称は、下記の略称を使用しています。

- Microsoft Windows 8 日本語版を Windows 8 と表記しています。
- Microsoft Windows 7 日本語版を Windows 7 と表記しています。
- Microsoft Windows Vista 日本語版を Windows Vista と表記しています。
- Microsoft Windows XP 日本語版を Windows XP と表記しています。
- Microsoft Windows を Windows と表記しています。

お客様へのお願い

- 本書の一部または全部を無断で転載することは、禁止されています。
- 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- 本書の内容については万全を期していますが、万一誤りや記載漏れなどにお気づきの点がございましたら、お客様相談センターまでご連絡ください。
- 本ソフトウェアを運用した結果につきましては、上記に関わらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

制限事項

1. バーコード印刷について

キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500/LX-P5500 以外のプリンターを使用してバーコードの印刷を行った場合の読み取り精度については保証していません。

2. オブジェクトについて

本ソフトウェアでは、メモリーまたはディスクの空き容量が許す限り、オブジェクトを作成することができます。そのため、ご使用環境によっては、オブジェクトを作成できなかったり、著しく大きな画像ファイル（BMP 換算で 25MB 以上）を配置できない場合があります。

<上記の画像ファイルを配置時可能なパソコンスペックの目安>

CPU：Core i5 3.3GHz、メモリー：4.0GB

3. フォントについて

デザインエリアに表示される文字は、表示倍率にしたがって表示されますが、指定されているフォントの種類やサイズによっては、正しいサイズで表示されないことがあります。

また、本ソフトウェアは、拡張子が「.OFT」の Opentype フォントに対応していません。

4. 文字オブジェクトの印刷

データを作成したコンピューターと印刷するコンピューターが異なるとき、印刷した結果と画面上の文字フォントが異なる場合があります。

そのようなときは、印刷したコンピューターに使用しているフォントが存在するか確認してください。フォントが存在しないときはフォントをインストールする、または既存のフォントに変更してください。

5. 用紙設定での余白について

プリンターには、それぞれ用紙の4辺に印刷できない部分（余白）があります。デザインエリアではこの余白は赤色の点線で表示しています。これより外側にオブジェクトを配置しても印刷されない場合がありますのでご注意ください。

6. 印刷時のディスク容量

大きなサイズの画像を複数貼り付けたり、ラベルの印刷部数を多く設定するときなどには、必ずプリンターのスプール先（通常は OS がインストールされているドライブ）の容量が確保されていることをご確認ください。空き容量が確保されないまま印刷すると、エラーの原因になったり正常に印刷されなかったりします。また、Windows のバージョンによっては動作が不安定になってしまうこともあります。

7. 文字の表示について

文字のラインが細い書体を指定して文字を作成した場合、文字がかすれて読みにくくなる場合があります。そのような場合は、画面表示を拡大すると表示されます。

8. データベース機能について

本ソフトウェアによるデータベース参照、またはインポートは、データベースを作成したソフトウェア

(Microsoft Office Access や Microsoft Office Excel 等) が備わっていない環境でも可能です。
ただし、Office2007 以降のファイル形式 (*.accdb、*.xlsx) を参照、またはインポートするときは、「2007 Office system ドライバ: データ接続コンポーネント」が必要になります。マイクロソフト社のホームページからダウンロードし、インストールを行ってください。

9. データベースの項目数制限について

本ソフトウェアが参照またはインポートできるデータベースの項目数は、最大 64 項目までとなっております。項目数が 64 個を超えているデータベースは設定できません。

10. ラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) について

本ソフトウェアでラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を開いたとき、ソフトウェアの仕様の違いによりファイルが開けなかったり、自動的にオブジェクトの変換や削除などの処理が行われる場合があります。詳しくは、「ラベル Pro-1 デザインファイルとの互換性について (P.386)」をご覧ください。

11. オーバーレイ印刷について

オーバーレイ印刷のときは、次のような制限があります。

- ① キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500 (または LX-P5500) を共有している環境にて、クライアント側のコンピューターからサーバー側のキヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500 (または LX-P5500) を使ってオーバーレイ印刷するときは、プリンタードライバーのスプール形式を「RAW モード」に設定してください。初期設定の「EMF モード」では、本ソフトウェアからオーバーレイ印刷ができません。
- ② 背景オブジェクトに差し込みカラーテーブルを設定しているときは、オーバーレイ印刷を行わないでください。設定どおりに色が反映されない場合があります。

12. ファイルの同時起動について

本ソフトウェアでは、デザインファイルを編集集中に別のデザインファイルを開いたり、新規作成を行ったりすると、新たなウィンドウを起動しますが、同時に起動できるウィンドウは2つまでです。

13. 面付け用紙 (フォームデザインが「面付け」) のときの制限について

面付け用紙 (フォームデザインが「面付け」) のときは、次のような制限があります。

- ① 次の印刷設定は行えません。
 - ・複数フォーム指定の印刷 (⇒「フォームを指定して印刷する (P.337)」)
 - ・レコード指定印刷 (⇒「レコードを指定して印刷する (P.323)」)
 - ・レコードごとの部数設定印刷 (⇒「レコードを指定して印刷する (P.323)」⇒「データベースの部数指定項目を選んで印刷する (P.321)」)
 - ・ナンバリングオブジェクトの印刷 (⇒「ナンバリングオブジェクトを作成する (P.214)」)
- ② オブジェクトに差し込みカラーテーブルを設定できません。(⇒「カラーテーブルを設定する (P.283)」)

14. 画像を指定した塗潰しについて

オブジェクトを画像で塗潰したとき (⇒「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」) は、次のような制限があります。

- ① Windows 7 環境のとき、[伸縮] で [なし] を設定し、動作優先モードに切り替えると画像が小さく表示される場合があります。
- ② 画像で塗潰されなかった部分は、黒く塗潰されて印刷されます。

1

LabelCreate SE の基礎

作業を始める前に知っていただきたい本ソフトウェアの基礎事項について説明します。

起動と終了

作業画面とツールバー

ファイルの設定

レイアウト補助機能の設定

パレットの設定

表示画質の設定

起動と終了

「LabelCreate SE」の起動と終了について説明します。

起動する

「LabelCreate SE」を起動します。

1 デスクトップ上のアイコン (LabelCreate SE) をダブルクリックします。

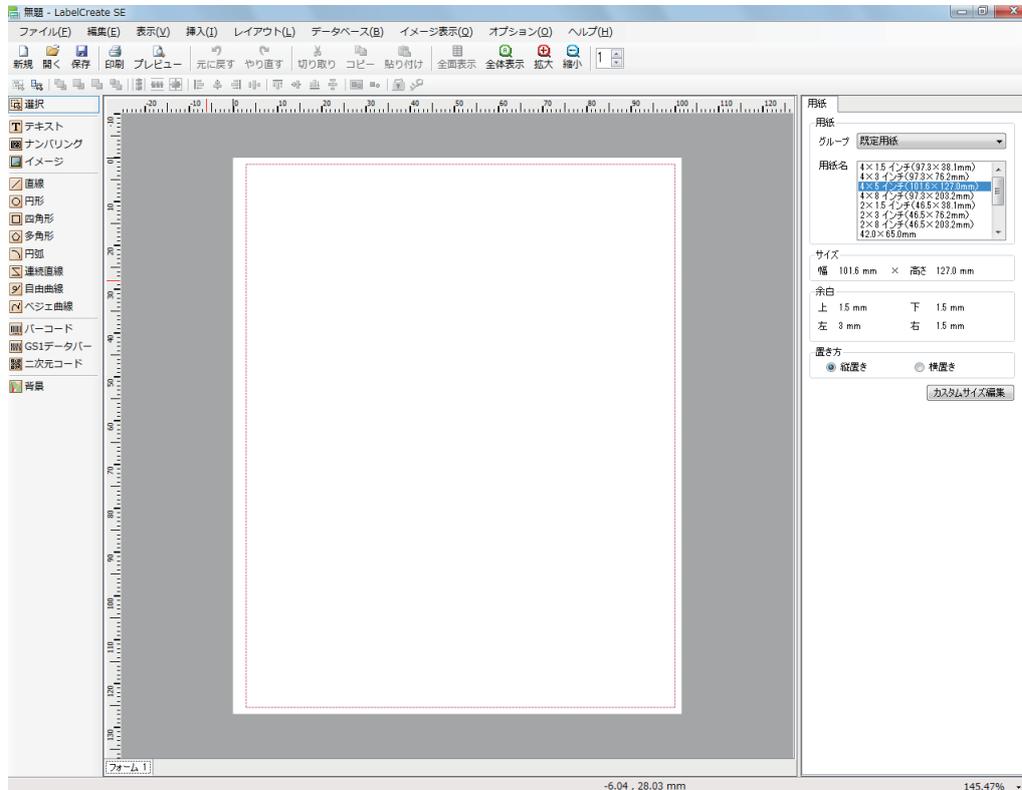


Windows の [スタート] メニューから表示するときは、[スタート] メニューをクリックし、[すべてのプログラム] - [Canon Finetech] - [LabelCreate SE] - [LabelCreate SE] を選択します。

• Windows 8 のとき

スタート画面から表示するときは、[LabelCreate SE] のタイルをクリックします。

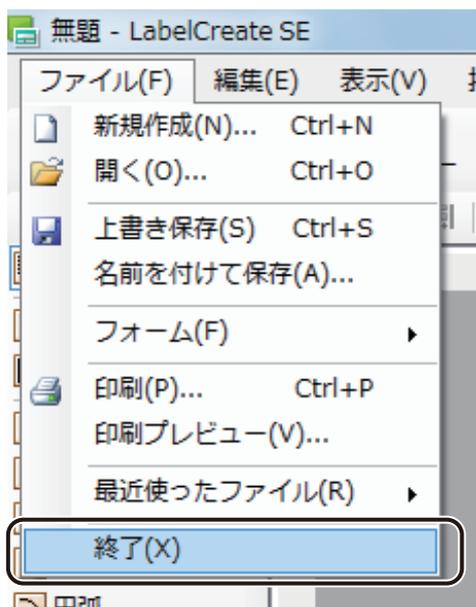
「LabelCreate SE」が起動します。



終了する

「LabelCreate SE」を終了します。

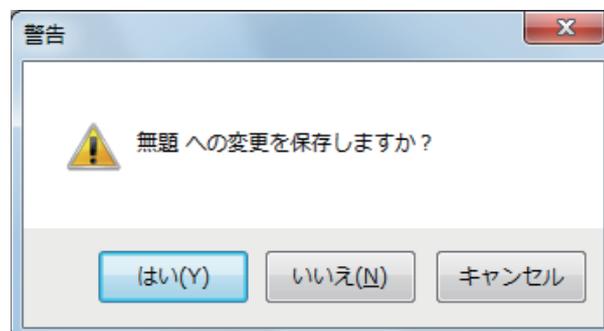
- 1 画面右上の （閉じる）をクリックします。
または、[ファイル] メニューの [終了] をクリックします。



「LabelCreate SE」が終了します。

メモ

- 編集中的数据が存在するときは、確認のメッセージが表示されます。

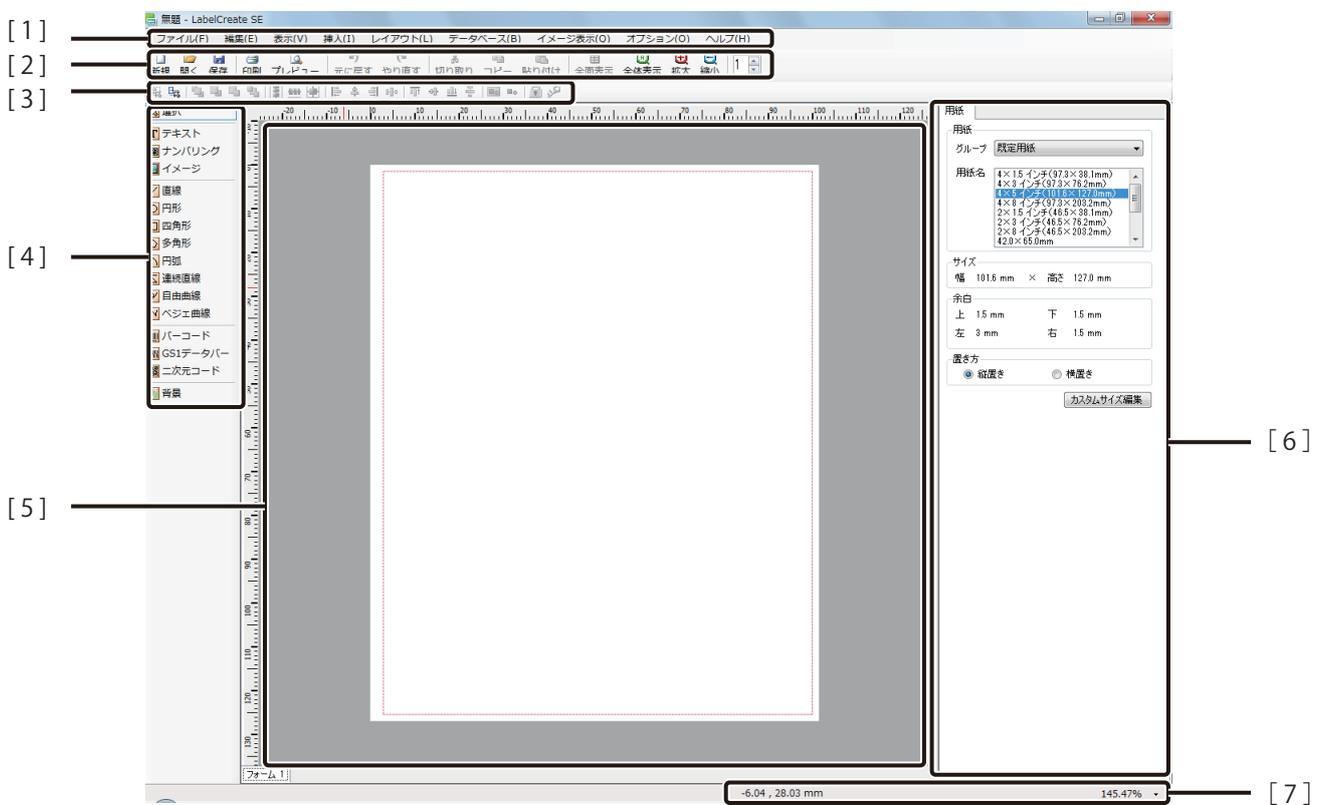


作業画面とツールバー

「LabelCreate SE」の作業画面とツールバーについて説明します。

作業画面の構成

「LabelCreate SE」の作業画面は、次のように構成されています。



[1] メニューバー

「LabelCreate SE」の機能を表示しています。
メニューをクリックすると、サブメニューがドロップダウン表示されます。
⇒「メニューバー (P.11)」

[2] 標準ツールバー

印刷や保存など、よく使うメニューをボタンとして表示しています。
⇒「標準ツールバー (P.14)」

[3] レイアウトツールバー

オブジェクトのレイアウトに使用するメニューをボタンとして表示しています。

⇒「レイアウトツールバー (P.16)」

[4] 挿入ツールバー

オブジェクトを挿入するツールをボタンとして表示しています。

⇒「挿入ツールバー (P.17)」

[5] デザインエリア

実際に作業を行う画面です。フォーム機能を使うと、最大 8 フォームのデザインが作成できます。

[6] プロパティエリア

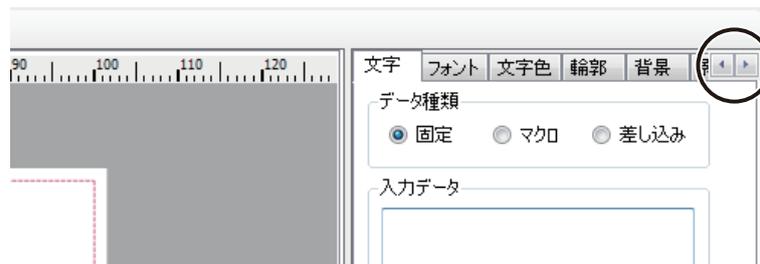
デザインエリアで選択しているオブジェクトのプロパティが表示されます。オブジェクトを選択していないときは、[用紙] プロパティが表示されます。

[7] ステータスバー

デザインエリアの現在の状態に関する情報を表示します。

メモ

- 画面の大きさや選択したオブジェクトによっては、プロパティエリアの右側に矢印ボタン () が表示されます。このボタンを操作するとプロパティエリア内に表示しきれなかったタブを表示できます。



メニューバー

メニューバーでは、本ソフトウェアの機能を表示しています。メニューをクリックすると、サブメニューがドロップダウン表示されます。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) レイアウト(L) データベース(B) イメージ表示(Q) オプション(O) ヘルプ(H)

■ ファイルメニュー

本ソフトウェアのファイル作成や終了に関する項目が表示されます。

新規作成	新規ファイルを作成します。
開く	ファイルを開きます。
上書き保存	現在編集中的数据を上書き保存します。 新規作成時は、[名前を付けて保存] ダイアログボックスが開きます。
名前を付けて保存	ファイル名、保存場所を指定して保存します。
フォーム	フォームに関する設定を行います。
印刷	[印刷] ダイアログボックスを表示します。
印刷プレビュー	印刷イメージを表示します。
最近使ったファイル	最近操作したファイルの一覧が表示されます。
終了	本ソフトウェアを終了します。

■ 編集メニュー

オブジェクトを編集する項目が表示されます。

元に戻す	直前に実行した操作を無効とします。最大 20 個までの操作を元に戻すことができます。
やり直す	「元に戻す」で無効にした操作を、再度有効にします。
切り取り	選択しているオブジェクトを切り取ります。
コピー	選択しているオブジェクトをコピーします。
貼り付け	切り取りまたはコピーしたオブジェクトを貼り付けます。
削除	選択しているオブジェクトを削除します。
すべて選択	デザインエリア内のオブジェクトをすべて選択します。
選択	オブジェクトを選択します。

■ 表示メニュー

作業画面の表示に関する項目が表示されます。

ツールバー	標準ツールバー、レイアウトツールバー、および挿入ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。
ルーラー	ルーラーの表示 / 非表示を切り替えます。
ガイドバー	ガイドバーに関する設定を行います。
グリッド	グリッドに関する設定を行います。
表示倍率	デザインエリアの表示に関する設定を行います。
全面表示 / 一面表示	面付けのデザインデータを作成するときに、全体の表示（[全面表示]）と、面付け一面の表示（[一面表示]）を切り替えることができます。 フォームデザインが [面付け] のときに有効です。
画面更新	外部データベースを参照しているとき、データベースを更新します。

■ 挿入メニュー

オブジェクトを挿入する項目が表示されます。

テキスト	文字を挿入します。
ナンバリング	任意で指定した番号を、指定した増分で印刷ページごとに自動で繰り上げて印刷します。
イメージ	画像データを貼り付けます。
図形	図形（直線、円、四角形、多角形、円弧、連続直線、自由曲線、ベジェ曲線）を描きます。
バーコード	バーコードを作成します。
GS1 データバー	GS1 データバーを作成します。
二次元コード	二次元コードを作成します。
背景	背景を設定します。

■ レイアウトメニュー

挿入したオブジェクトのレイアウトに関する項目が表示されます。

重ね順	選択したオブジェクトの重ね順を設定します。
回転	選択したオブジェクトの回転します。
反転	選択したオブジェクトの反転します。

第1章 LabelCreate SE の基礎

配置	選択したオブジェクトを用紙に合わせて配置します。
位置合わせ	選択した複数のオブジェクトの位置を揃えます。
グループ化	選択した複数のオブジェクトをグループ化します。
グループ化解除	グループ化を解除します。
再グループ化	グループ化を解除したオブジェクトを再度グループ化します。
ロック	選択したオブジェクトをロックします。
ロック解除	ロックを解除します。

■ データベースメニュー

データベース機能に関する項目が表示されます。

データ画面	<ul style="list-style-type: none">外部データベースのとき [データベース編集画面] を表示します。内部データベースのとき [データベース確認画面] を表示します。
データベース参照 / データベースインポート	<ul style="list-style-type: none">外部データベースのとき (データベース参照) データベース情報を参照します。内部データベースのとき (データベースインポート) デザインファイルにデータベース情報を取り込みます。
データベース解除 / データベース削除	<ul style="list-style-type: none">外部データベースのとき (データベース解除) データベースを解除します。内部データベースのとき (データベース削除) 取り込んだデータベース情報を削除します。
LITE 用編集項目設定	「LabelCreate LITE」での編集を許可する項目を設定します。内部データベースのときに設定できます。
差し込みカラーテーブル	オブジェクトに設定するカラーテーブルを作成します。
オプション	外部データベースと内部データベースを切り替えます。

■ イメージ表示メニュー

本ソフトウェアの表示画質を目的にあわせて変更します。

動作優先モード	チェックマークを入れると、「動作優先モード」に設定されます。 動作優先モードを設定すると、ご使用の環境によっては、「通常モード」(チェックマークなし、初期設定) に比べて、操作性を向上させることができます。
---------	--

■ オプションメニュー

本ソフトウェア全般に関する項目が表示されます。

環境設定	[環境設定] ダイアログボックスを表示します。
パレット	[パレット編集] ダイアログボックスを表示します。
印刷履歴設定	印刷履歴に関する設定を行います。
バーコード設定	用紙に合わせてバーコード、GS1 データバーまたは二次元コードを調整します。

■ ヘルプメニュー

本ソフトウェアのヘルプとバージョン情報が表示されます。

ヘルプ	ヘルプを表示します。
バージョン情報	バージョン情報を表示します。

標準ツールバー

標準ツールバーでは、よく使うメニューをボタンとして表示しています。



[新規] 	新規のファイルを作成します。
[開く] 	ファイルを開きます。
[保存] 	現在編集中的数据を上書き保存します。 新規作成時は、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが開きます。
[印刷] 	[印刷] ダイアログボックスを表示します。
[プレビュー] 	印刷イメージを表示します。

第1章 LabelCreate SE の基礎

<p>[元に戻す]</p>  <p>元に戻す</p>	<p>直前に実行した操作を無効とします。最大 20 個までの操作を元に戻すことができます。</p>
<p>[やり直す]</p>  <p>やり直す</p>	<p>「元に戻す」で無効にした操作を、再度有効にします。</p>
<p>[切り取り]</p>  <p>切り取り</p>	<p>選択しているオブジェクトを切り取ります。</p>
<p>[コピー]</p>  <p>コピー</p>	<p>選択しているオブジェクトをコピーをします。</p>
<p>[貼り付け]</p>  <p>貼り付け</p>	<p>コピーしたオブジェクトを貼り付けます。</p>
<p>[全面表示]</p>  <p>全面表示</p> <p>[一面表示]</p>  <p>一面表示</p>	<p>面付けのデザインデータを作成するときに、全体の表示（[全面表示]）と、面付け一面の表示（[一面表示]）を切り替えることができます。 フォームデザインが「面付け」のときに有効です。</p>
<p>[全体表示]</p>  <p>全体表示</p>	<p>デザインエリア全体を表示します。</p>
<p>[拡大]</p>  <p>拡大</p>	<p>クリックすると、デザインエリアの表示倍率を 5% ずつ拡大します。</p>
<p>[縮小]</p>  <p>縮小</p>	<p>クリックすると、デザインエリアの表示倍率を 5% ずつ縮小します。</p>
<p>[差し込みレコード番号]</p>  <p>1</p>	<p>デザインエリアの表示レコードを切り替えます。</p>

レイアウトツールバー

レイアウトツールバーでは、レイアウトに使用するメニューをボタンとして表示しています。



<p>[囲み選択]</p> 	<p>指定した範囲に含まれるオブジェクトを選択します。指定した範囲からはみ出した部分があるオブジェクトは選択されません。</p>
<p>[交差選択]</p> 	<p>指定した範囲に含まれるか触れているオブジェクトをすべて選択します。</p>
<p>[重ね順]</p> 	<p>選択したオブジェクトの重ね順を設定します。 左側から「最前面へ」、「前面へ」、「背面へ」、「最背面へ」となります。</p>
<p>[配置]</p> 	<p>選択したオブジェクトを用紙に合わせて配置します。 左側から、「用紙の左右中央に合わせる」、「用紙の上下中央に合わせる」、「用紙の上下左右中央に合わせる」となります。</p>
<p>[位置合わせ]</p> 	<p>選択した複数のオブジェクトの位置を揃えます。 左側から「左端で揃える」、「左右中央で揃える」、「右端で揃える」、「左右に等間隔で揃える」、「上端で揃える」、「上下中央で揃える」、「下端で揃える」、「上下に等間隔で揃える」となります。</p>
<p>[グループ化]</p> 	<p>選択した複数のオブジェクトをグループ化します。</p>
<p>[グループ化解除]</p> 	<p>グループ化を解除します。</p>
<p>[ロック]</p> 	<p>選択したオブジェクトをロックします。</p>
<p>[ロック解除]</p> 	<p>ロックを解除します。</p>

挿入ツールバー

挿入ツールバーでは、オブジェクトを挿入するツールをボタンとして表示しています。



[選択]  選択	オブジェクトを選択します。他のオブジェクトツールを選択していないときは常にこの状態です。
[テキスト]  テキスト	文字を挿入します。
[ナンバリング]  ナンバリング	任意で指定した番号を、指定した増分で印刷ページごとに自動で繰り上げて印刷します。
[イメージ]  イメージ	画像データを貼り付けます。
[直線]  直線	直線を描きます。
[円形]  円形	円を描きます。
[四角形]  四角形	四角形を描きます。
[多角形]  多角形	多角形や星形を描きます。
[円弧]  円弧	円弧、扇形、および弓形を描きます。
[連続直線]  連続直線	連続直線を描きます。
[自由曲線]  自由曲線	自由曲線を描きます。
[ベジェ曲線]  ベジェ曲線	ベジェ曲線を描きます。
[バーコード]  バーコード	バーコードを作成します。
[GS1 データバー]  GS1データバー	GS1 データバーを作成します。
[二次元コード]  二次元コード	二次元コードを作成します。
[背景]  背景	用紙の背景を設定します。

ファイルの設定

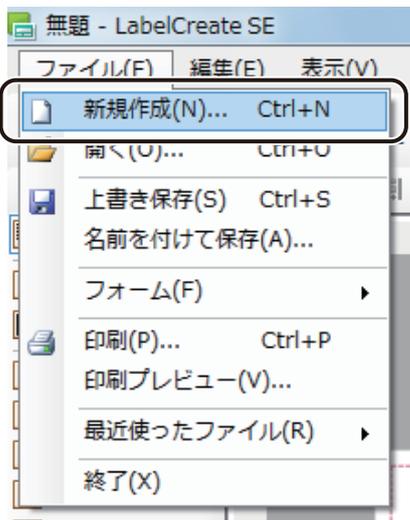
新規ファイルの作成のしかた、ファイルの保存のしかた、およびファイルの開きかたについて説明します。

新規ファイルを作成する

新しくデザインデータを作成するときは、新しいファイルを作成します。

1 標準ツールバー  をクリックします。

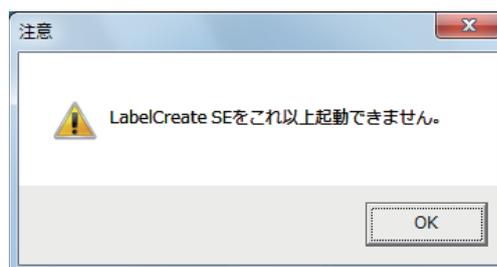
または、[ファイル] メニューの [新規作成] をクリックします。



新しいファイルが作成されます。

メモ

- 本ソフトウェアでは、デザインファイルを編集中に別のデザインファイルを開いたり、新規作成を行ったりすると、新たなウィンドウを起動しますが、同時に起動できるウィンドウは2つまでです。



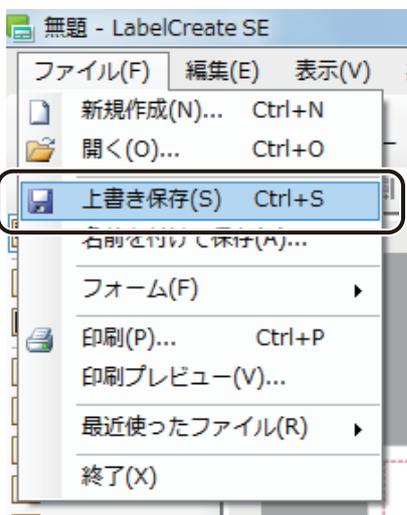
ファイルを保存する

デザインデータの編集内容をファイルに保存します。

■ 編集中のファイルを保存する

1 標準ツールバー  をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [上書き保存] をクリックします。



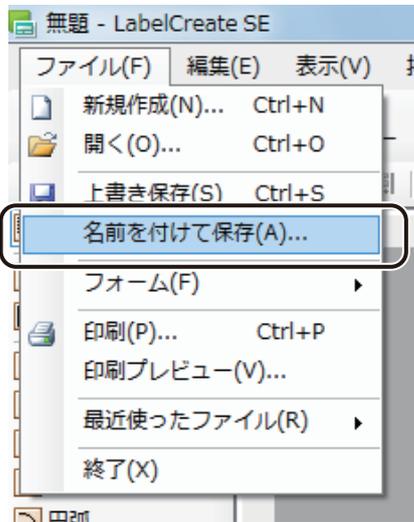
ファイルが保存されます。

メモ

- 新しいファイルを保存するときは、[名前をつけて保存] ダイアログボックスが表示されます。設定のしかたは、「[ファイルを別名で保存する \(P.20\)](#)」をご覧ください。
- 保存場所の初期設定は、次のようになっています。
 - ・ Windows 8 / Windows 7 / Windows Vista のとき
< C:\Users\ [ユーザー名] \Documents\Canon Finetech\LabelCreate >
 - ・ Windows XP のとき
< C:\Documents and Settings\ [ユーザー名] \My Documents\Canon Finetech\LabelCreate >

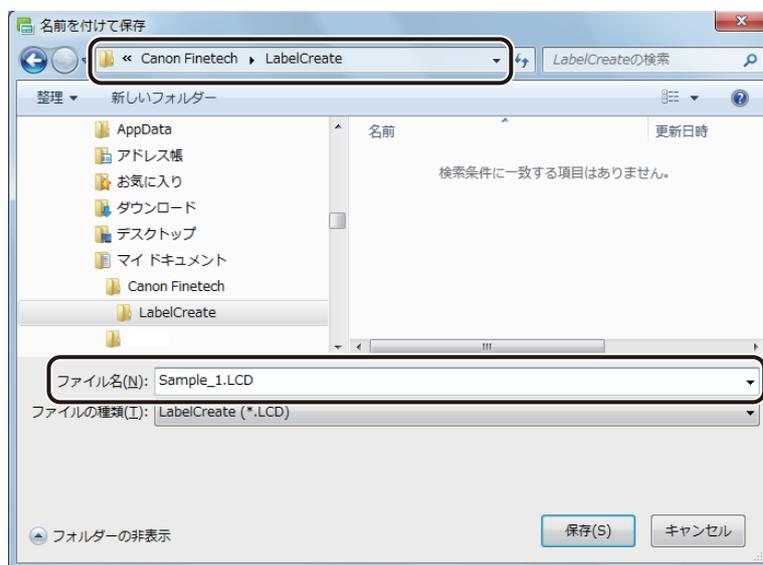
■ ファイルを別名で保存する

- 1 [ファイル] メニューの [名前を付けて保存] をクリックします。



[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。



- 3 [保存] をクリックします。
ファイルが別名で保存されます。

ファイルを開く

本ソフトウェアで開くことができるファイル形式は、次のようになっています。

< LabelCreate (*.LCD) >

本ソフトウェアで作成したデザインファイルです。

「本ソフトウェアで作成したファイルを開く (P.22)」をご覧ください。

< LabelPro-1 (*.SMD) >

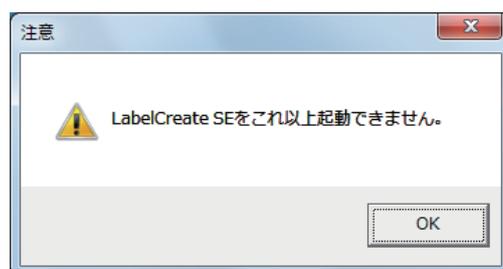
「ラベル Pro-1」で作成したデザインファイルです。

「ラベル Pro-1 で作成したファイルを開く (P.23)」をご覧ください。



メモ

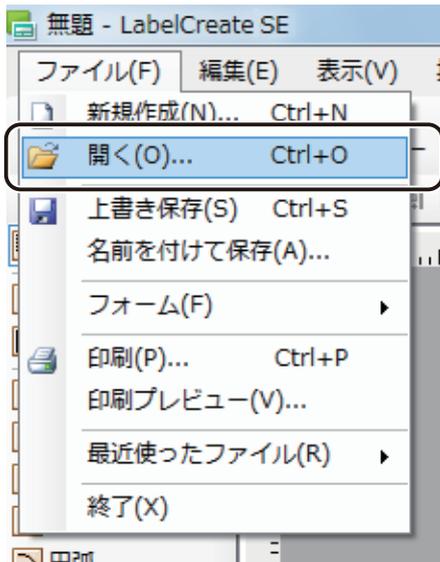
- 本ソフトウェアでは、デザインファイルを編集中に別のデザインファイルを開いたり、新規作成を行ったりすると、新たなウィンドウを起動しますが、同時に起動できるウィンドウは2つまでです。



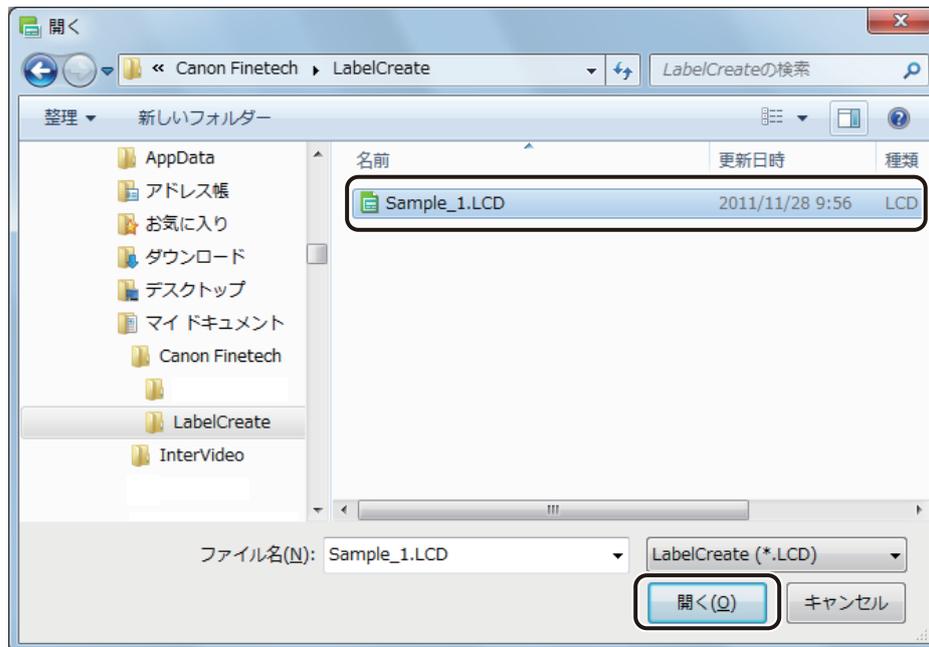
■ 本ソフトウェアで作成したファイルを開く

1 標準ツールバー  をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。



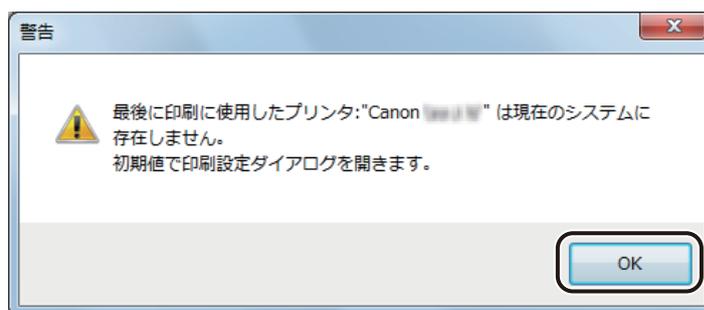
2 LabelCreate デザインファイル (*.LCD) を選択し、[開く] をクリックします。



指定したファイルが開きます。

メモ

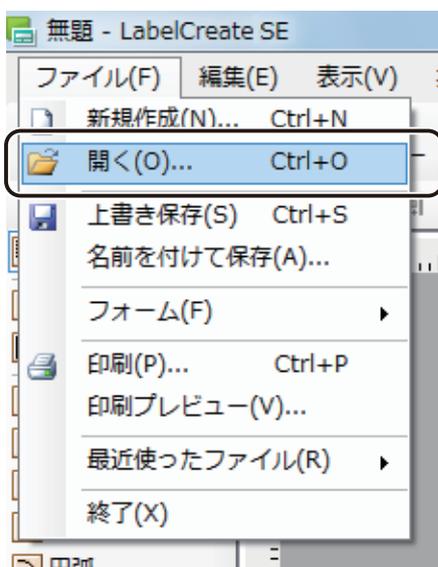
- 次のようなメッセージが表示されたときは、[OK] をクリックしてください。
[OK] をクリックすると、印刷に使用するプリンターに初期値（ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンター）を設定します。印刷を行うときは再度プリンターの設定を行ってください。



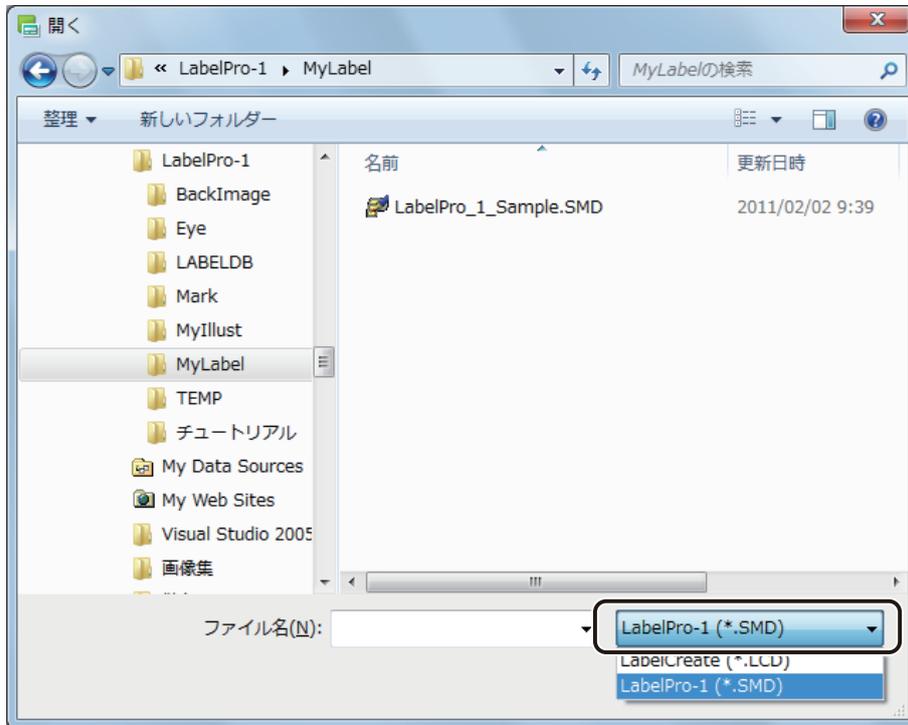
■ ラベル Pro-1 で作成したファイルを開く

- 1 標準ツールバー  をクリックします。

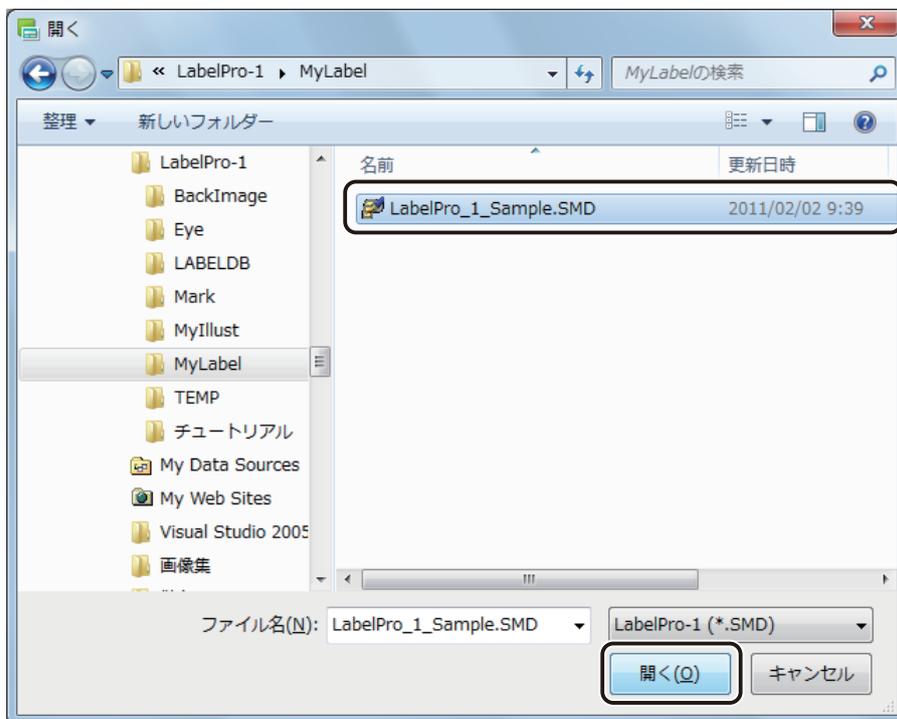
または、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。



2 ファイル形式「LabelPro-1 (*.SMD)」を選択します。

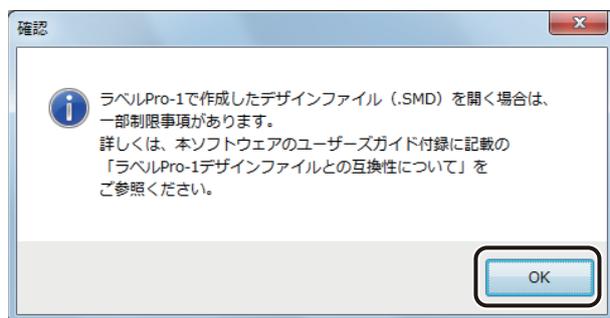


3 ラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を選択し、「開く」をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

4 内容を確認したら、[OK] をクリックします。



5 カラーテーブル情報が登録されているときは、確認のメッセージが表示されます。

カラーテーブル情報を読み込むときは「はい」をクリックしてください。

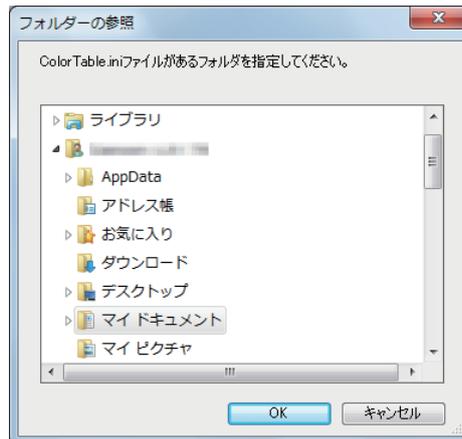


指定したファイルが開きます。



メモ

- 手順 4 で [はい] をクリックした場合、カラーテーブルファイル (ColorTable.ini) の位置が確認できなかったときは、次の画面が表示されます。ファイルが格納されているフォルダーを指定して、[OK] をクリックしてください。



- 編集したデータを保存するときは、本ソフトウェアの保存形式 (*.LCD) で別名保存してください。
- 「ラベル Pro-1」デザインファイル (*.SMD) の読み込みに関する制限事項をあらかじめご確認ください。
⇒ 「ラベル Pro-1 デザインファイルとの互換性について (P.386)」

レイアウト補助機能の設定

デザインエリアのレイアウト補助機能について説明します。

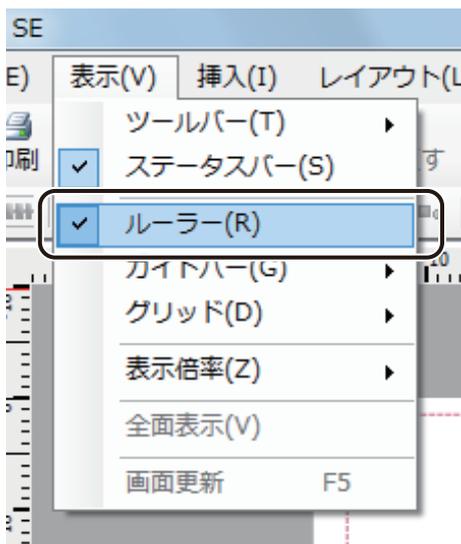
レイアウト補助機能を使ってデザインエリアをカスタマイズすると、作成したオブジェクトを正確かつ簡単に配置できるようになるため、効率的に作業を進めることができます。

ルーラーを表示する

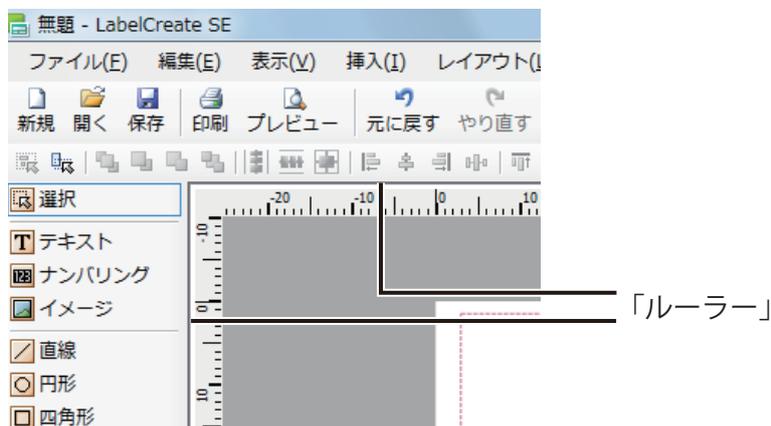
ルーラーの表示 / 非表示を切り替えます。

ルーラーは、デザインエリアの上側と左側にミリ単位で表示されます。

- 1 [表示] メニューの [ルーラー] をクリックします。



ルーラーの表示 / 非表示が切り替わります。

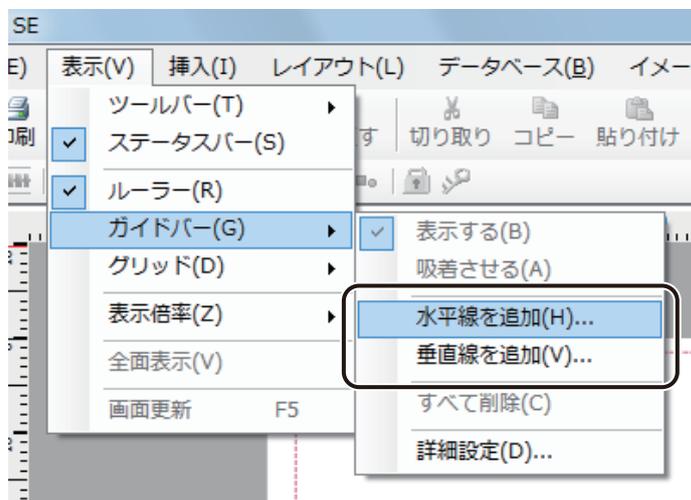


ガイドバーを使う

ガイドバーは、デザインエリアのオブジェクトを配置したり、変形したりするときに便利なツールです。また、ガイドバーへの吸着機能を使うと、オブジェクトをガイドバーの位置に揃うように配置・変形できます。ガイドバーは画面に表示されていても印刷されません。

■ メニューからガイドバーを作成する

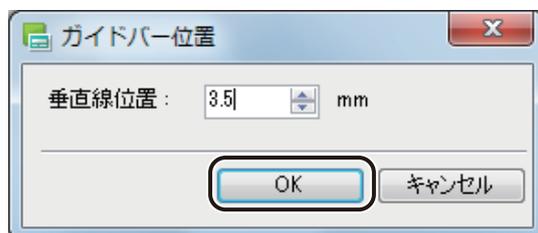
- 1 [表示] メニューの [ガイドバー] から [水平線を追加] または [垂直線を追加] をクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 ガイドバーを引く位置を入力し、[OK] をクリックします。

位置は、0.1 mm単位で入力できます。



ガイドバーが設定されます。

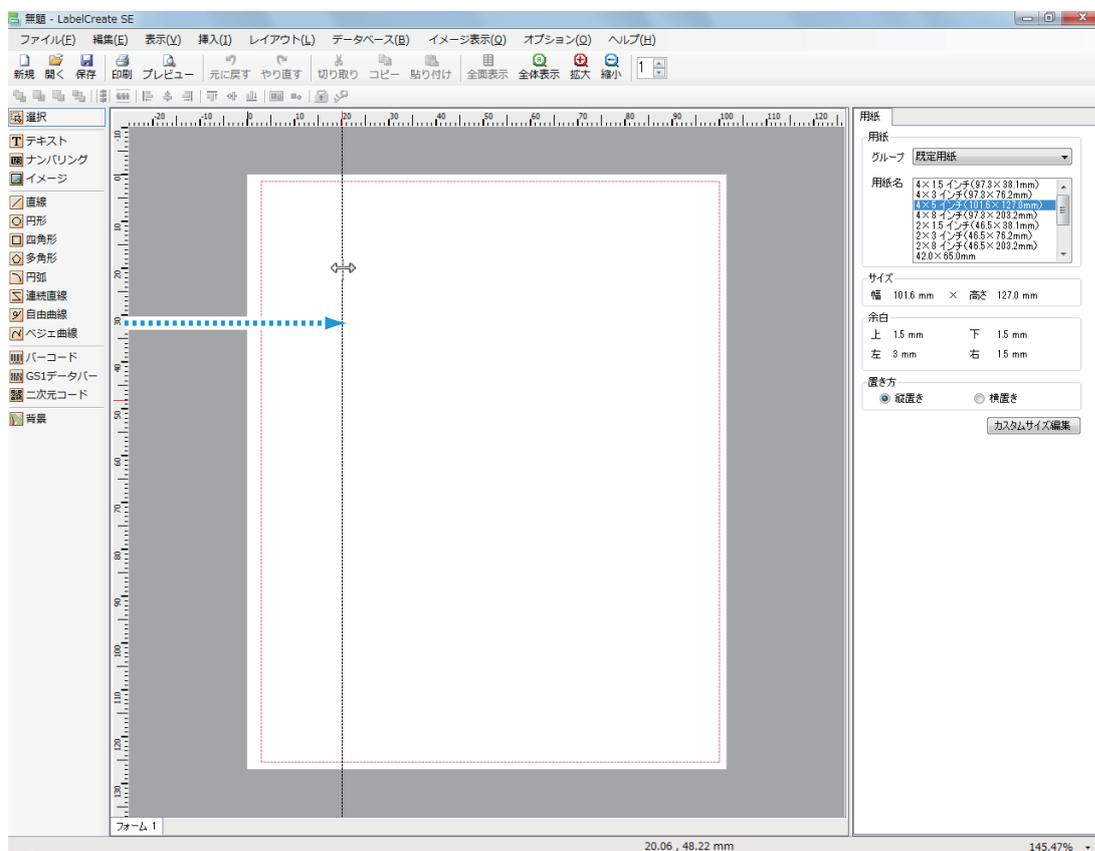
■ ルーラーからガイドバーを作成する

1 ルーラーを表示します。

⇒ 「ルーラーを表示する (P.27)」

2 ルーラー上にポインターを置き、デザインエリア上にドラッグします。

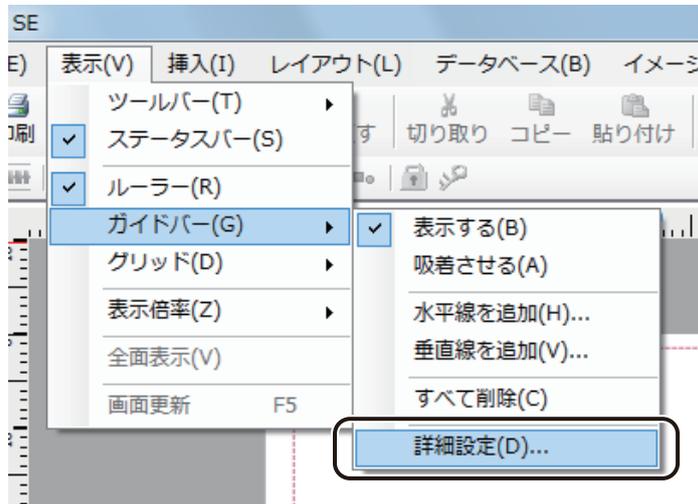
水平方向にガイドバーを引くときは、上側のルーラーからドラッグし、垂直方向にガイドバーを引くときは、左側のルーラーからドラッグします。



マウスの左ボタンを外すと、デザインエリアにガイドバーが設定されます。

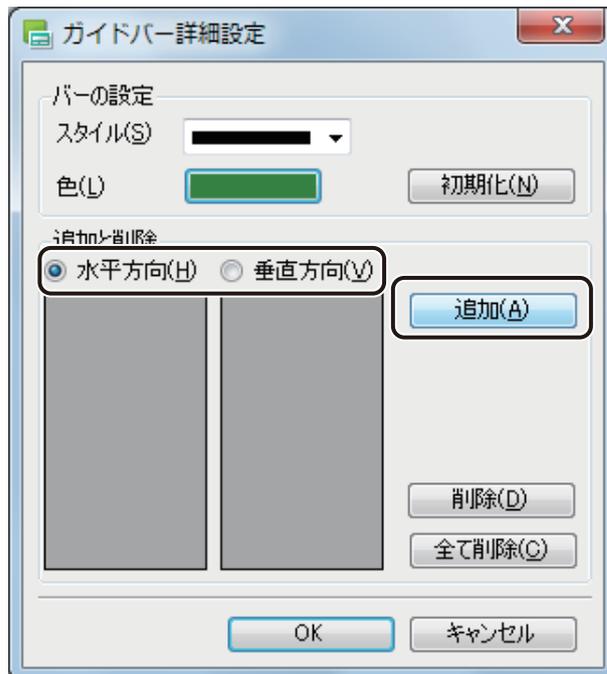
■ 複数のガイドバーを一度に作成する

- 1 [表示] メニューの [ガイドバー] から [詳細設定] をクリックします。



[ガイドバー詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 ガイドバーを設定する方向を、[水平方向] または [垂直方向] から選択し、[追加] をクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

3 ガイドバーを引く位置を入力し、[設定] をクリックします。

位置は、0.1 mm単位で入力できます。

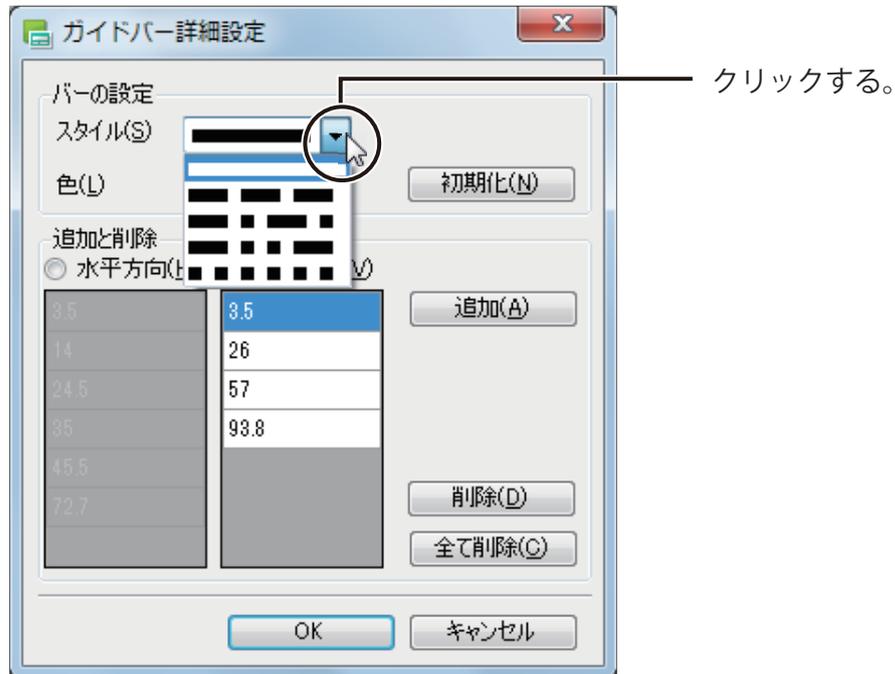


4 手順2～3を行い、ガイドバーを引く位置をすべて入力します。

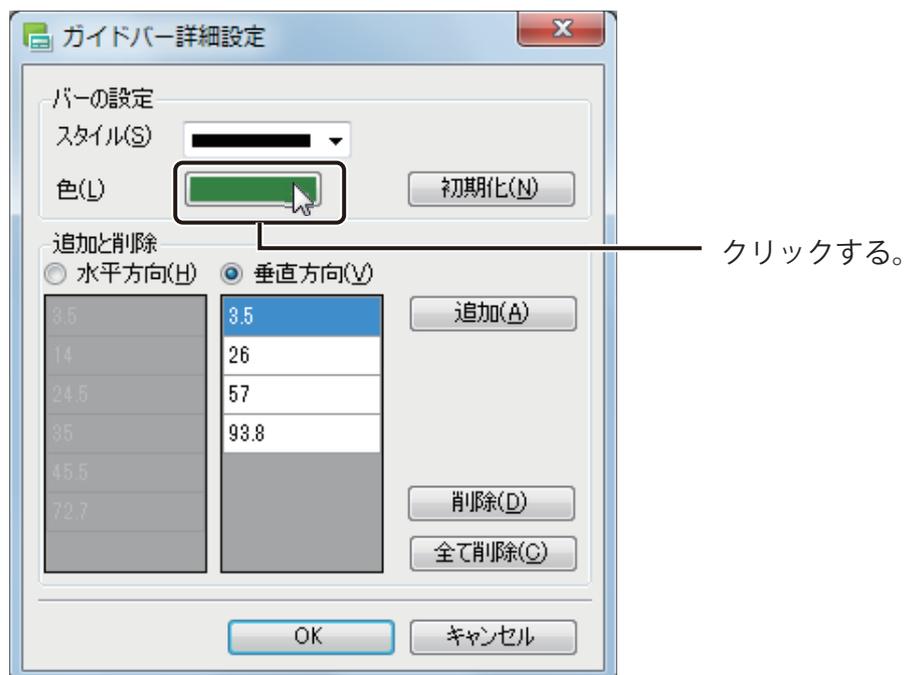


5 ガイドバーの形状や色を設定します。

[スタイル] からガイドバーの線の形状を選択します。
クリックすると、形状のリストが表示されます。



[色] からガイドバーの色を選択します。
クリックすると、[色の設定] ダイアログボックスが表示されます。

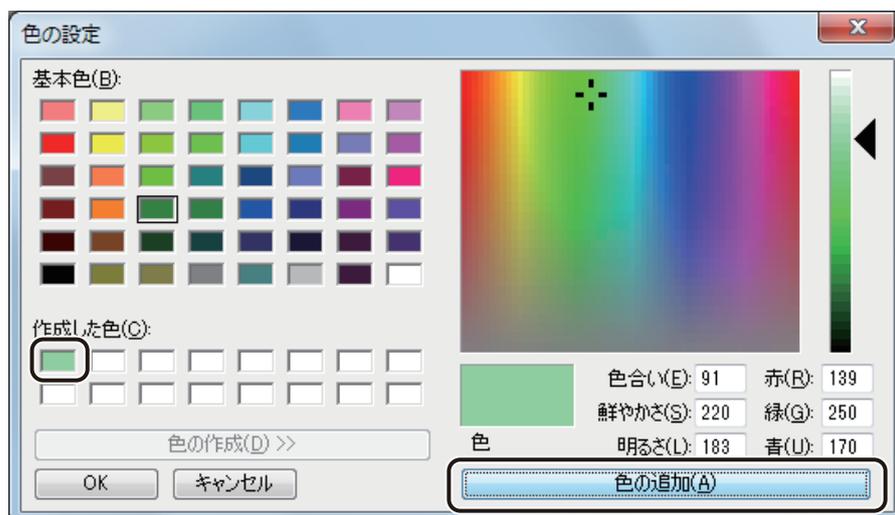


メモ

- ガイダーの形状や色を標準の設定に戻したいときは [初期化] をクリックします。
- [色の設定] ダイアログボックスにて、新しい色を作成して設定したいときは、次のように操作します。
 - ① 基本となる色を選択して、[色の作成] をクリックします。



- ② 新しい色の情報を設定します。
「メニューから色を登録する」の手順4 (P.45) を参考に色を設定します。
- ③ [色の追加] をクリックします。



[作成した色] に新しい色が追加されます。

- ④ ガイダーに設定する色を選択して、[OK] をクリックします。

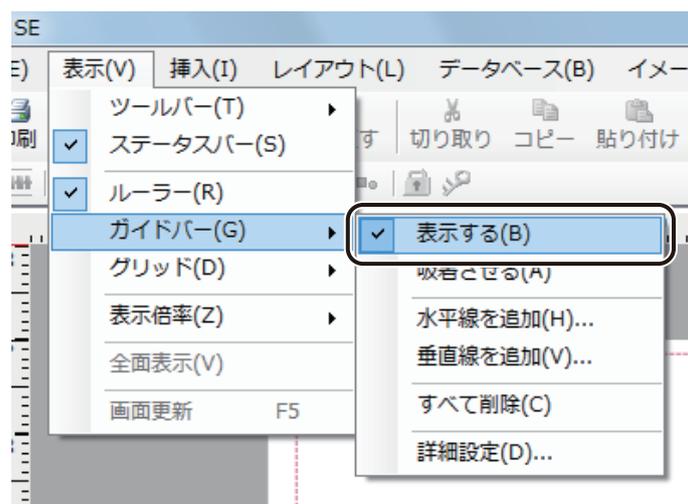
6 [OK] をクリックします。



ガイドバーが設定されます。

メモ

- ガイドバーの表示 / 非表示を切り替えるときは、[表示] メニューの [ガイドバー] から [表示する] をクリックします。



メモ

- 設定した位置を変更したいときは、変更したい数値をダブルクリックして入力カーソルを表示したあと、数値を再度入力します。



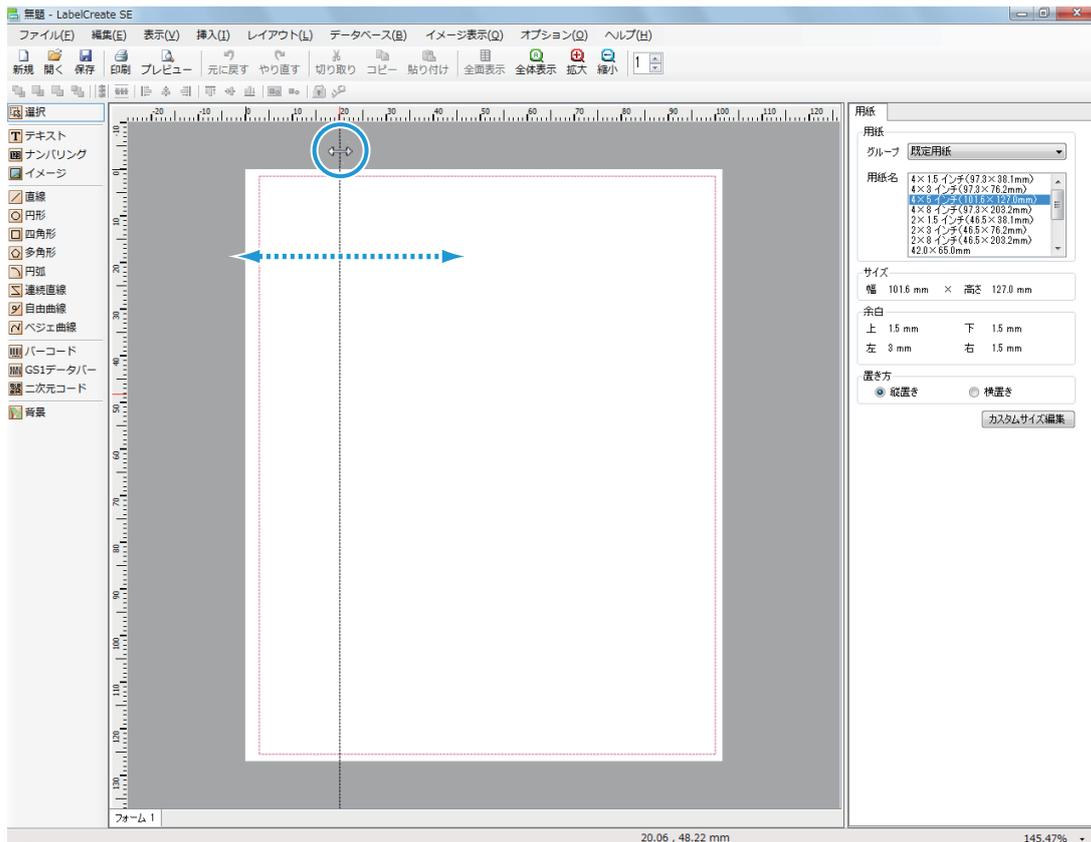
- 設定した位置を削除したいときは、削除したい位置を選択し、[削除] をクリックします。



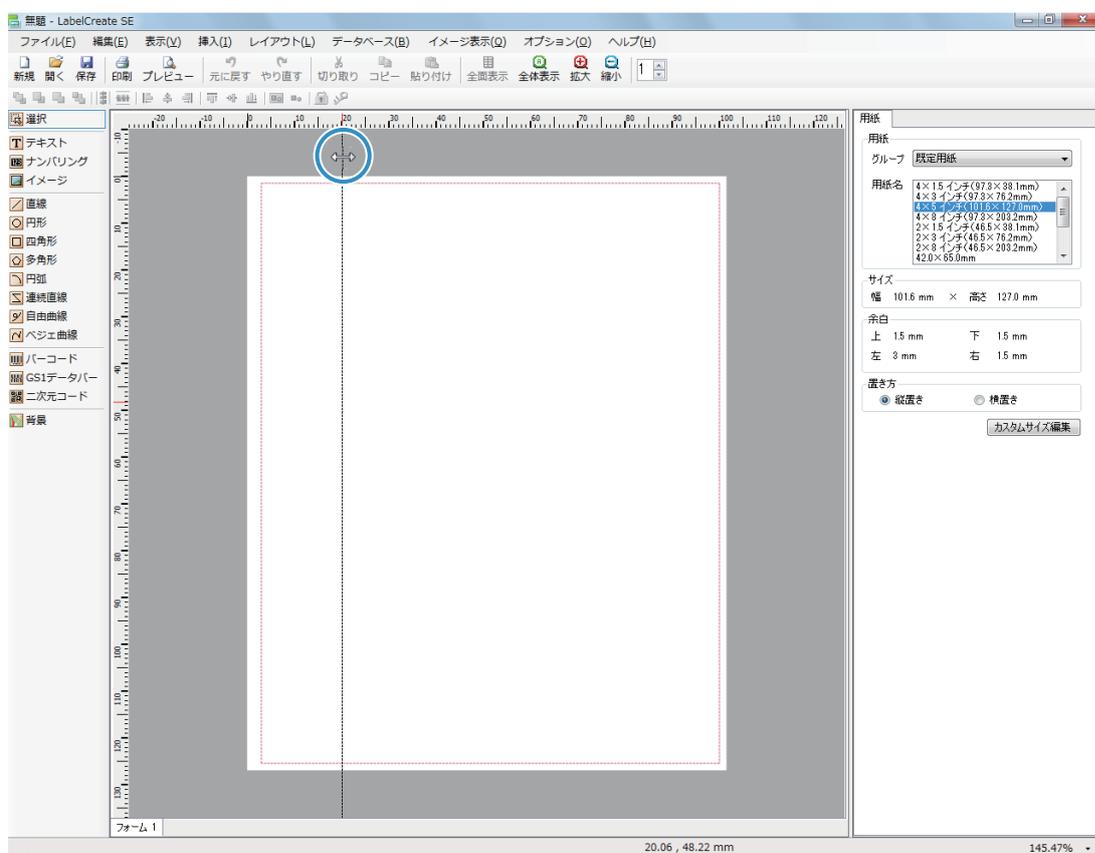
- 設定したすべての位置を削除するときは、[全て削除] をクリックします。

■ ガイダーの位置を移動する

- 1 用紙より外側のデザインエリア内（グレーの部分）でガイダーをドラッグし、任意の位置に移動します。



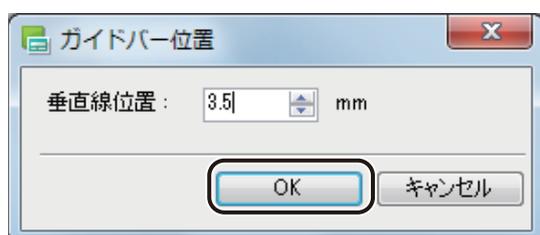
2 正確な位置に移動したいときは、手順1の位置でダブルクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

3 移動位置を入力し、[OK] をクリックします。

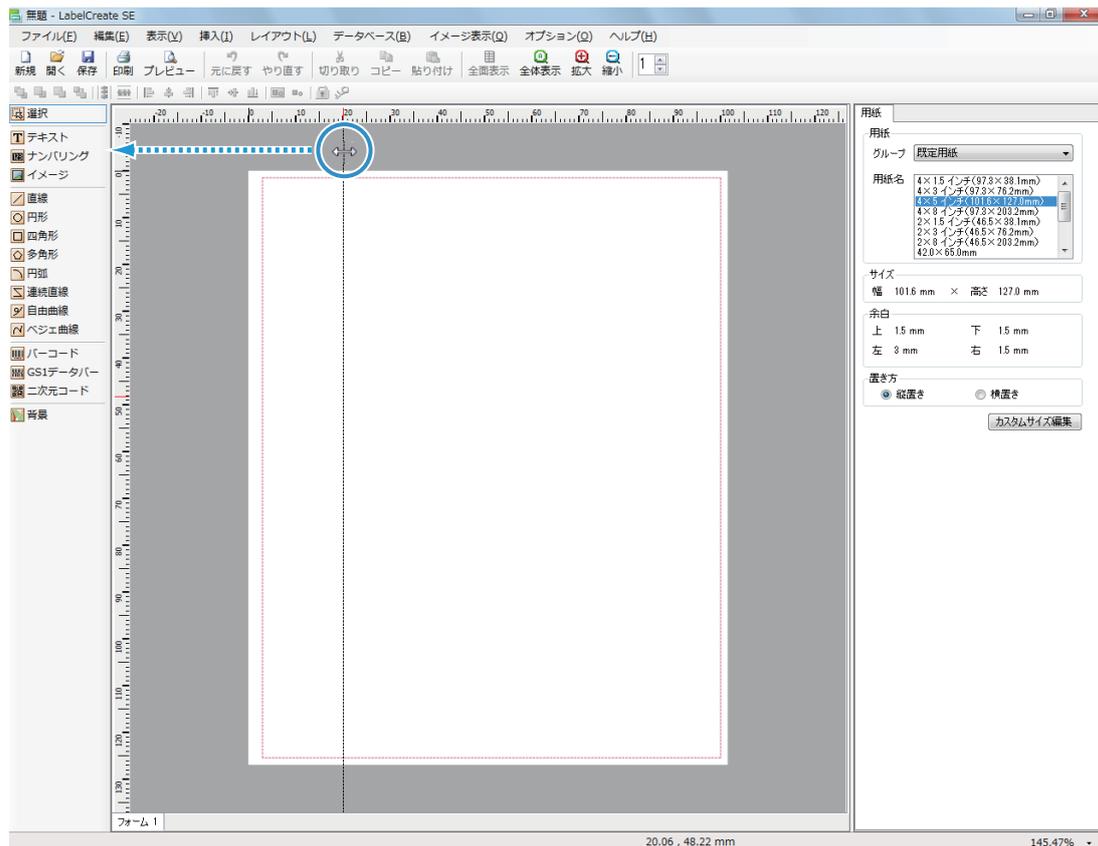
位置は、0.1 mm単位で入力できます。



■ ガイドバーを削除する

1 ガイドバーにポインターを置き、ルーラー上までドラッグします。

用紙より外側のデザインエリア内（グレーの部分）でガイドバーをポイントして移動させます。



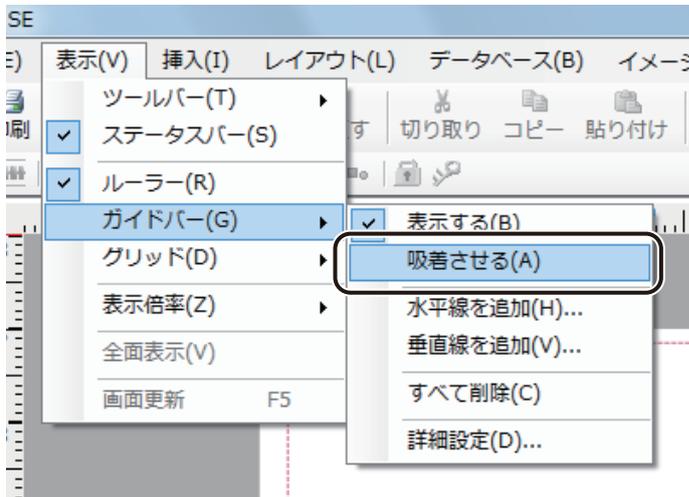
マウスの左ボタンを外すと、ガイドバーが削除されます。

メモ

- [表示] メニューの [ガイドバー] から [すべて削除] をクリックすると、デザインエリア上のすべてのガイドバーを一括で削除できます。

■ ガイダーにオブジェクトを吸着させる

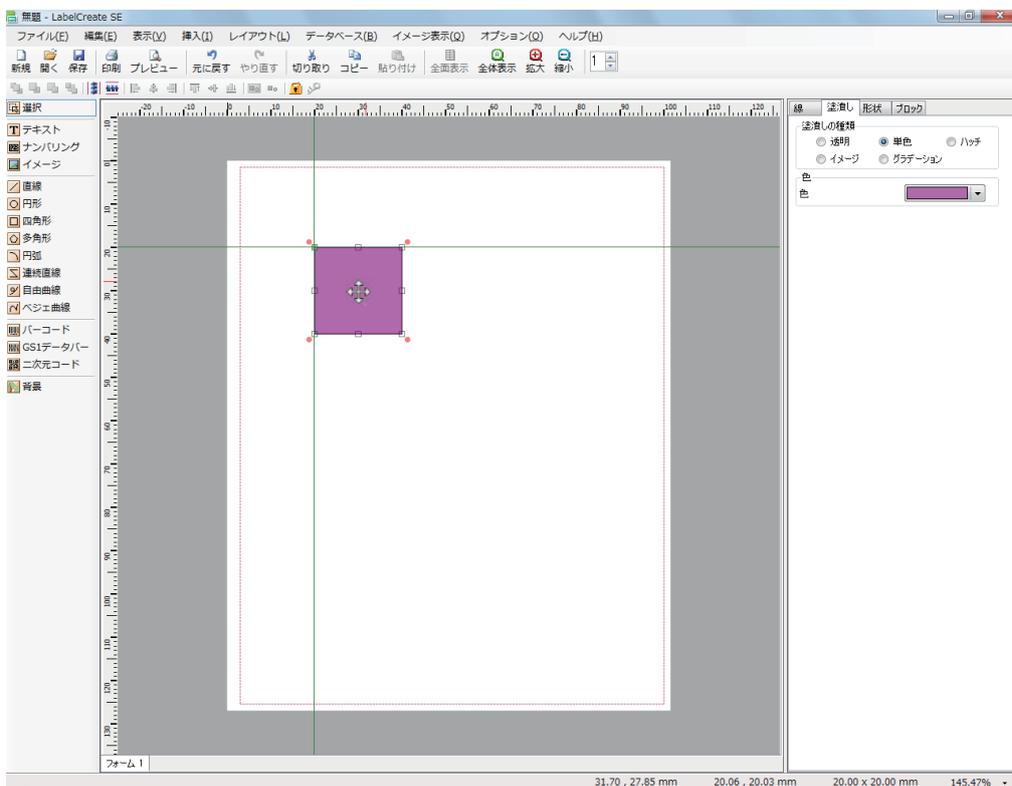
1 [表示] メニューの [ガイダー] から [吸着させる] をクリックします。



吸着機能の有効（チェックマーク有）/無効（チェックマーク無）が切り替わります。

2 オブジェクトをガイダーに沿って配置させます。

オブジェクトをドラッグしてガイダーに近づけると、オブジェクトの枠がガイダーに吸着します。



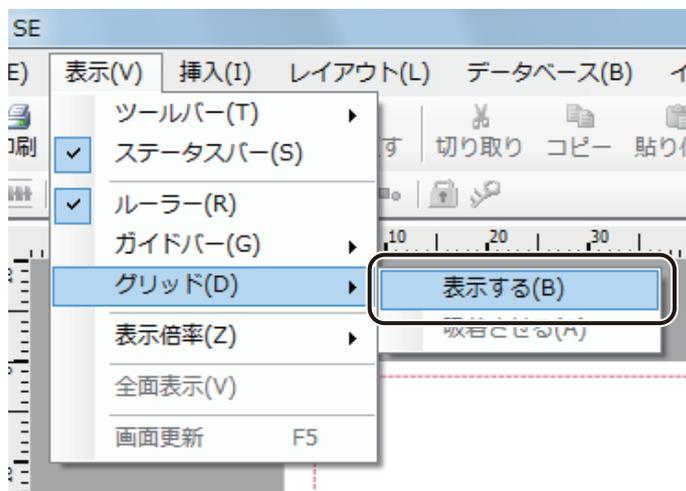
グリッドを使う

グリッドは、デザインエリア上にマス目を表示する機能で、ガイドバーと同様にオブジェクトの配置や変形に便利なツールです。また、グリッドへの吸着機能を使うと、オブジェクトをグリッドの位置に揃うように配置・変形できます。

グリッドは画面に表示されていても印刷されません。

■ グリッドを表示する

- 1 [表示] メニューの [グリッド] から [表示する] をクリックします。



グリッドの表示 / 非表示が切り替わります。

メモ

- グリッドの形状や色を変更したいときは、[表示] メニューの [グリッド] から [詳細設定] をクリックします。



[スタイル]

グリッドの形状を選択します。

[色]

グリッドの色を選択します。

新しい色を作成して設定したいときは、「複数のガイドバーを一度に作成する」の手順 5 のメモ (P.33) を参考に設定します。

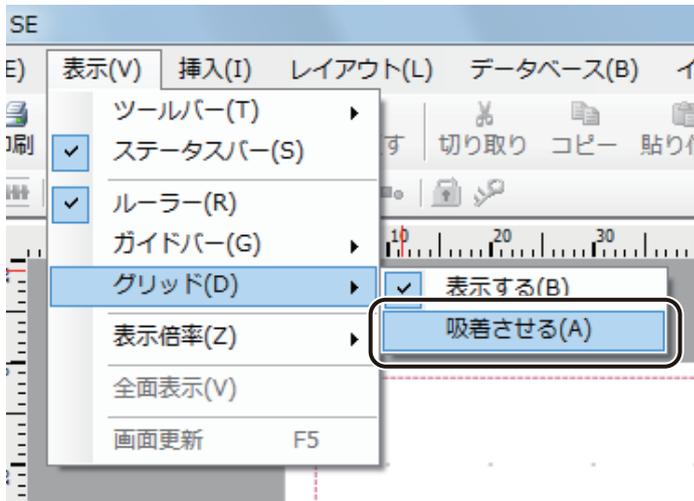
[間隔]

グリッドの間隔を 0.01mm 単位で設定します。

- グリッドの形状や色を標準の設定に戻したいときは [初期化] をクリックします。

■ グリッドにオブジェクトを吸着させる

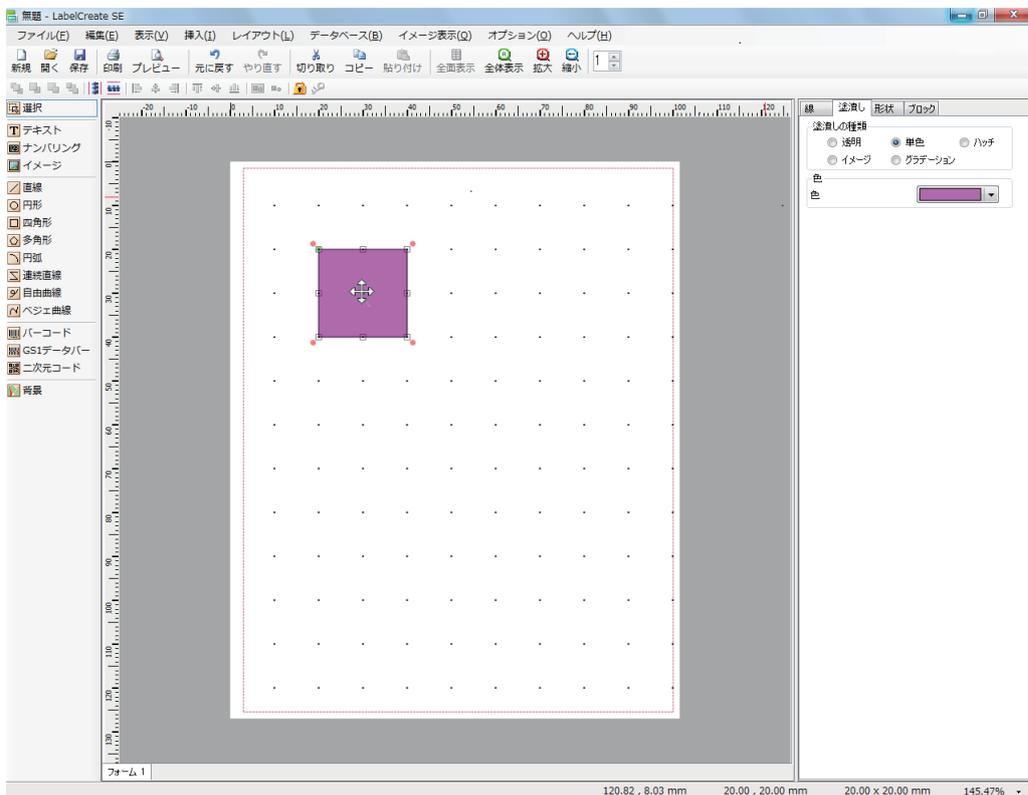
- 1 [表示] メニューの [グリッド] から [吸着させる] をクリックします。



吸着機能の有効（チェックマーク有）/無効（チェックマーク無）が切り替わります。

- 2 オブジェクトをグリッドに沿って配置させます。

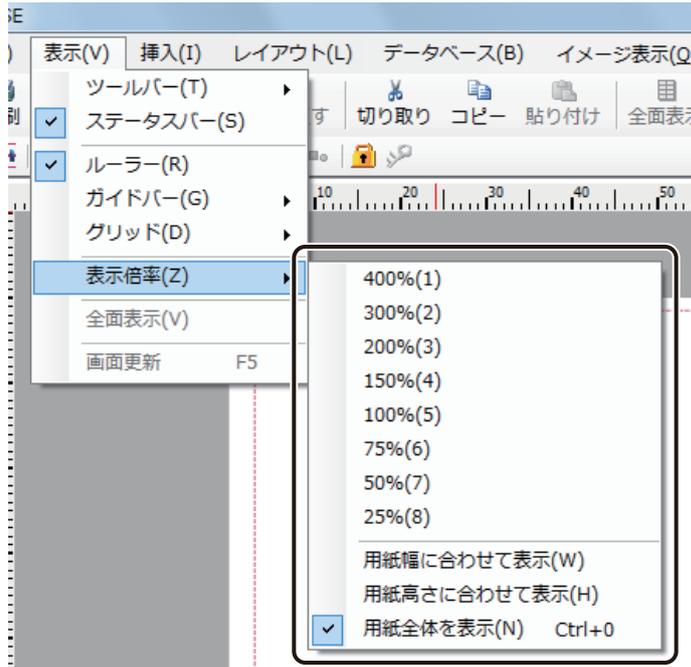
オブジェクトをドラッグしてグリッドに近づけると、オブジェクトの枠がグリッドに吸着します。



表示倍率を変える

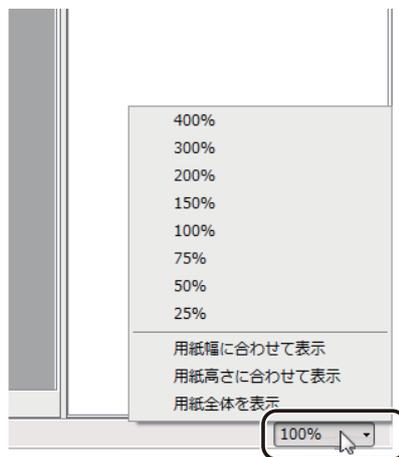
小さいオブジェクトを編集したり、全体のデザインイメージを確認したりできるように、任意の表示倍率に変えることができます。

- 1 [表示] メニューの [表示倍率] から任意の倍率をクリックします。



メモ

- 画面右下で、現在の表示倍率を確認できます。また、現在の表示倍率をクリックすると、表示倍率の変更ができます。



- 表示倍率を微調整したいときは、標準ツールバー  拡大 および  縮小 を使います。

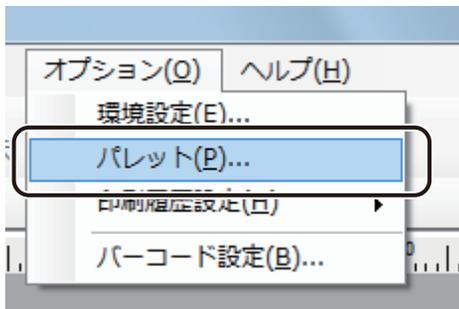
パレットの設定

デザインデータに使う色は、パレットで管理されています。パレットを編集して、新しい色を登録します。

■ メニューから色を登録する

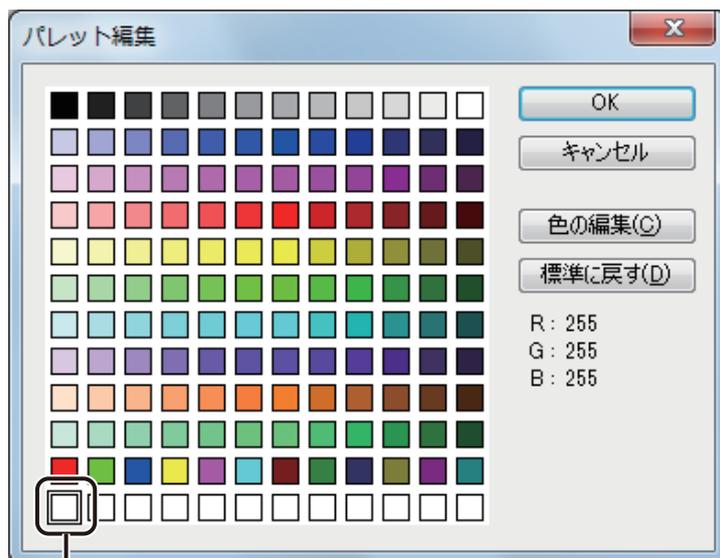
新しい色をあらかじめ登録するときは、この方法で設定します。

- 1 [オプション] メニューの [パレット] をクリックします。



[パレット編集] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 新しい色を登録するパレットを選択します。



クリックする。



メモ

- あらかじめ登録されている標準の色を編集することもできます。

3 [色の編集] をクリックします。

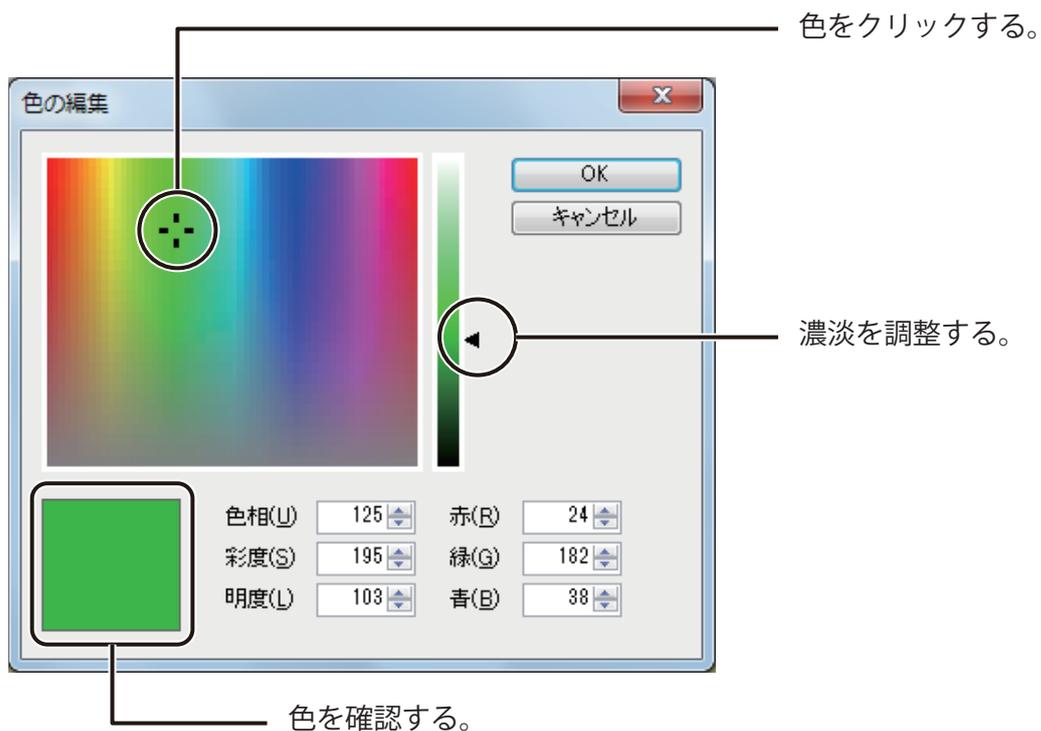


[色の編集] ダイアログボックスが表示されます。

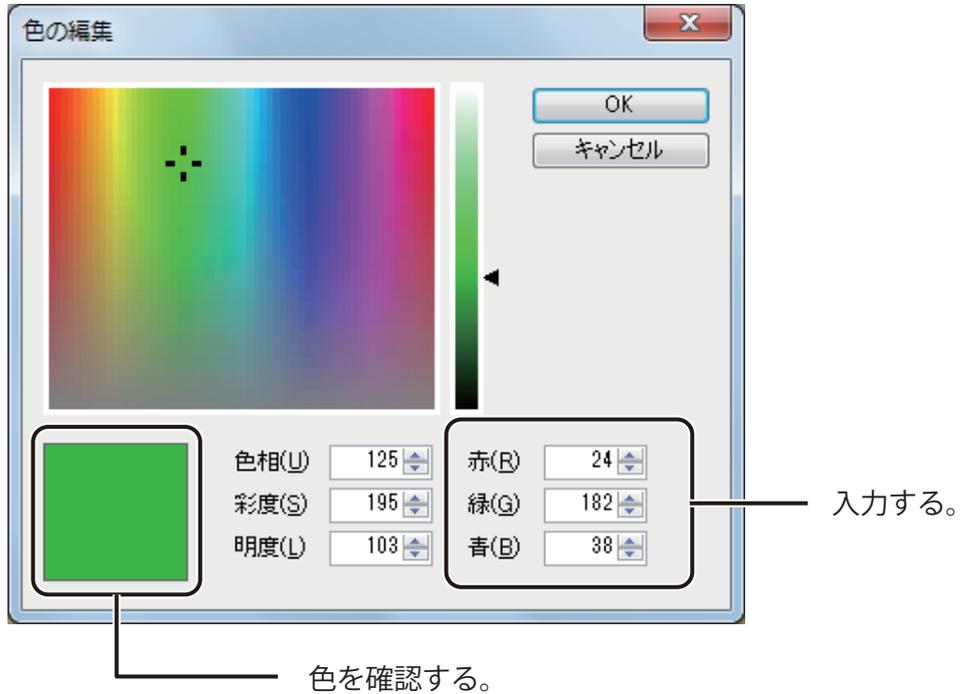
4 新しい色の情報を設定します。

設定は、次のいずれかで行います。

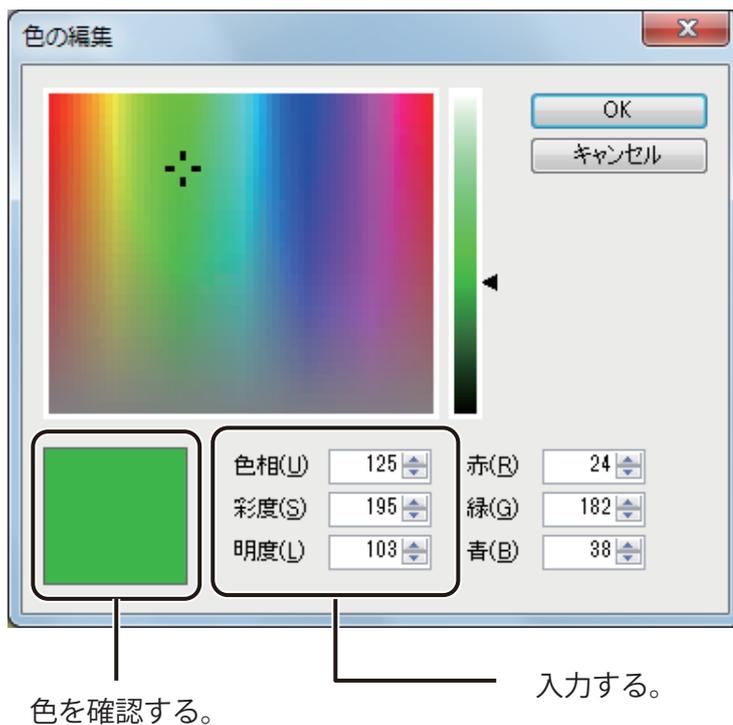
- 色の選択領域とスライダーで設定する
色の選択領域から近い色をクリックし、右側のスライダーで濃淡を調整します。



- 赤、緑、青（RGB）で設定する
赤、緑、青を入力して色を設定します。



- 色相、彩度、明度で設定する
色相、彩度、明度を入力して色を設定します。



5 [OK] をクリックします。

新しい色が登録されます。



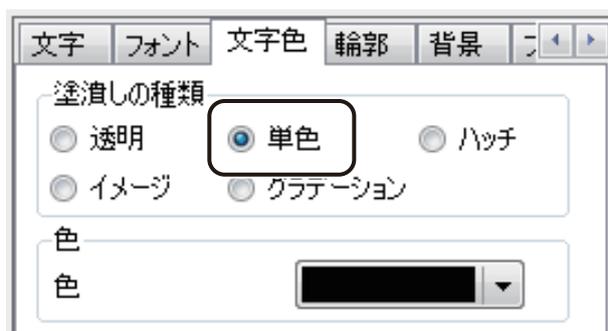
メモ

- [標準に戻す] をクリックすると、標準の色は元の色に戻り、任意で登録した色はすべて削除されます。

■ プロパティから色を登録する

プロパティを編集時に、新しい色を登録することができます。

1 色を設定するプロパティを表示し、[単色] または [ハッチ] を選択します。



2 パレットを表示し、[色の編集] をクリックします。

▼をクリックすると、パレットが表示されます。



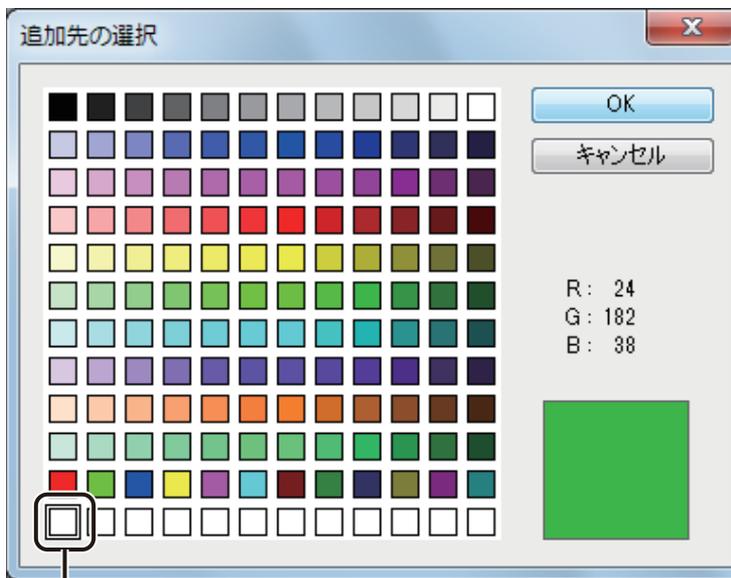
3 新しい色の情報を設定します。

「メニューから色を登録する」の手順4 (P.45) を参考に色を設定します。

4 [パレットに追加] をクリックします。



5 新しい色を登録するパレットを選択します。



クリックする。

 メモ

- あらかじめ登録されている色のパレットを選択して上書きすることもできます。

6 [OK] をクリックします。

新しい色がパレットに登録され、その色がオブジェクトに設定されます。



メモ

- メニューから登録した色とプロパティから登録した色は、同じパレット上で管理されます。
- パレットを標準の状態に戻したいときは、メニューからパレットを表示して操作してください。
⇒「メニューから色を登録する (P.44)」

表示画質の設定

本ソフトウェアでは、画面の表示画質を目的に合わせて変更することができます。
多くの画像や大きな容量の画像を配置しているデータの場合、ご使用になられている環境によっては、操作性に影響が出ることがあります。そのような場合は、「動作優先モード」に切り替えることで、操作性を向上させることができます。

画像の表示画質について

本ソフトウェアでは、設定されているモードによって、次のように画像の表示画質を自動的に調整します。

モード名	画像容量 [※]		
	～ 35 KB	35 KB ～ 2.6 MB	2.6 MB ～
通常モード	オリジナル画像と同じ画質で表示	オリジナル画像と同じ画質で表示	2.6MB 相当に低減させて表示
動作優先モード	オリジナル画像と同じ画質で表示	オリジナル画像より画質を低減させて表示	「通常モード」で使用している画像より低減させて表示

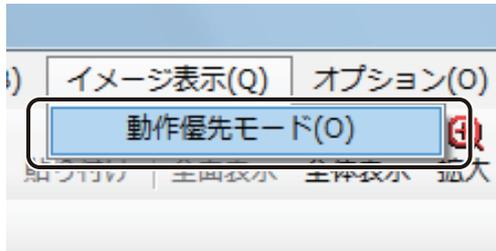
※ビットマップファイル形式 (*.bmp) での基準

メモ

- 初期設定は、「通常モード」（「動作優先モード」にチェックマークなし）となっています。
- 印刷プレビューは、モードの設定に関係なく、通常モードの画質で表示します。
- 表示画質の自動調整、およびモードの設定は、印刷結果に影響を与えません。オリジナル画像と同じ画質で印刷します。

表示画質を切り替える

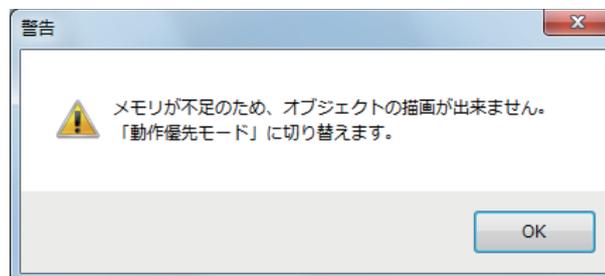
- 1 [イメージ表示] メニューの [動作優先モード] をクリックします。



動作優先モード（チェックマークあり）/通常モード（チェックマークなし）が切り替わります。

メモ

- [イメージ表示] の設定情報は本ソフトウェアに登録されます。同じ環境で操作する場合は、モードを切り替えない限り設定は保持されます。
- 動作優先モードを設定した状態で多くの画像を配置した場合、通常モードに切り替えられないことがあります。次のメッセージが表示されたときは、通常モードに切り替えられません。



2

操作の流れと概要

簡単なラベル作成の手順を例に、本ソフトウェアの基本的な操作の流れと概要について説明します。

ラベル作成の基本操作
データベースを活用したラベルの作成

ラベル作成の基本操作

ラベル作成の基本操作を説明します。ここでは、本ソフトウェアを使って次のようなラベルを作成し、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500（または LX-P5500）で印刷します。

<完成例>

文字、画像およびバーコードを入れたりんごの商品ラベルを作成します。



印刷プリンター： キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500（または LX-P5500）

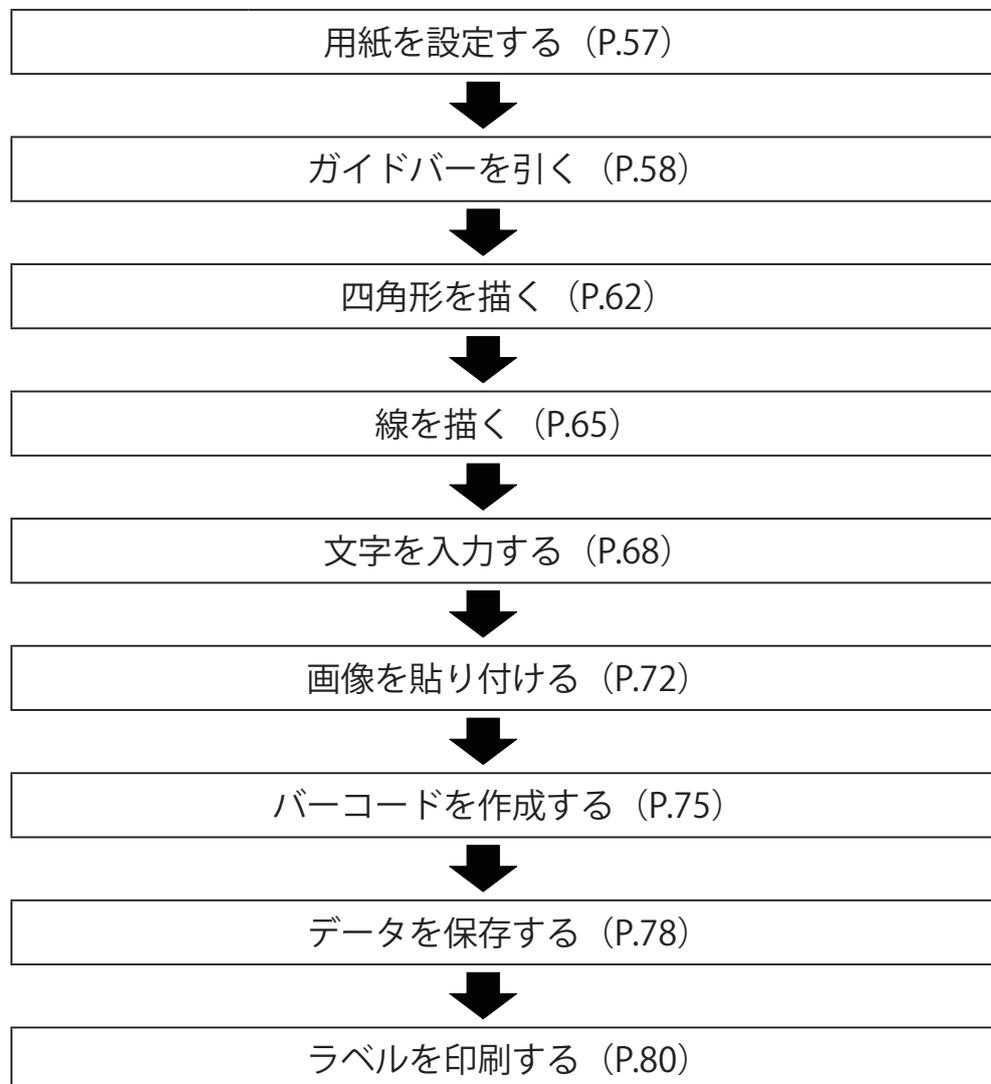
用紙サイズ： 4 × 3 インチ（97.3 × 76.2 mm）

本章で使用する画像は、次の場所に保存されています。

- Windows 8（32ビット）/Windows 7（32ビット）/Windows Vista（32ビット）/Windows XP（32ビット）のとき
< C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\ サンプル画像 >
- Windows 8（64ビット）/Windows 7（64ビット）/Windows Vista（64ビット）/Windows XP（64ビット）のとき
< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\ サンプル画像 >

ラベルの作成は、次のような流れに沿って行います。

<操作の流れ>

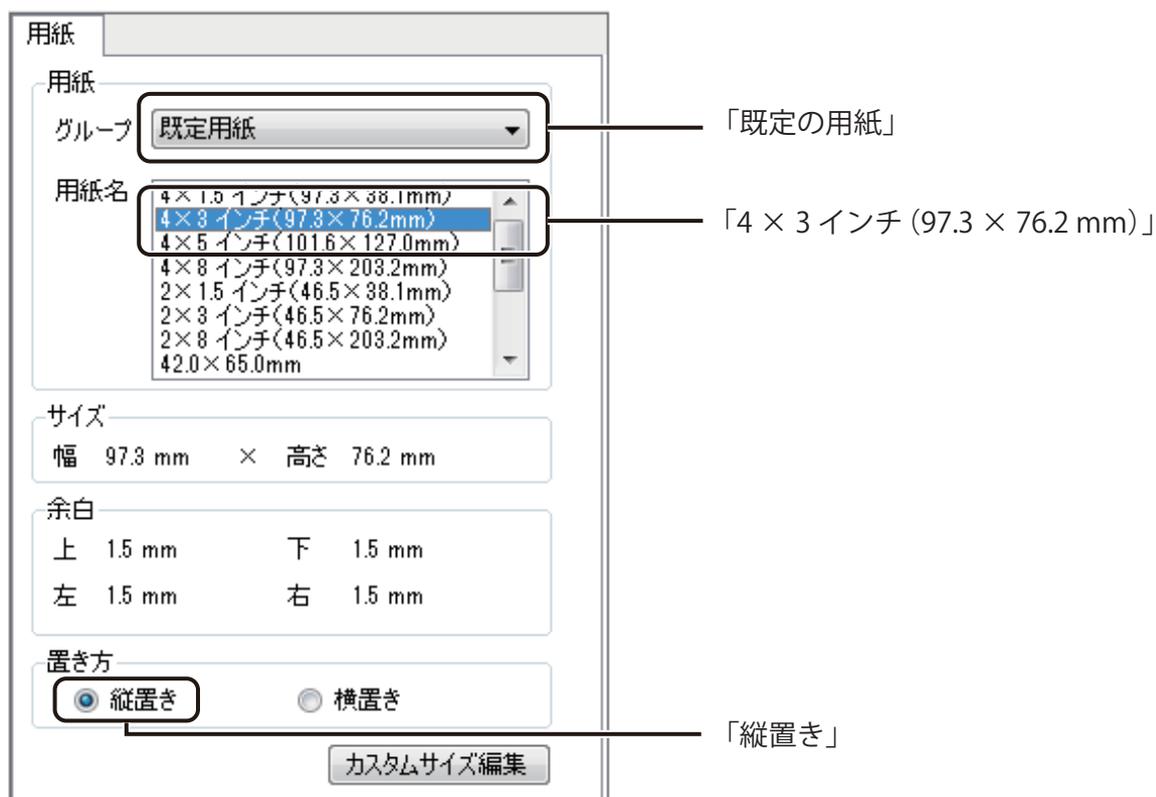


用紙を設定する

デザインデータに使う用紙サイズを設定します。

1 使用する用紙サイズを選択します。

用紙サイズは、作業画面の右側に表示されている「用紙」プロパティで設定します。
ここでは、次のように入力します。



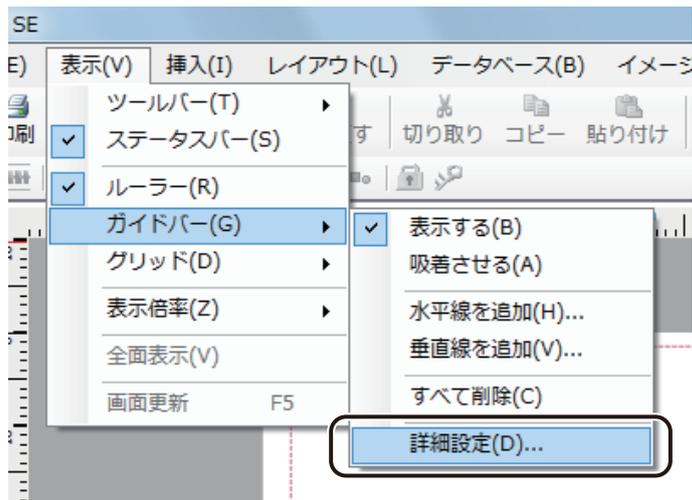
メモ

- 「用紙」プロパティに登録されていない用紙サイズを使用するときは、「カスタム用紙」として登録する必要があります。カスタム用紙の登録については、「[カスタム用紙を使う \(P.120\)](#)」をご覧ください。

ガイドバーを引く

デザインエリアにガイドバーを引きます。

- 1 [表示] メニューの [ガイドバー] から [詳細設定] をクリックします。



[ガイドバー詳細設定] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 はじめに、水平方向のガイドバーの位置を入力します。
[水平方向] が選択されていることを確認し、[追加] をクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

第2章 操作の流れと概要

3 ガイドバーを引く位置を入力し、[設定] をクリックします。

ここでは、「3.5」と入力します。



4 手順2～3を行い、水平方向の位置をすべて入力します。

ここでは、次の位置を入力します。

方向	位置 (mm)
水平方向	14
	24.5
	35
	45.5
	72.7

5 次に、垂直方向を入力します。

[垂直方向] を選択し、[追加] をクリックします。



[ガイドバー位置] ダイアログボックスが表示されます。

6 ガイダーを引く位置を入力し、[設定] をクリックします。

ここでは、「3.5」と入力します。



7 手順5～6を行い、水平方向の位置をすべて入力します。

ここでは、次の位置を入力します。

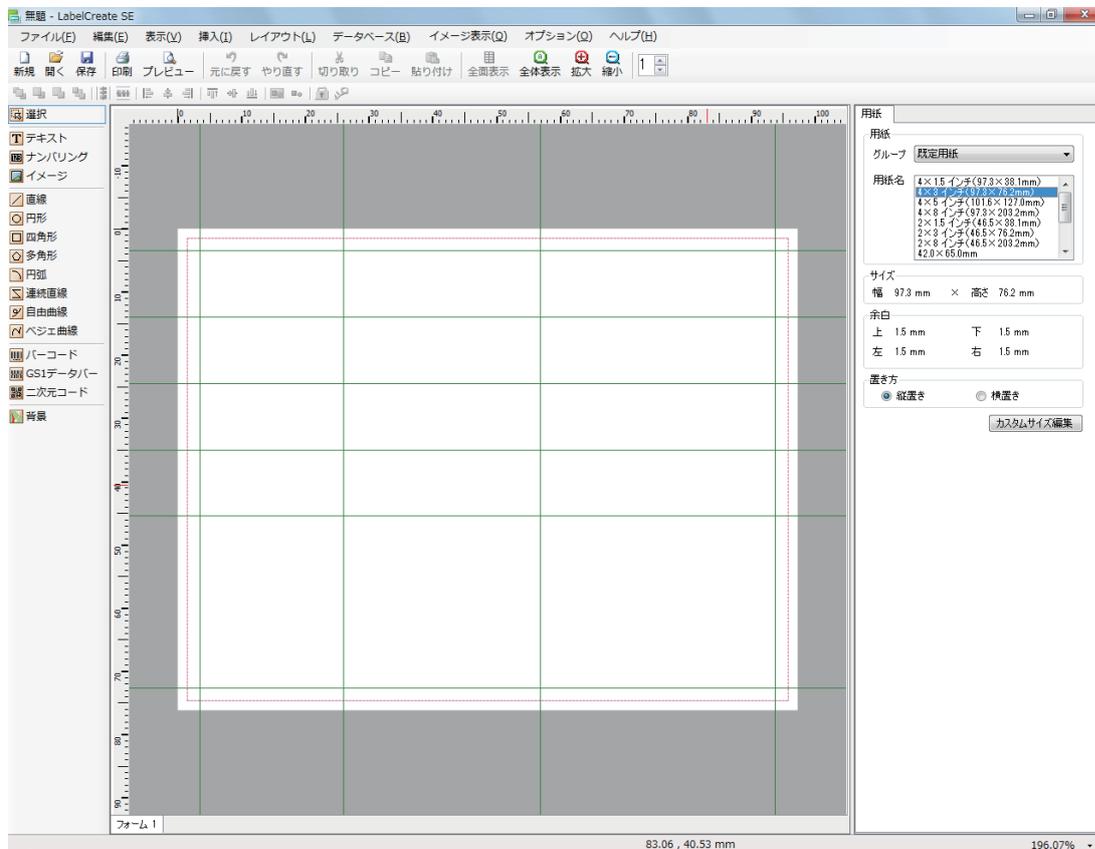
方向	位置 (mm)
垂直方向	26
	57
	93.8

8 [OK] をクリックします。

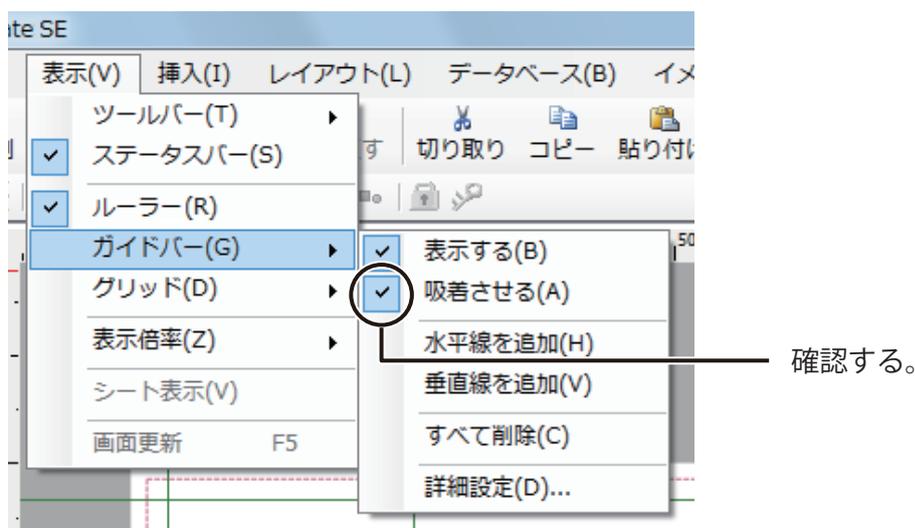


第2章 操作の流れと概要

ガイドバーが設定されます。



- 9 [表示] メニューの [ガイドバー] を表示し、[吸着させる] の右側にチェックマークが入っていることを確認します。



チェックマークが入っていないときは、[吸着させる] をクリックします。



メモ

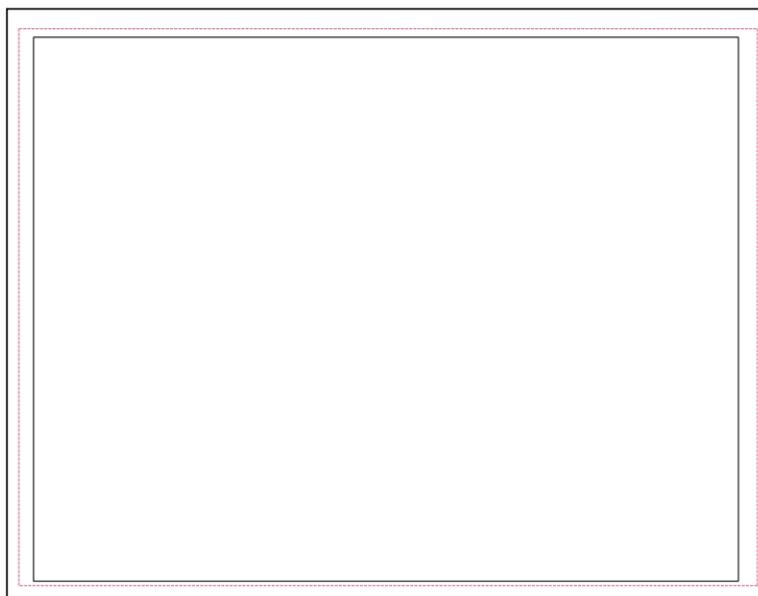
- ガイドバーは、オブジェクトの作成や編集をしやすいするための補助線です。表示している状態でも印刷はされません。
- ガイドバーの設定については、「[ガイドバーを使う \(P.28\)](#)」をご覧ください。

四角形を描く

外枠を四角形で作ります。四角形を描くときには、挿入ツールバー [四角形] を使います。

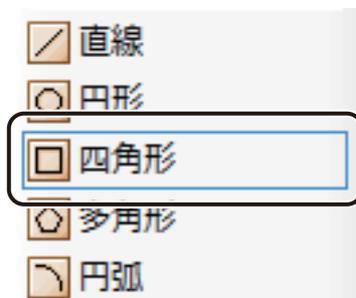
<完成例>

外枠を四角形（幅 0.2 mm）で作成します。



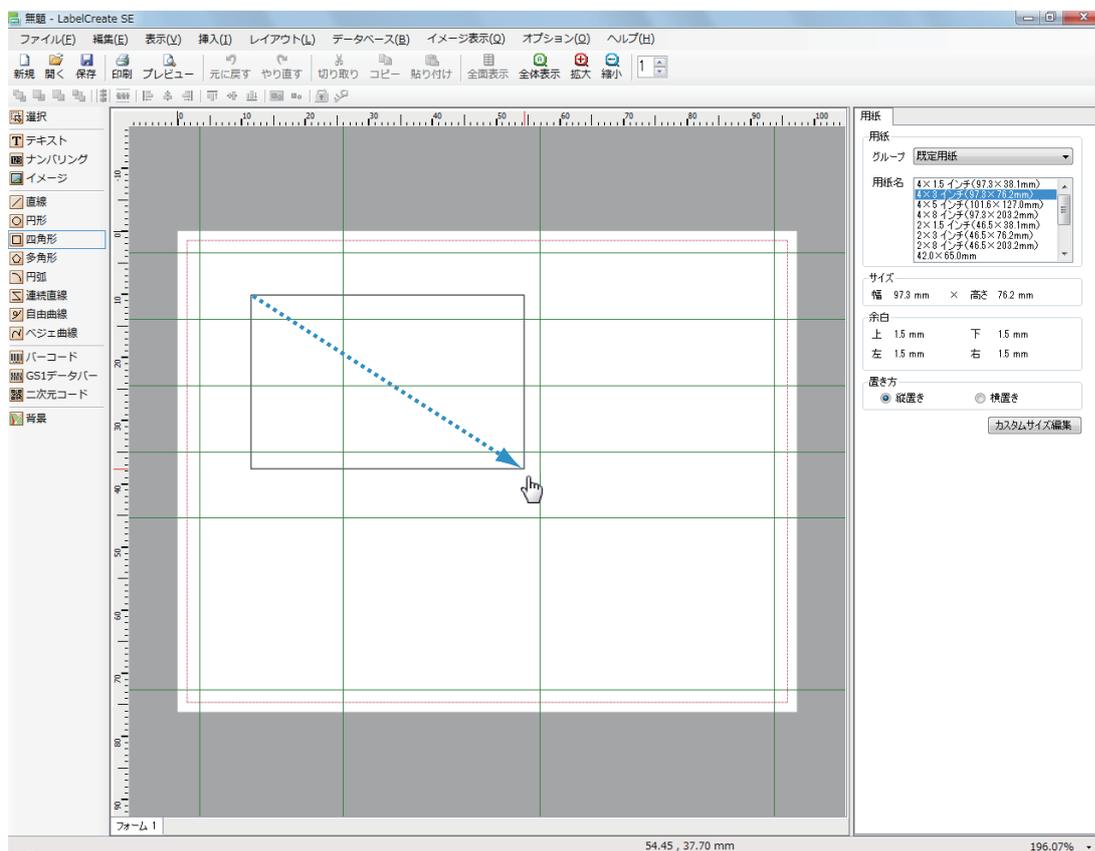
第2章 操作の流れと概要

1 挿入ツールバー [四角形] をクリックします。



2 四角形オブジェクトを作ります。

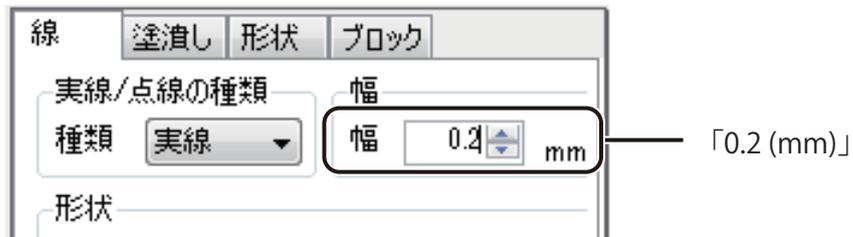
デザインエリア上で始点をクリックしたあと、四角形の対角線を描くようにドラッグします。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、四角形の図形（四角形オブジェクト）が表示されます。

3 四角形オブジェクトの枠線の太さを入力します。

枠線の太さは、[線] プロパティで設定します。
ここでは、次のように入力します。



メモ

- 選択したオブジェクトによって、プロパティエリアの表示が変わります。手順と異なるプロパティが表示されているときは、選択しているオブジェクトを確認してください。

4 ガイダーに合わせて、四角形オブジェクトの大きさと位置を調整します。



メモ

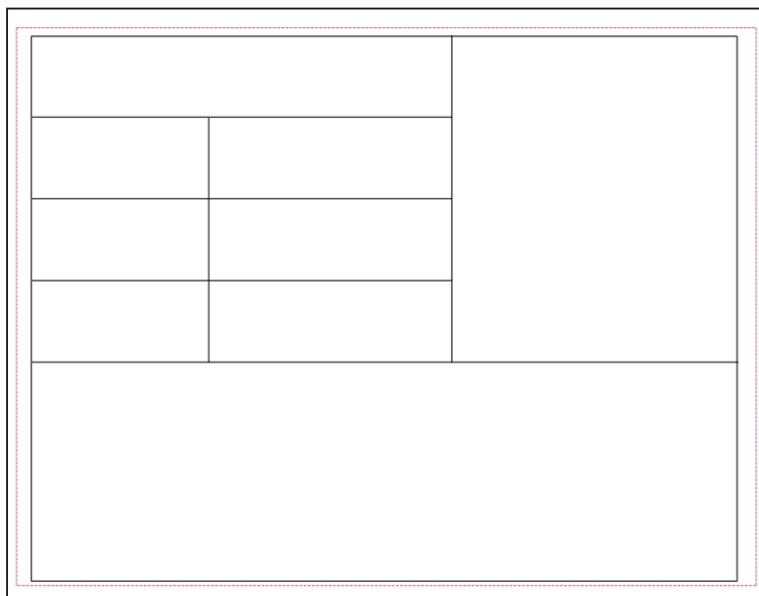
- 基本的なオブジェクトの操作については、「[オブジェクトの操作 \(P.141\)](#)」をご覧ください。
- 四角形オブジェクトについては、「[四角形を描く \(P.173\)](#)」をご覧ください。

線を描く

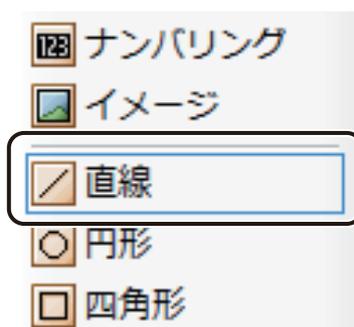
作成した外枠（四角形）に罫線を引きます。直線を描くときには、挿入ツールバー「直線」を使います。

<完成例>

罫線を直線（幅 0.2 mm）で作成します。



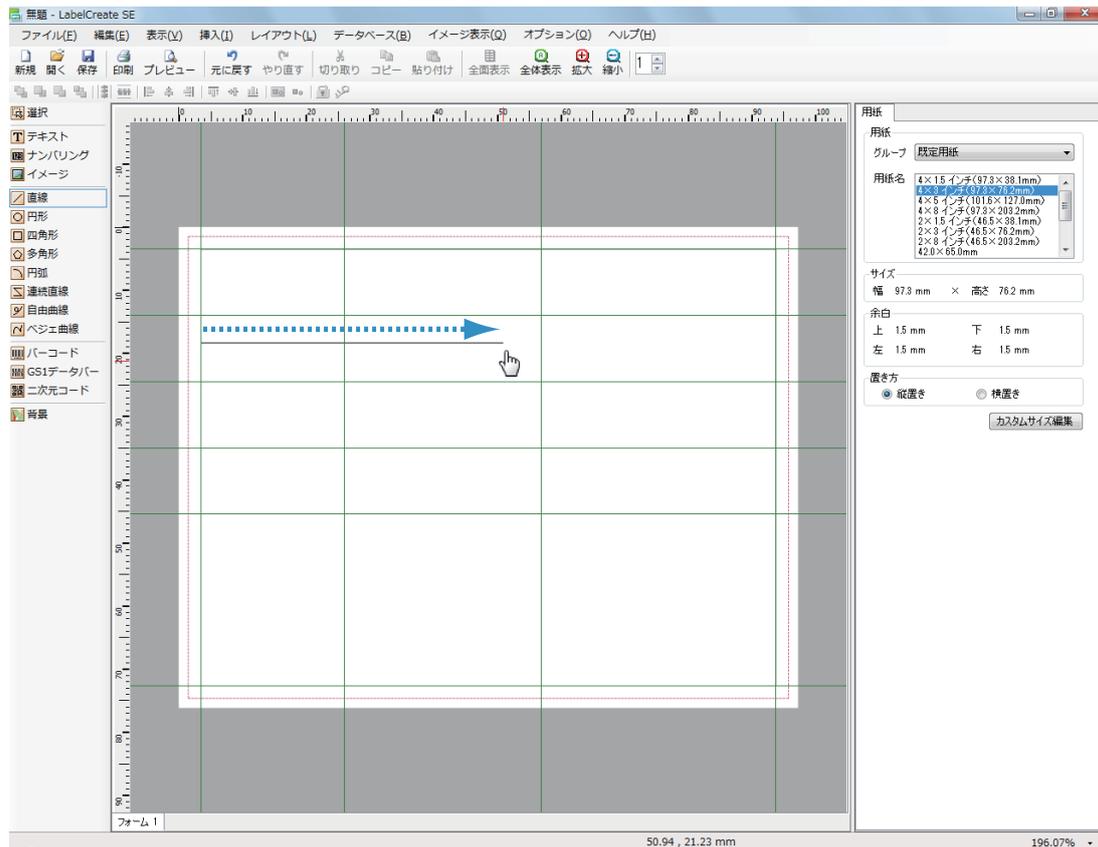
- 1 挿入ツールバー「直線」をクリックします。



2 直線を作ります。

はじめに、横線を作ります。

始点をクリックしたあと、横方向にドラッグします。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、用紙に対して水平な直線を引くことができます。

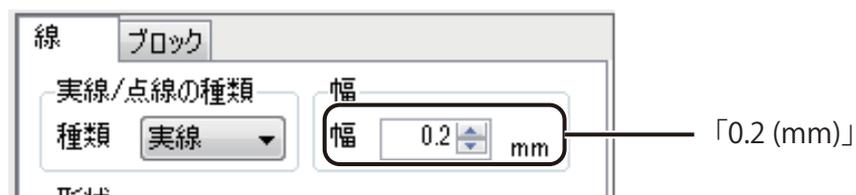


終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、直線（直線オブジェクト）が表示されます。

3 直線オブジェクトの太さを入力します。

線の太さは、[線] プロパティで設定します。

ここでは、次のように入力します。



4 ガイダーに合わせて、直線オブジェクトの長さや位置を調整します。

直線オブジェクトの長さを調整するときは、オブジェクトを選択し、頂点（●）をドラッグして長さを調整します。



5 同様の手順ですべての直線オブジェクトを配置します。

縦線を引くときは、縦方向にドラッグします。このとき、キーボードの[Shift]キーを押しながらドラッグすると、用紙に対して垂直な直線を引くことができます。



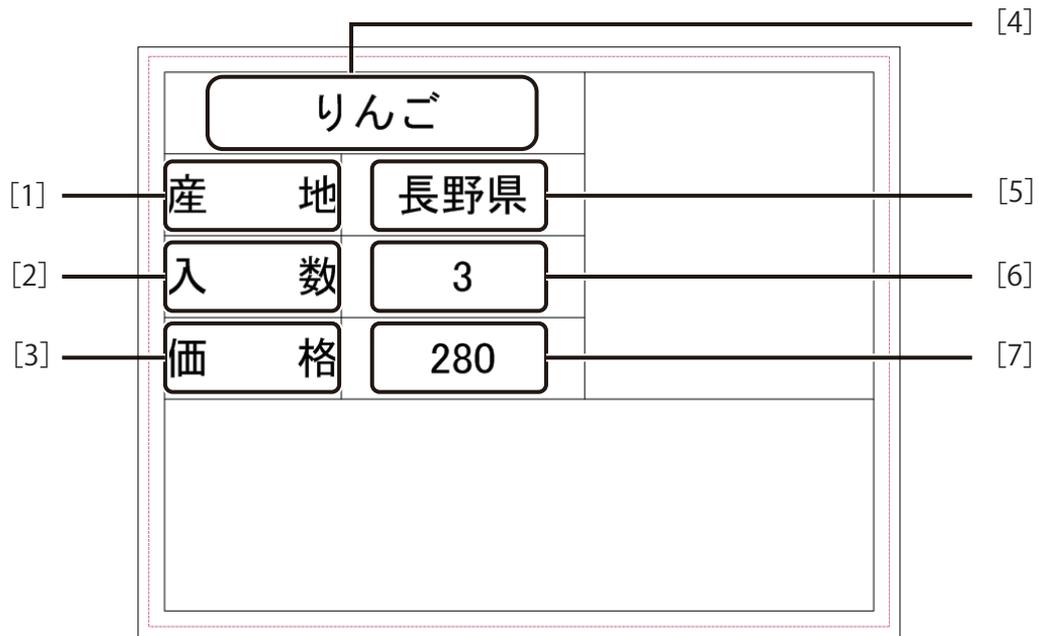
- 直線オブジェクトについては、「[直線を描く \(P.171\)](#)」をご覧ください。

文字を入力する

文字を入力します。文字の入力には、挿入ツールバー [テキスト] を使います。

<完成例>

[1] から順番に作成します。



No.	入力データ	フォント	サイズ	文字配置	行配置
[1]	産地	MS ゴシック	16 pt	均等割付	中央揃え
[2]	入数				
[3]	価格				
[4]	りんご			中央揃え	
[5]	長野県				
[6]	3				
[7]	280				

- 1 挿入ツールバー [テキスト] をクリックします。



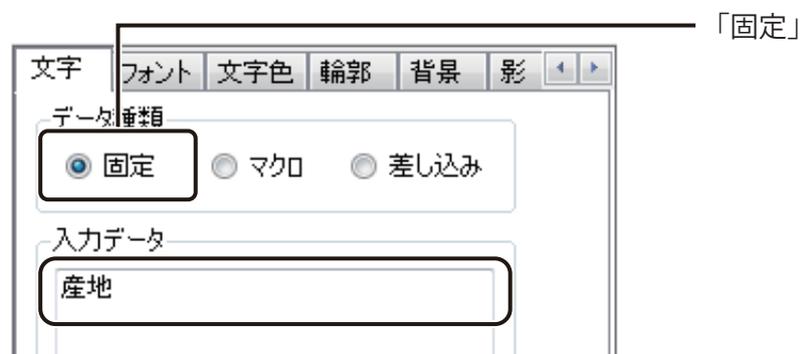
- 2 オブジェクトエリアを作ります。

四角形オブジェクトのときと同様に、デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、文字を入力する領域が作成されます。

- 3 [1]「産地」を入力します。

文字は、[文字] プロパティの [入力データ] に入力します。

ここでは、データ種類「固定」を選択されていることを確認してから、「産地」と入力します。

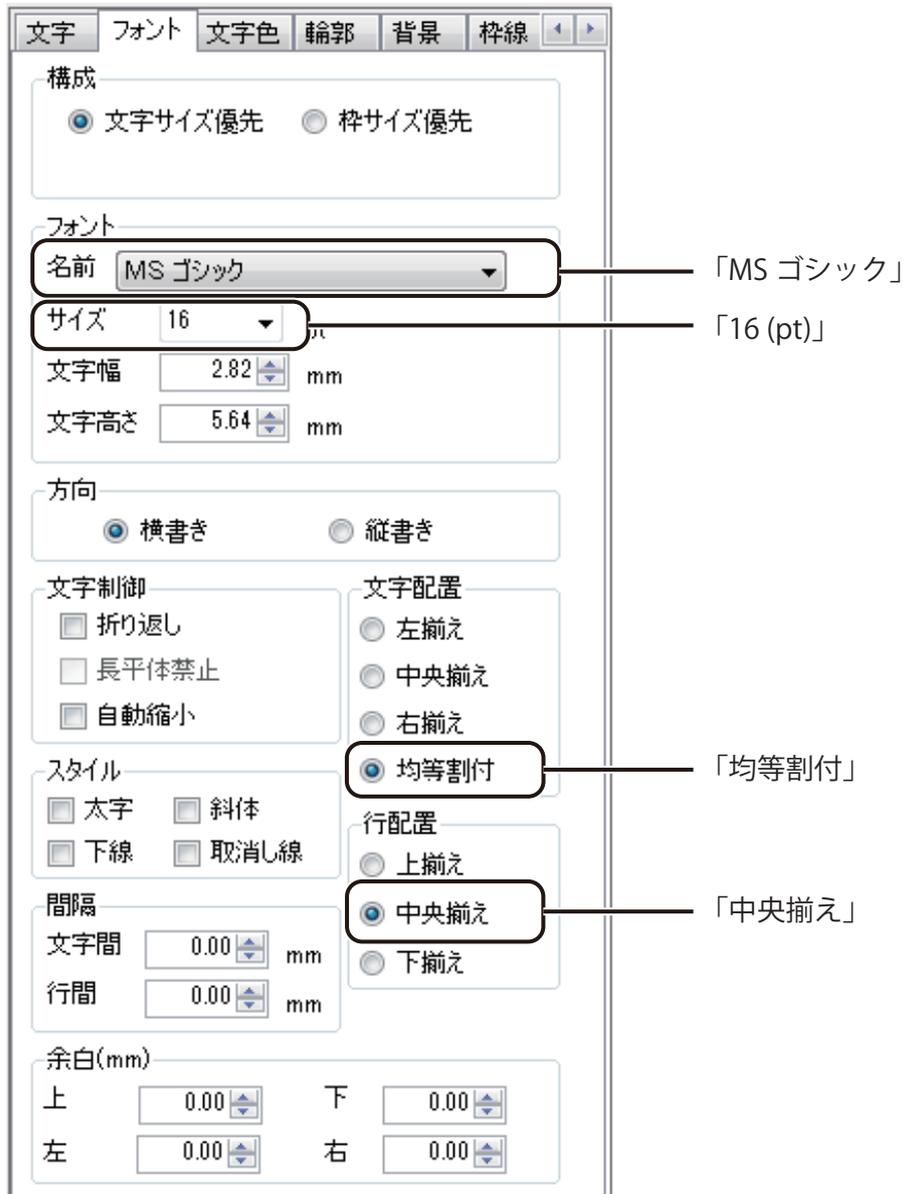


メモ

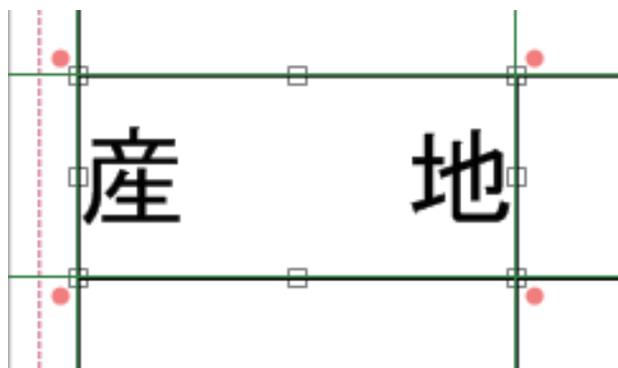
- 文字オブジェクトの領域を作ると、自動的に [入力データ] へカーソルが移動します。

4 文字の大きさや配置を変更します。

文字の大きさや配置は、[フォント] プロパティで設定します。
ここでは、次のように入力します。



5 配置する位置にオブジェクトを移動し、枠の大きさに合わせて大きさを調整します。



メモ

- オブジェクトの領域を小さくしすぎると、文字が欠けてしまいます。また、欠けた部分は印刷されません。
- 文字をフォントサイズに関係なくオブジェクトの領域内に収めたいときは、[フォント] プロパティの [構成] を [枠サイズ優先] に設定します。

6 同様の手順で [2] ~ [7] の文字を作成し、配置します。

メモ

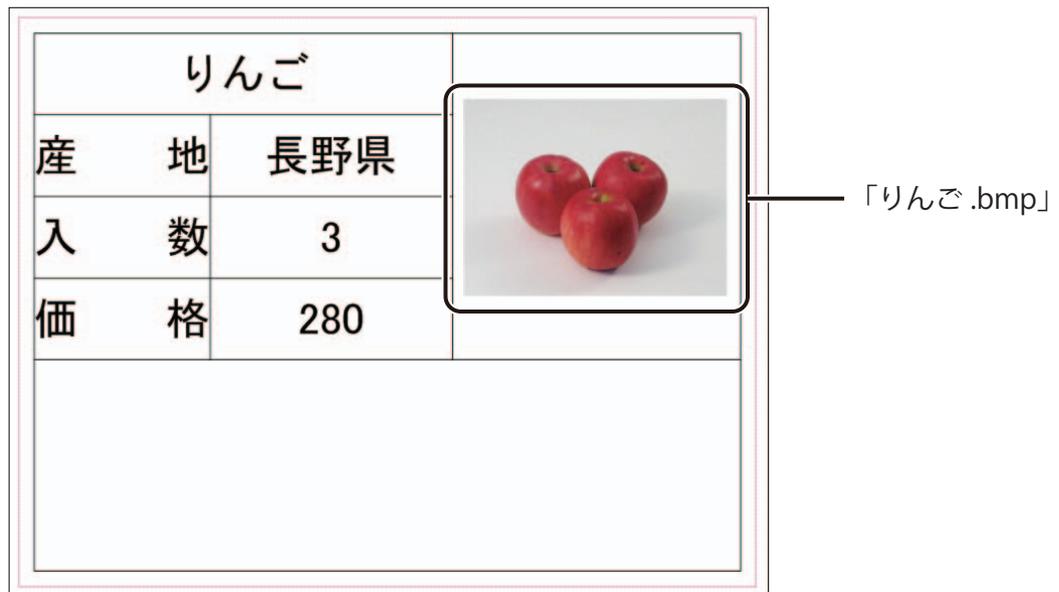
- 文字オブジェクトについては、「[文字を入力する \(P.163\)](#)」をご覧ください。

画像を貼り付ける

画像を貼り付けます。画像の貼り付けには、挿入ツールバー [イメージ] を使います。

<完成例>

画像ファイル「りんご.bmp」を貼り付けます。



- 1 挿入ツールバー [イメージ] をクリックします。

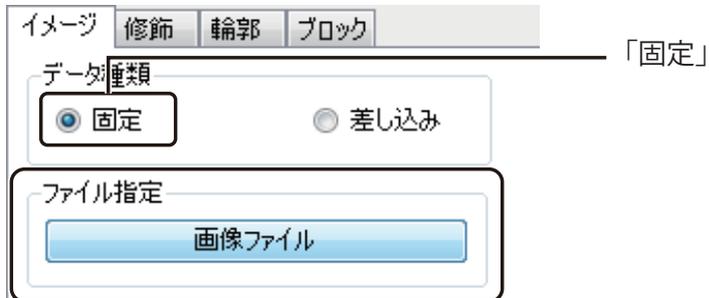


- 2 オブジェクトエリアを作ります。

四角形オブジェクトのときと同様に、デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、画像を挿入する領域が作成されます。

3 [イメージ] プロパティの [画像ファイル] をクリックします。

データ種類「固定」が選択されていることを確認してから操作します。



「イメージファイルの選択」ダイアログボックスが表示されます。

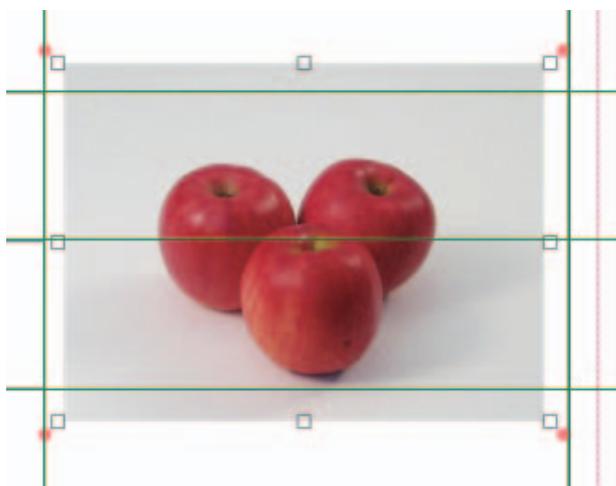
4 画像を選択し、[開く] をクリックします。

ここでは、「りんご.bmp」を選択します。

- Windows 8 (32ビット) / Windows 7 (32ビット) / Windows Vista (32ビット) / Windows XP (32ビット) のとき
< C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\ サンプル画像 >
- Windows 8 (64ビット) / Windows 7 (64ビット) / Windows Vista (64ビット) / Windows XP (64ビット) のとき
< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\ サンプル画像 >



5 オブジェクトの大きさと位置を調整します。



メモ

- 画像オブジェクトについては、「[画像を挿入する \(P.167\)](#)」をご覧ください。

バーコードを作成する

バーコードを作成します。バーコードの作成には、挿入ツールバー [バーコード] を使います。

<完成例>

バーコード種類「JAN-13」、入力データ「491234567123」のバーコードを作成します。



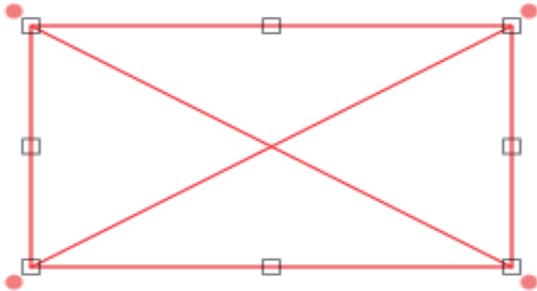
バーコード種類「JAN-13」
入力データ「491234567123」

- 1 挿入ツールバー [バーコード] をクリックします。



2 オブジェクトエリアを作ります。

四角形オブジェクトのときと同様に、デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、次のようなバーコードを入力する領域が作成されます。



3 コードの種類を選択し、バーコードにする文字列を入力します。

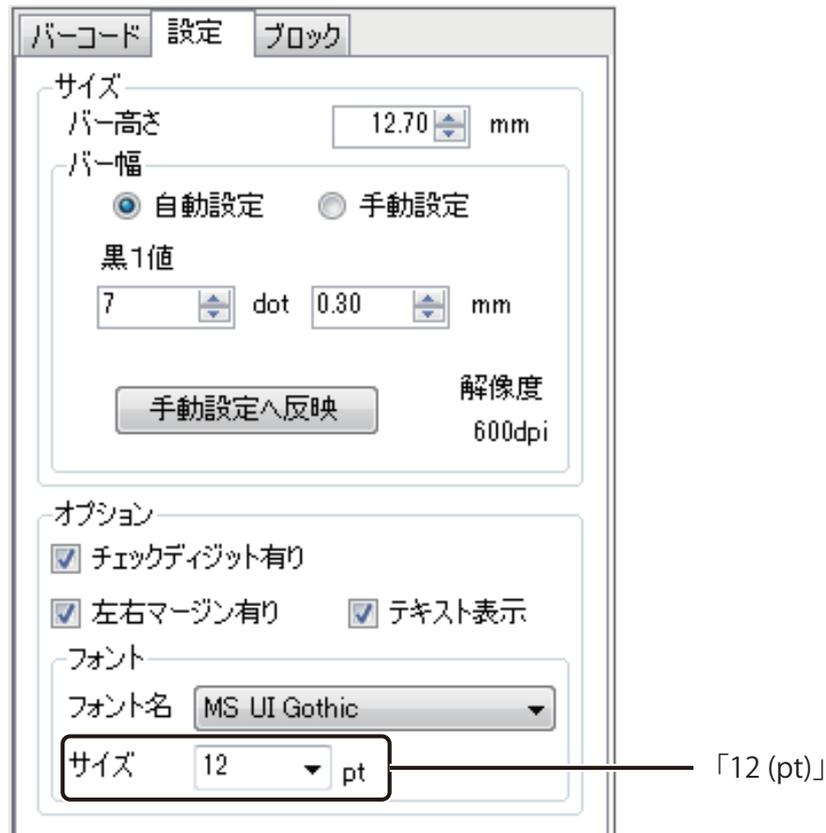
コードの種類とバーコードの数字の入力は、[バーコード] プロパティで設定します。

ここでは、データ種類「固定」を選択されていることを確認してから、「JAN-13」を選択し、[入力データ] に「491234567123」と入力します。



4 バーコードのサイズやコード文字などについて入力します。

バーコードのサイズやコード文字などについては、「設定」プロパティで設定します。
ここでは、コード文字の大きさを次のように入力します。



メモ

- [バー幅] の初期値は、印刷設定で指定されているプリンターによって異なります。

5 バーコードがすべて表示されるように、オブジェクトの大きさと位置を調整します。





メモ

- バーコードオブジェクトについては、「[バーコードを作成する \(P.186\)](#)」をご覧ください。

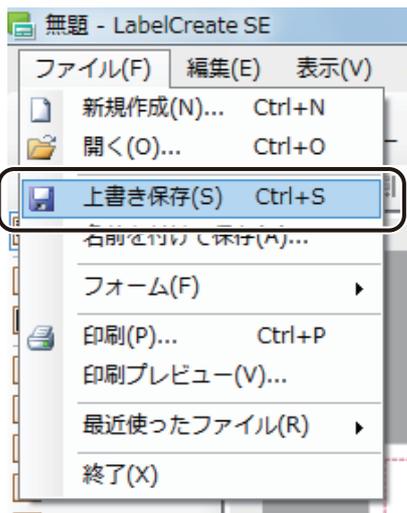
以上で、デザインデータは完成です。

データを保存する

デザインデータを保存します。

- 1 標準ツールバー  をクリックします。

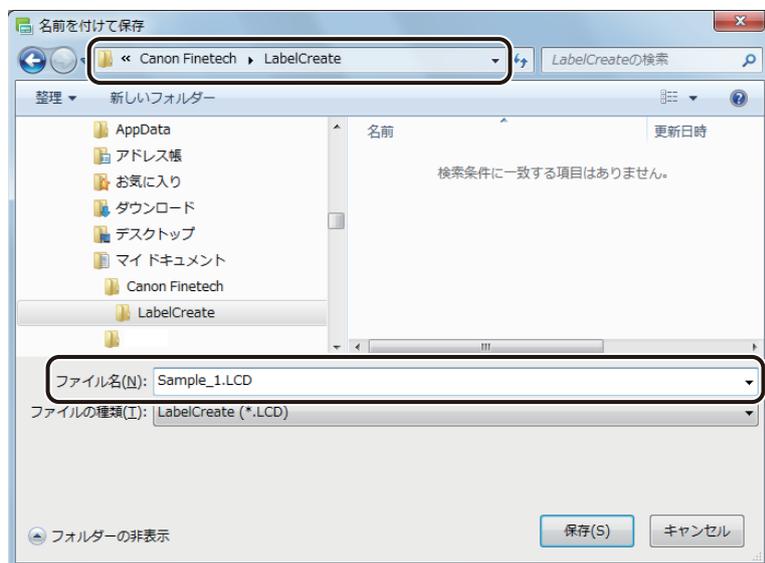
または、[ファイル] メニューの [上書き保存] をクリックします。



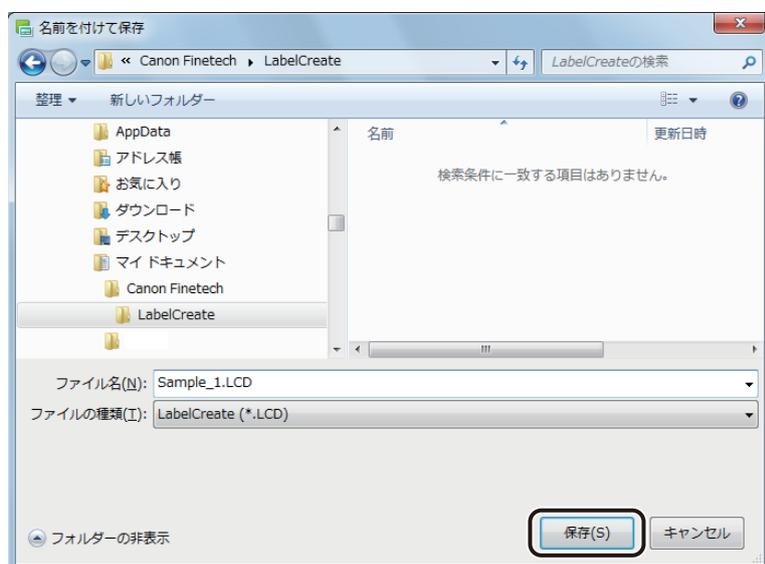
[名前をつけて保存] ダイアログボックスが表示されます。

2 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。

ここでは、ファイル名を「Sample_1」とします。



3 [保存] をクリックします。



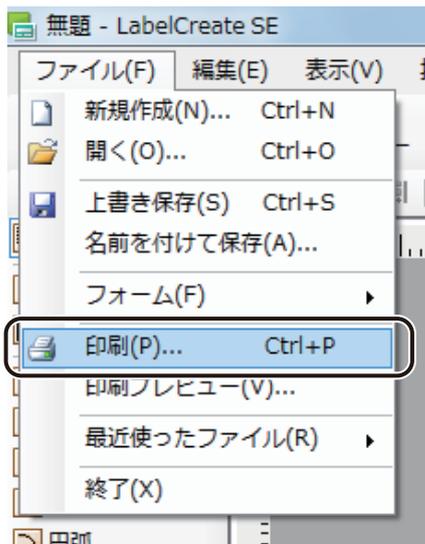
デザインデータが保存されます。

ラベルを印刷する

印刷設定を行い、ラベルを印刷します。

1 標準ツールバー  をクリックします。

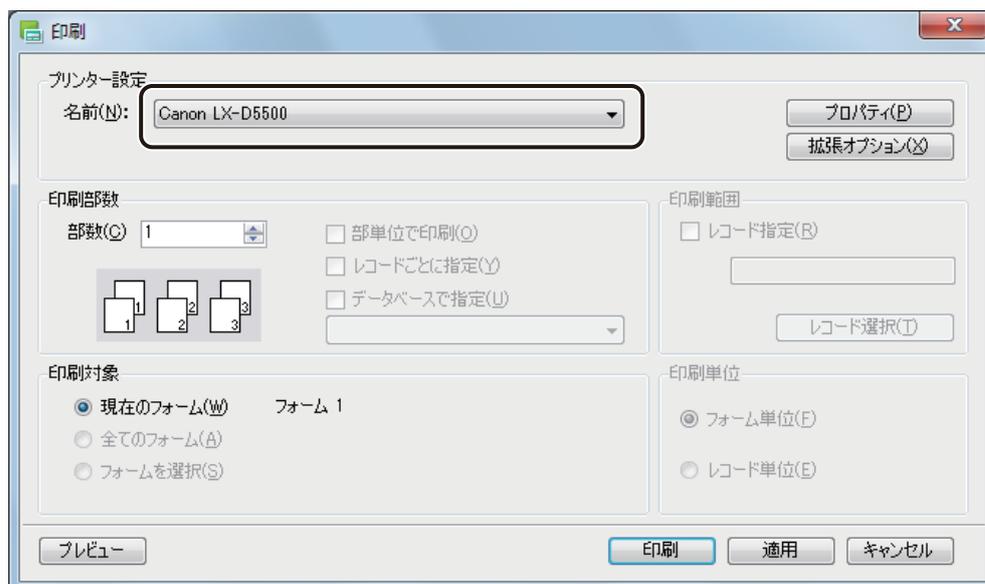
または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。



[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

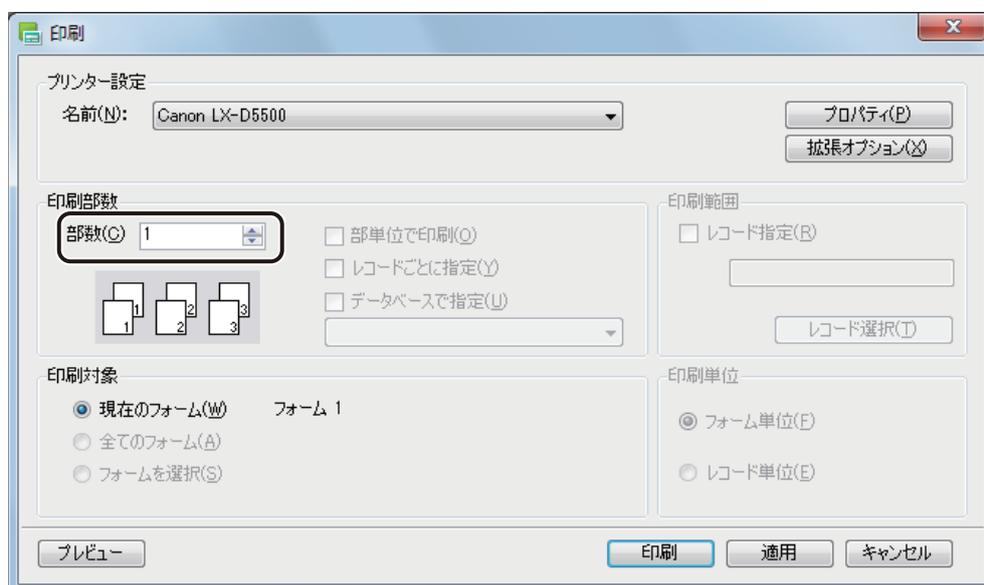
2 印刷に使うプリンターを指定します。

ここでは、「Canon LX-D5500」（または「Canon LX-P5500」）を選択します。

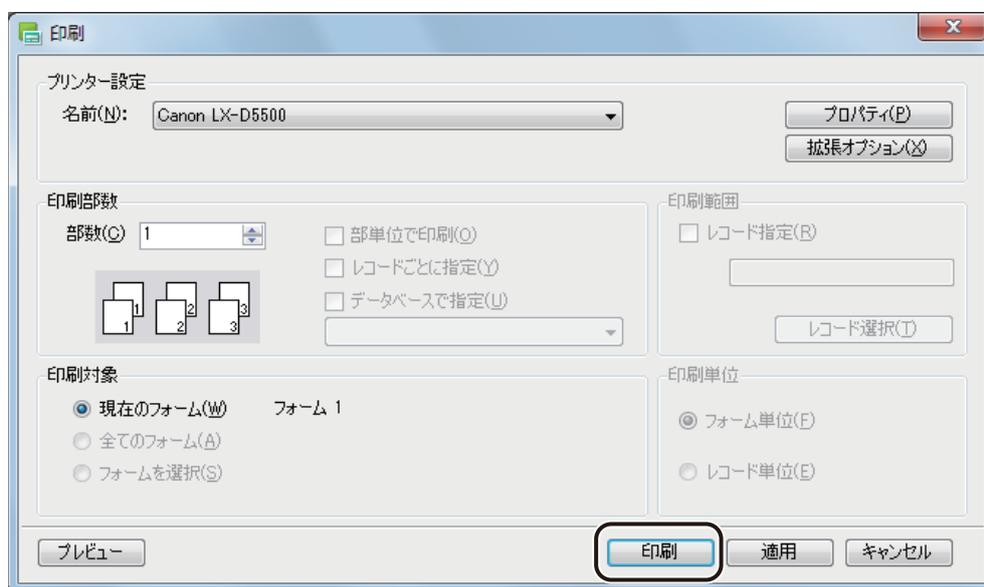


3 部数を設定します。

ここでは、「1」とします。



4 [印刷] をクリックします。



印刷が実行されます。



メモ

- [プロパティ] をクリックすると、用紙の種類や色設定など、プリンターの印刷設定を設定できます。詳しくは、プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- [印刷] ダイアログボックスの [プレビュー] (または、標準ツールバー  や [ファイル] メニューの [印刷プレビュー]) をクリックすると、印刷のプレビュー画面が表示されます。印刷プレビューについては、「[プレビューで確認する \(P.303\)](#)」をご覧ください。
- [印刷] ダイアログボックスの設定については、「[いろいろな印刷 \(P.321\)](#)」をご覧ください。
- 印刷を実行すると、印刷設定ファイル「Sample_1.LCI」が作成されます。印刷設定ファイル (.LCI) については、「[印刷する \(P.310\)](#)」をご覧ください。
- 印刷中にエラーが発生したときは、ステータスマニターに表示されるエラーの内容を確認して必要な対処を行ってください。エラーの対処については、プリンタードライバーのヘルプまたはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- 印刷したラベルのバーコードが読み取りにくいときは、「[バーコード設定](#)」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.351\)](#)」をご覧ください。

データベースを活用したラベルの作成

本ソフトウェアでは、商品管理や在庫管理などのデータベースを元に、ラベルを効率よく作成することができます。たとえば商品ラベルなど、同じフォームの異なるラベルを多量に作成する必要があるときに有効な機能です。ここでは、前節で作成したデザインデータから Microsoft Office Excel で作成したデータベースを参照して次のようなラベルを作成します。

<完成例>

前節で作成したラベルと同じフォームで次のような商品ラベルを作成します。



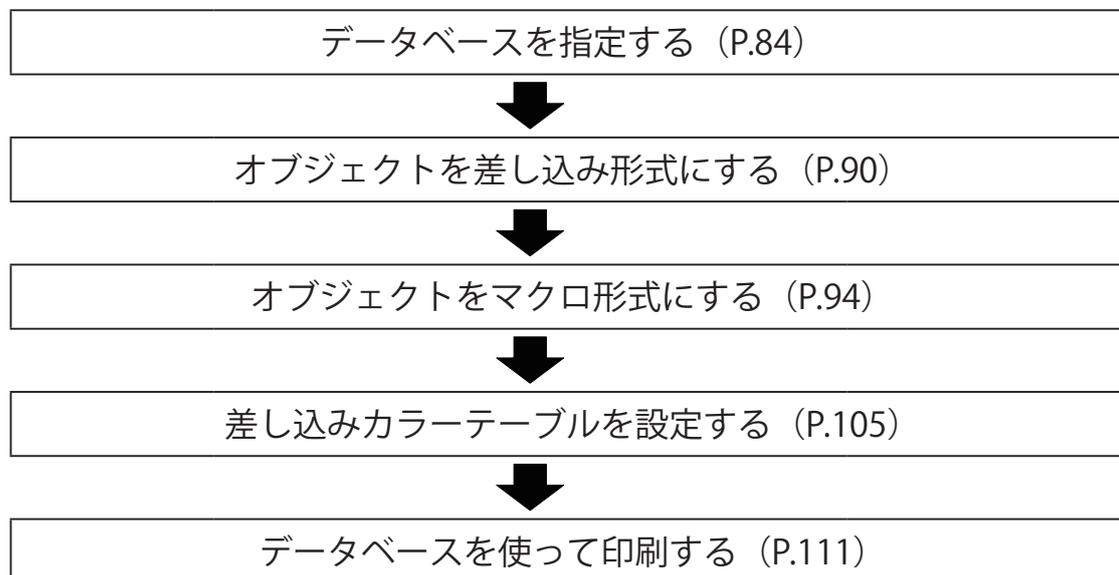
印刷プリンター： キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500（または LX-P5500）
用紙サイズ： 4 × 3 インチ（97.3 × 76.2 mm）

本章で使用する画像は、次の場所に保存されています。

- Windows 8 (32 ビット) / Windows 7 (32 ビット) / Windows Vista (32 ビット) / Windows XP (32 ビット) のとき
< C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\ サンプル画像 >
- Windows 8 (64 ビット) / Windows 7 (64 ビット) / Windows Vista (64 ビット) / Windows XP (64 ビット) のとき
< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\ サンプル画像 >

ラベルの作成は、次のような流れに沿って行います。

<操作の流れ>



データベースを指定する

データベースファイルを指定します。

ここでは、Microsoft Office Excel を使って作成したデータベースファイルを、「外部データベース」として参照する手順で説明します。



メモ

- データベース形式の初期設定は、「外部データベース」となっています。
外部データベースおよび内部データベースについては、「[外部データベースと内部データベース \(P.262\)](#)」をご覧ください。

第2章 操作の流れと概要

1 データベースファイルを用意します。

「青果ラベル.xls」は次の場所に保存されています。

- Windows 8 (32ビット) / Windows 7 (32ビット) / Windows Vista (32ビット) / Windows XP (32ビット) のとき
< C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample >
- Windows 8 (64ビット) / Windows 7 (64ビット) / Windows Vista (64ビット) / Windows XP (64ビット) のとき
< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample >

ファイル名：青果ラベル.xls
シート名：1月

[A]	[B]	[C]	[D]	[E]	[F]	[G]	[H]
品名	産地	入数	単位	価格	コード	画像	部数
りんご	長野県	3	個	280	123	C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\サンプル画像\りんご.bmp	1
キャベツ	千葉県	1	玉	170	456	C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\サンプル画像\キャベツ.bmp	5
レモン	広島県	4	個	360	789	C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\サンプル画像\レモン.bmp	4
きゅうり	宮崎県	4	本	280	135	C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\サンプル画像\きゅうり.bmp	3
みかん	愛媛県	5	個	400	246	C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\サンプル画像\みかん.bmp	2

※ 表中の [A] ~ [H] は、Microsoft Office Excel の列見出しを表している。

1 行目 (表中グレーの部分) は項目名とする。

※ [画像] は、画像ファイルまでのパスを入力する。(上記は、Windows 7 (32ビット) 使用時の初期値)

メモ

● 指定できるファイル形式は次のとおりです。

- Microsoft Excel ファイル形式 (*.xls、*.xlsx)
- Microsoft Access データベースファイル (*.mdb、*.accdb) ※1
- テキスト形式 (*.txt、*.csv)

※1 Microsoft Access データベースに OLE オブジェクト型で挿入したファイルは、ビットマップ形式ファイル (.bmp) のみが参照 (またはインポート) 可能

● 指定できるファイル形式であってもパスワードが設定されている文書は読み込めません。あらかじめパスワードを解除しておいてください。

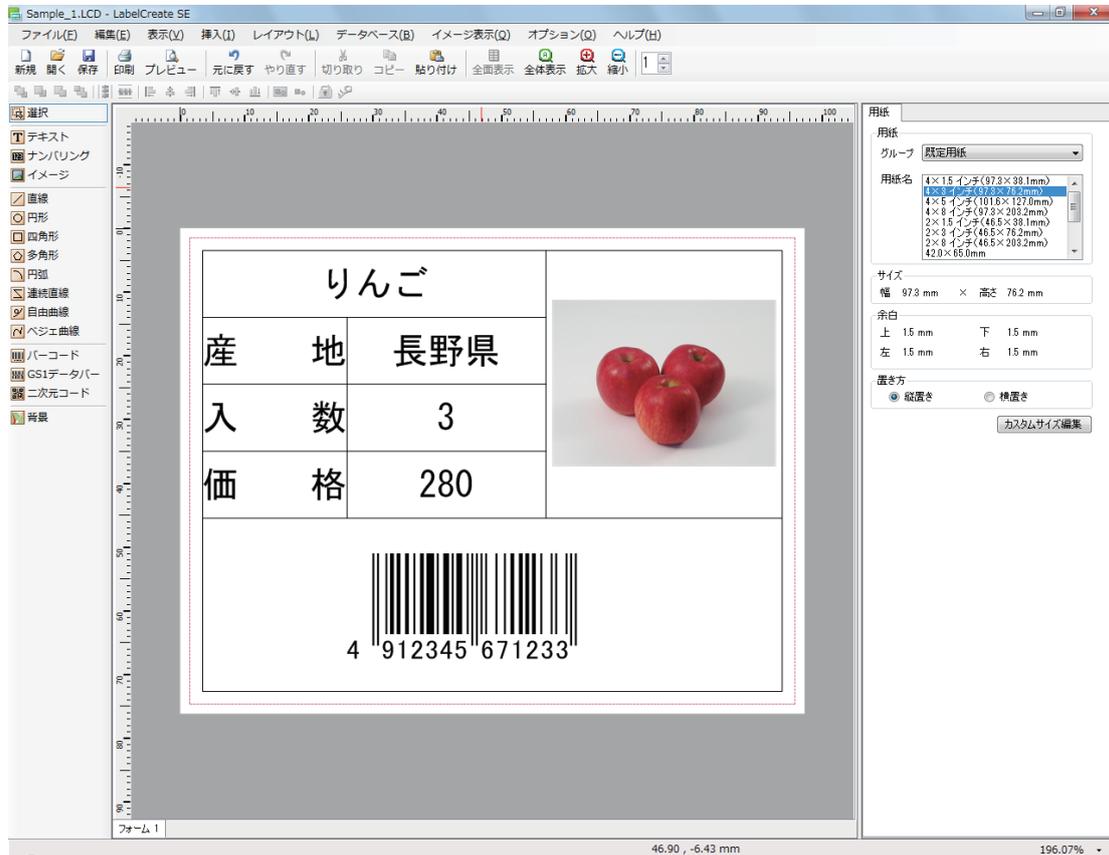
● 画像ファイルのパスは、デザインファイル (*.LCD) からの相対パスでも設定可能です。

例) Sample_1.LCD および「サンプル画像」フォルダーを同一階層上においた場合の相対パス ("りんご"の場合):
サンプル画像\りんご.bmp

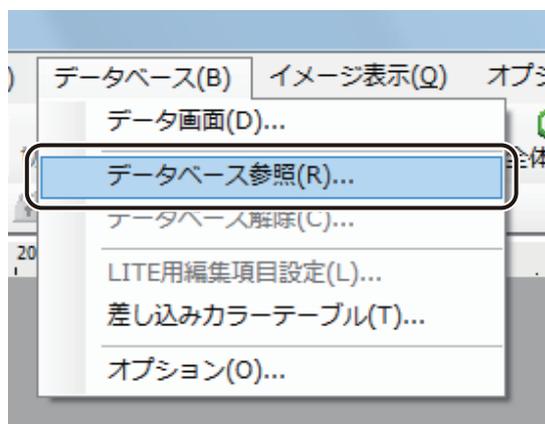
2 標準ツールバーの  をクリックし、データを開きます。

または、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。

ここでは、前節で作成したデータを開きます。(ファイル名：Sample_1.LCD)

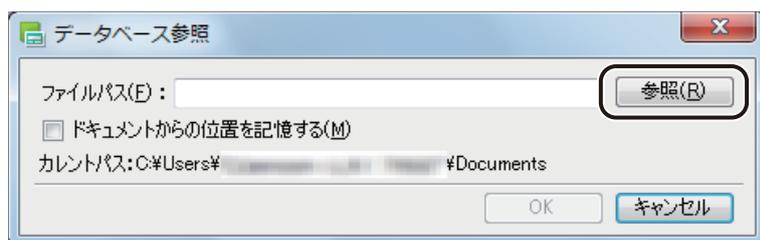


3 [データベース] メニューの [データベース参照] をクリックします。



[データベース参照] ダイアログボックスが表示されます。

4 [参照] をクリックします。



[データベースファイル読み込み] ダイアログボックスが表示されます。

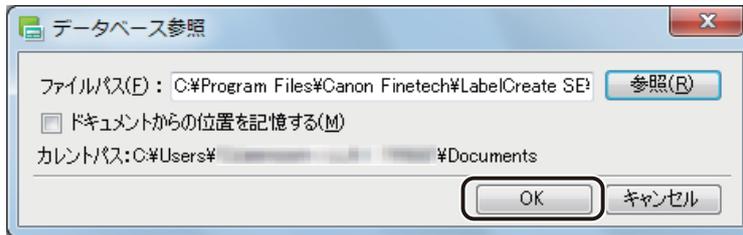
メモ

- 外部データベースを参照するとき、「ドキュメントからの位置を記憶する」にチェックマークを入れておくと、「カレントパス」からの相対パスを記憶します。
詳しくは、「データベースを参照（またはインポート）する」のメモ (P.256) をご覧ください。

5 データベースファイルを選択し、[開く] をクリックします。

ここでは、「青果ラベル.xls」を選択します。

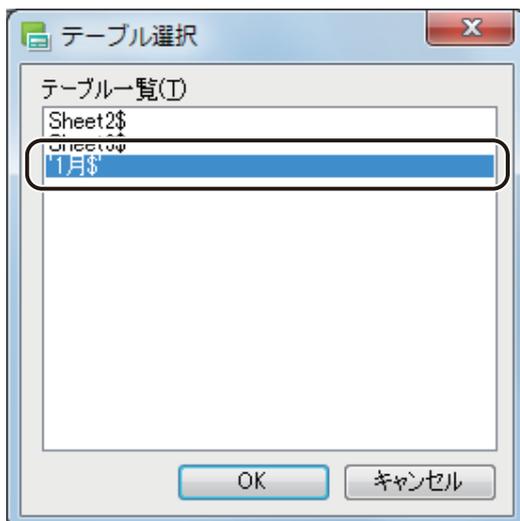
6 [OK] をクリックします。



[テーブル選択] ダイアログボックスが表示されます。

7 シートを指定します。

[テーブル一覧] には、参照したデータベースのシートの一覧が表示されます。ここでは、「1月\$」を選択します。



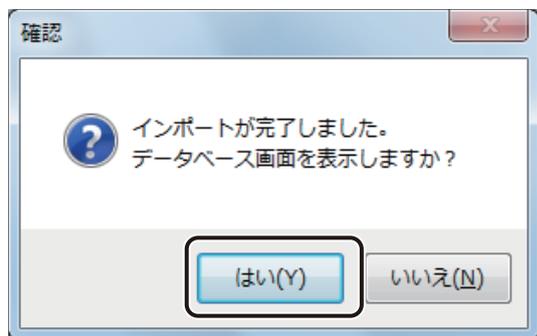
メモ

- Microsoft Office Access のデータベースを参照しているときは、テーブルの一覧が表示されます。

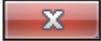
8 [OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

9 データベースを表示したいときは、[はい] をクリックします。



[はい] をクリックすると、データベース画面が表示されます。

10 内容を確認したら、 (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。



- データベース画面は、[データベース] メニューの [データ画面] をクリックして表示します。

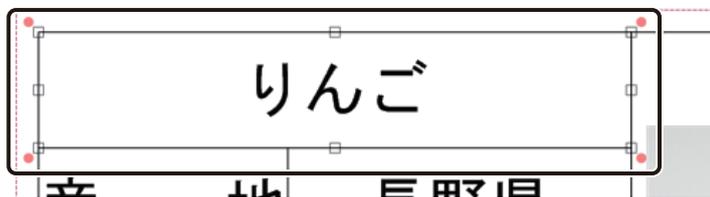
オブジェクトを差し込み形式にする

オブジェクトにデータベースの項目を差し込み形式で設定します。差し込み形式で設定すると、データベースの値をオブジェクトに反映させることができます。

■ 文字オブジェクトを差し込み形式にする

1 データを差し込みたい文字オブジェクトを選択します。

ここでは、文字オブジェクト「りんご」を選択します。



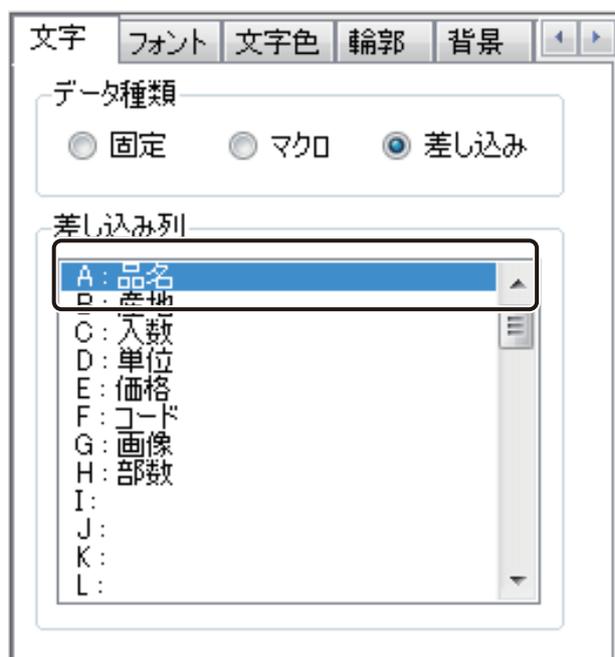
2 [文字] プロパティの [データ種類] で [差し込み] を選択します。



[差し込み列] に項目名が表示されます。

3 [差し込み列] からオブジェクトに割り当てる項目を選択します。

ここでは、「A：品名」を選択します。

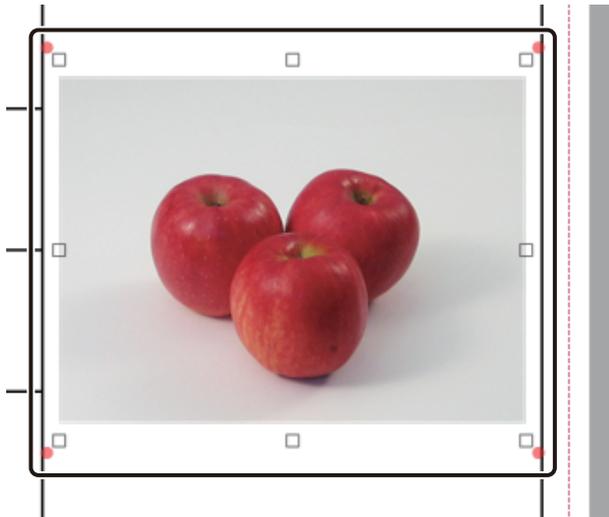


「品名」が差し込み形式となります。

4 同様の手順で、文字オブジェクト「長野県」を差し込み形式に変更します。

■ 画像オブジェクトを差し込み形式にする

- 1 データを差し込みたい画像オブジェクトを選択します。
ここでは、りんごの画像オブジェクトを選択します。



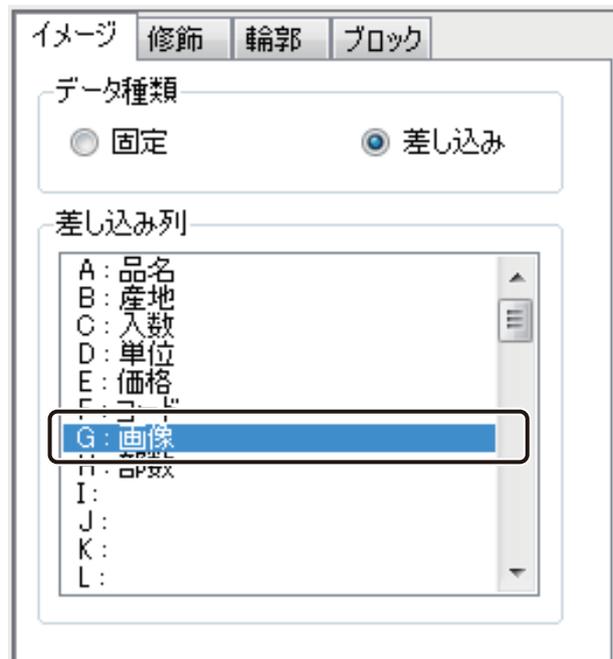
- 2 [イメージ] プロパティの [データ種類] で [差し込み] を選択します。



[差し込み列] に項目名が表示されます。

3 [差し込み列] からオブジェクトに割り当てる項目を選択します。

ここでは、「G：画像」を選択します。



「画像」が差し込み形式となります。

オブジェクトをマクロ形式にする

オブジェクトにデータベースの項目をマクロ形式で設定します。マクロを使うと、データベースの値を定義した規則にしたがって表示することができます。



メモ

- 本ソフトウェアで使用できるマクロについては、「マクロの仕様 (P.289)」をご覧ください。

■ 任意の文字列を付加する

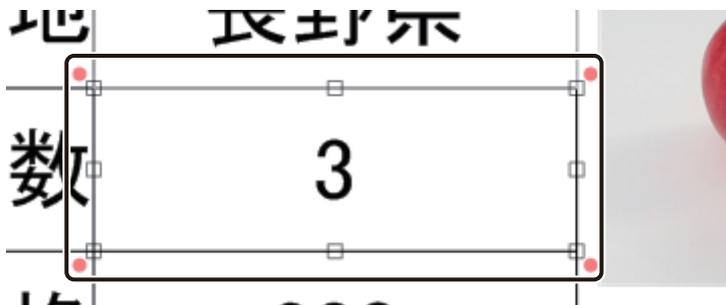
ここでは、「入数」の後ろに「単位」を、「バーコード」に固定値（ここでは、国コード「49」とメーカーコード「1234567」とします）を付加するマクロを設定します。

<完成例>

りんご		
産地	長野県	
入数	3個	
価格	280	
		

1 マクロを設定するオブジェクトを選択します。

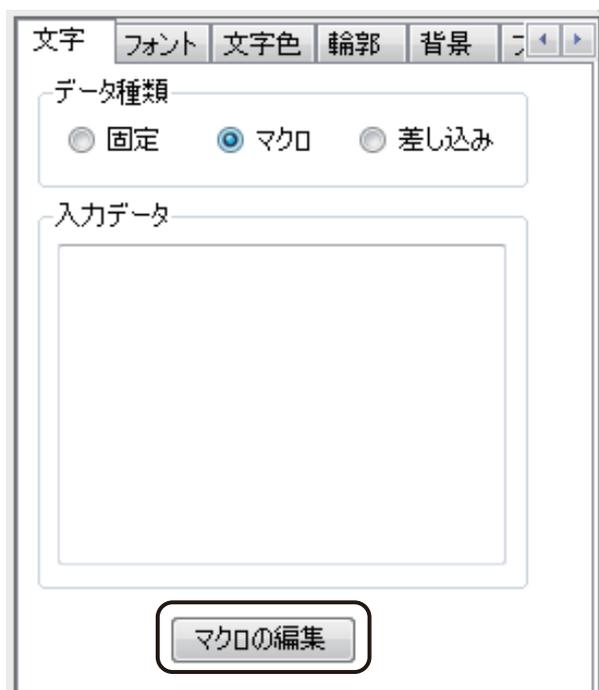
ここでは、文字オブジェクト「3」を選択します。



2 [文字] プロパティの [データ種類] で [マクロ] を選択します。



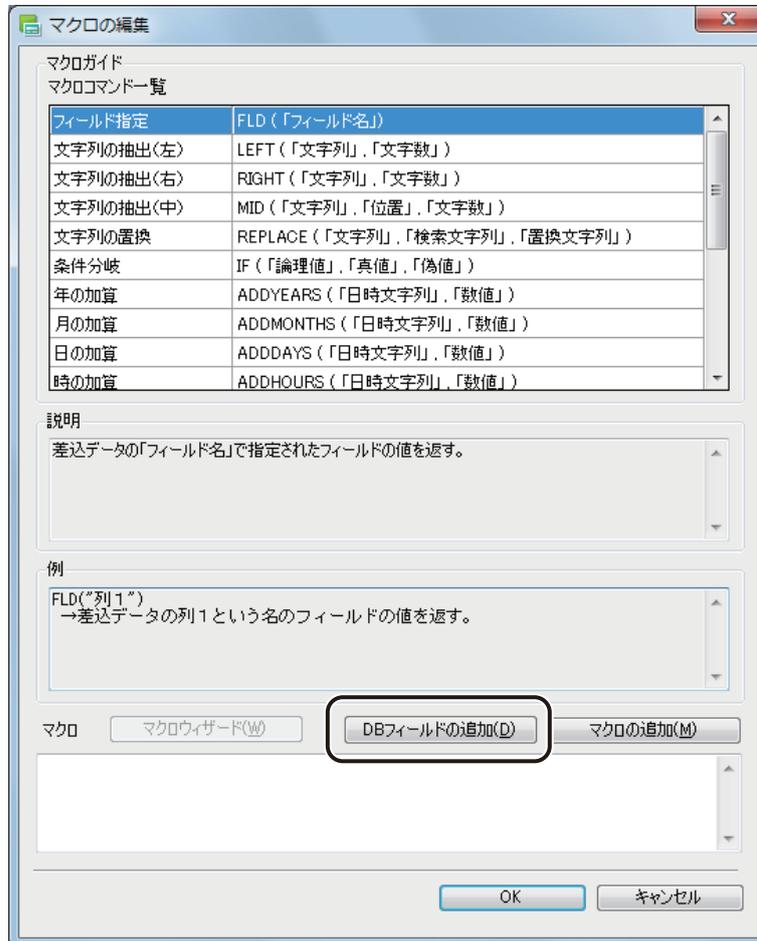
3 [マクロの編集] をクリックします。



[マクロの編集] ダイアログボックスが表示されます。

4 [DB フィールドの追加] をクリックします。

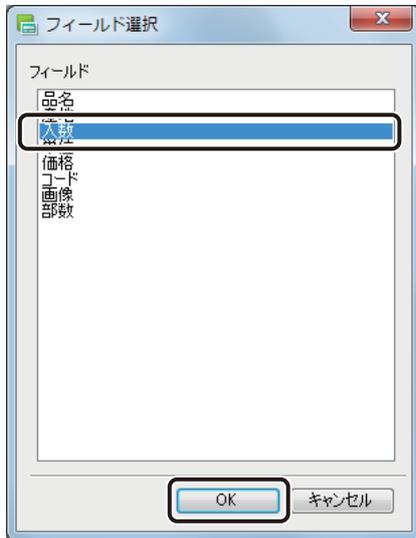
[DB フィールドの追加] を使うと、フィールドを指定するマクロ「FLD(「フィールド名」)」を簡単に入力できます。



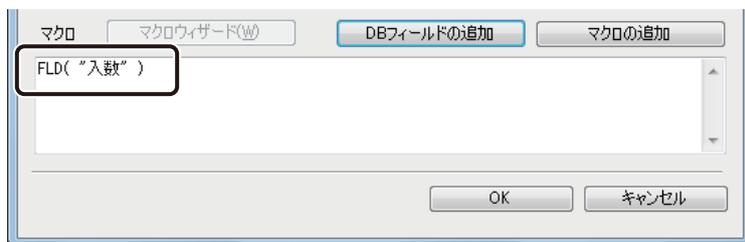
[フィールド選択] ダイアログボックスが表示されます。

5 フィールド（項目）を選択し、[OK] をクリックします。

ここでは、「入数」を選択します。



[OK] をクリックすると、マクロ編集画面に戻り、マクロテキストボックスに「FLD("入数")」と入力されます。



6 付加する項目を「&」で結びます。

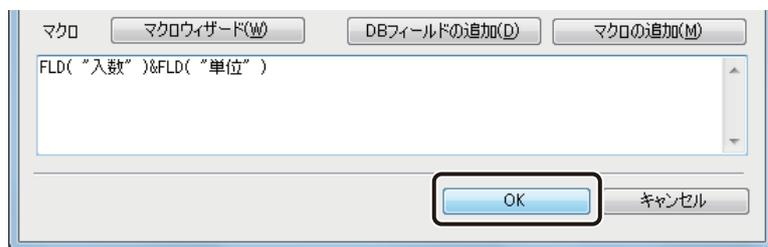
ここでは、「FLD("入数")」の後ろにカーソルを移動させ、「&」を入力し、上記手順4～5を行います。このとき手順5では、「単位」を選択します。



メモ

- 「" " (ダブルクォーテーション)」で囲んだ文字列以外の、マクロ式に使用する文字はすべて半角で入力してください。全角で入力した文字は、認識されません。

7 [OK] をクリックします。



「入数」にマクロが設定されます。

8 同様にバーコードにマクロを設定します。

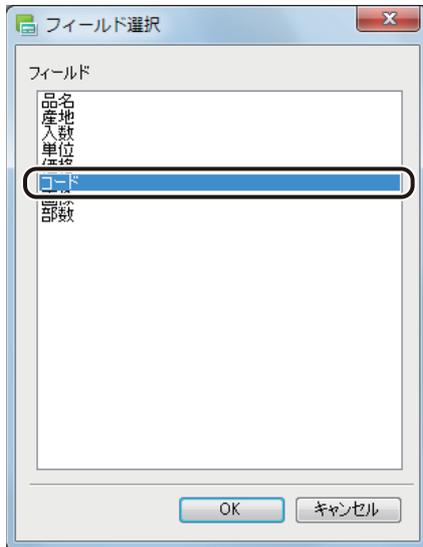
バーコードオブジェクトを選択し、上記の手順2～4を行います。



第2章 操作の流れと概要

9 フィールド（項目）を選択し、[OK] をクリックします。

ここでは、「コード」を選択します。

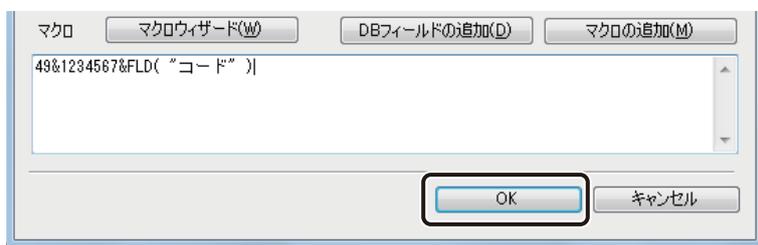


10 付加する文字列を「&」で結びます。

ここでは、「FLD("コード")」の前にカーソルを移動させ、固定値「49&1234567&」を入力します。



11 [OK] をクリックします。



「コード」にマクロが設定されます。

■ 四則演算を使って計算する

データベースの値に、四則演算（加算（+（プラス））、減算（-（マイナス））、乗算（*（アスタリスク））、除算（/（スラッシュ）））を使って計算させた値を表示します。

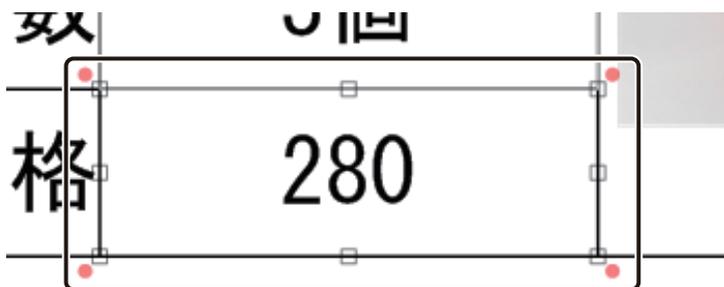
ここでは、データベースの「価格」を税込み価格（消費税5%とする）で表示させるマクロを設定します。

<完成例>



1 マクロを設定するオブジェクトを選択します。

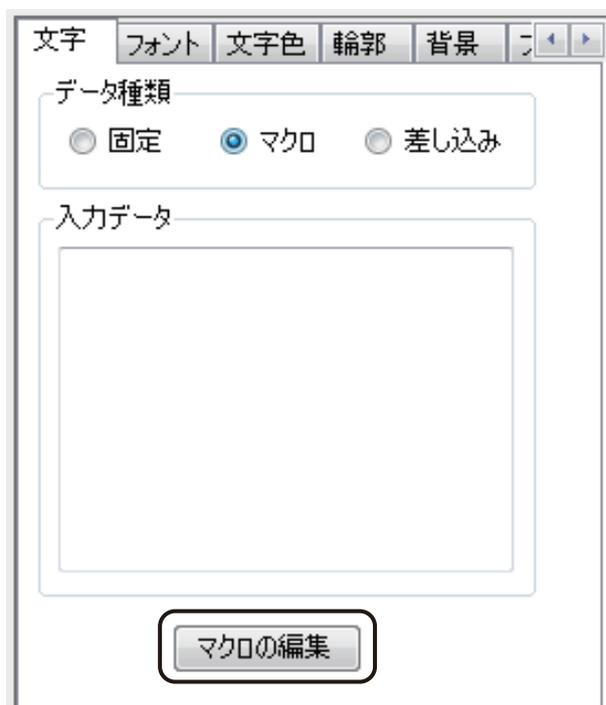
文字オブジェクト「280」を選択します。



2 [文字] プロパティの [データ種類] で [マクロ] を選択します。



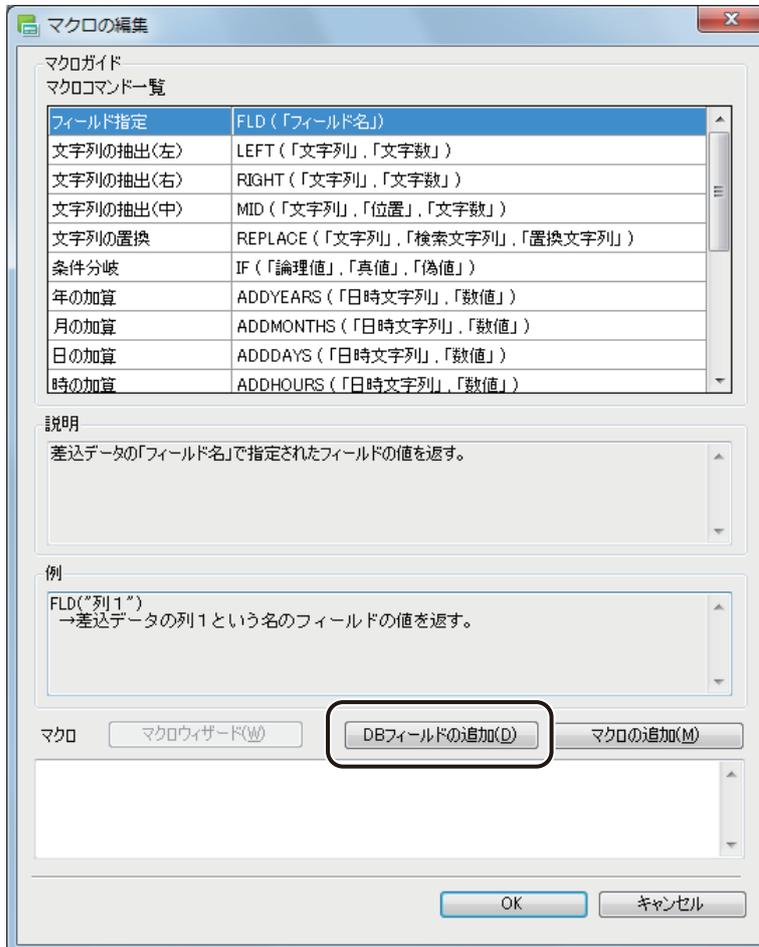
3 [マクロの編集] をクリックします。



[マクロの編集] ダイアログボックスが表示されます。

4 [DB フィールドの追加] をクリックします。

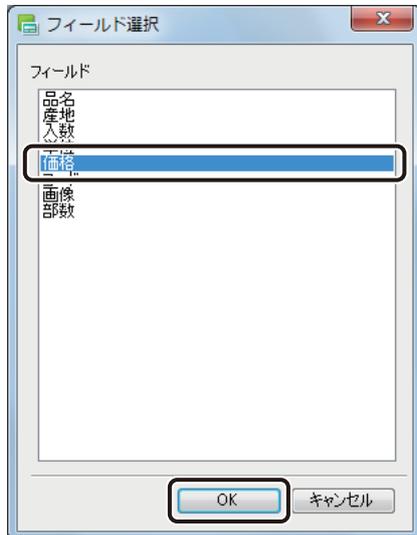
[DB フィールドの追加] を使うと、フィールドを指定するマクロ「FLD(「フィールド名」)」を簡単に入力できます。



[フィールド選択] ダイアログボックスが表示されます。

5 フィールド（項目）を選択し、[OK] をクリックします。

ここでは、「価格」を選択します。

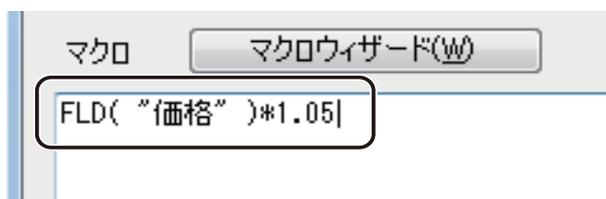


[OK] をクリックすると、マクロ編集画面に戻り、マクロテキストボックスに「FLD("価格")」と入力されます。



6 計算式を入力します。

ここでは、「FLD("価格")」の後ろにカーソルを移動させて、「*1.05」と入力します。

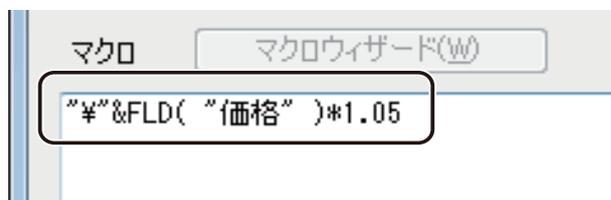


メモ

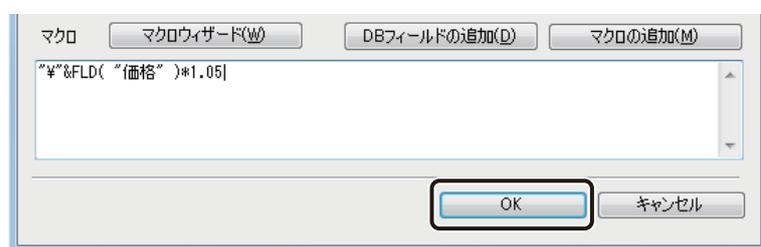
- 「" " (ダブルクォーテーション)」で囲んだ文字列以外の、マクロに使用する文字はすべて半角で入力してください。全角で入力した文字は、認識されません。

7 付加する文字列を「&」で結びます。

ここでは、「FLD("価格")」の前にカーソルを移動させて、「 ¥ 」と入力します。



8 [OK] をクリックします。



「価格」にマクロが設定されます。

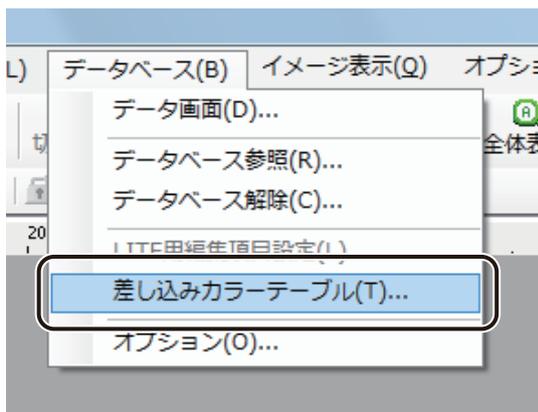
差し込みカラーテーブルを設定する

差し込みカラーテーブルを使って、オブジェクトの色をレコードごとに変更します。ここでは、「品名」に差し込みカラーテーブルを設定します。

<完成例>



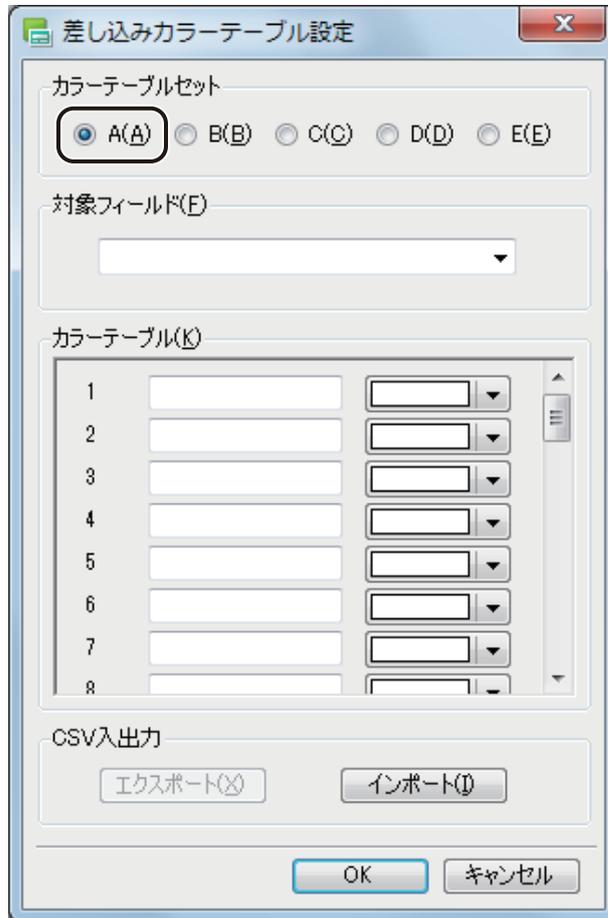
- 1 [データベース] メニューから [差し込みカラーテーブル] を選択します。



[差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスが表示されます。

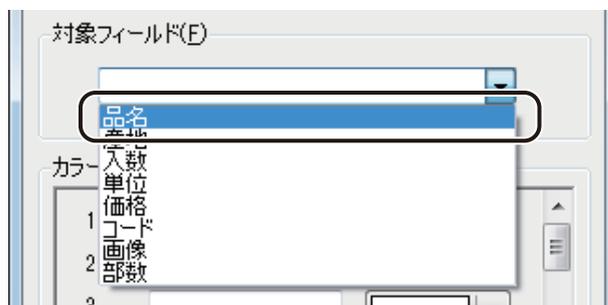
2 [カラーテーブルセット] を選択します。

ここでは、「A」を選択してください。



3 [対象フィールド] を選択します。

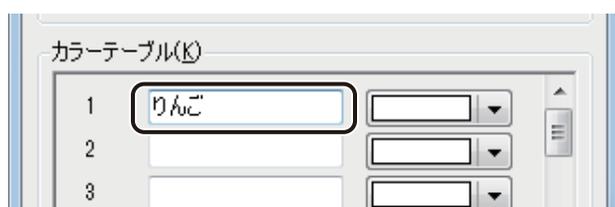
ここでは、「品名」を選択してください。



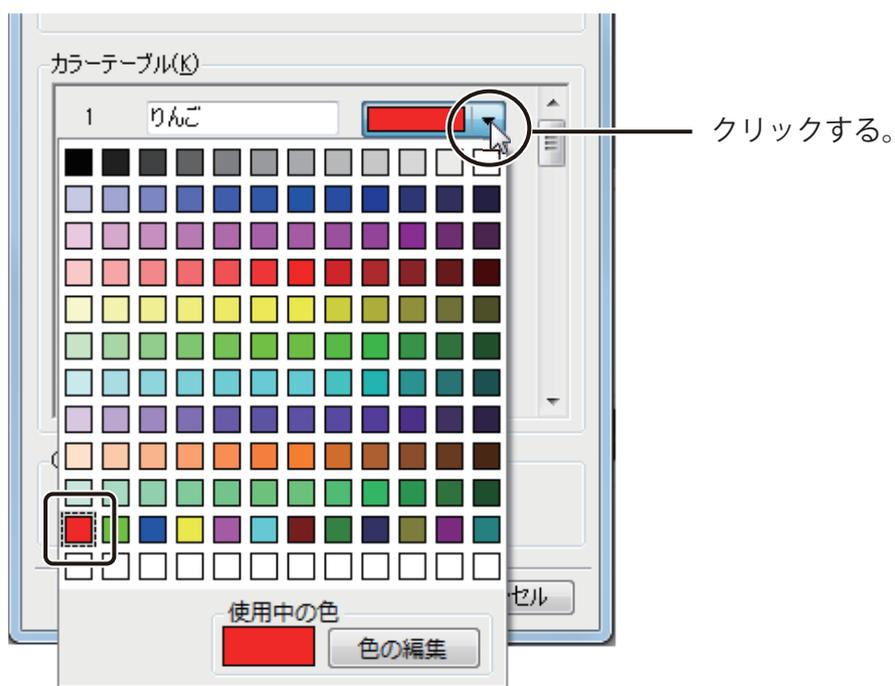
4 [カラーテーブル] を設定します。

対象フィールド（項目）のデータを入力し、変更したい色を指定します。
ここでは、次のように操作します。

- ① 「1」の入力ボックスに、「りんご」と入力します。



- ② ▼ をクリックして赤色 (■) を選択します。



- ③ 同様の操作で、次のように入力します。

番号	品名	色
1	りんご	赤
2	キャベツ	緑
3	レモン	黄緑
4	きゅうり	濃緑
5	みかん	オレンジ
6		
7		
8		

CSV入出力

エクスポート(X) インポート(I)

OK キャンセル



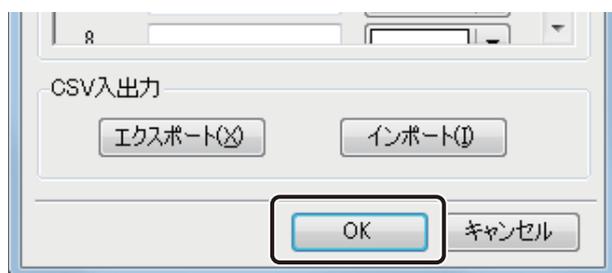
メモ

- [カラーテーブル] は、データベースと同じ表記で入力してください。例えば、「りんご」を「リンゴ」と入力してしまうと、正しく色が反映されません。また、全角と半角も区別されます。

品名
りんご
キャベツ
レモン
きゅうり
みかん

同じ表記で入力する。

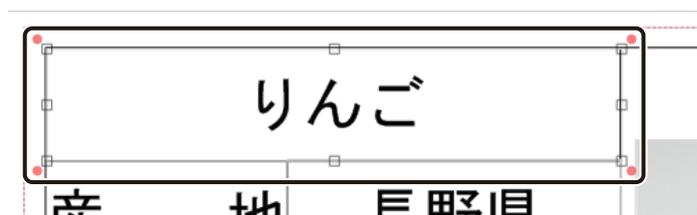
5 [OK] をクリックします。



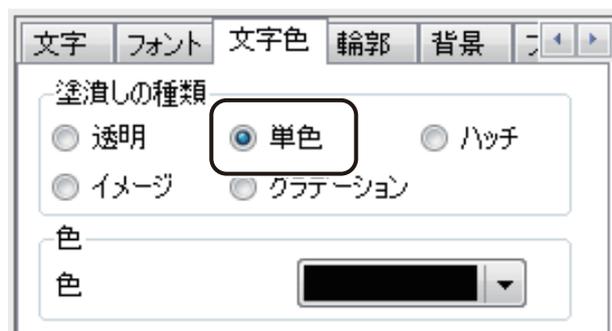
ダイアログボックスが閉じます。

6 カラーテーブルを設定するオブジェクトを選択します。

ここでは、文字オブジェクト「りんご」を選択します。

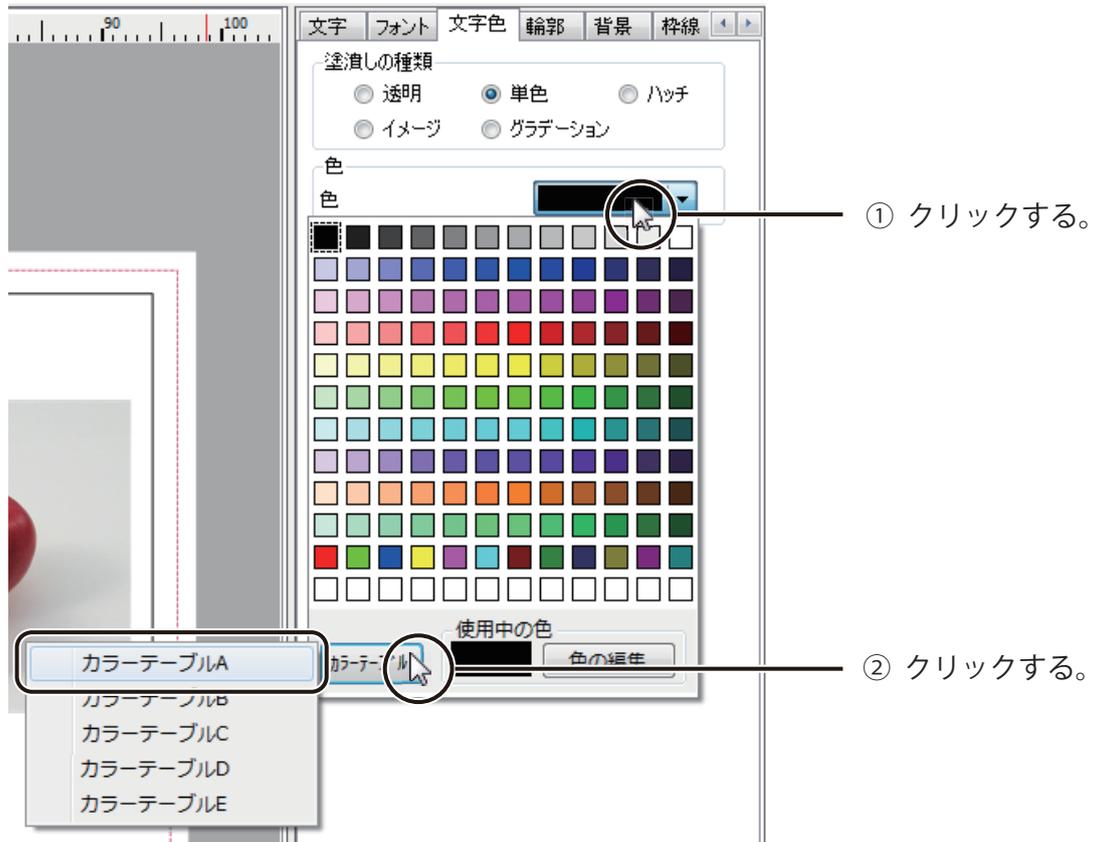


7 [文字色] プロパティの [塗潰しの種類] で [単色] を選択します。



8 パレットより、カラーテーブルを選択します。

ここでは、「カラーテーブル A」を選択します。



9 メニューバーの [] (差し込み記録番号) で表示レコードを切り替え、データを確認します。

レコードごとに文字色が変わっていれば完成です。

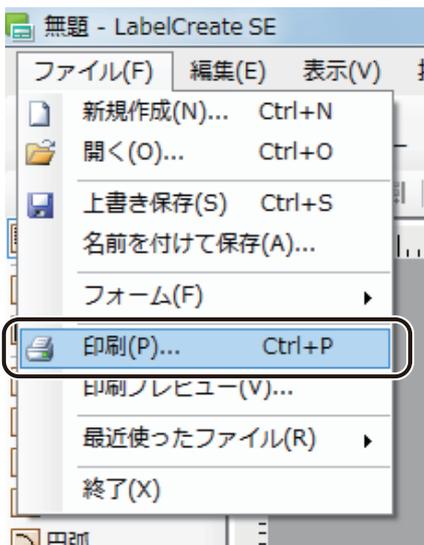


データベースを使って印刷する

データベースを活用して効率よく印刷を行います。
ここでは、「りんご」のラベルと「みかん」のラベルを印刷します。

1 標準ツールバーの  をクリックします。

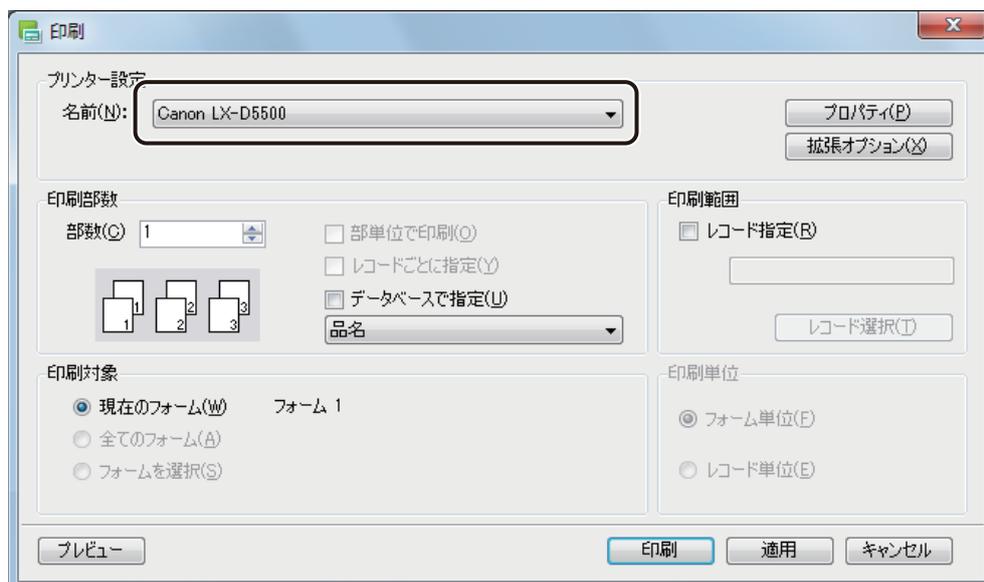
または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。



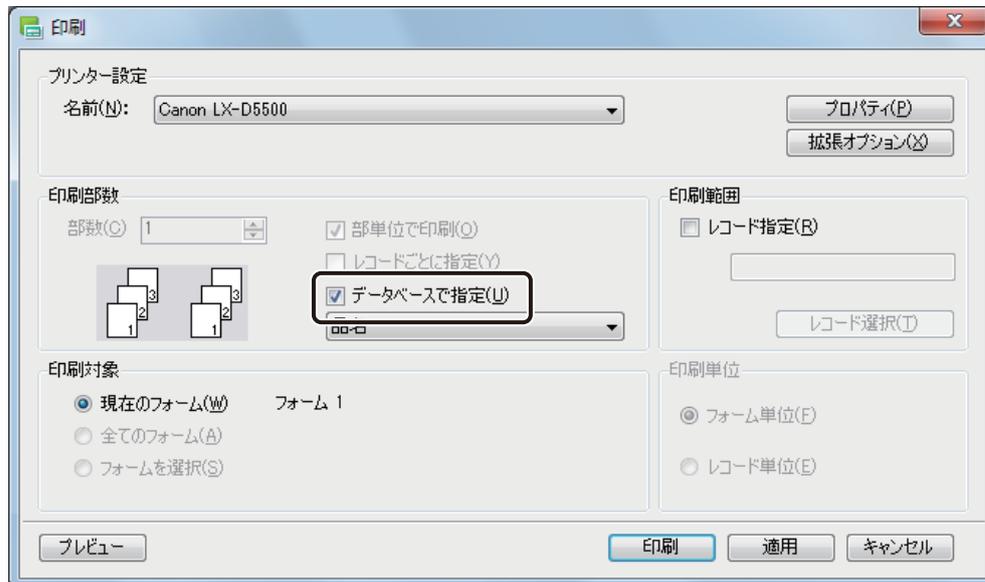
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

2 印刷に使うプリンターを指定します。

ここでは、「Canon LX-D5500」（または「Canon LX-P5500」）を選択します。

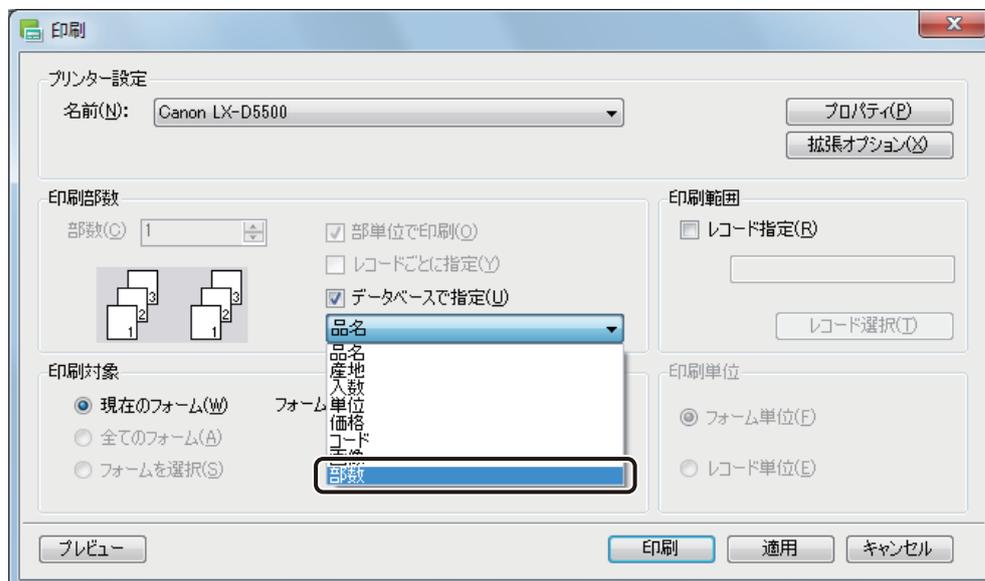


3 [データベースで指定] にチェックマークを入れます。

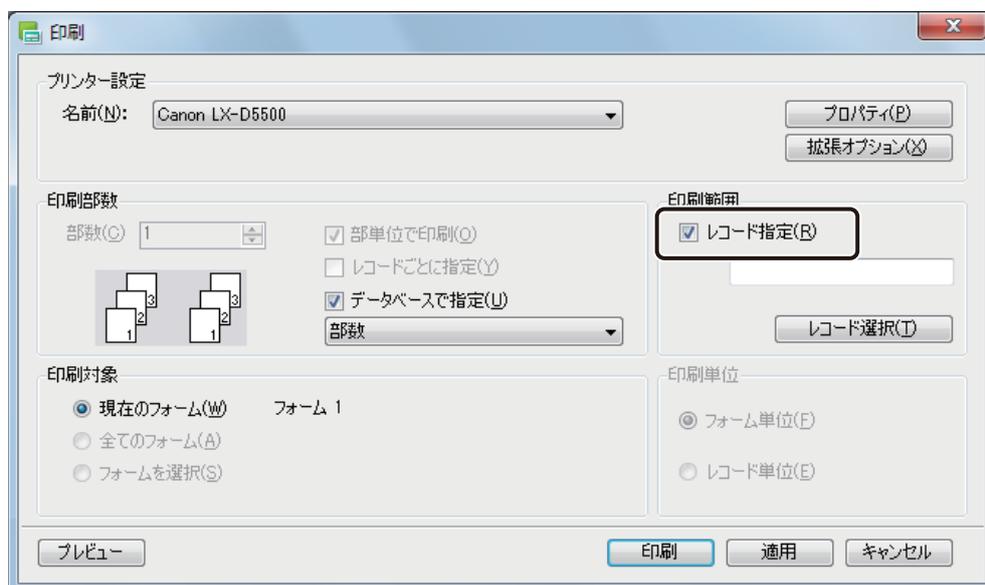


4 印刷部数を指定している項目を選択します。

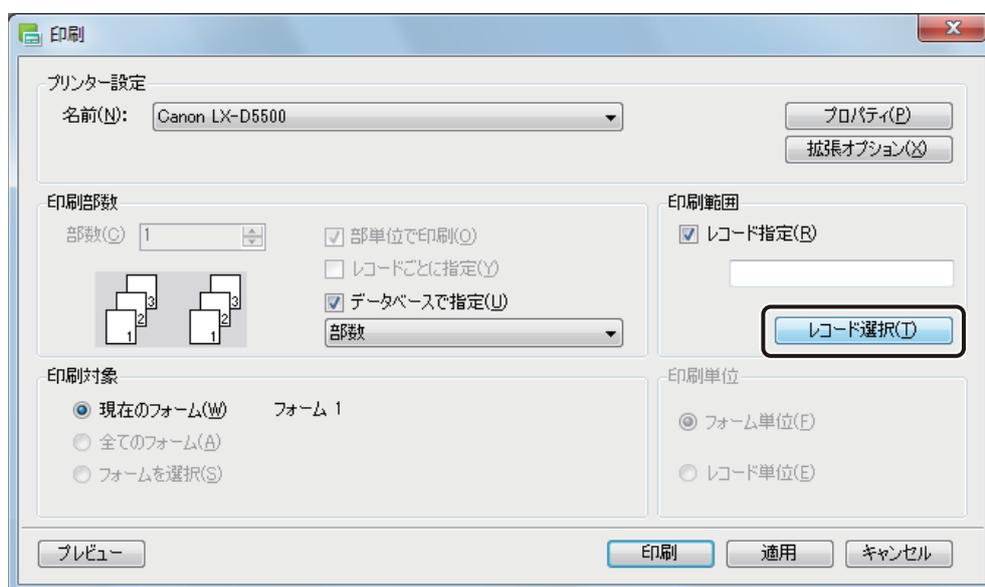
ここでは、ドロップダウンリストより「部数」を選択します。



5 [レコード指定] にチェックマークを入れます。



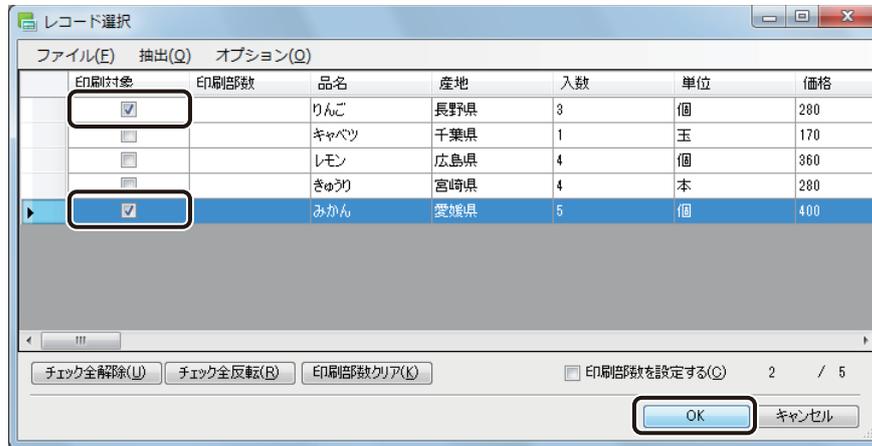
6 [レコード選択] をクリックします。



[レコード選択] ダイアログボックスが表示されます。

7 [印刷対象] の列で印刷するレコードを選択し、[OK] をクリックします。

ここでは、「りんご」と「みかん」にチェックマークを入れてください。



8 [印刷] をクリックします。



印刷が実行されます。

メモ

- その他の印刷設定については、「[いろいろな印刷 \(P.321\)](#)」をご覧ください。
- [印刷] ダイアログボックスの [プレビュー] をクリックすると、現在印刷対象となっているレコードのみを印刷プレビューします。
⇒ [「印刷対象のレコードをプレビューする \(P.306\)」](#)

3

用紙とフォームの設定

デザインエリアの用紙とフォームの設定について説明します。

用紙の設定

フォームの設定

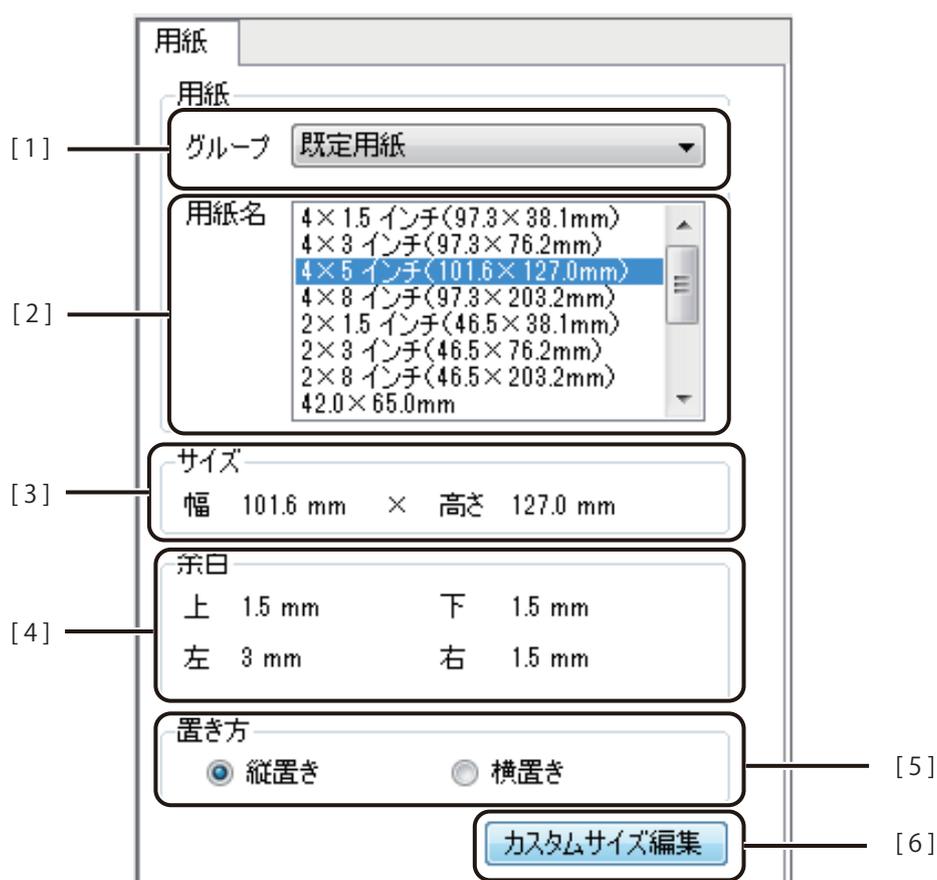
用紙の設定

デザインに使用する用紙の設定について説明します。

用紙は、あらかじめ登録されている用紙サイズから選ぶほか、独自の用紙サイズを登録して利用することもできます。

[用紙] プロパティを設定する

[用紙] プロパティでは、デザインに使用する用紙のサイズや置き方を設定します。



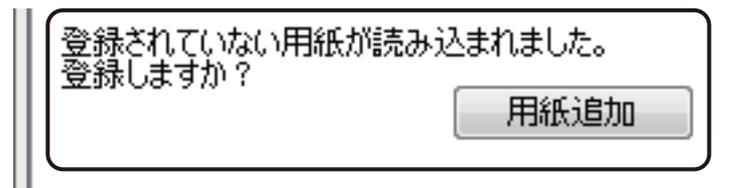
- [1] グループ 用紙のグループを選択します。
- [2] 用紙名 ラベルの用紙サイズを選択します。選択したグループによって表示が変わります。
- [3] サイズ 選択した用紙のサイズ（幅×高さ）が表示されます。
- [4] 余白 選択した用紙の余白（上、下、左、右）が表示されます。

- [5] 置き方 用紙の置き方を選択します。

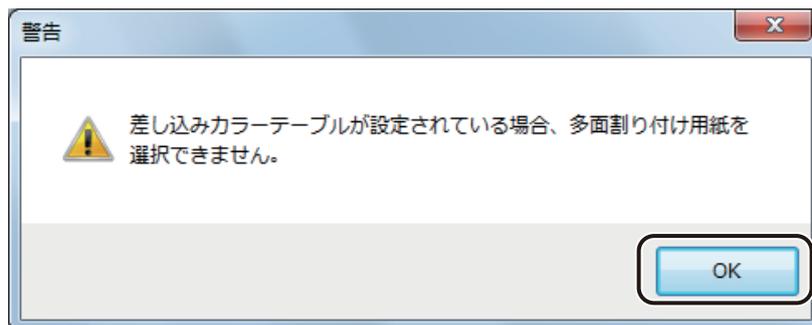
- [6] カスタムサイズ編集 カスタム用紙の設定を行います。
 ⇒「カスタム用紙を使う (P.120)」

 メモ

- [用紙] プロパティは、オブジェクトを選択していない状態で表示されます。
- [用紙] プロパティには、グループ「既定用紙」として標準的な 13 種類の用紙サイズがあらかじめ登録されています。「既定用紙サイズについて (P.119)」をご覧ください。
- 登録したカスタム用紙は、本ソフトウェア内に保存されます。本ソフトウェア内に保存されていない用紙サイズを読み込むと、[用紙] プロパティに次のようなメッセージとボタンが表示されます。[用紙追加] をクリックして用紙を登録する、または別の用紙を選択してください。



- 次のメッセージが表示されたときは、内容を確認して [OK] をクリックします。差し込みカラーテーブルが設定されているときは、面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）を選択できません。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について (P.4)」をご覧ください。



■ 既定用紙サイズについて

[用紙] プロパティには、グループ「既定用紙」として標準的な 13 種類の用紙サイズがあらかじめ登録されています。



メモ

- 印刷したい用紙サイズが登録されていないときは、幅や高さを自由に設定した用紙サイズを登録します。「カスタム用紙を登録する (P.120)」をご覧ください。

<グループ「既定用紙」>

用紙の名称	サイズ(幅×高さ) mm	余白 mm			
		上余白	下余白	左余白	右余白
4 × 1.5 インチ (97.3 × 38.1 mm)	97.3 × 38.1	1.5	1.5	1.5	1.5
4 × 3 インチ (97.3 × 76.2 mm)	97.3 × 76.2	1.5	1.5	1.5	1.5
4 × 5 インチ (101.6 × 127.0 mm)	101.6 × 127.0	1.5	1.5	3.0	1.5
4 × 8 インチ (97.3 × 203.2 mm)	97.3 × 203.2	1.5	1.5	1.5	1.5
2 × 1.5 インチ (46.5 × 38.1 mm)	46.5 × 38.1	1.5	1.5	1.5	1.5
2 × 3 インチ (46.5 × 76.2 mm)	46.5 × 76.2	1.5	1.5	1.5	1.5
2 × 8 インチ (46.5 × 203.2 mm)	46.5 × 203.2	1.5	1.5	1.5	1.5
42.0 × 65.0 mm	42.0 × 65.0	1.5	1.5	1.5	1.5
60.0 × 55.0 mm	60.0 × 55.0	1.5	1.5	1.5	1.5
75.0 × 50.0 mm	75.0 × 50.0	1.5	1.5	1.5	1.5
100.0 × 75.0 mm	100.0 × 75.0	1.5	1.5	2.5	2.5
100.0 × 100.0 mm	100.0 × 100.0	1.5	1.5	2.5	2.5
100.0 × 148.0 mm	100.0 × 148.0	1.5	1.5	2.5	2.5

カスタム用紙を使う

印刷したい用紙サイズが登録されていないときは、幅や高さを自由に設定した用紙サイズを「カスタム用紙」として登録しておきます。

また、登録した用紙サイズは、エクスポート/インポートを行うことによって、別環境にインストールされた本ソフトウェアで利用することができます。

■ カスタム用紙を登録する

- 1 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

サイズ
幅 101.6 mm × 高さ 127.0 mm

余白
上 1.5 mm 下 1.5 mm
左 3 mm 右 1.5 mm

置き方
 縦置き 横置き

カスタムサイズ編集

[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [新規作成] をクリックします。

カスタム用紙

グループ(G)
▼

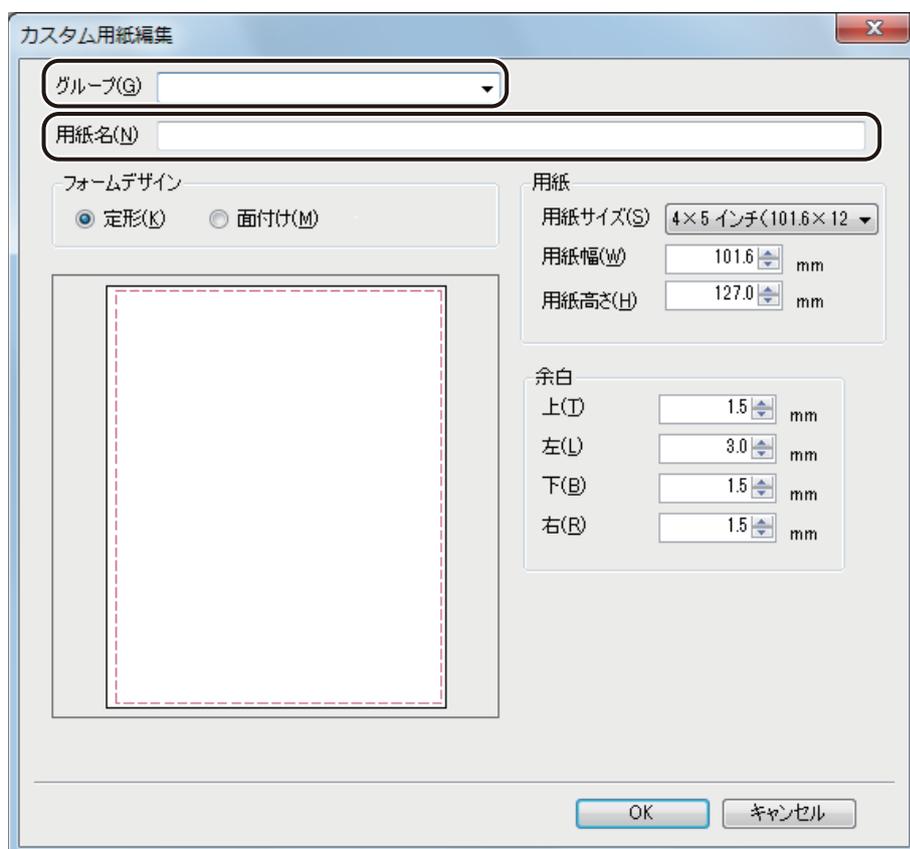
用紙名(N)
[]

修正(R)
削除(D)
新規作成(N)
インポート(I)
エクスポート(E)

終了(E)

[カスタム用紙編集] ダイアログボックスが表示されます。

3 新しい用紙の「グループ」および「用紙名」を入力します。



[グループ]

新しいグループ名を入力します。また、入力ボックスのドロップダウンリストから登録済みの既存のグループを選択することもできます。

[用紙名]

新しい用紙の名称を入力します。

4 [フォームデザイン] を選択します。



[定形]

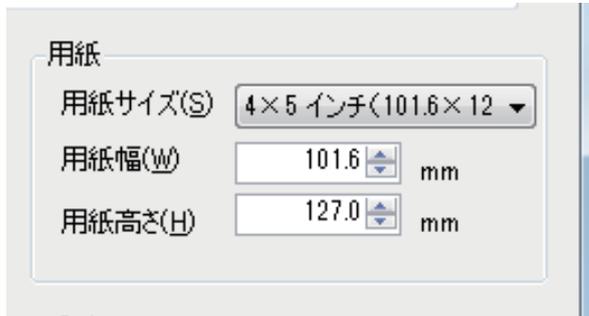
1 フォームに1つのラベルを設定します。

[面付け]

1 フォームに複数のラベルを設定します。

5 新しい用紙のサイズを入力します。

[用紙サイズ] で新しい用紙の基準となる用紙サイズを選択し、用紙プレビュー画面で確認しながら [幅] と [高さ] を変更します。また、あらかじめ用紙サイズが決まっているときは、[幅] と [高さ] に数値を入力します。



[用紙サイズ]

新しい用紙の基準となる用紙サイズを選択します。

グループ「既定用紙」の用紙サイズおよび [ドライバー用紙サイズ] が選択できます。

[幅]

1.0 ～ 210.0 mm の範囲で指定します。

[高さ]

1.0 ～ 400.0 mm の範囲で指定します。



メモ

- キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500/LX-P5500 をご使用の場合は、次の範囲で用紙サイズを設定してください。

[幅] 25.4 mm ～ 120.0 mm [高さ] 6.0 mm ～ 400.0 mm

カスタム用紙サイズの設定可能範囲については、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500/LX-P5500 のユーザーズガイドを併せてご覧ください。

第3章 用紙とフォームの設定

メモ

● プリンタードライバーに登録されている用紙サイズを取得するときは、次のように操作します。

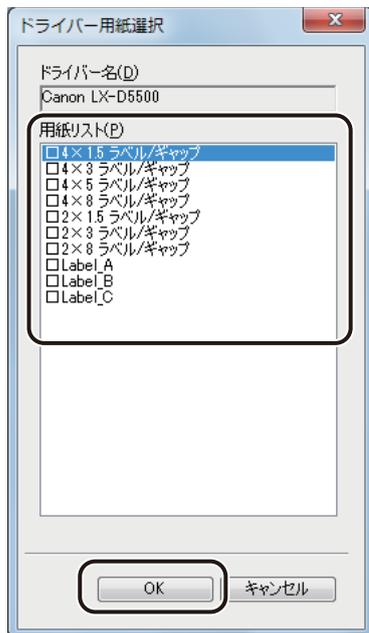
- ① [用紙サイズ] で [ドライバー用紙サイズ] を選択します。



[ドライバー用紙選択] ダイアログボックスが表示されます。

- ② [用紙リスト] から任意の用紙を選択し、[OK] をクリックします。

[用紙リスト] には、現在印刷設定で指定されているプリンタードライバーの用紙サイズが表示されます。



[OK] をクリックして [ドライバー用紙選択] ダイアログボックスが閉じると、選択した用紙サイズが用紙プレビュー画面の下に表示されます。



6 余白または、ラベル用紙の情報を入力します。

[フォームデザイン] で「定形」を選んだときと、「面付け」を選んだときでは、次のように表示が異なります。表示された内容について入力を行ってください。

● フォームデザイン「定形」のとき

余白	
上(T)	1.5 mm
左(L)	3.5 mm
下(B)	1.5 mm
右(R)	5.4 mm

[余白]

用紙の上下左右の余白を入力します。余白領域はプレビュー画面上で赤枠で示されます。

● フォームデザイン「面付け」のとき

面付け				
横(X)	1	×	縦(Y)	1
一面のサイズ				
幅(O)	50.0 mm			
高さ(P)	50.0 mm			
左余白(L)	0.0 mm			
上余白(T)	0.0 mm			
左右間隔(V)	0.0 mm			
上下間隔(Z)	0.0 mm			

[横] × [縦]

1 フォームに面付けするラベルの数（縦、横）を入力します。

[一面のサイズ]

一面のラベルのサイズ（幅、高さ）を入力します。

[左余白]、[上余白]

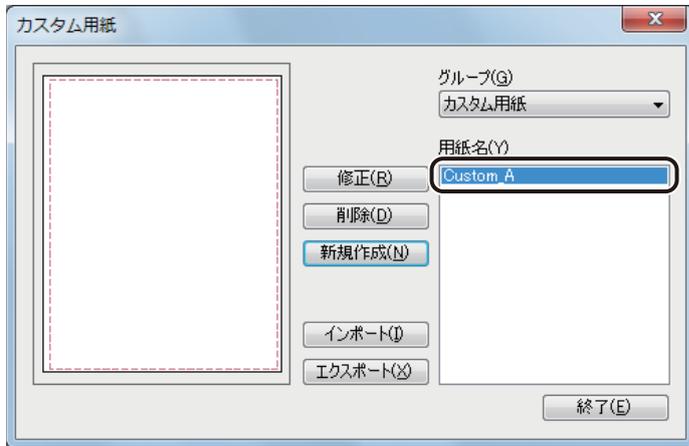
用紙と、用紙の左上に配置されるラベルとの間の左、上の余白を入力します。

[左右間隔]、[上下間隔]

ラベルの左右、上下の間隔を入力します。

7 [OK] をクリックします。

指定した用紙名で新しい用紙サイズが登録されます。



8 [終了] をクリックします。

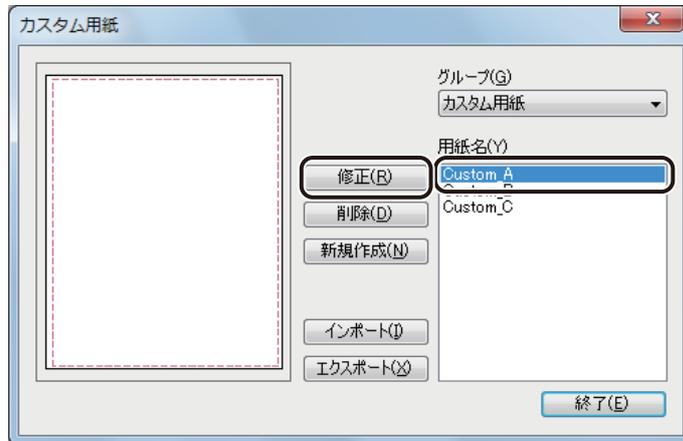
■ カスタム用紙を修正する

1 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。



[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

2 編集する用紙を選択し、[修正] をクリックします。



[カスタム用紙編集] ダイアログボックスが表示されます。

3 カスタム用紙の用紙情報を変更します。

⇒ 「カスタム用紙を登録する (P.120)」



メモ

- カスタム用紙の修正では、[フォームデザイン] の設定を変更することはできません。変更したいときは、新規作成から行ってください。

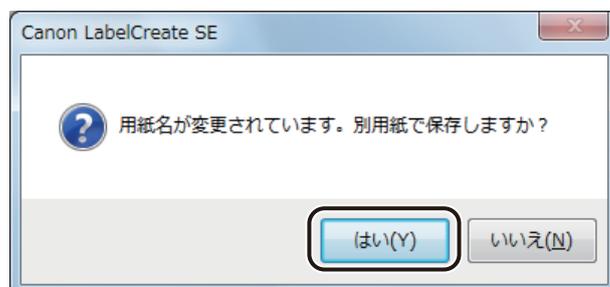
4 [OK] をクリックします。

カスタム用紙情報が修正されます。



メモ

- [用紙名] を変更したときは、次のメッセージが表示されますので、[はい] をクリックして別用紙として保存してください。



- 5 [終了] をクリックします。

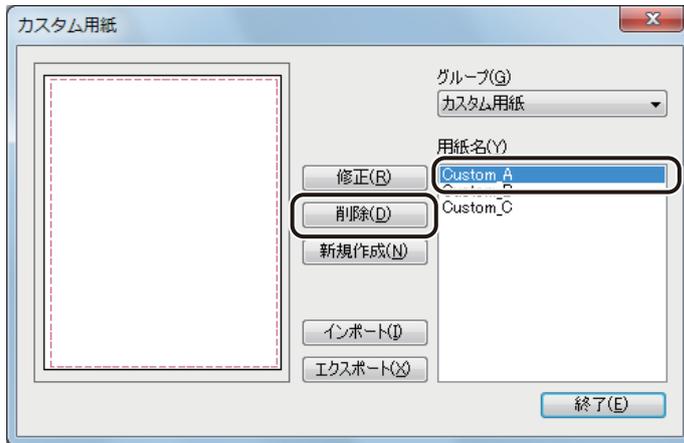
■ カスタム用紙を削除する

- 1 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

サイズ	
幅 101.6 mm	× 高さ 127.0 mm
余白	
上 1.5 mm	下 1.5 mm
左 3 mm	右 1.5 mm
置き方	
<input checked="" type="radio"/> 縦置き	<input type="radio"/> 横置き
カスタムサイズ編集	

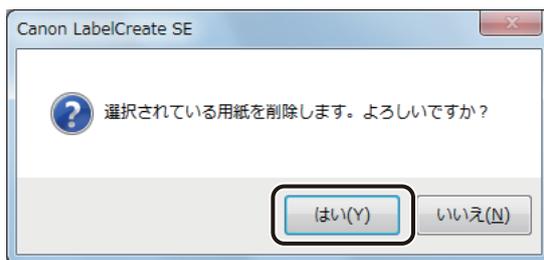
[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

2 削除する用紙サイズを選択し、[削除] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックします。



指定したカスタム用紙が削除されます。

4 [終了] をクリックします。

メモ

- 用紙の削除によりグループに用紙の登録がなくなると、そのグループ名も同時に削除されます。

■ カスタム用紙をエクスポートする

- 1 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

The image shows a dialog box with three sections: 'サイズ' (Size) with width 101.6 mm and height 127.0 mm; '余白' (Margins) with top 1.5 mm, bottom 1.5 mm, left 3 mm, and right 1.5 mm; and '置き方' (Orientation) with '縦置き' (Portrait) selected. A 'カスタムサイズ編集' (Edit Custom Size) button is highlighted with a red box at the bottom right.

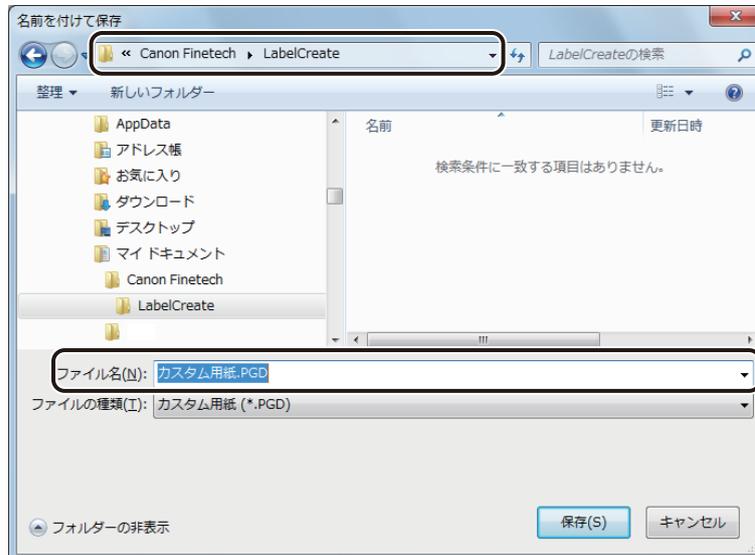
[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 エクスポートする用紙グループを選択し、[エクスポート] をクリックします。

The image shows a 'カスタム用紙' (Custom Paper) dialog box. It features a preview window on the left showing a dashed red border. On the right, there is a 'グループ(G)' (Group) dropdown menu set to 'カスタム用紙' (Custom Paper), and a '用紙名(N)' (Paper Name) list containing 'Custom_A', 'Custom_B', and 'Custom_C'. Below the list are buttons for '修正(B)' (Modify), '削除(D)' (Delete), '新規作成(N)' (New), 'インポート(I)' (Import), and 'エクスポート(E)' (Export), with the 'エクスポート(E)' button highlighted by a red box. A '終了(E)' (End) button is at the bottom right.

[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

3 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。



4 [保存] をクリックします。

カスタム用紙情報をエクスポートしたファイル (*PGD) が保存されます。

■ カスタム用紙をインポートする

1 カスタム用紙情報をエクスポートしたファイル (*PGD) を用意します。

⇒「カスタム用紙をエクスポートする (P.129)」

2 [用紙] プロパティの [カスタムサイズ編集] をクリックします。

サイズ	
幅 101.6 mm	× 高さ 127.0 mm
余白	
上 1.5 mm	下 1.5 mm
左 3 mm	右 1.5 mm
置き方	
<input checked="" type="radio"/> 縦置き	<input type="radio"/> 横置き
カスタムサイズ編集	

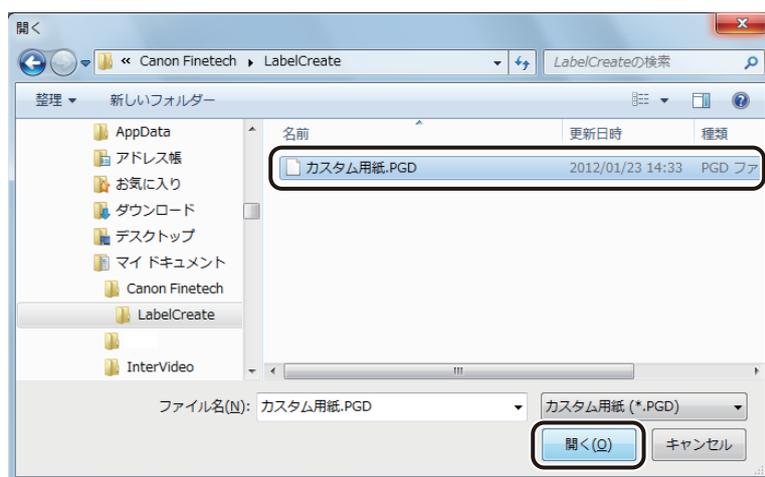
[カスタム用紙] ダイアログボックスが表示されます。

3 [インポート] をクリックします。



[開く] ダイアログボックスが表示されます。

4 エクスポートしたファイルを指定し、[開く] をクリックします。

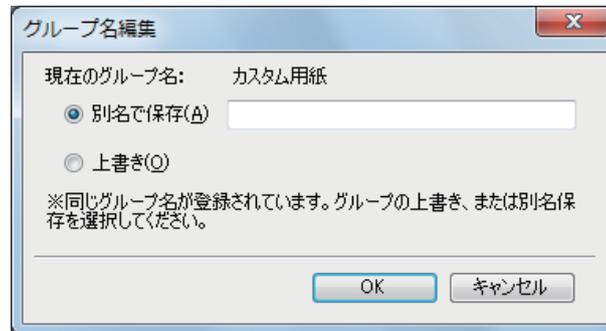


カスタム用紙情報が読み込まれます。



メモ

- エクスポートしたファイルを読み込んだとき、同じ用紙グループ名が存在する場合は、次のようなダイアログボックスが表示されます。[別名で保存] または [上書き] を選択して [OK] をクリックしてください。



フォームの設定

フォームの設定について説明します。

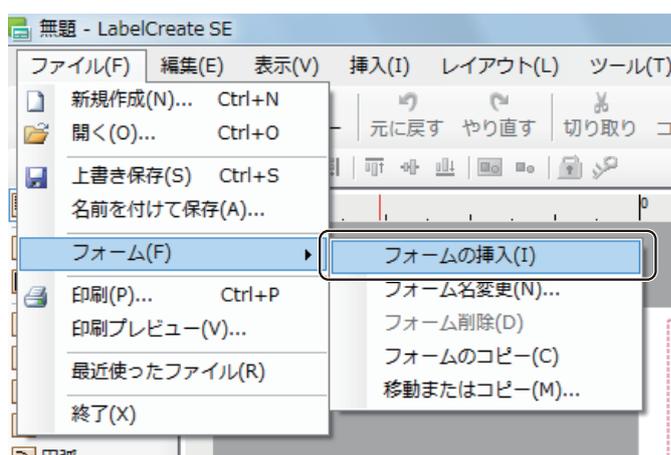
フォーム機能を使うと、ひとつのファイルに複数のデザインを作成できます。

新しいフォームを挿入する

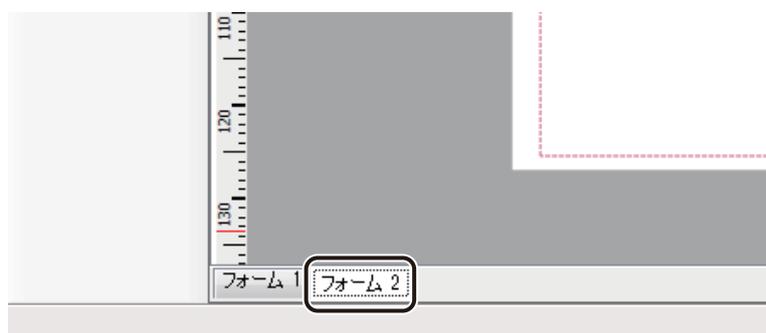
新しいフォームを挿入します。

フォームは、8 フォームまで作成できます。

- 1 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォームの挿入] をクリックします。

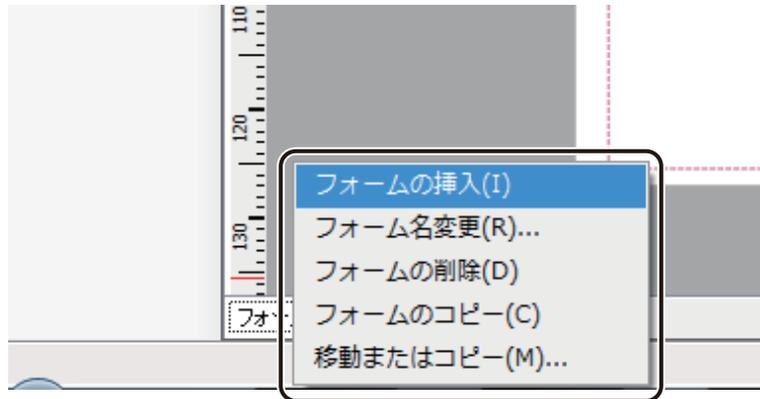


表示しているフォームの右側に新しいフォームが挿入されます。



メモ

- フォームの見出しを右クリックすると、フォームの操作メニューが表示されます。

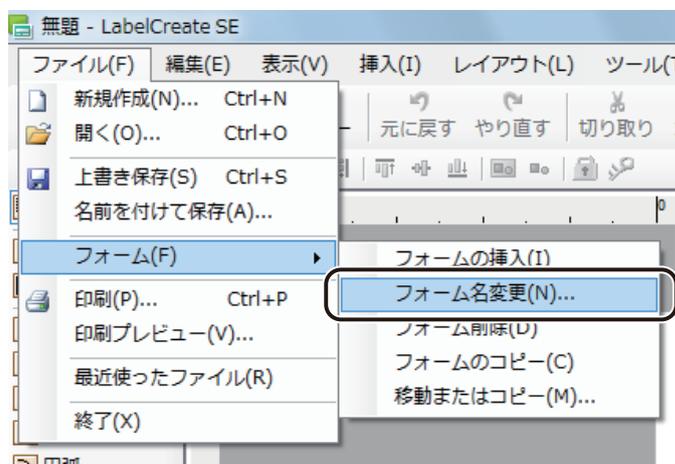


フォームを編集する

フォーム名の変更やコピー、削除のしかたについて説明します。

■ フォーム名を変更する

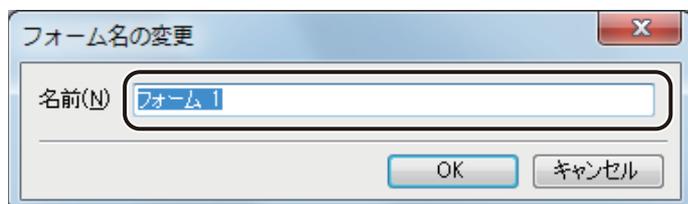
- 1 名前を変更するフォームを表示します。
- 2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォーム名変更] をクリックします。



[フォーム名の変更] ダイアログボックスが表示されます。

3 [名前] に新しい名前を入力します。

名前は半角、全角ともに 32 文字まで入力できます。

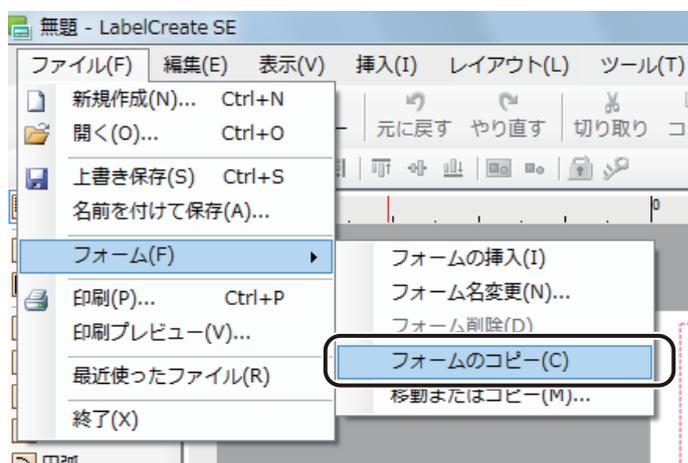


4 [OK] をクリックします。

■ フォームをコピーする

1 コピーするフォームを表示します。

2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォームのコピー] をクリックします。

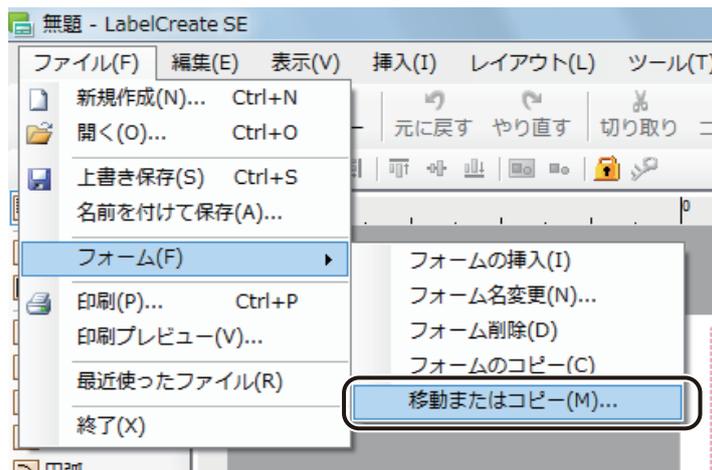


コピー元のフォームの右側にコピーされたフォームが挿入されます。

■ フォームを移動またはコピーする

1 移動またはコピーするフォームを表示します。

2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [移動またはコピー] をクリックします。



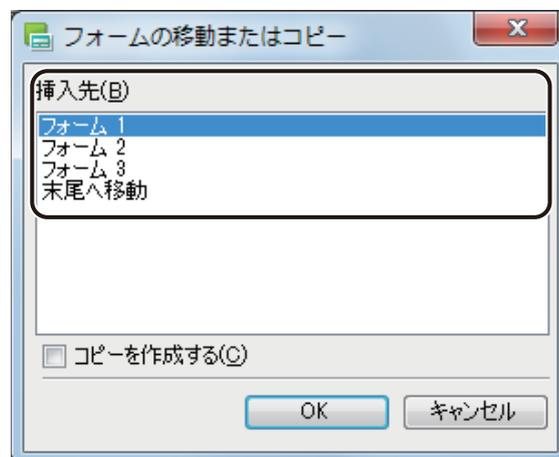
[フォームの移動またはコピー] ダイアログボックスが表示されます。

3 作業に合わせてダイアログボックスを設定します。

- フォームを移動させるとき

[挿入先] でフォームの挿入位置を選択します。

[OK] を押すと、選択したフォームの左側に移動します。また、[末尾へ移動] を選んだときは、一番右側に移動します。

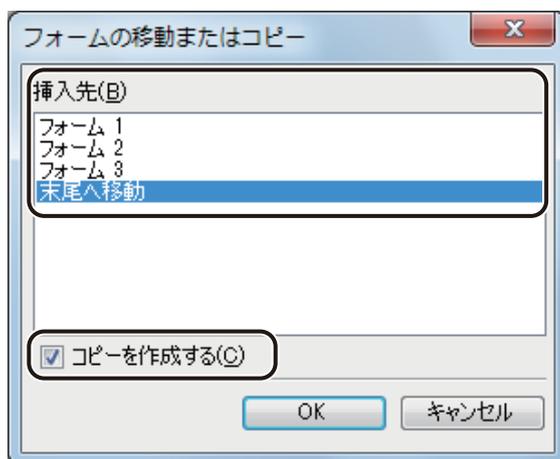


第3章 用紙とフォームの設定

- フォームをコピーするとき

[コピーを作成する] にチェックマークをいれて、[挿入先] でフォームの挿入位置を選択します。

[OK] を押すと、選択したフォームの左側にコピーを作成します。[末尾へ移動] を選んだときは、一番右側にコピーを作成します。



4 [OK] をクリックします。

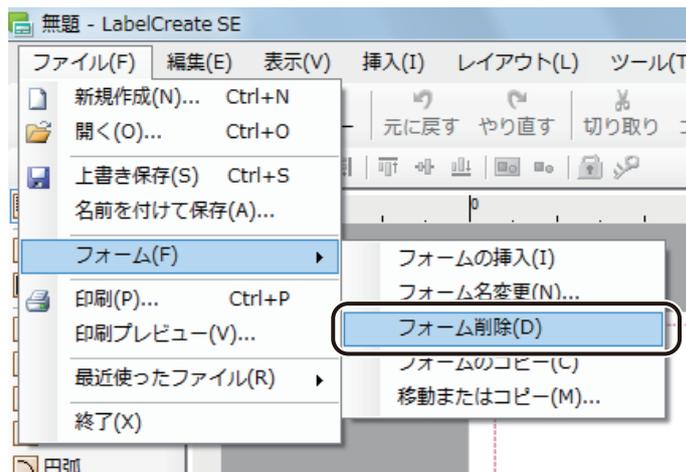


- フォームの移動は、フォームの見出しを移動したい位置までドラッグして行うこともできます。

■ フォームを削除する

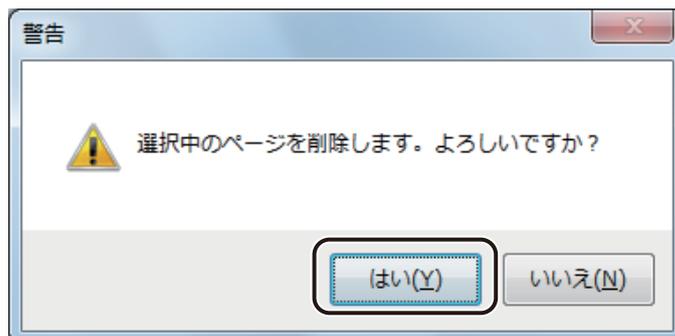
1 削除するフォームを表示します。

2 [ファイル] メニューの [フォーム] から [フォーム削除] をクリックします。



次のダイアログボックスが表示されます。

3 [OK] をクリックします。



フォームが削除されます。

4

オブジェクトの操作と作成

基本的なオブジェクトの操作方法と、各オブジェクトの作成とその編集について説明します。

オブジェクトの操作
オブジェクトの作成
オブジェクトの編集

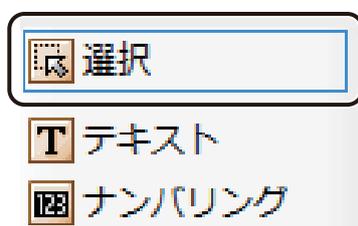
オブジェクトの操作

文字や線、図形など、ラベルをデザインするものをオブジェクトといいます。ここでは、オブジェクトの操作方法について説明します。

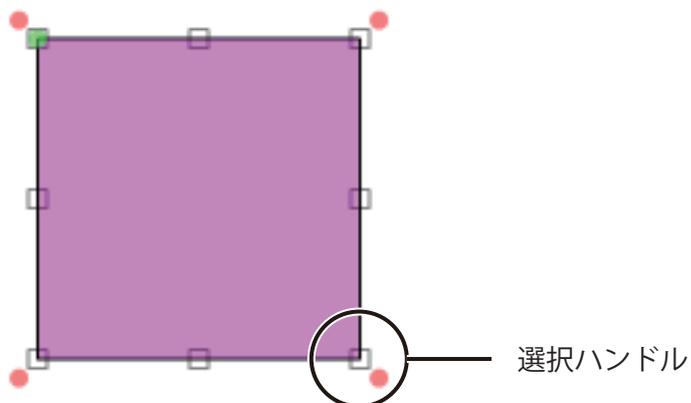
各オブジェクトの作成のしかたについては、「[オブジェクトの作成 \(P.163\)](#)」をご覧ください。

オブジェクトを選択する

オブジェクトを選択するときは、挿入ツールバー [選択] ツールが選ばれている状態でオブジェクトをクリックします。



オブジェクトが選択されると、オブジェクトの四隅および辺の中央に選択ハンドル（）が表示されます。





メモ

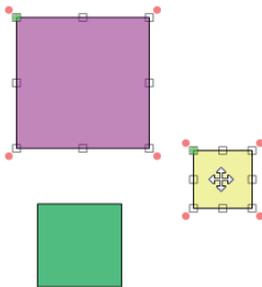
- 他のオブジェクトツールを選択していないときは、常に [選択] ツールが選ばれている状態となります。
- オブジェクトを選択すると、画面下部のステータスバーに選択しているオブジェクトの情報が表示されます。



複数のオブジェクトを選択するときは、次のいずれかで行います。

■ マウスと [Shift] キーを使って選択する

[Shift] キーを押しながらオブジェクトをクリックします。数個のオブジェクトを選択したいときに有効です。



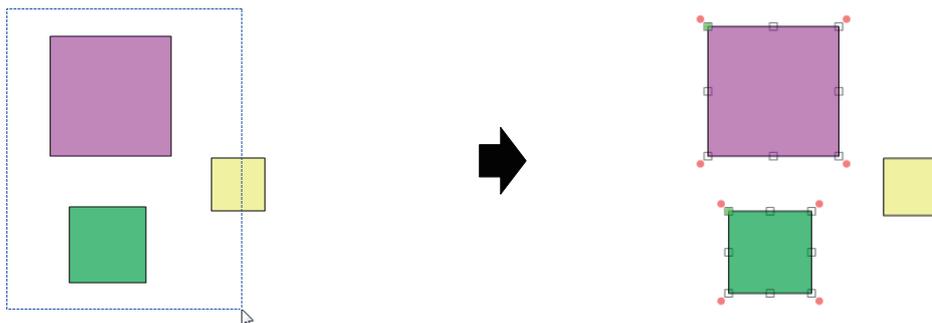
■ マウスで範囲を指定して選択する

ドラッグして、オブジェクトを囲みます。多くのオブジェクトを一度に選択したいときに有効です。範囲を指定して選択する方法は、[囲み選択]と[交差選択]があります。

[囲み選択]

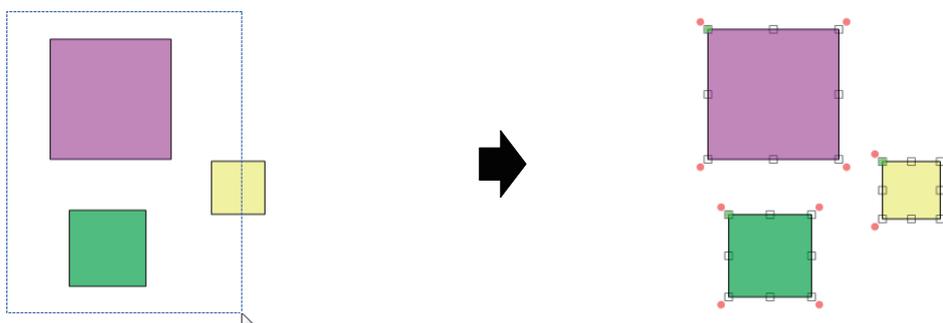
指定した範囲に含まれるオブジェクトを選択します。

指定した範囲からはみ出した部分があるオブジェクトは選択されません。



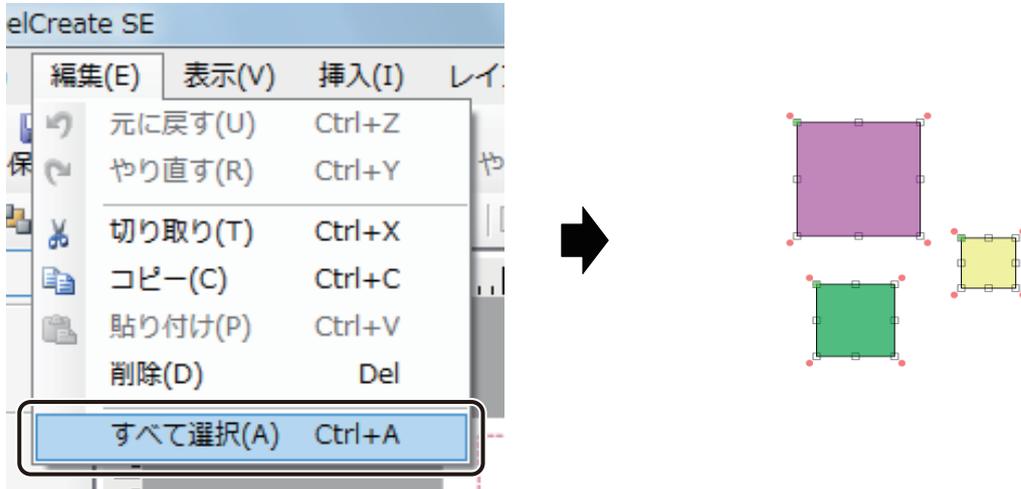
[交差選択]

指定した範囲に含まれるか触れているオブジェクトはすべて選択します。



■ メニューから選択する

すべてのオブジェクトを選択するときは、[編集] メニューの [すべてを選択] を選択します。



メモ

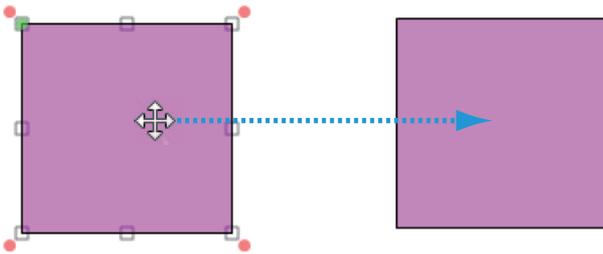
- 複数のオブジェクトを選択すると、共通する項目のプロパティを一括編集することができます。プロパティは、選択したオブジェクトの組み合わせに関係なく、[フォント] プロパティ、[文字色] プロパティ、[線] プロパティおよび [塗潰し] プロパティが表示されます。

オブジェクトを移動する

オブジェクトの移動は、次のいずれかで行います。

■ マウスで移動する

オブジェクトを選択し、任意の位置にドラッグします。通常はこの方法でオブジェクトの移動を行います。



■ 矢印キーで移動する

オブジェクトを選択し、キーボードの矢印キーで任意の位置に移動します。オブジェクトの位置を微調整するときに有効です。

より小さい単位で微調整したいときは、[Ctrl] キーを押しながら矢印キーを押します。

■ [切り取り] で移動する

オブジェクトを切り取って移動します。別のファイルやフォームにオブジェクトを移動するときに有効です。

1 オブジェクトを選択します。

2 [編集] メニューの [切り取り] をクリックします。



メモ

- [切り取り] は、右クリックで表示されるメニューから選ぶこともできます。

3 切り取ったオブジェクトの貼り付け位置をクリックします。

4 [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。



切り取ったオブジェクトが貼り付けられます。



メモ

- [貼り付け] は、右クリックで表示されるメニューから選ぶこともできます。

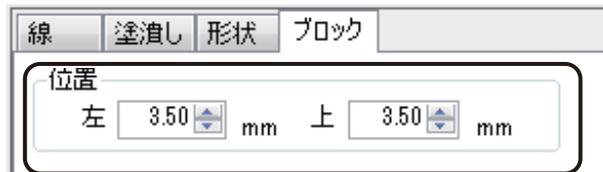
■ [ブロック] プロパティを設定して移動する

[ブロック] プロパティで、用紙に対する左および上の余白量を入力してオブジェクトを移動させます。正確な位置にオブジェクトを移動したいときに有効です。

1 オブジェクトを選択します。

2 [ブロック] プロパティを設定します。

[位置] の [左] (左余白)、または [上] (上余白) を入力します。

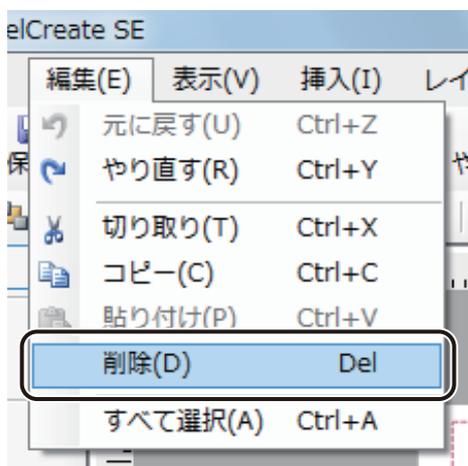


設定した位置にオブジェクトが移動します。

オブジェクトを削除する

作成したオブジェクトを削除します。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [編集] メニューの [削除] をクリックします。



選択したオブジェクトが削除されます。

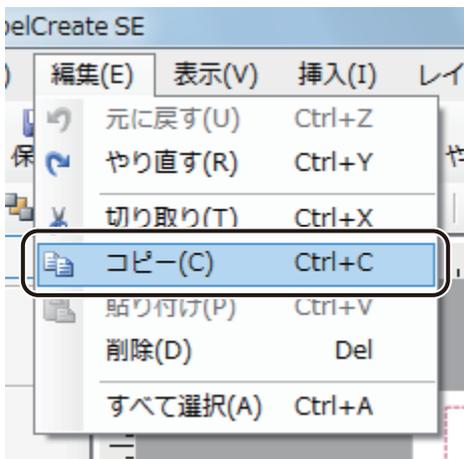
メモ

- [Delete] キーを押す、または、右クリックで表示されるメニューから削除することもできます。

オブジェクトをコピーする

同じオブジェクトを作成したいときは、[コピー] と [貼り付け] を利用するのが便利です。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [編集] メニューの [コピー] をクリックします。

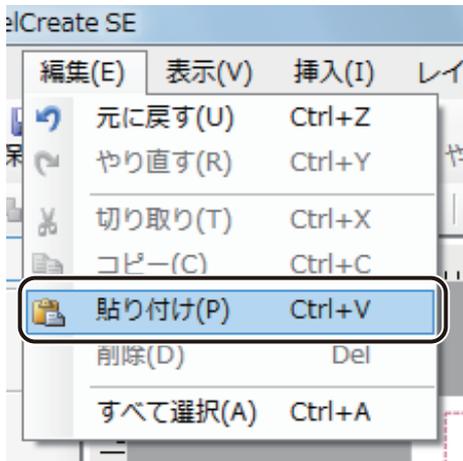


メモ

- [コピー] は、右クリックで表示されるメニューから選ぶこともできます。

- 3 コピーしたオブジェクトの貼り付け位置をクリックします。

4 [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。



コピーしたオブジェクトが貼り付けられます。



メモ

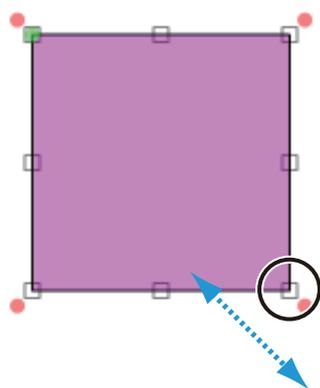
- [貼り付け] は、右クリックで表示されるメニューから選ぶこともできます。
- 他のアプリケーションソフトウェアでコピーしたオブジェクトやテキストは、次のようにデザインエリア上へ貼り付けることができます。
 - ・画像、イラスト、表、グラフ
デザインエリア上で [貼り付け] を行うと、画像オブジェクトとして貼り付けられます。
 - ・テキスト
あらかじめ文字オブジェクトを作成しておき、[文字] プロパティの [入力データ] に貼り付けます。

オブジェクトを変形する

オブジェクトの変形のしかたを説明します。

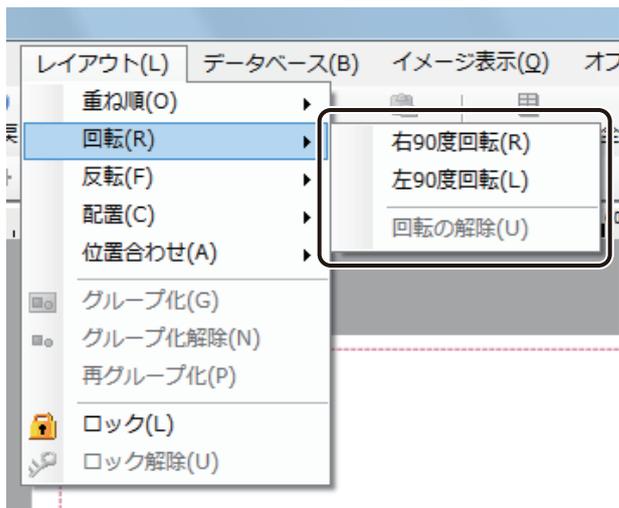
■ オブジェクトを拡大 / 縮小する

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 オブジェクトの四隅または辺の中央に表示される選択ハンドル(□)をドラッグして動かします。
このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながら四隅の選択ハンドルをドラッグすると、縦横等倍率で拡大 / 縮小できます。



■ オブジェクトを回転する

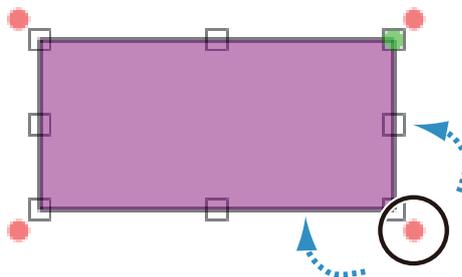
- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [レイアウト] メニューの [回転] から [右 90 度回転] または [左 90 度回転] をクリックします。



選択した方向にオブジェクトが回転します。

メモ

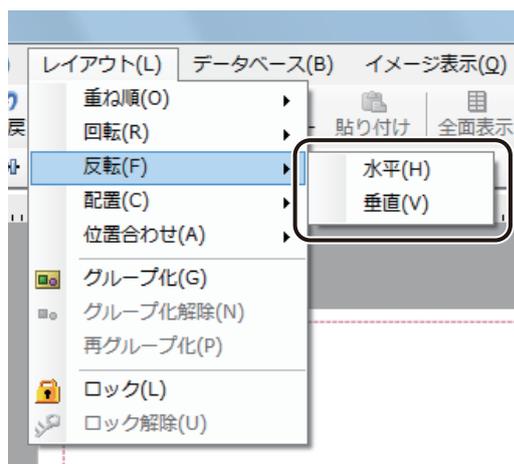
- 回転ハンドル (●) をドラッグし、90 度ずつ回転させることもできます。



- 回転したオブジェクトを元に戻すときは、[レイアウト] メニューの [回転] から [回転の解除] をクリックします。
- オブジェクトの回転は、[ブロック] プロパティから設定することもできます。[ブロック] プロパティの設定については、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

■ オブジェクトを反転する

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [レイアウト] メニューの [反転] から [水平] または [垂直] をクリックします。

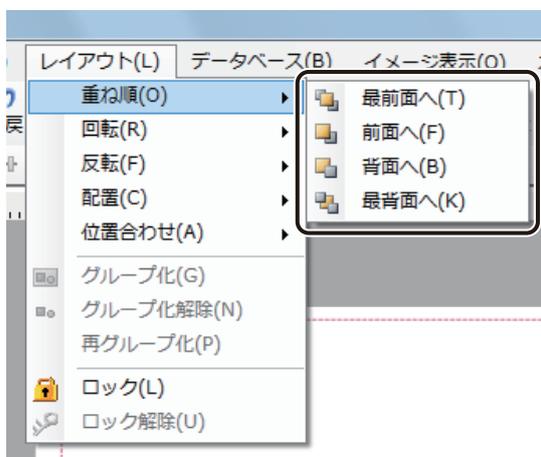


選択した方向にオブジェクトが反転します。

オブジェクトの重ね順を設定する

重なったオブジェクトを前面に出したり、背面に送ったりすることができます。

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [レイアウト] メニューの [重ね順] からオブジェクトの移動する位置を選択します。



選択した位置にオブジェクトが移動します。

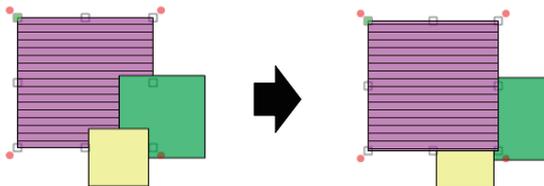


メモ

- [重ね順] は、レイアウトツールバー  をクリックして設定することもできます。

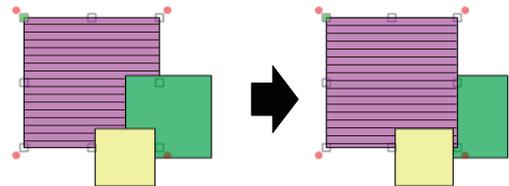
[最前面へ]

一番前に配置されます。



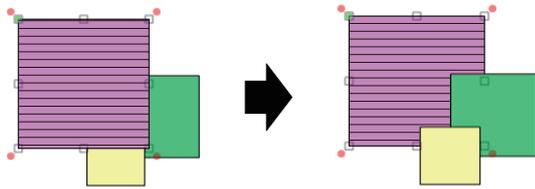
[前面へ]

ひとつ前に配置されます。



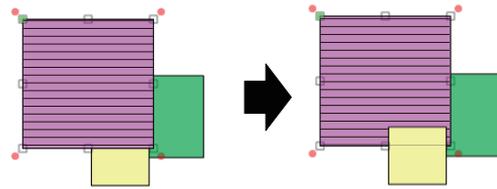
[最背面へ]

一番後ろに配置されます。



[背面へ]

ひとつ後ろに配置されます。

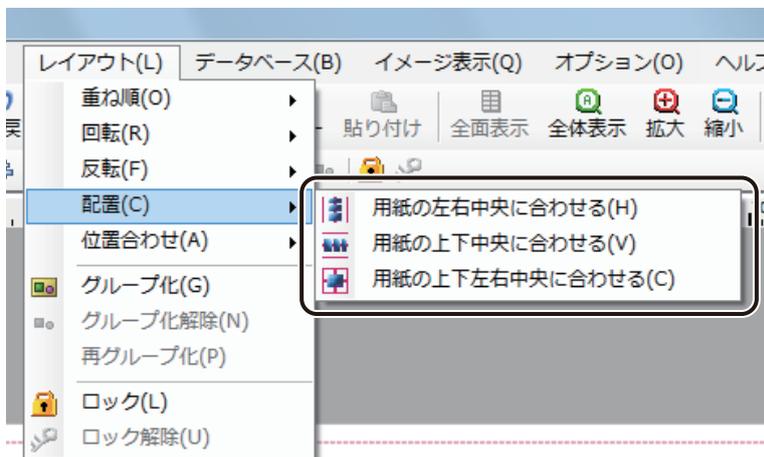


オブジェクトを揃える

オブジェクトを整列させてレイアウトを整えることができます。

■ 用紙サイズに合わせた配置にする

- 1 オブジェクトを選択します。
- 2 [レイアウト] メニューの [配置] から整列方法をクリックします。

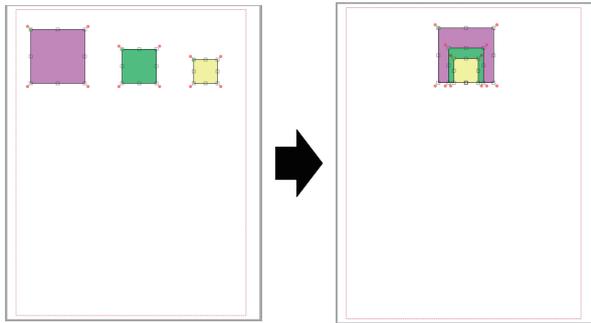


オブジェクトが決められた位置で整列します。

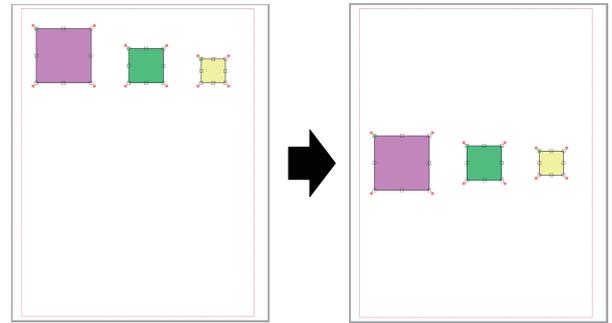
メモ

- [配置] は、レイアウトツールバー  をクリックして設定することもできます。

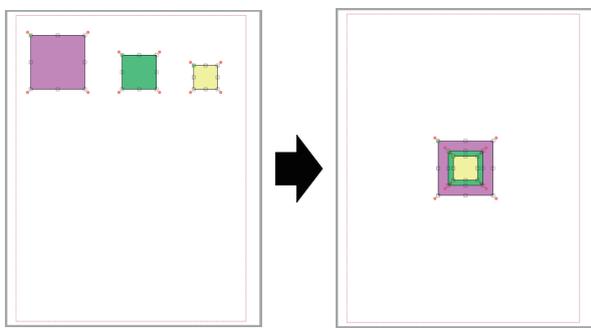
[用紙の左右中央に合わせる]



[用紙の上下中央に合わせる]



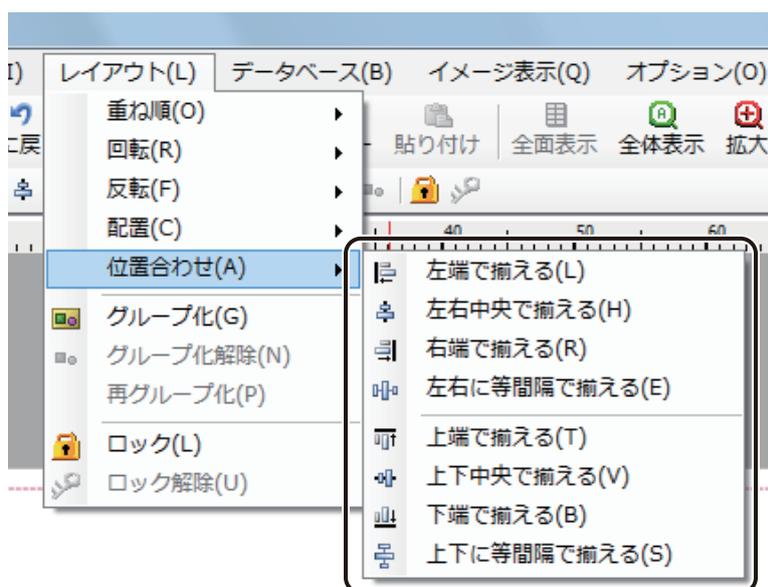
[用紙の上下左右中央に合わせる]



■ 複数のオブジェクトを整列させる

1 複数のオブジェクトを選択します。

2 [レイアウト] メニューの [位置合わせ] から整列方法をクリックします。



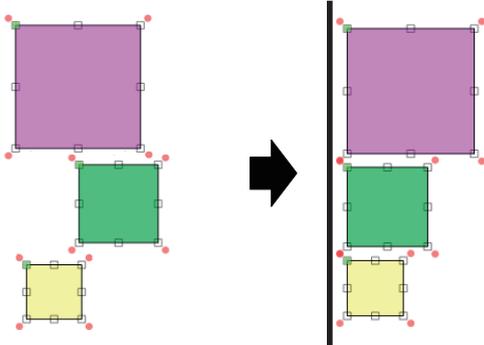
オブジェクトが決められた位置で整列します。

メモ

- [位置合わせ] は、レイアウトツールバー  をクリックして設定することもできます。

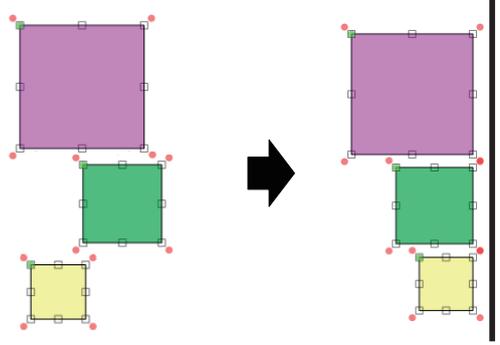
[左端で揃える]

選択しているオブジェクトの一番左のオブジェクトに合わせて揃えます。



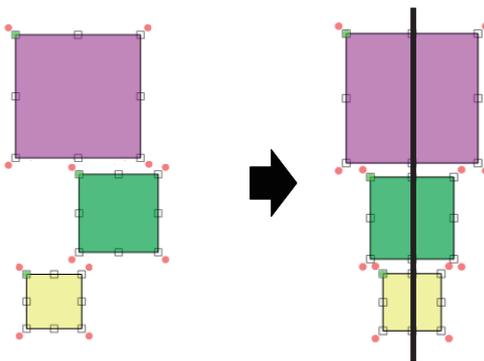
[右端で揃える]

選択しているオブジェクトの一番右のオブジェクトに合わせて揃えます。



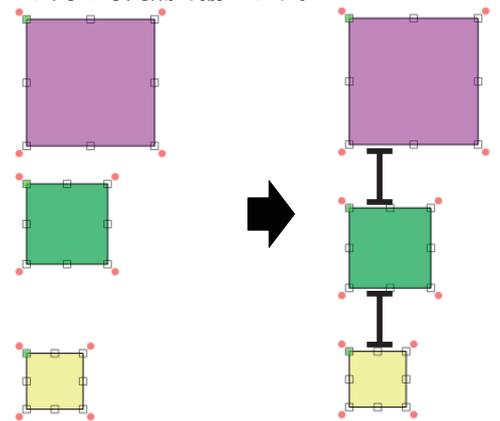
[左右中央で揃える]

選択しているオブジェクトの左右方向に対して中心になる位置で揃えます。



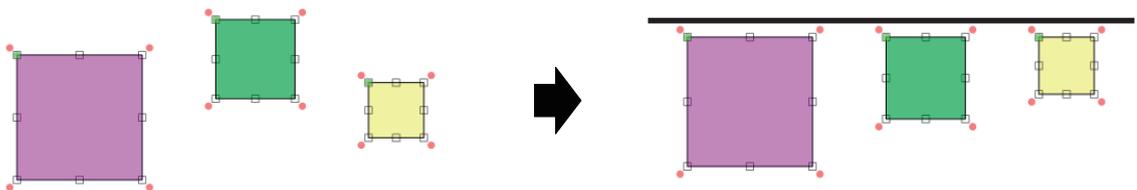
[上下に等間隔で揃える]

選択しているオブジェクトの一番上と一番下のオブジェクト間を等間隔で揃えます。



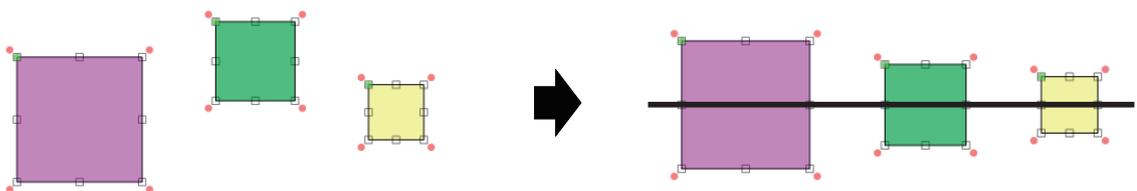
[上端で揃える]

選択しているオブジェクトの一番上のオブジェクトに合わせて揃えます。



[上下中央で揃える]

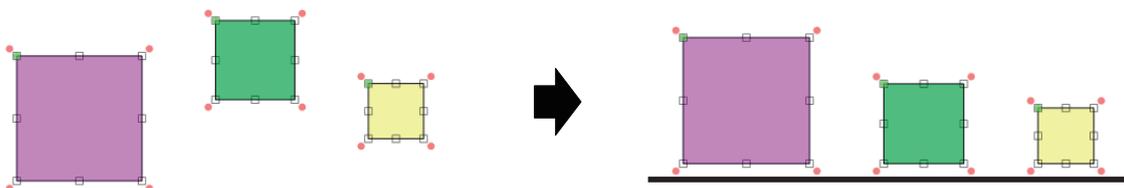
選択しているオブジェクトの上下方向に対して中心になる位置で揃えます。



第4章 オブジェクトの操作と作成

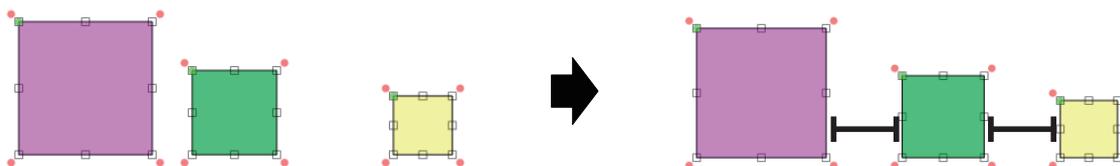
[下端で揃える]

選択しているオブジェクトの一番下のオブジェクトに合わせて揃えます。



[左右に等間隔で揃える]

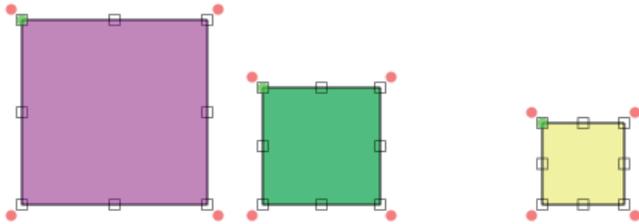
選択しているオブジェクトの一番左と一番右のオブジェクト間を等間隔で揃えます。



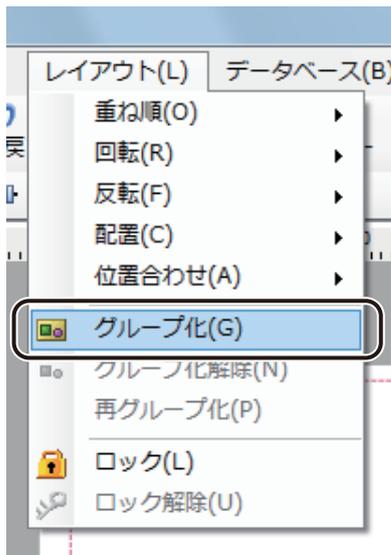
オブジェクトをグループ化する

複数のオブジェクトをグループ化すると、グループ化したオブジェクトを1つのオブジェクトとして操作できるようになります。

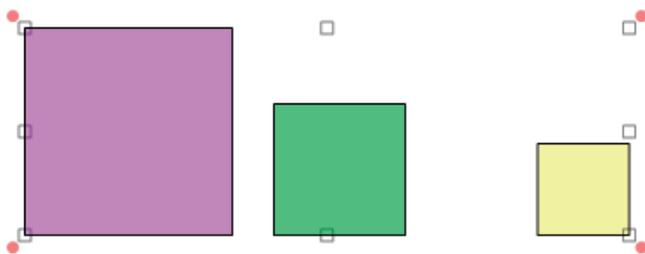
- 1 複数のオブジェクトを選択します。



- 2 [レイアウト] メニューの [グループ化] を選択します。



複数のオブジェクトが1つのオブジェクトになります。



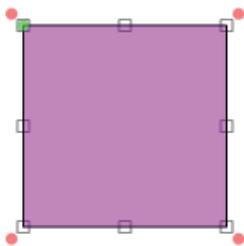
メモ

- オブジェクトのグループ化を解除するには、[レイアウト] メニューの [グループ化解除] を選択します。
- グループ化を解除したオブジェクトを再度グループ化したいときは、対象のオブジェクトのひとつをクリックした状態で、[レイアウト] メニューの [再グループ化] を選択します。
- [グループ化] ([グループ化解除]) は次のいずれかでも設定できます。
 - ・ 右クリックで表示されるメニューから [グループ化] ([グループ化解除]) を選ぶ。
 - ・ レイアウトツールバー  () をクリックする。
- グループ化されたオブジェクトは、[ブロック] プロパティを設定できます。[ブロック] プロパティの設定については、「[オブジェクトの編集 \(P.220\)](#)」をご覧ください。
また、グループ化を解除するとプロパティの設定は削除されます。
- グループ化するオブジェクトに印刷対象外を設定 ([ブロック] プロパティ「印刷対象」にチェックマークなし) していた場合、オブジェクトのグループ化によってその設定は無効となります。(オブジェクトのグループ化を解除すると、印刷対象外の設定は有効になります。)
- オブジェクトに非表示を設定 ([ブロック] プロパティ「表示対象」にチェックマークなし) していた場合、そのオブジェクトはグループ化できません。
- グループ化したオブジェクトに非表示を設定 ([ブロック] プロパティ「表示対象」にチェックマークなし) しているときは、グループ化を解除できません。[ブロック] プロパティの「表示対象」にチェックマークをいれてからグループ化の解除を行ってください。

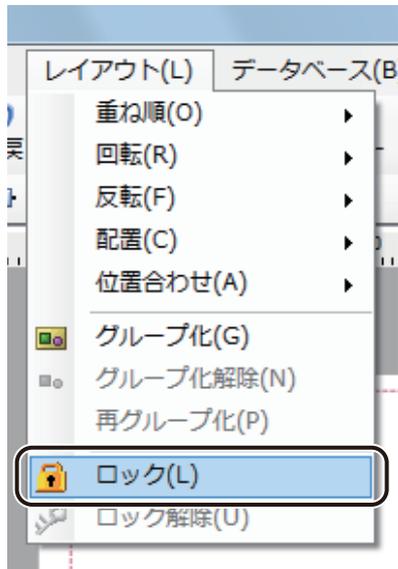
オブジェクトをロックする

配置したオブジェクトを誤って編集したり移動したりしないように保護 (ロック) しておくことができます。

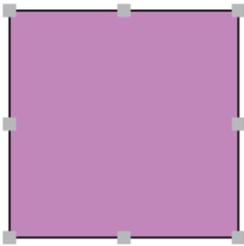
1 ロックしたいオブジェクトを選択します。



2 [レイアウト] メニューの [ロック] を選択します。



選択ハンドルが灰色 (■) に変わり、オブジェクトはロックされます。



メモ

- オブジェクトのロックを解除するには、[レイアウト] メニューの [ロック解除] を選択します。
- [ロック] ([ロック化解除]) は、レイアウトツールバー  () をクリックして設定することもできます。

オブジェクトの作成

各オブジェクトの作成のしかたについて説明します。
作業に適したツールを選択し、オブジェクトを作成していきます。



メモ

- オブジェクトの操作方法については、「[オブジェクトの操作 \(P.141\)](#)」をご覧ください。

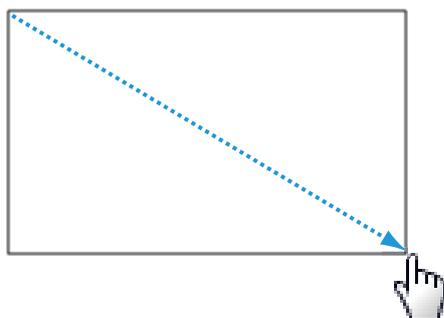
文字を入力する

文字を入力するときは、[テキスト] ツールを使います。

- 1 挿入ツールバー [テキスト] をクリックします。
または、[挿入] メニューの [テキスト] をクリックします。



- 2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

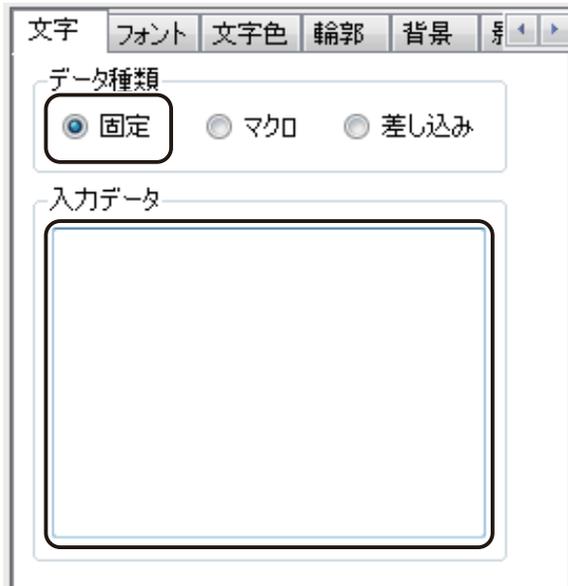


終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、文字を入力する領域（文字オブジェクト）が作成されます。



3 [文字] プロパティを設定します。

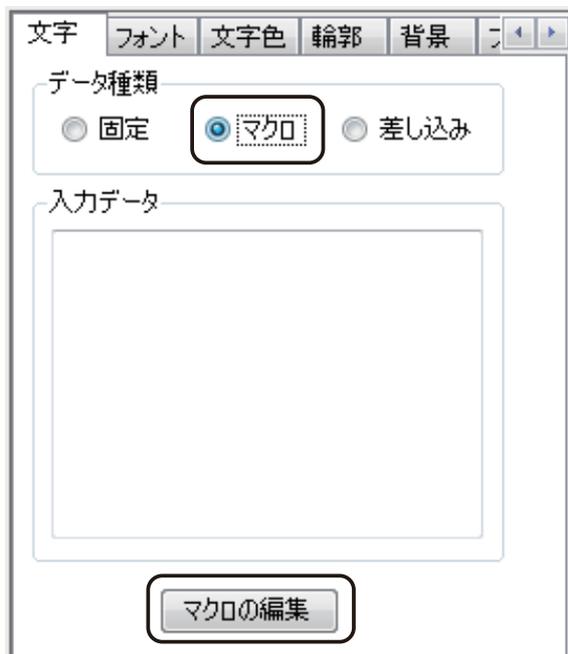
- [入力データ] に入力した文字列で表示するとき
データ種類「固定」をクリックし、[入力データ] に任意の文字列を入力します。



第4章 オブジェクトの操作と作成

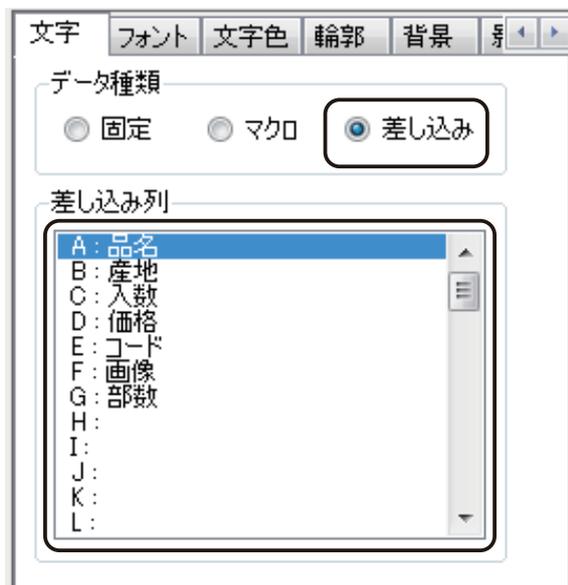
- マクロ式から返される値を表示するとき

データ種類「マクロ」をクリックし、「マクロの編集」をクリックします。



- データベースの値を表示するとき

データ種類「差し込み」をクリックし、「差し込み列」を選択します。





メモ

- [マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P.292)」をご覧ください。
- [差し込み] の設定については、「差し込み形式に設定する (P.261)」をご覧ください。

4 [フォント] プロパティ、[文字色] プロパティ、[背景] プロパティ、[輪郭] プロパティ、[枠線] プロパティ、[影] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。



メモ

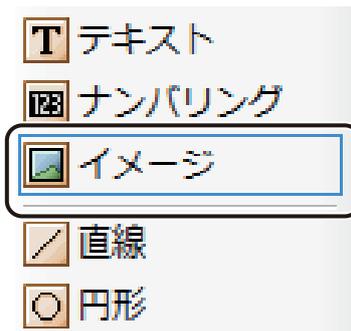
- [フォント] プロパティについては、「[フォント] プロパティを設定する (P.222)」をご覧ください。
- [文字色] プロパティについては、「[文字色] プロパティを設定する (P.236)」をご覧ください。
- [背景] プロパティについては、「[背景] プロパティを設定する (P.249)」をご覧ください。
- [輪郭] プロパティについては、「[輪郭] プロパティを設定する (P.237)」をご覧ください。
- [枠線] プロパティについては、「[枠線] プロパティを設定する (P.239)」をご覧ください。
- [影] プロパティについては、「[影] プロパティを設定する (P.241)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[ブロック] プロパティを設定する (P.243)」をご覧ください。
- フォント種類やサイズなどの違う文字を入力したいときは、それぞれオブジェクトを作ります。1つのエリア内に複数のフォント種類やサイズなどは設定できません。

画像を挿入する

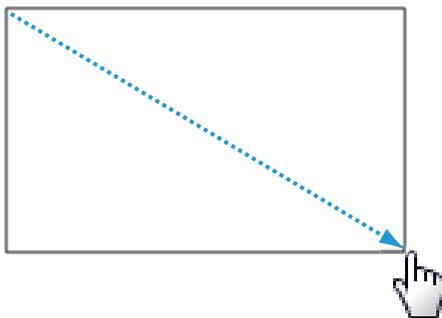
画像を挿入するときは、[イメージ] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [イメージ] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [イメージ] をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。



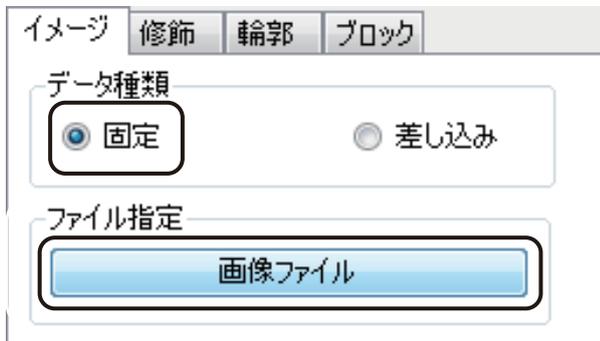
終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、画像を挿入する領域（画像オブジェクト）が作成されます。



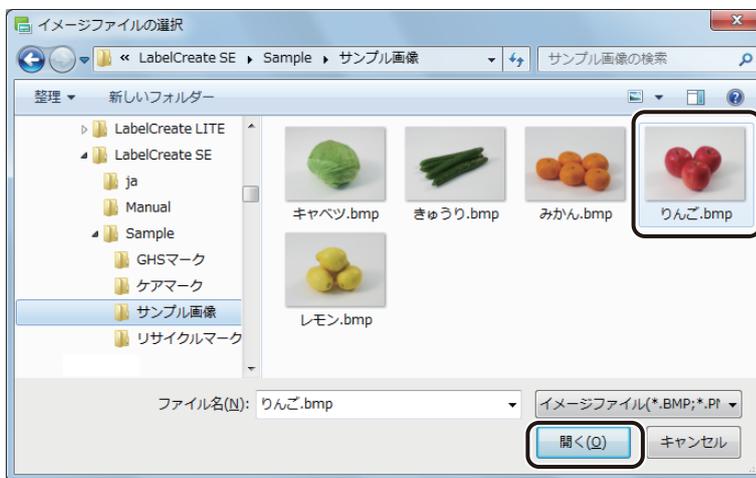
3 [イメージ] プロパティを設定します。

- 画像ファイルを選択して挿入させるとき

- ① データ種類「固定」をクリックし、「画像ファイル」をクリックします。



- ② 挿入する画像を選択し、「開く」をクリックします。



メモ

- 挿入できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

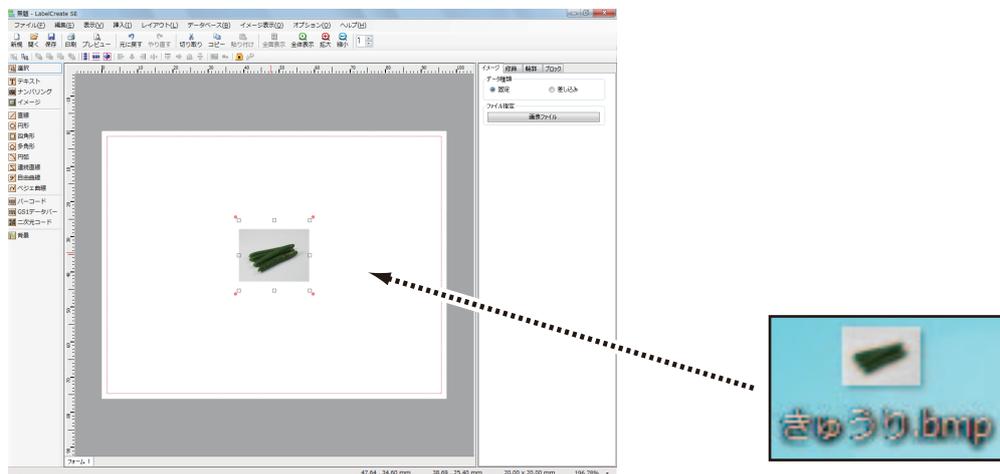
- ビットマップファイル形式 (*.bmp)
- PNG 形式 (*.png)
- JPEG 形式 (*.jpg)
- TIFF 形式 (*.tif) ※
- GIF 形式 (*.gif)
- ICO 形式 (*.ico)
- EMF 形式 (*.emf)
- WMF 形式 (*.wmf)

※ TIFF 形式は、無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

- 次の方法で画像を配置することもできます。

この場合に配置される画像は、配置する方法や元の画像の大きさに関わらず、すべて同じ大きさで配置されます。(20 mm × 20 mm)

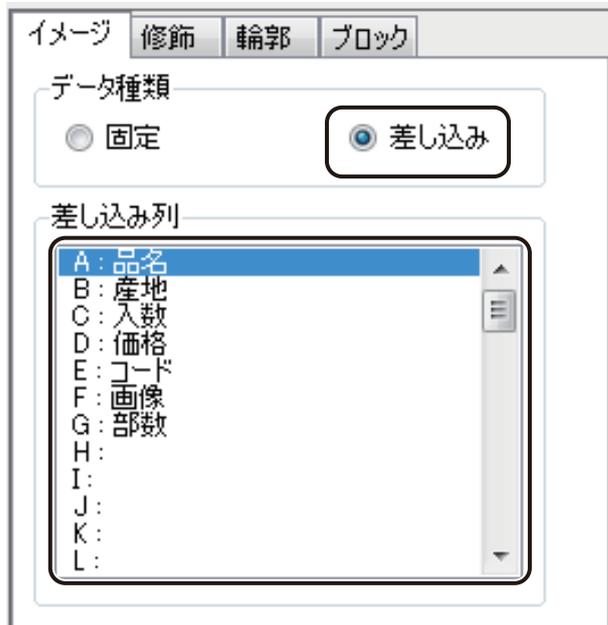
- 画像ファイルをデザインエリア上にドラッグして配置する。



- 他のアプリケーションソフトウェアでコピーしたオブジェクト (画像、イラスト、表、グラフ) をデザインエリア上で貼り付ける。

- Windows XP または Windows Vista をご使用の場合、挿入する画像が CMYK の TIFF 形式または CMYK の JPEG 形式であるときは正しく色を表示することができません。RGB の TIFF 形式、RGB の JPEG 形式または別のファイル形式で挿入することをお勧めします。

- データベースで指定している画像を挿入させたいとき
データ種類「差し込み」をクリックし、差し込み列を選択します。



 メモ

- [差し込み] の設定については、「[差し込み形式に設定する \(P.261\)](#)」をご覧ください。

4 [修飾] プロパティ、[輪郭] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

 メモ

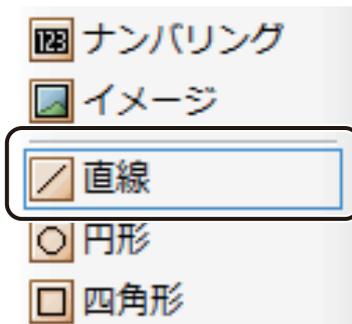
- [修飾] プロパティについては、「[\[修飾\] プロパティを設定する \(P.245\)](#)」をご覧ください。
- [輪郭] プロパティについては、「[\[輪郭\] プロパティを設定する \(P.237\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。
- 多くの画像や大きな容量の画像を配置しているデータの場合、ご使用になられている環境によっては、操作性に影響が出ることがあります。そのような場合は、「動作優先モード」に切り替えることで、操作性を向上させることができます。詳しくは、「[表示画質の設定 \(P.51\)](#)」をご覧ください。

直線を描く

直線を描くときは、「直線」ツールを使います。

1 挿入ツールバー「直線」をクリックします。

または、「挿入」メニューの「図形」から「直線」をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

このとき、用紙に対して垂直または水平な直線を引くときは、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグします。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、直線（直線オブジェクト）が表示されます。



3 「線」プロパティ、および「ブロック」プロパティを設定します。

メモ

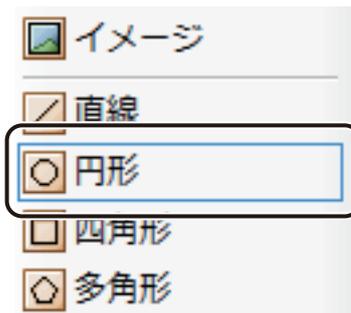
- 「線」プロパティについては、「[「線」プロパティを設定する \(P.247\)](#)」をご覧ください。
- 「ブロック」プロパティについては、「[「ブロック」プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

円を描く

楕円や正円を描くときは、[円形] ツールを使います。

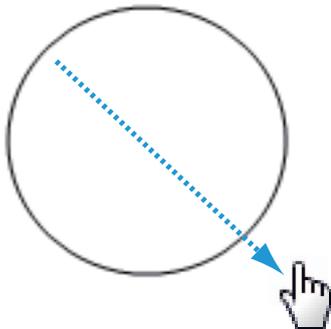
1 挿入ツールバー [円形] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [円形] をクリックします。

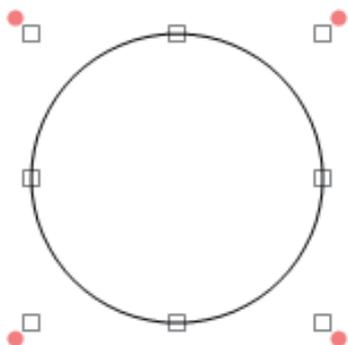


2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、正円を描くことができます。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、円の図形（円形オブジェクト）が表示されます。



3 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

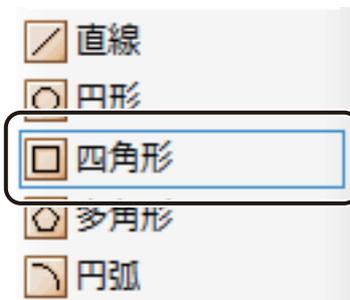
- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.247\)](#)」をご覧ください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.225\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

四角形を描く

長方形や正方形を描くときは、[四角形] ツールを使います。

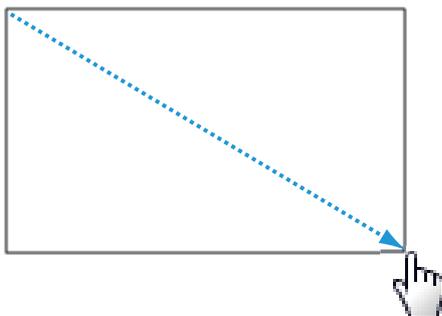
1 挿入ツールバー [四角形] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [四角形] をクリックします。

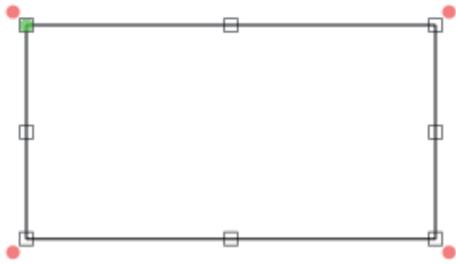


2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、正方形を描くことができます。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、四角形の図形（四角形オブジェクト）が表示されます。



3 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

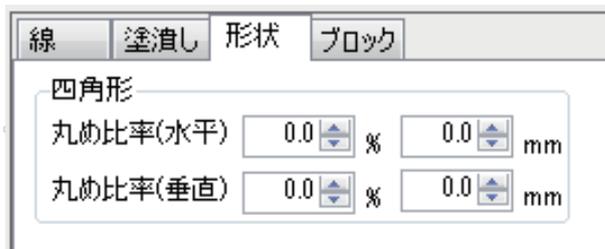


メモ

- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.247\)](#)」をご覧ください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.225\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

4 角丸の四角形を作成するときは、[形状] プロパティを設定します。

[丸め比率 (水平)] および [丸め比率 (垂直)] を入力します。数値が大きいほど、丸まり方は大きくなります。



[丸め比率 (水平)]

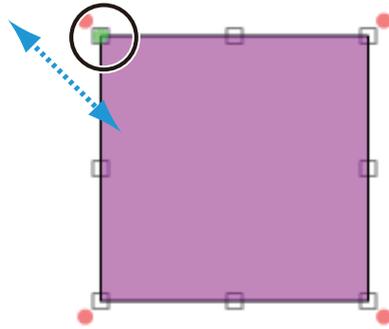
横方向の丸みを付ける位置を、% (パーセント) または、mm (ミリ) で指定します。

[丸め比率 (垂直)]

縦方向の丸みを付ける位置を、% (パーセント) または、mm (ミリ) で指定します。

メモ

- 角丸の四角形は、オブジェクト左上の隅に表示されている変形ハンドル（）をオブジェクトの中央に向かってドラッグして作成することもできます。このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、四隅が均等な角丸になります。



多角形を描く

三角形や五角形などの多角形を描くときは、[多角形] ツールを使います。作成した多角形のプロパティを設定すると、星形を作成することもできます。

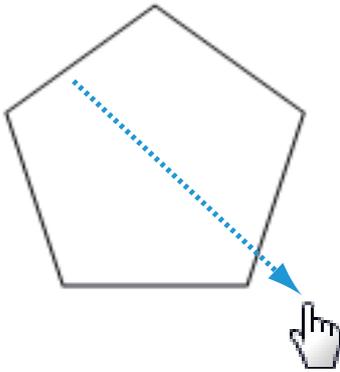
1 挿入ツールバー [多角形] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [多角形] をクリックします。

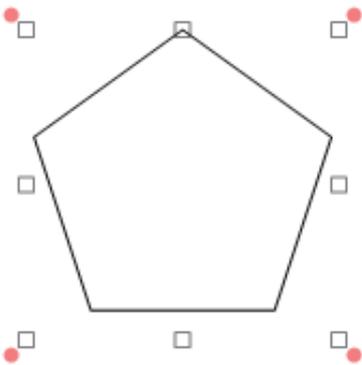


2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、正多角形を描くことができます。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、五角形の図形（多角形オブジェクト）が表示されます。



3 [形状] プロパティを設定します。

- 多角形を作成するとき

「多角形」をクリックし、[角数] を入力します。



[角数]

角の数を入力します。(入力範囲：3～60)

- 星形を作成するとき

「星形」をクリックし、[角数] および [比率] を入力します。



[角数]

角の数を入力します。(入力範囲：3～60)

[比率]

比率を入力します。比率が大きいほど、角の角度は大きくなります。(入力範囲：0.0～100.0%)

4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

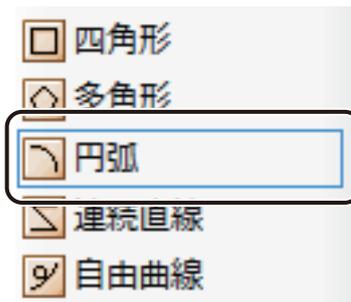
- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.247\)](#)」をご覧ください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.225\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

円弧を描く

円弧を描くときは、[円弧] ツールを使います。作成した円弧のプロパティを設定すると、扇形や弓形を作成することもできます。

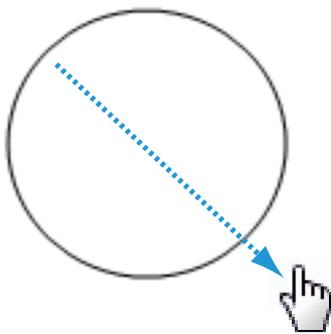
1 挿入ツールバー [円弧] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [円弧] をクリックします。

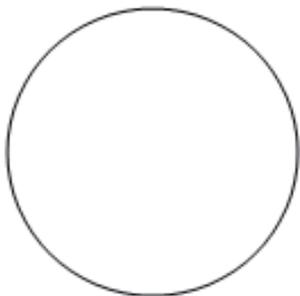


2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。

このとき、キーボードの [Shift] キーを押しながらドラッグすると、正円を描くことができます。

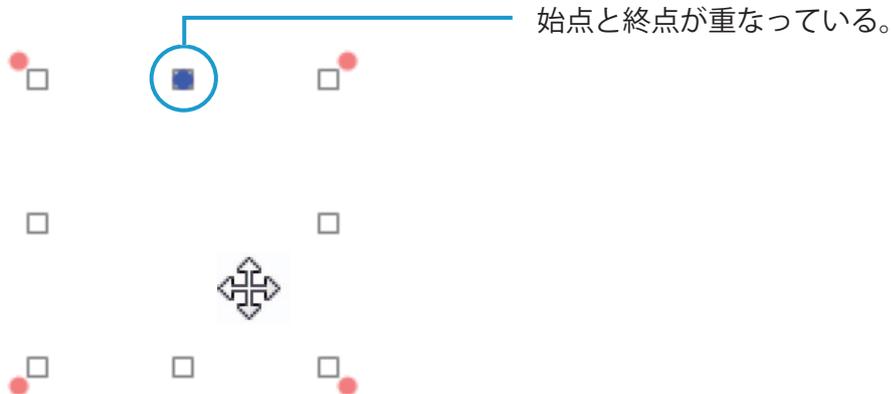


終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、円が表示されます。

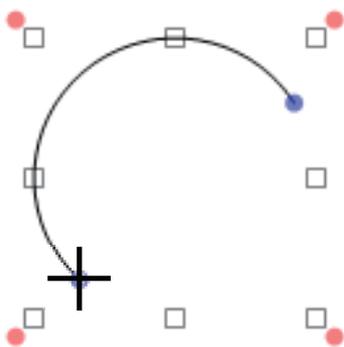


3 ポインターで円をクリックします。

円が消え、円弧オブジェクトの始点および終点（●）が表示されます。

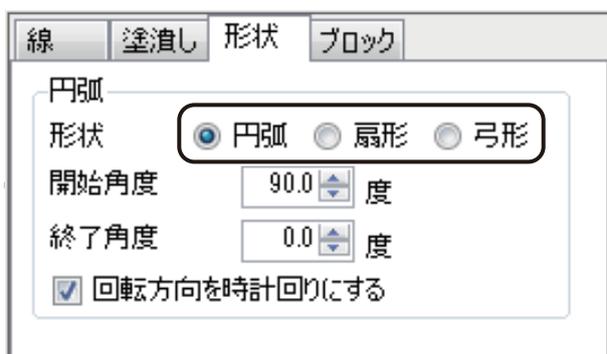


4 円弧の始点または終点をドラッグし、任意の形にします。



5 [形状] プロパティを設定します。

[形状] を「円弧」、「扇形」、または「弓形」から選択します。



[開始角度]

開始角度を設定します。

[終了角度]

終了角度を設定します。

[回転方向を時計回りにする]

チェックマークの有無で、円弧の向きを切り替えることができます。

6 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。



メモ

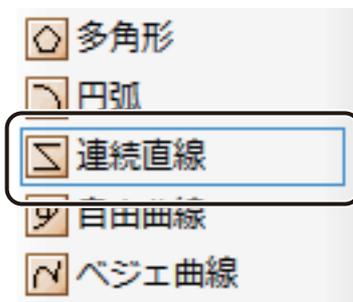
- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.247\)](#)」をご覧ください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.225\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

連続直線を描く

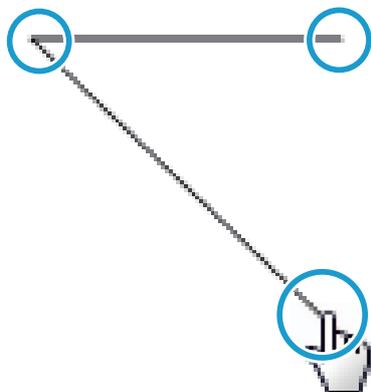
任意の直線で形成された図形を描くときは、[連続直線] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [連続直線] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [連続直線] をクリックします。



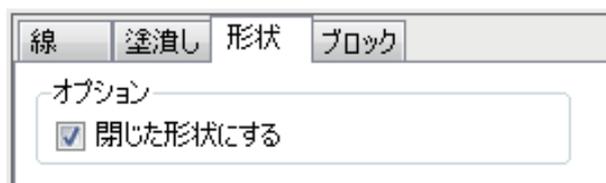
- 2 デザインエリア上で頂点となる位置をクリックする操作を繰り返し、連続した線を描きます。
このとき、キーボードの [Shift] キーを押すと、水平方向または垂直方向にまっすぐな線を描くことができます。



終点をダブルクリックすると、デザインエリアにオブジェクト（連続直線オブジェクト）が作成されます。

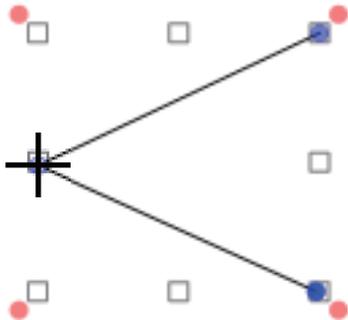
メモ

- オブジェクトの作成中に、キーボードの [スペース] キーを押すと、始点と終点を繋いだ図形を描くことができます。繋いだ点を解除するときは再度 [スペース] キーを押します。
また、オブジェクトを作成したあと（終点をダブルクリックしたあと）に繋いだ点を解除したいときは、[形状] プロパティの [閉じた形状にする] のチェックマークを外します。



3 必要に応じて、オブジェクトを微調整します。

オブジェクトの頂点（●）をドラッグして形状を調整します。



4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

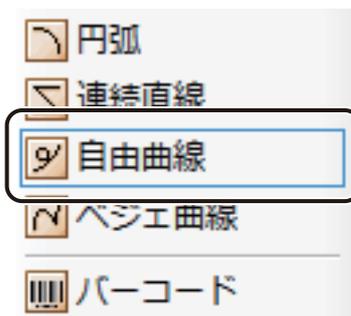
- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.247\)](#)」をご覧ください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.225\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

自由曲線を描く

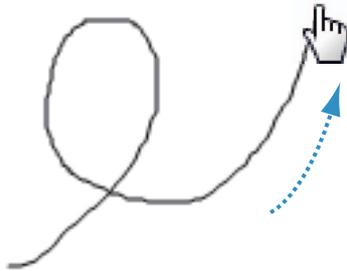
任意の曲線を描くときは、[自由曲線] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [自由曲線] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [自由曲線] をクリックします。



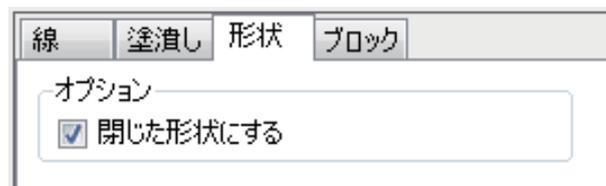
2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグしながら線を描きます。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、デザインエリアにオブジェクト（自由曲線オブジェクト）が作成されます。

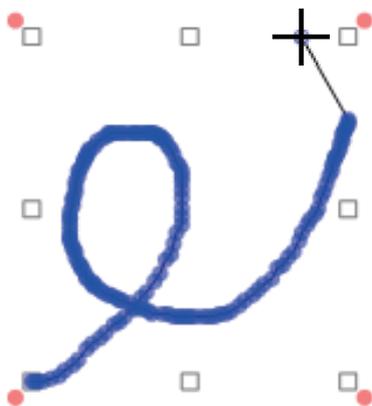
メモ

- オブジェクトの作成中に、キーボードの [スペース] キーを押すと、始点と終点を繋いだ図形を描くことができます。繋いだ点を解除するときは再度 [スペース] キーを押します。また、オブジェクトを作成したあと（終点の位置でマウスの左ボタンを外したあと）に繋いだ点を解除したいときは、[形状] プロパティの [閉じた形状にする] のチェックマークを外します。



3 必要に応じて、オブジェクトを微調整します。

オブジェクトの頂点（●）をドラッグして形状を調整します。



4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [線] プロパティについては、「[線] プロパティを設定する (P.247)」をご覧ください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[塗潰し] プロパティを設定する (P.225)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[ブロック] プロパティを設定する (P.243)」をご覧ください。

ベジェ曲線を描く

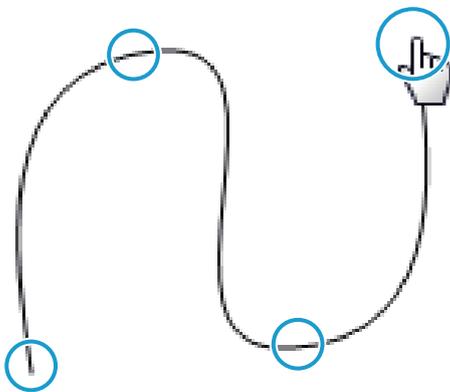
滑らかな曲線で図形を描くときは、[ベジェ曲線] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [ベジェ曲線] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [図形] から [ベジェ曲線] をクリックします。



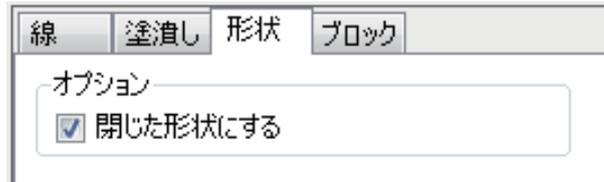
2 デザインエリア上で制御点となる位置をクリックする操作を繰り返し、連続した線を描きます。



終点をダブルクリックすると、デザインエリアにオブジェクト (ベジェ曲線オブジェクト) が作成されます。

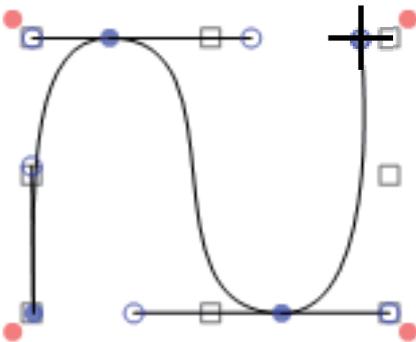
メモ

- オブジェクトの作成中に、キーボードの [スペース] キーを押すと、始点と終点を繋いだ図形を描くことができます。繋いだ点を解除するときは再度 [スペース] キーを押します。
また、オブジェクトを作成したあと（終点をダブルクリックしたあと）に繋いだ点を解除したいときは、[形状] プロパティの [閉じた形状にする] のチェックマークを外します。



3 必要に応じて、オブジェクトを微調整します。

オブジェクトの制御点（●）をドラッグして形状を調整します。また、白抜き（○）の制御点をドラッグすると、曲線の接線の長さや方向を変更できます。接線の長さや方向を変えることで、曲線の形状を調整することができます。



4 [線] プロパティ、[塗潰し] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [線] プロパティについては、「[\[線\] プロパティを設定する \(P.247\)](#)」をご覧ください。
- [塗潰し] プロパティについては、「[\[塗潰し\] プロパティを設定する \(P.225\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

バーコードを作成する

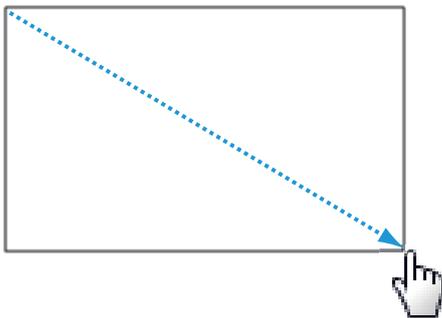
バーコードを作成するときは、[バーコード] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [バーコード] をクリックします。

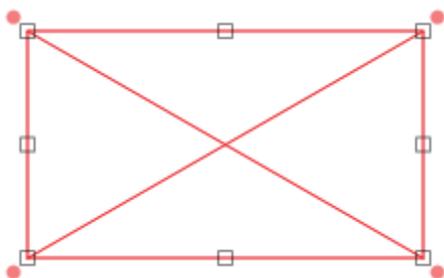
または、[挿入] メニューの [バーコード] をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、バーコードを入力する領域（バーコードオブジェクト）が作成されます。



3 [バーコード] プロパティで [データ種類] を選択します。

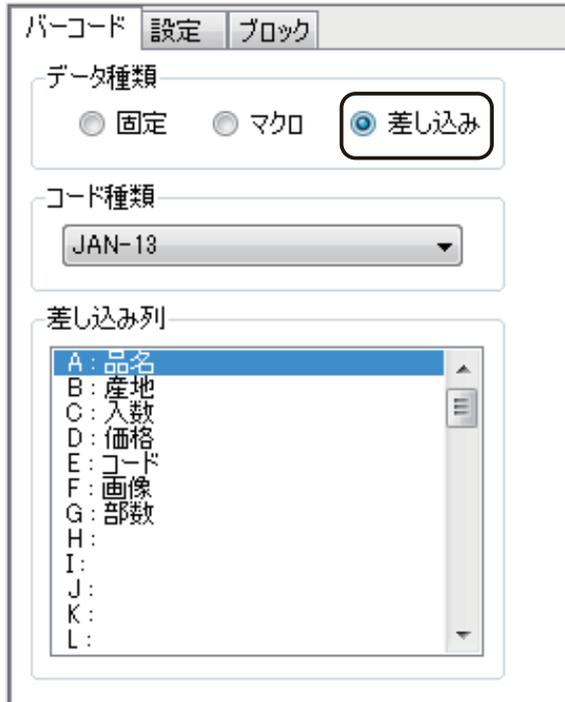
- [入力データ] に入力したコードで表示するとき
データ種類「固定」をクリックします。

The screenshot shows the 'Barcode' settings dialog box with the '設定' (Settings) tab selected. Under the 'データ種類' (Data Type) section, the '固定' (Fixed) radio button is selected and highlighted with a red box. The 'コード種類' (Code Type) dropdown menu is set to 'Jan13'. The '入力データ' (Input Data) field is empty.

- マクロ式から返される値を表示するとき
データ種類「マクロ」をクリックします。

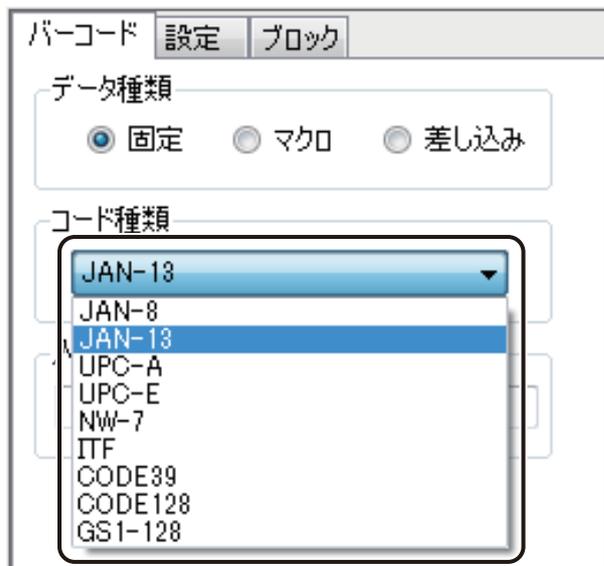
The screenshot shows the 'Barcode' settings dialog box with the '設定' (Settings) tab selected. Under the 'データ種類' (Data Type) section, the 'マクロ' (Macro) radio button is selected and highlighted with a red box. The 'コード種類' (Code Type) dropdown menu is set to 'JAN-13'. The '入力データ' (Input Data) field is empty. Below the '入力データ' field is the 'マクロ式' (Macro Formula) field, which is also empty. At the bottom of the dialog box, there is a button labeled 'マクロの編集' (Edit Macro).

- データベースの値を表示するとき
データ種類「差し込み」をクリックします。



4 [コード種類] を選択します。

バーコードは、次の9種類を作成できます。



[コード種類]

- JAN-8
- JAN-13
- UPC-A
- UPC-E
- NW-7
- ITF
- CODE39
- CODE128
- GS1-128

5 次のように操作します。

- データ種類「固定」のとき
[入力データ] にコードを入力します。
- データ種類「マクロ」のとき
[マクロの編集] をクリックします。
- データ種類「差し込み」のとき
[差し込み列] を選択します。



メモ

- [マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P.292)」をご覧ください。
- [差し込み] の設定については、「差し込み形式に設定する (P.261)」をご覧ください。
- バーコードの入力桁数は次のようになっています。

コード種類	桁数	
	チェックディジット有り	チェックディジット無し
JAN-8	7 桁	8 桁
JAN-13	12 桁	13 桁
UPC-A	11 桁	12 桁
UPC-E	6 桁	7 桁
NW-7	制限無し	制限無し
ITF	制限無し	制限無し
CODE39	制限無し	制限無し
CODE128 *	最大 128 桁	
GS1-128 *	最大 128 桁	

* コード文字にはチェックディジットデータを表示しない

- ・初期値は「チェックディジット有り」となっています。チェックディジットの設定については、[P. 193 の手順 8](#) をご覧ください。
- ・「チェックディジット無し」のときは、次のことに注意して入力してください。
 - 「JAN-8、JAN-13、UPC-A、UPC-E」のとき
「モジュラス 10 ウェイト 3」で算出した値をチェックディジットとして入力してください。(JAN-8; 8 桁目、JAN-13; 13 桁目、UPC-A; 12 桁目、UPC-E; 7 桁目) 入力が正しくない場合、バーコードは表示されません。
 - 「NW-7、ITF、CODE39、CODE128、GS1-128」のとき
入力されたデータのままでバーコードを作成します。入力データのチェックは行いません。
- [入力データ] は、すべて半角で入力してください。全角で入力した文字は認識されません。
- 「NW-7」の場合、入力データに「A」、「B」、「C」、「D」は入力できません。(スタートキャラクタとエンドキャラクタの指定については、[P. 193 の手順 8](#) をご覧ください。) 入力が正しくない場合、バーコードは表示されません。
- 「ITF」の場合、奇数桁でコードを入力したときは、先頭に「0」が入り、偶数桁に自動調整します。



メモ

- 「GS1-128」の場合、半角括弧“ () ”をコードとして入力することはできません。(アプリケーション識別子を入力するため。)
- 「GS1-128」の場合、スタートキャラクタ直後の [FNC1] は自動的に付加されます。
- 「CODE128」および「GS1-128」の制御コードは次の書式で入力してください。(すべて半角入力。)

ASCII コード	書式	ASCII コード	書式	ASCII コード	書式	固有制御コード	書式
0	[NUL]	13	[CR]	25	[EM]	FNC1	[FNC1]
1	[SOH]	14	[SO]	26	[SUB]	FNC2	[FNC2]
2	[STX]	15	[SI]	27	[ESC]	FNC3	[FNC3]
3	[ETX]	16	[DLE]	28	[FS]		
4	[EOT]	17	[DC1]	29	[GS]		
5	[ENQ]	18	[DC2]	30	[RS]		
6	[ACK]	19	[DC3]	31	[US]		
7	[BEL]	20	[DC4]	32	[SP]		
8	[BS]	21	[NAK]	127	[DEL]		
9	[HT]	22	[SYN]				
10	[LF]	23	[ETB]				
11	[VT]	24	[CAN]				
12	[NP]						

- 「CODE128」および「GS1-128」のとき、コードとして“ [”を入力したいときは、“ [” と入力すると“ [”一文字と判定されます。この場合は、以降に“]”があるときでも通常の文字として処理されます。
例) “[41]” → “[41]”の文字列として認識

6 [設定] タブをクリックし、[バー高さ] を入力します。

ミリ (mm) 単位で入力します。(入力範囲：1.00 mm～100.00 mm)



7 [バー幅] を入力します。

通常は、[自動設定] でバー幅の設定を行います。「黒1値」を入力すると、その他のバー幅を自動で計算します。入力は、ドット (dot) 単位、またはミリ (mm) 単位のいずれかで行います。



入力範囲は次のようになっています。

- ドット (dot) 単位で入力するとき
 - 1 dot ~ 300 dot (解像度 600 dpi のとき)
 - 1 dot ~ 600 dot (解像度 1200 dpi のとき)
- ミリ (mm) 単位で入力するとき
 - 0.04 mm ~ 12.70 mm (解像度 600 dpi のとき)
 - 0.02 mm ~ 12.70 mm (解像度 1200 dpi のとき)

 メモ

- [解像度] は、印刷設定で指定されているプリンターから解像度を取得して表示します。
- 印刷を行い、思った通りの結果が得られなかったときは、次のような手順で [手動設定] に切り替えてバー幅の調整を行ってください。

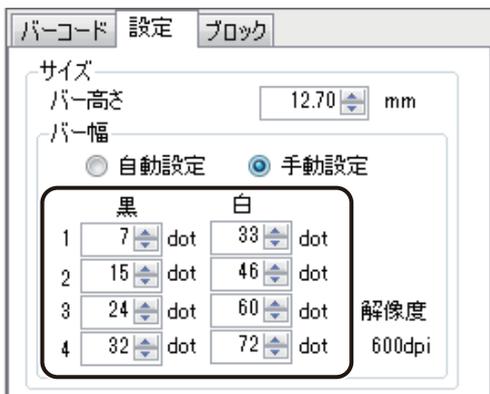
① [手動設定へ反映] をクリックします。



バー幅の設定が [手動設定] に切り替わります。

② バー幅をドット (dot) 単位で入力します。

- ・コード種類「JAN-8」「JAN-13」「UPC-A」「UPC-E」
- ・コード種類「ITF」「NW-7」「CODE39」のとき
- 「CODE128」「GS1-128」のとき



入力範囲は、次のようになっています。

1 dot ~ 300 dot (解像度 600 dpi のとき)、1 dot ~ 600 dot (解像度 1200 dpi のとき)

- [手動設定へ反映] をクリックせずに手動設定に切り替えた場合は、自動設定で入力した内容が反映されません。

8 [オプション] を設定します。

- コード種類「JAN-8」「JAN-13」「UPC-A」「UPC-E」「CODE39」「CODE128」「GS1-128」のとき

オプション

チェックディジット有り

左右マージン有り テキスト表示

フォント

フォント名 MS UI Gothic

サイズ 10 pt

- コード種類「NW-7」のとき

オプション

チェックディジット有り

左右マージン有り テキスト表示

フォント

フォント名 MS UI Gothic

サイズ 10 pt

スタート/エンドキャラ

スタートキャラ エンドキャラ

A A

- コード種類「ITF」のとき

オプション

チェックディジット有り

左右マージン有り テキスト表示

フォント

フォント名 MS UI Gothic

サイズ 10 pt

ITF

物流用枠追加

[チェックディジット有り]

チェックディジットを自動で付加させないときは、チェックマークを外します。

[左右マージン有り]

バーコードの左右にマージン（余白）を設定しないときは、チェックマークを外します。

[テキスト表示]

コード文字を表示しないときは、チェックマークを外します。

[フォント]

コード文字のフォント種類とサイズを指定します。

[スタート/エンドキャラ]

スタートキャラクタとエンドキャラクタを指定します。A～Dを選択できます。
コード種類 [NW-7] のときのみ表示されます。

[ITF]

物流用枠の有無を設定します。
コード種類 [ITF] のときのみ表示されます。

9 [ブロック] プロパティを設定します。



メモ

- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。
- バーコードは、プリンタードライバーから取得した解像度に合わせて補正を行い作成します。
- 印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類）を変更したときは、配置済みのバーコードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したバーコードでも大きさが異なります。
- 印刷したラベルのバーコードが読み取りにくいときは、「バーコード設定」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.351\)](#)」をご覧ください。
また、現在のバーコード設定の情報は、[設定] プロパティに表示されます。

左右マージン有り アキスト表示

フォント

フォント名 MS UI Gothic

サイズ 10 pt

バーコード設定

用紙種類 : マットコート紙

用紙形状 : ラベル/ギャップ

調整値 : 0

GS1 データバーを作成する

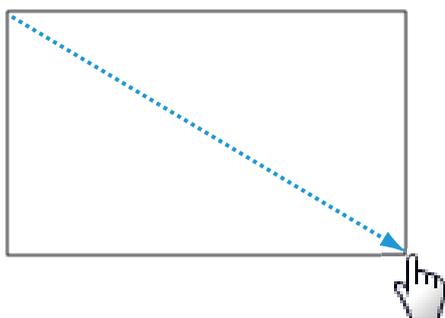
GS1 データバーを作成するときは、[GS1 データバー] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [GS1 データバー] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [GS1 データバー] をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、GS1 データバーを入力する領域 (GS1 データバーオブジェクト) が作成されます。



3 [GS1 データバー] プロパティで [データ種類] を選択します。

- [入力データ] に入力したコードで表示するとき
データ種類「固定」をクリックします。

GS1データバー 設定 ブロック

データ種類

固定 マクロ 差し込み

コード種類

Omnidirectional

入力データ

- マクロ式から返される値を表示するとき
データ種類「マクロ」をクリックします。

GS1データバー 設定 ブロック

データ種類

固定 マクロ 差し込み

コード種類

Omnidirectional

入力データ

マクロ式

第4章 オブジェクトの操作と作成

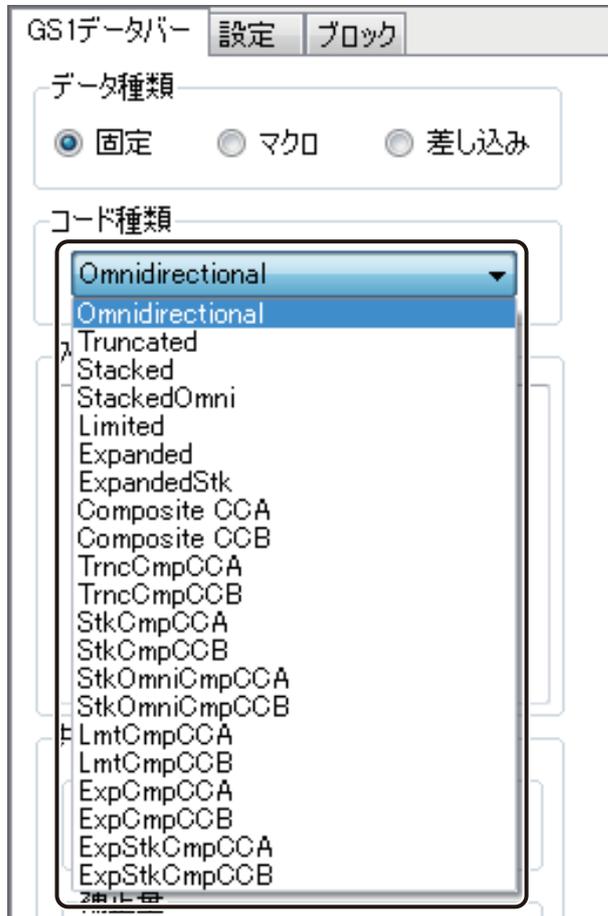
- データベースの値を表示するとき
データ種類「差し込み」をクリックします。

The image shows a software dialog box titled "GS1データバー" (GS1 DataBar) with two tabs: "設定" (Settings) and "ブロック" (Block). The "設定" tab is active. It contains three sections:

- データ種類** (Data Type): Three radio buttons are present: "固定" (Fixed), "マクロ" (Macro), and "差し込み" (Insert). The "差し込み" option is selected and highlighted with a red rectangle.
- コード種類** (Code Type): A dropdown menu is set to "Omnidirectional".
- 差し込み列** (Insert Column): A list box containing the following items:
 - A: 品名 (Item Name)
 - B: 産地 (Origin)
 - C: 入数 (Quantity)
 - D: 価格 (Price)
 - E: コード (Code)
 - F: 画像 (Image)
 - G: 部数 (Parts)
 - H:
 - I:
 - J:
 - K:The first item, "A: 品名", is selected and highlighted in blue.

4 [コード種類] を選択します。

GS1 データバーは、次の 21 種類（通常：7 種類、コンポジット形式：14 種類）を作成できます。



[コード種類]

- Omnidirectional
- Truncated
- Stacked
- StackedOmni
- Limited
- Expanded
- ExpandedStk
- Composite CCA
- Composite CCB
- TrncCmpCCA
- TrncCmpCCB
- StkCmpCCA
- StkCmpCCB
- StkOmniCmpCCA
- StkOmniCmpCCB
- LmtCmpCCA
- LmtCmpCCB
- ExpCmpCCA
- ExpCmpCCB
- ExpStkCmpCCA
- ExpStkCmpCCB

5 次のように操作します。

- データ種類「固定」のとき
[入力データ] にコードを入力します。
- データ種類「マクロ」のとき
[マクロの編集] をクリックします。
- データ種類「差し込み」のとき
[差し込み列] を選択します。



メモ

- [マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P.292)」をご覧ください。
- [差し込み] の設定については、「差し込み形式に設定する (P.261)」をご覧ください。

6 [最小単位] を入力します。

入力は、ドット (dot) 単位、またはミリ (mm) 単位のいずれかで行います。

入力範囲は次のようになっています。

- ドット (dot) 単位で入力するとき
1 dot ~ 47 dot (解像度 600 dpi のとき)
1 dot ~ 94 dot (解像度 1200 dpi のとき)
- ミリ (mm) 単位で入力するとき
0.04 mm ~ 1.99 mm (解像度 600 dpi のとき)
0.02 mm ~ 1.99 mm (解像度 1200 dpi のとき)

7 [補正量] を入力します。

補正のしかたを [自動] または [手動] から選択します。

共通設定

最小単位
11 dot 0.47 mm

補正量
 自動 手動 600dpi
補正量 0 dot

余白 5 cell

バー色 背景色

[手動] で補正を行うときは、補正量をドット (dot) 単位で入力します。



メモ

- 印刷設定で指定されているプリンターがキヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500/LX-P5500 以外のときは、[手動] で補正量を設定してください。

8 余白の入力およびコードの色を選択します。

共通設定

最小単位
11 dot 0.47 mm

補正量
 自動 手動 600dpi
補正量 0 dot

余白 5 cell

バー色 背景色

[余白]

0 cell ~ 10 cell の範囲で指定します。

[バー色]

バーの色を指定します。パレットから使用する色を選択します。

[背景色]

コードの背景の色を指定します。パレットから使用する色を選択します。

メモ

- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」をご覧ください。

- 9 [設定] タブをクリックし、[バー高さ] と [水平シンボル数] を入力します。



[バー高さ]

1～100 の範囲で指定します。

[水平シンボル数]

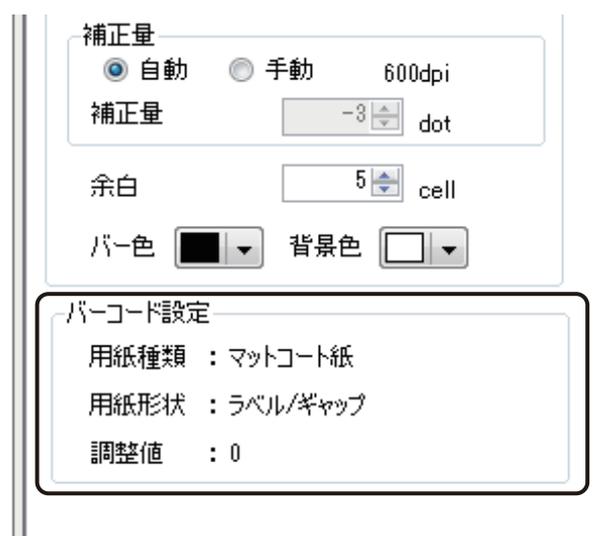
2、4、6、8、10、12、14、16、18、20 から選択します。

コード種類「ExpandedStk」、「ExpStkCmpCCA」および「ExpStkCmpCCB」のときのみ設定します。

10 [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。
- コードの種類によっては、入力できる文字列の種類や情報量に制限があります。
- GS1 データバーは、プリンタードライバーから取得した解像度に合わせて補正を行い作成します。
- 印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類）を変更したときは、配置済みのGS1 データバーを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したGS1 データバーでも大きさが異なります。
- 印刷したラベルのGS1 データバーが読み取りにくいときは、「[バーコード設定](#)」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.351\)](#)」をご覧ください。
また、現在のバーコード設定の情報は、[GS1 データバー] プロパティに表示されます。



補正量

自動 手動 600dpi

補正量 dot

余白 cell

バー色 背景色

バーコード設定

用紙種類 : マットコート紙

用紙形状 : ラベル/ギャップ

調整値 : 0

二次元コードを作成する

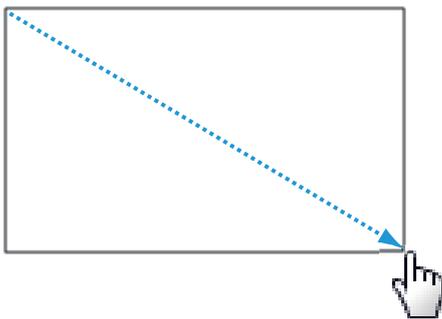
二次元コードを作成するときは、[二次元コード] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [二次元コード] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [二次元コード] をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、二次元コードを入力する領域（二次元コードオブジェクト）が作成されます。



3 [二次元コード] プロパティで [データ種類] を選択します。

- [入力データ] に入力したコードで表示するとき
データ種類「固定」をクリックします。

二次元コード 設定 ブロック

データ種類

固定 マクロ 差し込み

コード種類

QR Code

入力データ

- マクロ式から返される値を表示するとき
データ種類「マクロ」をクリックします。

二次元コード 設定 ブロック

データ種類

固定 マクロ 差し込み

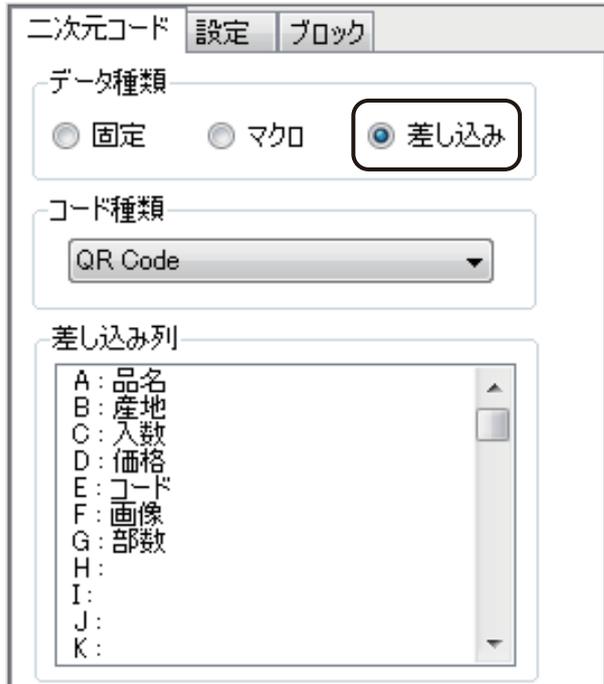
コード種類

QR Code

入力データ

マクロ式

- データベースの値を表示するとき
データ種類「差し込み」をクリックします。



4 コードの種類を選択します。

二次元コードは、次の4種類を作成できます。



[コード種類]

- QR Code
- MaxiCode
- PDF417
- DataMatrix

5 次のように操作します。

- データ種類「固定」のとき
[入力データ] にコードを入力します。
- データ種類「マクロ」のとき
[マクロの編集] をクリックして、マクロ式を作成します。
- データ種類「差し込み」のとき
[差し込み列] を選択します。



メモ

- [マクロ] の設定については、「マクロ形式に設定する (P.292)」をご覧ください。
- [差し込み] の設定については、「差し込み形式に設定する (P.261)」をご覧ください。
- QRコードの場合、「設定」タブで「バイナリデータを含む」にチェックしたときにバイナリコードの埋め込みが可能になります。バイナリコードの入力は、次のようになっています。
 - ・バイナリコードは、' ['] ' で括った 16 進数表現の文字で指定します。
例) "[64]" → 10 進で 100 (サイズは 1 バイト) が入力されます。
<連続したバイト列の指定するとき>
例) "[3264]" → 1 バイト目に 50、2 バイト目に 100 が入力されます。
<通常の文字を挟んで複数指定するとき>
例) "A[32]B[64]C" → " A (バイナリの 50) B (バイナリの 100) C" として認識
 - ・バイナリコードは、必ず 1 バイトを 2 桁単位で指定する必要があり、次のような指定はエラーとなります。
例) "[0]" → 中身なし
"[0]" → 1 桁
"[123]" → 3 桁
 - ・コードとして ' [' を入力したいときは、" [[" と入力すると ' [' 一文字と判定されます。この場合は、以降に '] ' があるときでも通常の文字として処理されます。
例) "[[41]" → " [41]" の文字列として認識
 - ・ '] ' はその前に ' [' が存在しない限り、通常の文字として処理されます。
例) "AB41]" → " AB41]" の文字列として認識
"[64]AAA]" → " (バイナリの 100) AAA]" として認識
 - ・16 進表現のアルファベットは、大文字 / 小文字どちらも使用できます。
例) "FF" , " ff" , " Ff" , " fF" → すべてバイナリの 255 として認識

6 [最小単位] を入力します。

入力は、ドット (dot) 単位、またはミリ (mm) 単位のいずれかで行います。

共通設定

最小単位

11 dot 0.47 mm

補正量

自動 手動 600dpi

補正量 0 dot

余白 5 cell

バー色 背景色

入力範囲は次のようになっています。

- ドット (dot) 単位で入力するとき
 - 1 dot ~ 47 dot (解像度 600 dpi のとき)
 - 1 dot ~ 94 dot (解像度 1200 dpi のとき)
- ミリ (mm) 単位で入力するとき
 - 0.04 mm ~ 1.99 mm (解像度 600 dpi のとき)
 - 0.02 mm ~ 1.99 mm (解像度 1200 dpi のとき)

7 [補正量] を入力します。

補正のしかたを [自動] または [手動] から選択します。

共通設定

最小単位

11 dot 0.47 mm

補正量

自動 手動 600dpi

補正量 0 dot

余白 5 cell

バー色 背景色

[手動] で補正を行うときは、補正量をドット (dot) 単位で入力します。

メモ

- 印刷設定で指定されているプリンターがキヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500/LX-P5500 以外の場合は、[手動] で補正量を設定してください。

8 余白の入力およびコードの色を選択します。



共通設定

最小単位
11 dot 0.47 mm

補正量
 自動 手動 600dpi
補正量 0 dot

余白 5 cell

バー色  背景色 

[余白]

0 cell ~ 10 cell の範囲で指定します。

[バー色]

バーの色を指定します。パレットから使用する色を選択します。

[背景色]

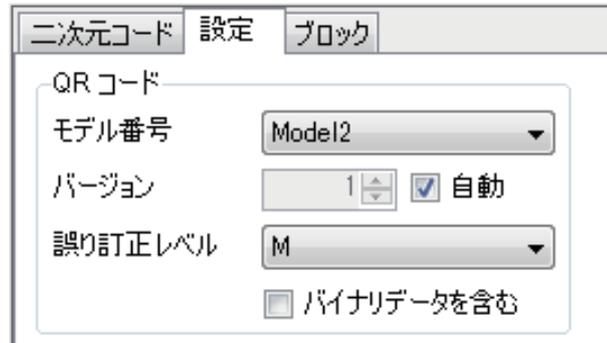
コードの背景の色を指定します。パレットから使用する色を選択します。

メモ

- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」をご覧ください。

9 [設定] タブをクリックし、コード種類に合わせた設定を行います。

- 「QRコード」のとき



[モデル番号]

「Model1」、「Model2」、「microQR」から選択します。

[バージョン]

「自動」または、任意（1～40）で指定します。

任意で指定するときは、「自動」のチェックマークを外して値を設定します。

[誤り訂正レベル]

レベルが高いほど誤り訂正能力は向上します。訂正能力は、L、M、Q、Hの順に高くなります。

[バイナリデータを含む]

[入力データ] がバイナリデータを含むときは、チェックマークを入れます。入力に誤りがあるときは、バーコードが表示されません。

- 「Maxi Code」のとき



[モデル番号]

「Mode2」、「Mode3」、「Mode4」、「Mode5」から選択します。

- 「PDF417」のとき

二次元コード	設定	ブロック
PDF417		
モデル番号	Standard	
段数	3	<input checked="" type="checkbox"/> 自動
桁数	1	<input checked="" type="checkbox"/> 自動
縦横比	PDFratio11	
段高さ	4	
エラー訂正レベル	Auto	

[モデル番号]

「Standard」、「Truncated」、「Micro PDF417」から選択します。

[段数]

「自動」または、任意（3～90）で指定します。

任意で指定するときは、「自動」のチェックマークを外して値を設定します。

[桁数]

「自動」または、任意（1～30）で指定します。

任意で指定するときは、「自動」のチェックマークを外して値を設定します。

[縦横比]

「PDFratio81」、「PDFratio41」、「PDFratio21」、「PDFratio11」、「PDFratio12」、「PDFratio14」、「PDFratio18」から選択します。

[段数] および [桁数] が「自動」のときに設定できます。

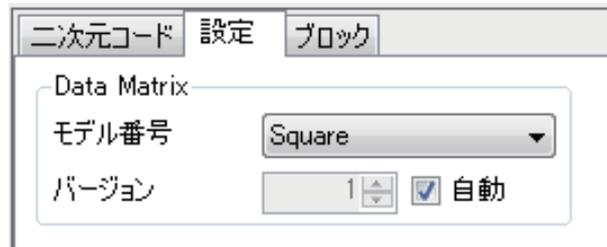
[段高さ]

1～10で指定します。

[エラー訂正レベル]

「Auto」または、PDF 0～PDF 8で指定します。

- 「DataMatrix」のとき



[モデル番号]

「Square」（正方形）または「Rectangular」（長方形）を選択します。

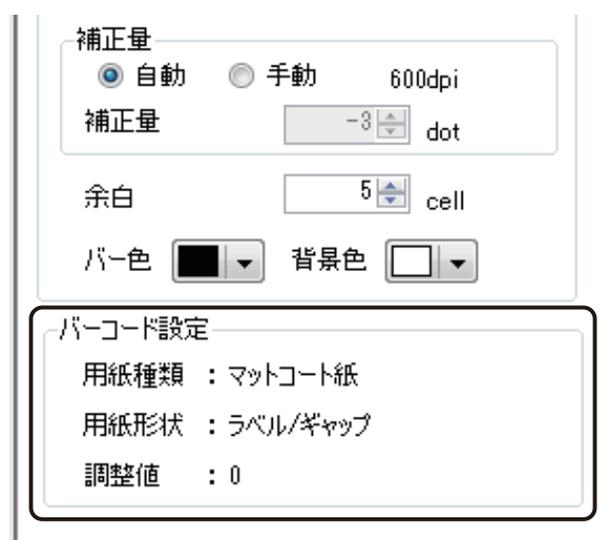
[バージョン]

- モデル番号「Square」のとき
「自動」または、任意（1～24）で指定します。
- モデル番号「Rectangular」のとき
「自動」または、任意（1～6）で指定します。

10 [ブロック] プロパティを設定します。

メモ

- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。
- コードの種類によっては、入力できる文字列の種類や情報量に制限があります。
- 二次元コードは、プリンタードライバーから取得した解像度に合わせて補正を行い作成します。
- 印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類）を変更したときは、配置済みの二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成した二次元コードでも大きさが異なります。
- 印刷したラベルの二次元コードが読み取りにくいときは、「[バーコード設定](#)」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.351\)](#)」をご覧ください。
また、現在のバーコード設定の情報は、[二次元コード] プロパティに表示されます。



補正量

自動 手動 600dpi

補正量 dot

余白 cell

バー色 背景色

バーコード設定

用紙種類 : マットコート紙

用紙形状 : ラベル/ギャップ

調整値 : 0

ナンバリングオブジェクトを作成する

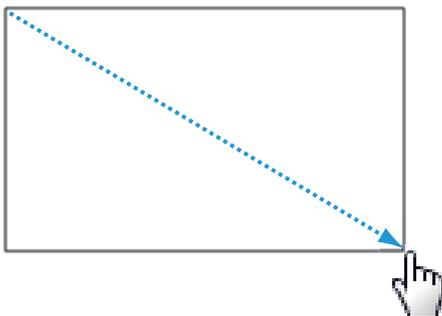
ナンバリングとは、任意で指定した番号を、指定した増分で印刷ごとに自動で繰り上げて印刷する機能です。ナンバリング機能をもったオブジェクトを作成ときは、[ナンバリング] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [ナンバリング] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [ナンバリング] をクリックします。



2 デザインエリア上で始点をクリックしたあとドラッグします。



終点の位置でマウスの左ボタンを外すと、ナンバリングを入力する領域（ナンバリングオブジェクト）が作成されます。



3 [設定] プロパティの [初期値] と [増分] を入力します。

設定	フォント	文字色	輪郭	背景	ブロック
設定					
初期値	<input type="text" value="0"/>	増分	<input type="text" value="1"/>		
桁数					
整数部	<input type="text" value="1"/>	小数部	<input type="text" value="0"/>		
<input type="checkbox"/>	16進数	<input type="checkbox"/>	桁区切り	<input type="checkbox"/>	ゼロ埋め
追加文字列					
先頭	<input type="text"/>				
末尾	<input type="text"/>				
サンプル					
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9					
オプション					
<input type="checkbox"/>	レコードごとに値を初期化する				



メモ

- 設定している内容は [サンプル] で確認できます。

4 桁数を入力します。

設定 フォント 文字色 輪郭 背景 ブロック

設定
初期値 0 増分 1

桁数
整数部 3 小数部 0
 16進数 桁区切り ゼロ埋め

追加文字列
先頭
末尾

サンプル
000
001
002
003
004
005
006
007
008
009

オプション
 レコードごとに値を初期化する

[整数部]

整数部分の桁数を指定します。

[小数部]

小数部分の桁数を指定します

[16進数]

16進数を設定します。
チェックマークが外れているときは10進数となります。

[桁区切り]

桁区切りを設定します。

[ゼロ埋め]

指定した桁数に数値が満たないときに0で埋める処理を設定します。

5 追加文字列を入力します。

数値の先頭または末尾に任意の文字列を挿入できます。

設定 フォント 文字色 輪郭 背景 ブロック

設定
初期値 0 増分 1

桁数
整数部 3 小数部 0
 16進数 桁区切り ゼロ埋め

追加文字列
先頭 A
末尾 P

サンプル
A000P
A001P
A002P
A003P
A004P
A005P
A006P
A007P
A008P
A009P

オプション
 レコードごとに値を初期化する

6 [オプション] を設定します。

レコードごとにナンバリングの値を初期化するときは、チェックマークを入れます。チェックマークを入れないときは、レコードに関係なくカウントアップを行います。

A007P
A008P
A009P

オプション
 レコードごとに値を初期化する

7 [フォント] プロパティ、[文字色] プロパティ、[輪郭] プロパティ、および [ブロック] プロパティを設定します。



メモ

- [フォント] プロパティについては、「[\[フォント\] プロパティを設定する \(P.222\)](#)」をご覧ください。
- [文字色] プロパティについては、「[\[文字色\] プロパティを設定する \(P.236\)](#)」をご覧ください。
- [輪郭] プロパティについては、「[\[輪郭\] プロパティを設定する \(P.237\)](#)」をご覧ください。
- [ブロック] プロパティについては、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

背景を設定する

用紙の背景に色を付けたり、画像を配置したりすることができます。
背景を設定するときは、[背景] ツールを使います。

1 挿入ツールバー [背景] をクリックします。

または、[挿入] メニューの [背景] をクリックします。



2 [背景] プロパティを設定します。



メモ

- [背景] プロパティについては、「[\[背景\] プロパティを設定する \(P.249\)](#)」をご覧ください。

3 [ブロック] プロパティを設定します。

初期設定はすべてチェックマークが入った状態になっています。



[編集対象]

背景の編集の可 / 不可を切り替えます。

[印刷対象]

背景を印刷する / しないを切り替えます。

[表示対象]

背景の表示 / 非表示を切り替えます。

オブジェクトの編集

オブジェクトの編集は、オブジェクトを選択したときに表示されるプロパティを設定して行います。プロパティは、項目ごとにシート分けされており、選択したオブジェクトによって表示されるプロパティは異なります。ここでは、各プロパティの設定のしかたについて説明します。

<オブジェクトとプロパティの組み合わせ>

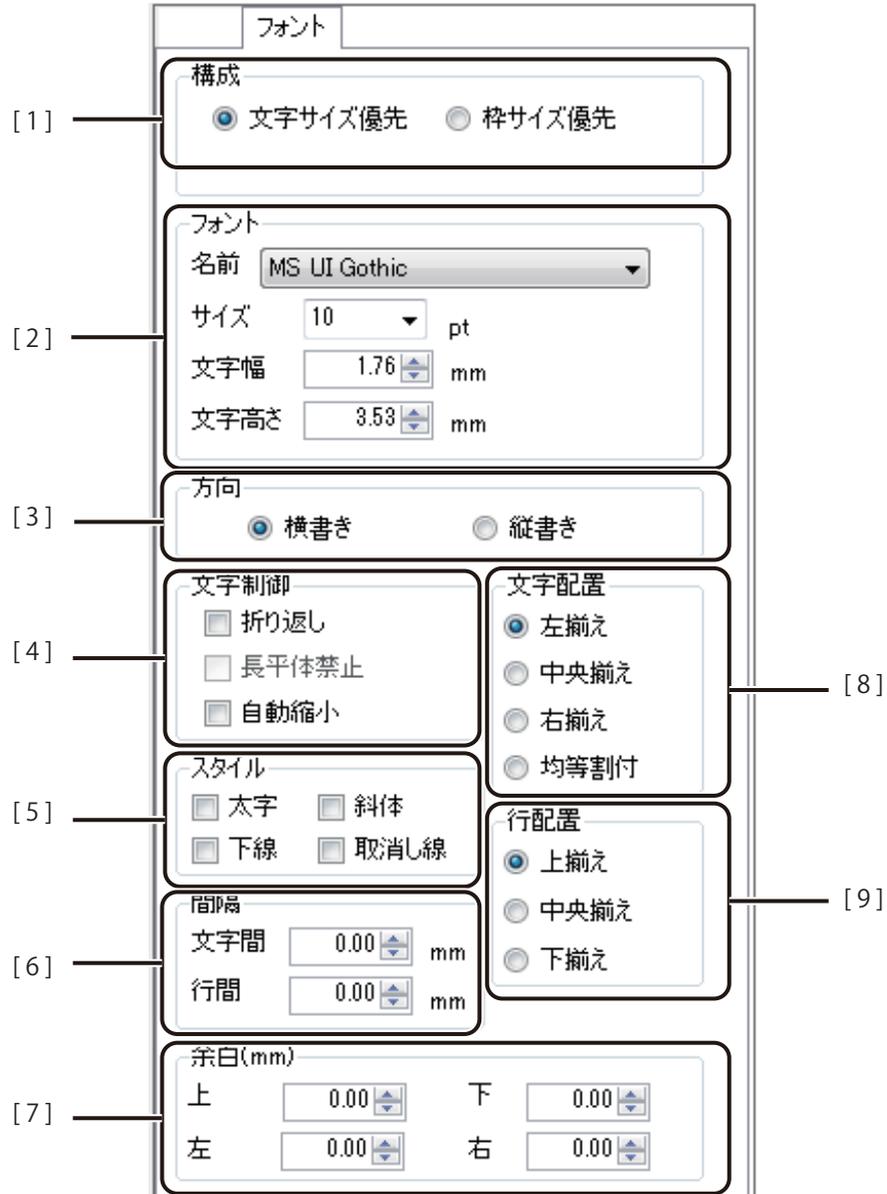
プロパティ オブジェクト	文字	フォント	文字色	輪郭	枠線	影	ブロック	塗潰し	イメージ	修飾	線	形状	背景	バーコード	GS1データバー	二次元コード	設定
文字	○ P.164	○ P.222	○ P.236	○ P.237	○ P.239	○ P.241	○ P.243	-	-	-	-	-	○ P.249	-	-	-	-
画像	-	-	-	○ P.237	-	-	○ P.243	-	○ P.167	○ P.245	-	-	-	-	-	-	-
直線	-	-	-	-	-	-	○ P.243	-	-	-	○ P.247	-	-	-	-	-	-
円	-	-	-	-	-	-	○ P.243	○ P.225	-	-	○ P.247	-	-	-	-	-	-
四角形	-	-	-	-	-	-	○ P.243	○ P.225	-	-	○ P.247	○ P.174	-	-	-	-	-
多角形	-	-	-	-	-	-	○ P.243	○ P.225	-	-	○ P.247	○ P.176	-	-	-	-	-
円弧	-	-	-	-	-	-	○ P.243	○ P.225	-	-	○ P.247	○ P.179	-	-	-	-	-
連続直線	-	-	-	-	-	-	○ P.243	○ P.225	-	-	○ P.247	○ P.181	-	-	-	-	-
自由曲線	-	-	-	-	-	-	○ P.243	○ P.225	-	-	○ P.247	○ P.183	-	-	-	-	-
ベジェ曲線	-	-	-	-	-	-	○ P.243	○ P.225	-	-	○ P.247	○ P.185	-	-	-	-	-
バーコード	-	-	-	-	-	-	○ P.243	-	-	-	-	-	-	○ P.187	-	-	○ P.190
GS1データバー	-	-	-	-	-	-	○ P.243	-	-	-	-	-	-	-	○ P.196	-	○ P.202
二次元コード	-	-	-	-	-	-	○ P.243	-	-	-	-	-	-	-	-	○ P.205	○ P.210
ナンバリング	-	○ P.222	○ P.236	○ P.237	-	-	○ P.243	-	-	-	-	-	○ P.249	-	-	-	○ P.215
背景	-	-	-	-	-	-	○ P.219	-	-	-	-	-	○ P.249	-	-	-	-



- グループ化したオブジェクトは、[ブロック] プロパティを設定できます。
- 複数のオブジェクトを選択すると、共通する項目のプロパティを一括編集することができます。
プロパティは、選択したオブジェクトの組み合わせに関係なく、[フォント] プロパティ、[文字色] プロパティ、[線] プロパティおよび [塗潰し] プロパティが表示されます。

[フォント] プロパティを設定する

[フォント] プロパティでは、文字の種類やサイズなどを設定します。



[1] 構成

文字の構成を設定します。

[文字サイズ優先]

入力された文字は、[サイズ]、[文字幅]、[文字高さ]などで指定した文字サイズが優先されます。指定した文字サイズで文字を作成するときに選択します。

[枠サイズ優先]

オブジェクトの大きさにあわせて文字サイズが決まります。
[フォント]の設定は無効となります。

第4章 オブジェクトの操作と作成

- [2] フォント フォントに関する設定をします。
- [名前]
 フォントを選択します。
- [サイズ]
 フォントの大きさを指定します。
- [文字幅]
 フォントの文字幅を 0.01 mm 単位で入力します。
- [文字高さ]
 フォントの文字高さを 0.01 mm 単位で入力します。
- [3] 方向 文字の方向を設定します。
- [横書き]
 左から右へ文字を入力します。
- [縦書き]
 上から下へ文字を入力します。
- [4] 文字制御 文字制御を設定します。
- [折り返し]
 オブジェクト内に収まるように、文字列を自動的に折り返します。チェックを外すと自動的に [自動縮小] に切り替わります。
 [文字サイズ優先] のときに指定できます。
- [長平体禁止]
 文字の形を正体で表示します。
 [枠サイズ優先] のときに指定できます。
- [自動縮小]
 オブジェクト内に収まるように、文字列を自動的に縮小します。
 [文字サイズ優先] のときに指定できます。
- [5] スタイル 文字のスタイルを設定します。
- [太字]
 文字を太くします。
- [斜体]
 文字を斜めにします。
- [下線]
 文字の下に線を描きます。

- [取消し線]
文字の中心に直線を引きます。
- [6] 間隔
文字と行の間隔を設定します。
[文字サイズ優先] のときに設定できます。
- [文字間]
文字間隔を設定します。(入力範囲: 0.00 ~ 50.00 mm)
- [行間]
行間隔を設定します。(入力範囲: 0.00 ~ 50.00 mm)
- [7] 余白
余白を設定します。
- [上] [下] [左] [右]
オブジェクト内の上下左右の余白を 0.01 mm 単位で入力します。
- [8] 文字配置
文字配置を設定します。
- [左揃え]
オブジェクト内の左側に配置します。
- [中央揃え]
オブジェクト内の中央に配置します。
- [右揃え]
オブジェクト内の右側に配置します。
- [均等割付]
オブジェクト内で左右に均等に配置します。
- [9] 行配置
行の配置を設定します。
- [上揃え]
オブジェクト内の上側に配置します。
- [中央揃え]
オブジェクト内の中央に配置します。
- [下揃え]
オブジェクト内の下側に配置します。

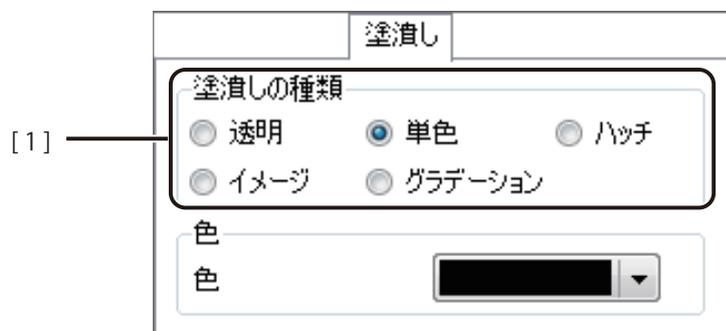


メモ

- 英数字を縦書きにする場合は、全角で入力してください。半角英数字は縦書き入力できません。

[塗潰し] プロパティを設定する

[塗潰し] プロパティでは、オブジェクトの塗潰しについて設定します。



[1] 塗潰しの種類

オブジェクトの塗潰しの種類を選択します。

[透明]

塗潰し「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。パレットで使用する色を選択します。

⇒「[単色で塗潰す \(P.226\)](#)」

[ハッチ]

線の模様を付けます。

⇒「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」

[イメージ]

画像を取り込みます。[画像ファイル指定] で使用する画像を選択します。

⇒「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」

[グラデーション]

グラデーションを設定します。

⇒「[グラデーションで塗潰す \(P.233\)](#)」

■ 単色で塗潰す

1 [塗潰し] プロパティで [単色] を選択します。



2 パレットより使用する色を選択します。

▼ をクリックすると、パレットが表示されます。

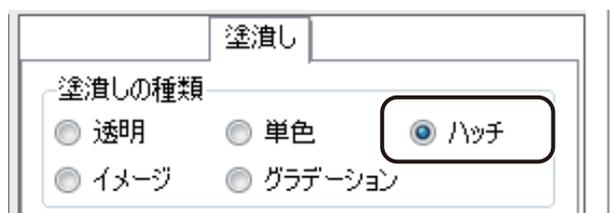


メモ

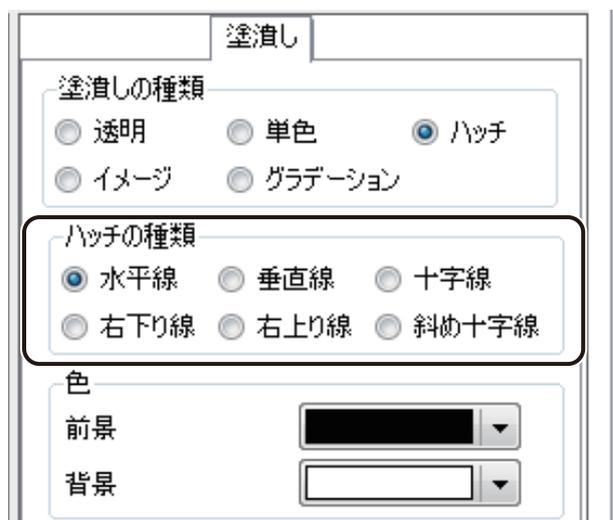
- カラーテーブルを使うときは、[カラーテーブル] をクリックして使用するカラーテーブルを選択します。カラーテーブルの設定については、「[差し込みカラーテーブルの設定 \(P.279\)](#)」をご覧ください。
- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」をご覧ください。

■ ハッチングで塗潰す

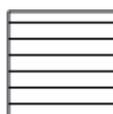
1 [塗潰し] プロパティで [ハッチ] を選択します。



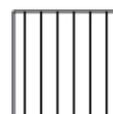
2 [ハッチの種類] を選択します。



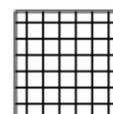
[水平線]



[垂直線]



[十字線]



[右下り線]



[右上り線]

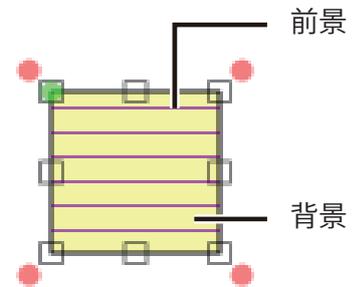


[斜め十字線]



3 前景と背景の色を選択します。

▼ をクリックすると、パレットが表示されます。



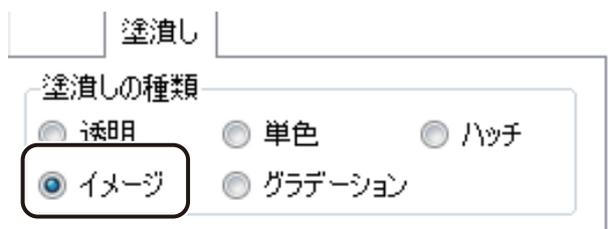
メモ

- カラーテーブルを使うときは、[カラーテーブル] をクリックして使用するカラーテーブルを選択します。カラーテーブルの設定については、「[差し込みカラーテーブルの設定 \(P.279\)](#)」をご覧ください。
- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」をご覧ください。

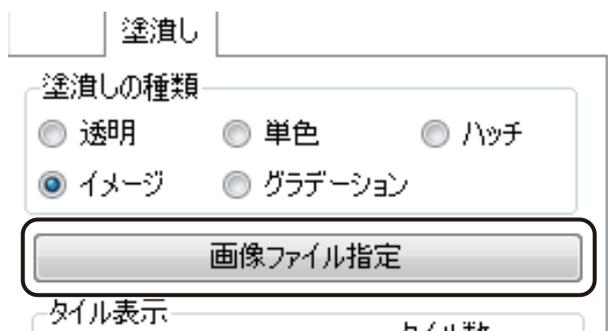
■ イメージで塗潰す

ここでは、例として四角形オブジェクト（40 mm ×30 mm）を「きゅうり.bmp」の画像で塗潰します。

- 1 [塗潰し] プロパティで [イメージ] を選択します。



- 2 [画像ファイル指定] をクリックします。

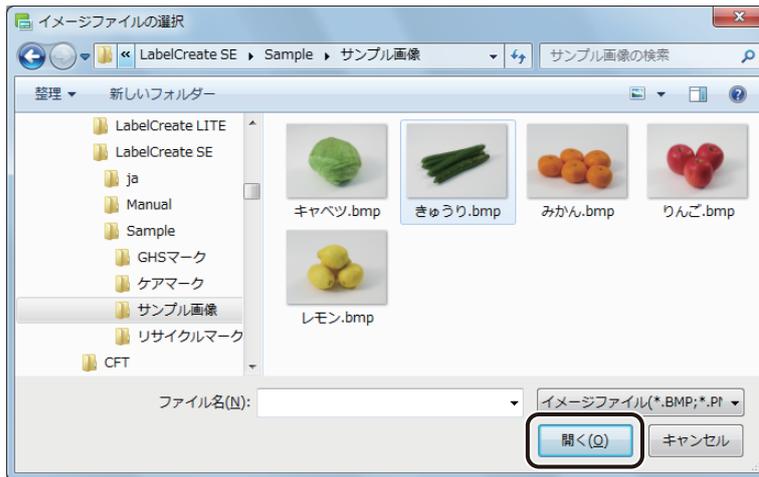


[イメージファイルの選択] ダイアログボックスが表示されます。

3 使用する画像を選択し、[開く] をクリックします。

「きゅうり.bmp」は、次の場所に保存されています。

- Windows 8 (32ビット) / Windows 7 (32ビット) / Windows Vista (32ビット) / Windows XP (32ビット) のとき
< C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample >
- Windows 8 (64ビット) / Windows 7 (64ビット) / Windows Vista (64ビット) / Windows XP (64ビット) のとき
< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample >



画像がオブジェクトの背景に取り込まれます。

メモ

- 挿入できる画像ファイルの形式は次のとおりです。

- | | | |
|------------------------|---------------------|------------------|
| • ビットマップファイル形式 (*.bmp) | • TIFF 形式 (*.tif) * | • EMF 形式 (*.emf) |
| • PNG 形式 (*.png) | • GIF 形式 (*.gif) | • WMF 形式 (*.wmf) |
| • JPEG 形式 (*.jpg) | • ICO 形式 (*.ico) | |

* TIFF 形式は、無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

- Windows XP または Windows Vista をご使用の場合、挿入する画像が CMYK の TIFF 形式または CMYK の JPEG 形式であるときは正しく色を表示することができません。RGB の TIFF 形式、RGB の JPEG 形式または別のファイル形式で挿入することをお勧めします。

4 [タイル表示] について設定します。

タイル表示を設定すると、選択した画像を X 方向および Y 方向に指定した数で表示することができます。表示方法を次の 5 種類から選択し、[タイル数] で画像の数を設定します。

タイル表示

なし 通常
 X反転 Y反転
 XY反転

タイル数

X

Y

伸縮

なし
 幅合せ
 高さ合せ
 サイズ合せ

X位置

左 中央 右

Y位置

上 中央 下

[なし]

1 枚の画像を表示します。



[通常]

画像をタイル状に並べて表示します。

(タイル数：X=2、Y=2 のとき)



[X反転]

画像をタイル状に並べたとき、X 方向に隣り合う画像を左右反転させて表示します。

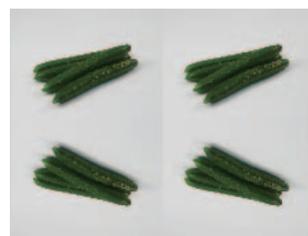
(タイル数：X=2、Y=2 のとき)



[Y反転]

画像をタイル状に並べたとき、Y 方向に隣り合う画像を上下反転させて表示します。

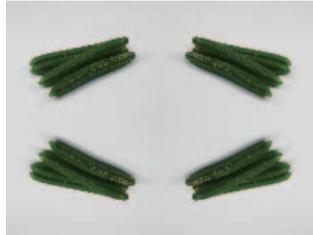
(タイル数：X=2、Y=2 のとき)



[XY反転]

画像をタイル状に並べたとき、X方向およびY方向に隣り合う画像を左右および上下反転させて表示します。

(タイル数：X=2、Y=2のとき)



[タイル数]

取り込んだ画像の分割数を設定します。

[X] (X方向) および [Y] (Y方向) に1～10を入力します。

5 [伸縮] および配置 ([X位置]、[Y位置]) について設定します。

(背景オブジェクトのとき)

タイル表示 <input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 通常 <input type="radio"/> X反転 <input type="radio"/> Y反転 <input type="radio"/> XY反転		タイル数 X <input type="text" value="1"/> Y <input type="text" value="1"/>
伸縮 <input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 幅合せ <input type="radio"/> 高さ合せ <input type="radio"/> サイズ合せ	X位置 <input type="radio"/> 左 <input checked="" type="radio"/> 中央 <input type="radio"/> 右	Y位置 <input type="radio"/> 上 <input checked="" type="radio"/> 中央 <input type="radio"/> 下

タイル表示 <input checked="" type="radio"/> なし <input type="radio"/> 通常 <input type="radio"/> X反転 <input type="radio"/> Y反転 <input type="radio"/> XY反転		タイル数 X <input type="text" value="1"/> Y <input type="text" value="1"/>
伸縮 <input checked="" type="radio"/> 自動フィット <input type="radio"/> 幅合せ <input type="radio"/> 高さ合せ <input type="radio"/> サイズ合せ	X位置 <input type="radio"/> 左 <input checked="" type="radio"/> 中央 <input type="radio"/> 右	Y位置 <input type="radio"/> 上 <input checked="" type="radio"/> 中央 <input type="radio"/> 下

[伸縮]

画像の伸縮を設定します。

[なし]

画像を取り込んだ大きさで表示します。

[幅合せ]

オブジェクトの幅に合わせて画像を調整します。

[高さ合せ]

オブジェクトの高さに合わせて画像を調整します。

[サイズ合せ]

オブジェクトの大きさに合わせて均等に画像を調整します。

第4章 オブジェクトの操作と作成

[自動フィット] (背景オブジェクトのとき)

取り込んだ画像サイズと用紙サイズに合わせて [幅合せ] または [高さ合せ] のいずれかを自動で設定します。

[X 位置]

オブジェクトに対して X 方向の画像の配置を設定します。

[左]、[中央]、[右] から選択します。

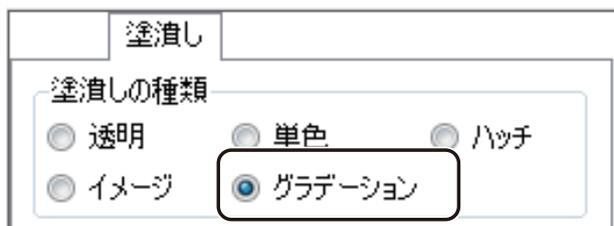
[Y 位置]

オブジェクトに対して Y 方向の画像の配置を設定します。

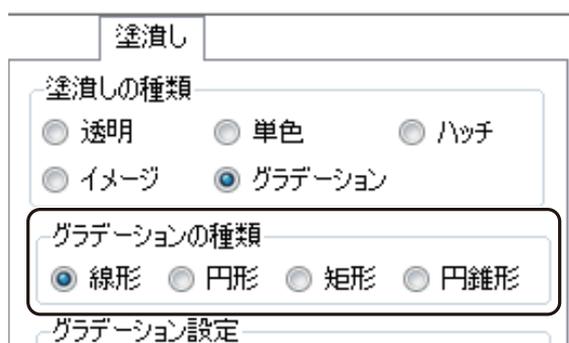
[上]、[中央]、[下] から選択します。

■ グラデーションで塗潰す

1 [塗潰し] プロパティで [グラデーション] を選択します。



2 グラデーションの種類を選択します。



[線形]



[円線]



[矩形]

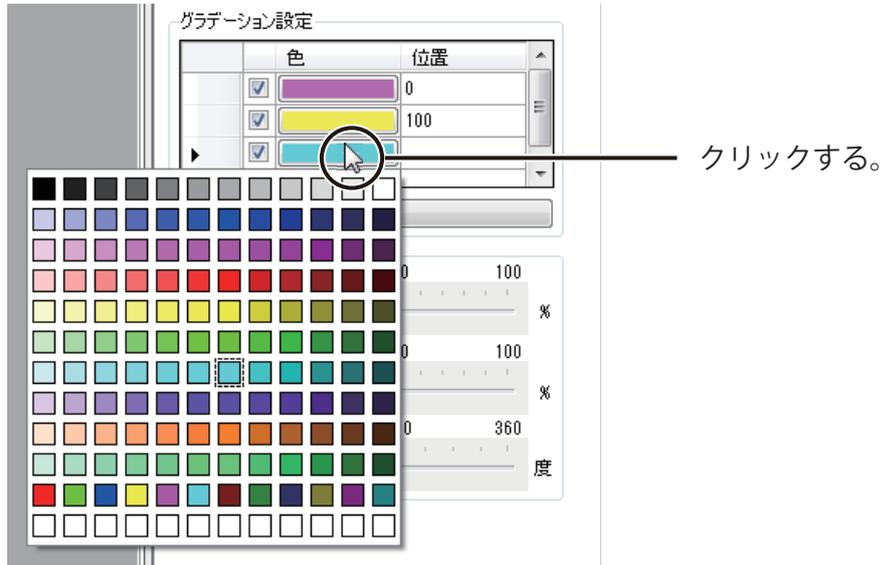


[円錐形]



3 グラデーションの色を設定します。

チェックボックスにチェックマークを入れて、グラデーションに使う色をパレットから選択します。



グラデーションの位置を設定します。グラデーションの始点の色に「0」、終点の色に「100」と入力し、中間色を設定するときは、その位置を 0～100 の値で入力します。

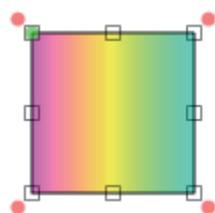


4 [設定] クリックします。



グラデーション設定した色がオブジェクトに反映されます。

(グラデーションの種類「線形」のとき)



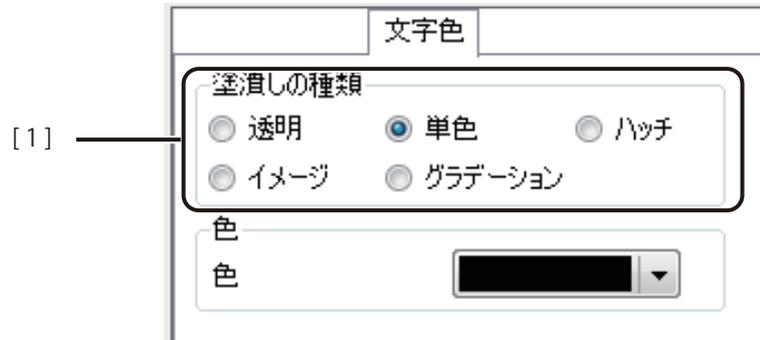
5 グラデーションの波の方向を設定します。

オブジェクトを確認しながら、スライダーを動かして設定します。



[文字色] プロパティを設定する

[文字色] プロパティでは、文字の色について設定します。



[1] 塗潰しの種類

文字色の種類を選択します。

[透明]

文字色「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。

パレットで使用する色を選択します。

[ハッチ]

線の模様を付けます (ハッチング)。

[イメージ]

画像を取り込みます。

[画像ファイル指定] で使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。

メモ

- [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.226\)](#)」をご覧ください。
- [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」をご覧ください。
- [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」をご覧ください。
- [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.233\)](#)」をご覧ください。

[輪郭] プロパティを設定する

[輪郭] プロパティでは、文字や画像の輪郭について設定します。



- [1] **実線 / 点線の種類** 輪郭の線種を設定します。
[実線]、[破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] から選択します。
- [2] **幅** 輪郭の線幅を設定します。(入力範囲：0.1 mm ～ 50.0 mm)
- [3] **形状** 輪郭の線種が [破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] のときに、破線の形状を設定します。
[平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形] から選択します。
- [4] **線の種類** 輪郭の種類を設定します。
- [透明]
輪郭「なし」に設定します。
- [単色]
色を設定します。
パレットで使用する色を選択します。
- [ハッチ]
線の模様を付けます (ハッチング)。

[イメージ]

画像を取り込みます。

[画像ファイル指定] で使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。

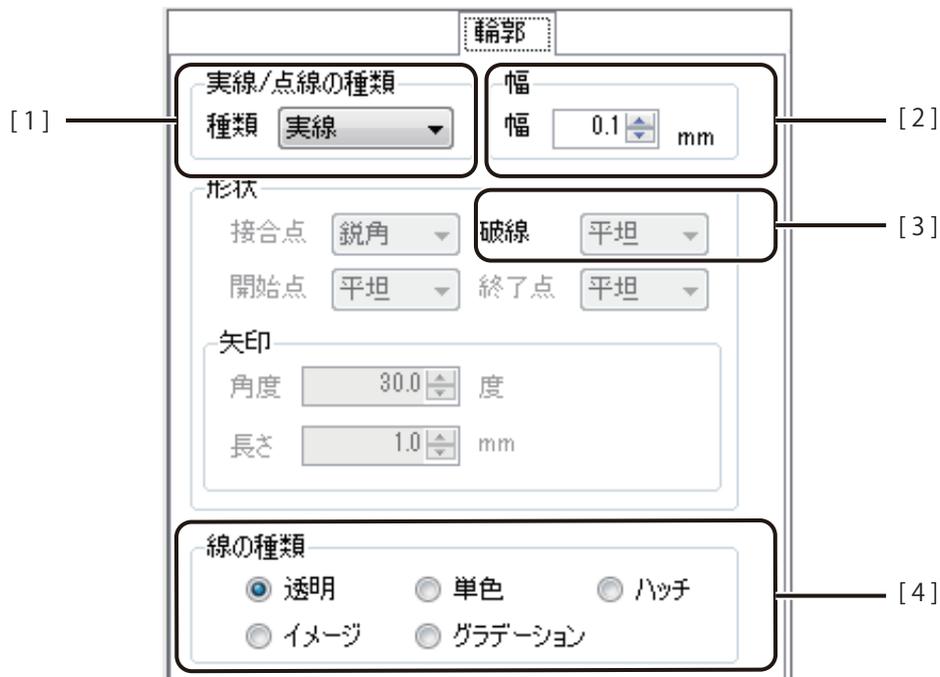


メモ

- 線の種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.226\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.233\)](#)」をご覧ください。

[枠線] プロパティを設定する

[枠線] プロパティでは、文字オブジェクト領域の枠線について設定します。



- [1] **実線 / 点線の種類** 枠線の線種を設定します。
[実線]、[破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] から選択します。
- [2] **幅** 枠線の線幅を設定します。(入力範囲：0.1 mm ~ 50.0 mm)
- [3] **形状** 枠線の線種が [破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] のときに、破線の形状を設定します。
[平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形] から選択します。
- [4] **線の種類** 枠線の種類を設定します。
- [透明]
枠線「なし」に設定します。
- [単色]
色を設定します。
パレットで使用する色を選択します。
- [ハッチ]
線の模様を付けます (ハッチング)。

[イメージ]

画像を取り込みます。

[画像ファイル指定] で使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。

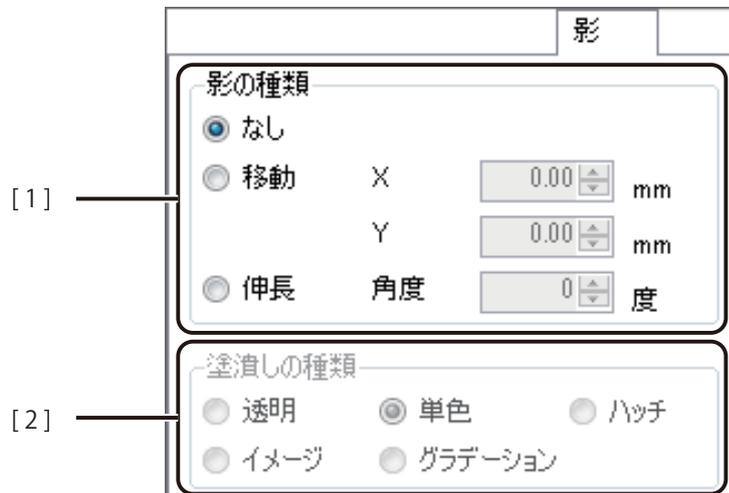


メモ

- 線の種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.226\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.233\)](#)」をご覧ください。

[影] プロパティを設定する

[影] プロパティでは、文字の影について設定します。



[1] 影の種類

影の種類を設定します。

[なし]

影「なし」に設定します。

[移動]

文字に対して伸ばす影の長さ（X方向、Y方向）を設定します。
（入力範囲：-50.00 mm～50.00 mm）

[伸長]

文字に対して伸ばす影の角度を設定します。
（入力範囲：-70度～70度）

[2] 塗潰しの種類

影の塗潰しの種類を設定します。

[透明]

塗潰し「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。
パレットで使用する色を選択します。

[ハッチ]

線の模様を付けます（ハッチング）。

[イメージ]

画像を取り込みます。
[画像ファイル指定] で使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。



メモ

- 塗潰しの種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.226\)](#)」をご覧ください。
- 塗潰しの種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」をご覧ください。
- 塗潰しの種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」をご覧ください。
- 塗潰しの種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.233\)](#)」をご覧ください。

[ブロック] プロパティを設定する

[ブロック] プロパティでは、オブジェクトの位置や大きさ、および操作制御について設定します。

The image shows a 'Block' property dialog box with the following sections and callouts:

- [1] 位置: 左 2.00 mm, 上 2.00 mm
- [2] サイズ: 幅 10.00 mm, 高さ 10.00 mm
- [3] 回転角度: 角度 0 度
- [4] 傾斜角度: X方向 0.0 度, Y方向 0.0 度
- [5] 反転: 水平, 垂直
- [6] 対象: 印刷対象, 表示対象
- [7] LITE用編集可能項目

- [1] 位置 用紙に対するオブジェクトの位置を 0.01 mm単位で入力します。
- [2] サイズ オブジェクトの大きさ（幅、高さ）を 0.01 mm単位で入力します。
- [3] 回転角度 オブジェクトの回転角度を設定します。0 度、90 度、180 度、270 度から選択します。
- [4] 傾斜角度 オブジェクトの傾き（X 方向、Y 方向）を設定します。（入力範囲：-75 度～75 度）
バーコードオブジェクト、GS1 データバーオブジェクト、および二次元コードオブジェクトのときは表示されません。
- [5] 反転 オブジェクトを [水平] または [垂直] 方向へ反転させます。
- [6] 対象 選択しているオブジェクトの印刷および表示について設定します。
初期設定は、すべてチェックマークが入った状態になっています。

[印刷対象]

オブジェクトを印刷する / しないを切り替えます。

[表示対象]

オブジェクトの表示 / 非表示を切り替えます。

- [7] LITE 用編集可能項目 チェックマークを入れると、選択している文字オブジェクトが「Label Create LITE」で編集可能となります。
データ種類「固定」の文字オブジェクトを選択したときに表示されます。

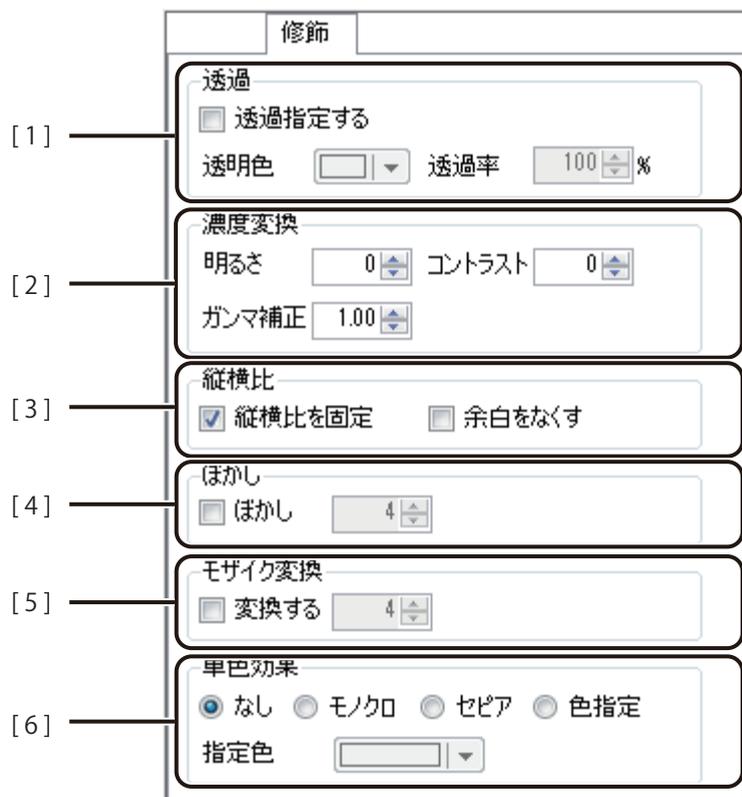


メモ

- 背景オブジェクトのブロックプロパティについては、「[背景を設定する \(P.218\)](#)」をご覧ください。

[修飾] プロパティを設定する

[修飾] プロパティでは、画像の効果について設定します。



- [1] 透過 画像に透過効果を適用します。
「透過指定する」にチェックマークを入れたときに設定できます。

[透過色]

透過させる色を指定します。

[透過率]

画像の透過色の割合を指定します。(入力範囲：0%～100%)

- [2] 濃度変換 画像の画質に関する設定をします。

[明るさ]

画像の明るさを調整します。(入力範囲：-100～100)

[コントラスト]

画像のコントラストを調整します。(入力範囲：-100～100)

[ガンマ補正]

画像のガンマ値を補正します。(入力範囲：0.01～5.00)

- [3] 縦横比を固定 縦横と横の比率が変わることなく、画像を拡大/縮小したいときに設定します。
[縦横比を固定]のチェックマークを外すと[余白をなくす]のチェックマークも同時に外れます。
- [縦横比を固定]
チェックマークを入れると、オブジェクトの枠の拡大/縮小に合わせて、画像を縦横比固定で表示します。
- [余白をなくす]
画像の大きさにオブジェクトの枠を合わせるように設定して、画像とオブジェクト枠の余白をなくします。
チェックマークを入れると、画像の高さを基準としてサイズを調整します。固定オブジェクトのときに設定できます。
- [4] ぼかし 画像にぼかし効果を適用します。(入力範囲：1～10)
「変換する」にチェックマークを入れたときに設定できます。
- [5] モザイク変換 画像にモザイク効果を適用します。(入力範囲：2～32)
「変換する」にチェックマークを入れたときに設定できます。
- [6] 単色効果 画像に単色効果を適用します。
- [なし]
単色効果を適用しません。
- [モノクロ]
モノクロ色に変換します。
- [セピア]
セピア色に変換します。
- [色指定]
指定した色相、彩度に変換します。
[指定色]のパレットより色を選択します。

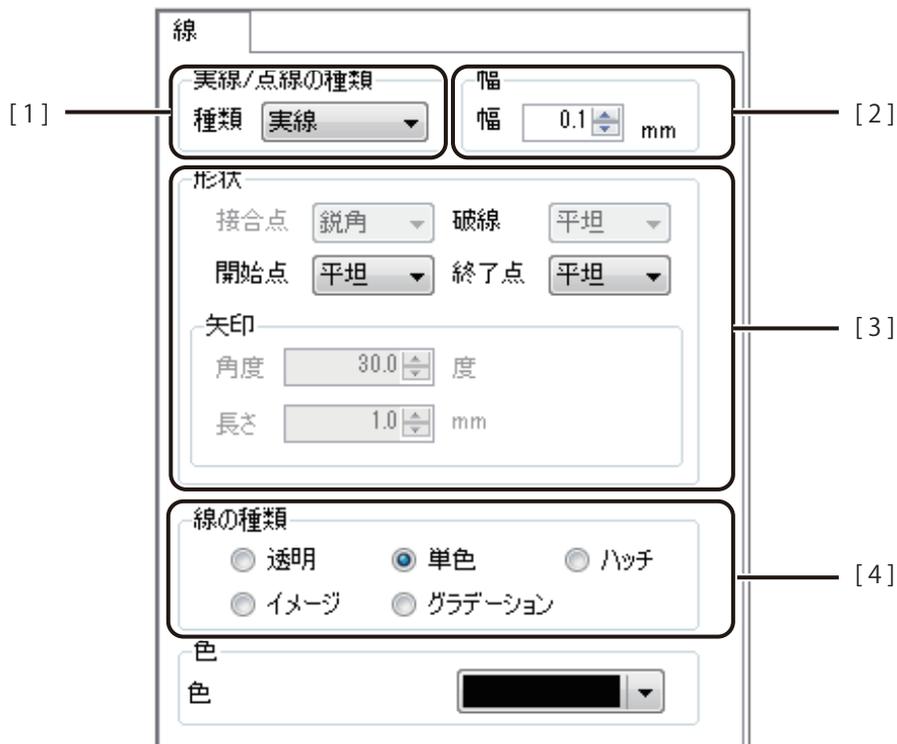


メモ

- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集]をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」をご覧ください。

[線] プロパティを設定する

[線] プロパティでは、線の種類や色を設定します。



- [1] 実線 / 点線の種類 線の種類を設定します。
[実線]、[破線]、[一点鎖線]、[二点鎖線]、[点線] から選択します。
- [2] 幅 線の幅を指定します。(入力範囲：0.1 mm ～ 50.0 mm)
- [3] 形状 線の形状を設定します。
- [接合点]
線の端と端が重なる点の形状を設定します。
[鋭角]、[面取り]、[角丸] から選択します。
- [破線]
破線の形状を設定します。
[平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形] から選択します。
- [開始点]
線の開始点の形状を設定します。
[平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形]、[矢印] (線オブジェクトのみ) から選択します。

[終了点]

線の終了点の形状を設定します。

[平坦]、[丸み]、[四角形]、[三角形]、[矢印]（線オブジェクトのみ）から選択します。

[矢印]

[開始点] または [終了点] で [矢印] を選択したときに設定します。

矢印の [角度] および [長さ] を入力します。

[4] 線の種類

線の種類を設定します。

[透明]

色「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。

パレットで使用する色を選択します。

[ハッチ]

線の模様を付けます（ハッチング）。

[イメージ]

画像を取り込みます。

[画像ファイル指定] で使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。

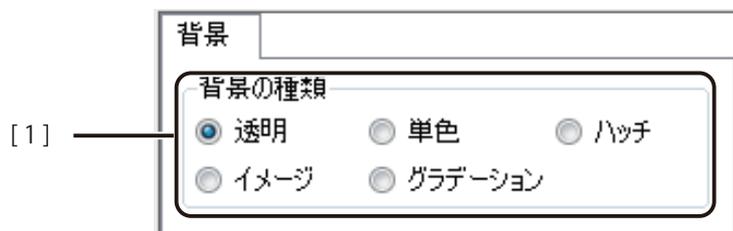


メモ

- 線の種類 [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.226\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」をご覧ください。
- 線の種類 [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.233\)](#)」をご覧ください。

[背景] プロパティを設定する

[背景] プロパティでは、デザイン全体の背景やオブジェクトの背景について設定します。



[1] 背景の種類

背景の種類を設定します。

[透明]

背景「なし」に設定します。

[単色]

色を設定します。

パレットで使用する色を選択します。

[ハッチ]

線の模様を付けます (ハッチング)。

[イメージ]

画像を取り込みます。

[画像ファイル指定] で使用する画像を選択します。

[グラデーション]

グラデーションを設定します。

メモ

- [単色] の設定については、「[単色で塗潰す \(P.226\)](#)」をご覧ください。
- [ハッチ] の設定については、「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」をご覧ください。
- [イメージ] の設定については、「[イメージで塗潰す \(P.229\)](#)」をご覧ください。
- [グラデーション] の設定については、「[グラデーションで塗潰す \(P.233\)](#)」をご覧ください。

5

データベース機能の設定

データベースを活用したラベル作成について説明します。

データベース機能の操作
外部データベースと内部データベース
差し込みカラーテーブルの設定

データベース機能の操作

本ソフトウェアのデータベース機能の操作について説明します。

本ソフトウェアのデータベース機能について

本ソフトウェアでは、Microsoft Office Excel や Microsoft Office Access などで作成したデータベースを参照（または読み込み）、文字や画像など可変するオブジェクトにデータベースの情報を反映して表示させることができます。本機能を活用すると多種多様なラベル印刷を簡単に行うことができます。

データベースの情報を反映することができるオブジェクトは次のようになっています。

- [文字] オブジェクト
- [画像] オブジェクト
- [バーコード] オブジェクト
- [GS1 データバー] オブジェクト
- [二次元コード] オブジェクト

データベースを参照（またはインポート）する

外部データベースのときは、参照するデータベースの指定を行い、内部データベースのときは、指定したデータベースの内容を読み込みます。

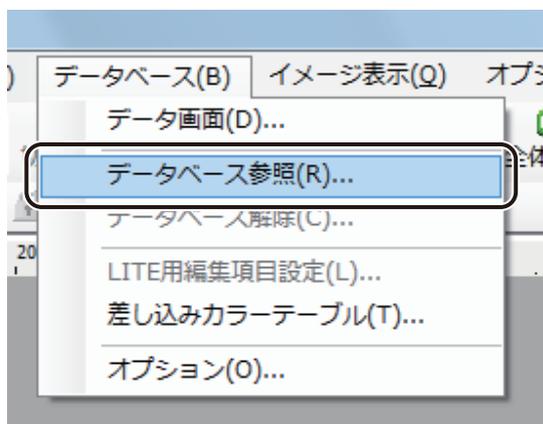
メモ

- 指定できるファイル形式は次のとおりです。
 - ・ Microsoft Excel ファイル形式 (*.xls、*.xlsx)
 - ・ Microsoft Access データベースファイル (*.mdb、*.accdb)
 - ・ テキスト形式 (*.txt、*.csv)

*¹ Microsoft Access データベースに OLE オブジェクト型で挿入したファイルは、ビットマップ形式ファイル (.bmp) のみが参照（またはインポート）可能
- 指定できるファイル形式であってもパスワードが設定されている文書は読み込めません。あらかじめパスワードを解除しておいてください。
- 画像ファイルを差し込むときは、データベースに差し込みたい画像ファイルの絶対パス（またはデザインファイル (*.ISD) からの相対パス）を入力します。入力例は、「[データベースを指定する \(P.84\)](#)」をご覧ください。
- 内部データベースとしてインポートするデータベースが Microsoft Office Access のとき、OLE オブジェクト型の画像ファイル（ビットマップ形式ファイル (.bmp) のみ）を本ソフトウェアのデータベースに取り込むことは可能ですが、本ソフトウェアからは画像の差し替えができません。
- 内部データベースとしてインポートするとき、データベースに文字列と数値が混在している列がある場合は、その列を正しく読み込めないことがあります。
- 外部データベースおよび内部データベースについては、「[外部データベースと内部データベース \(P.262\)](#)」をご覧ください。
- 直接内部データベースを作成する場合は、「[内部データベースを編集する \(P.267\)](#)」をご覧ください。

1 データベースの形式に合わせて、次のように操作します。

- 外部データベースのとき
[データベース] メニューの [データベース参照] をクリックします。



[データベース参照] ダイアログボックスが表示されます。

- 内部データベースのとき
[データベース] メニューの [データベースインポート] をクリックします。

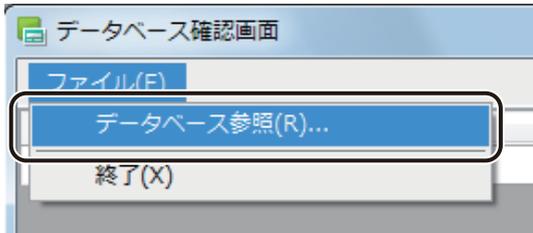


[データベースインポート] ダイアログボックスが表示されます。

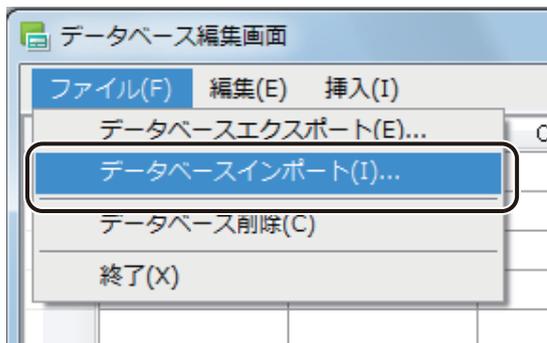


メモ

- [データベース参照] は、「データベース確認画面」のメニューから選択することもできます。
(外部データベースのとき)

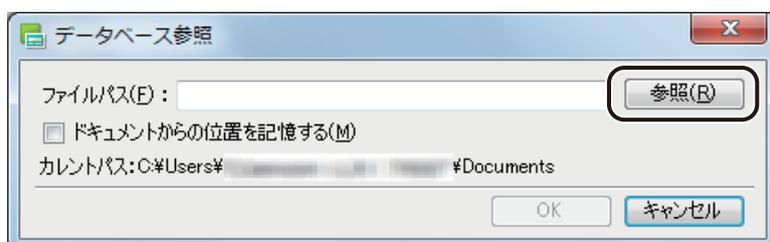


- [データベースインポート] は、「データベース編集画面」のメニューから選択することもできます。
(内部データベースのとき)

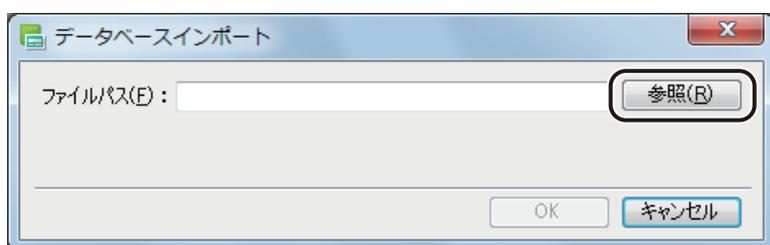


2 [参照] をクリックします。

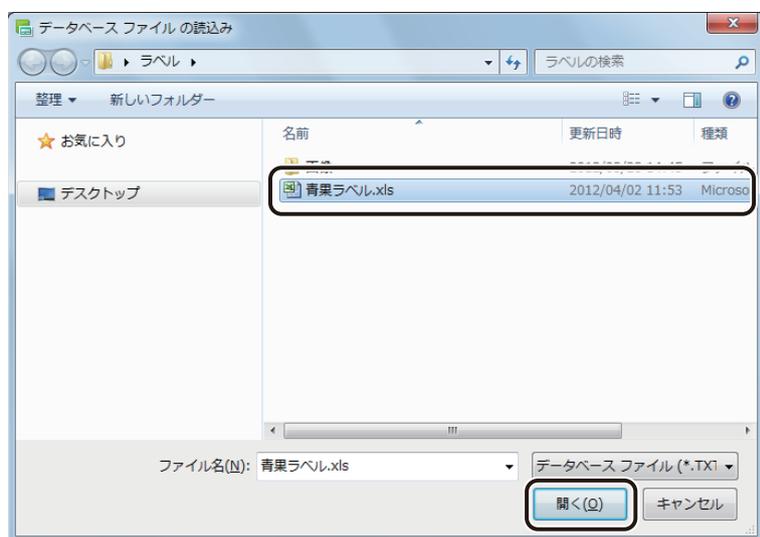
- 外部データベースのとき



- 内部データベースのとき

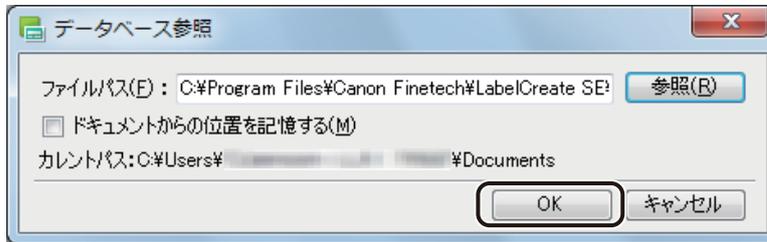


3 データベースファイルを選択し、[開く] をクリックします。



4 [OK] をクリックします。

- 外部データベースのとき



- 内部データベースのとき



メモ

- 外部データベースを参照するとき、「ドキュメントからの位置を記憶する」にチェックマークを入れておくと、「カレントパス」からの相対パス^{*1}を記憶します。チェックマークなしのときは、データベースファイルの絶対パス^{*2}を記憶します。

*1 相対パス

「カレントパス」からの位置を記憶します。

例) (カレントパスが「青果ラベル.xls」と同一階層のとき) 青果ラベル.xls

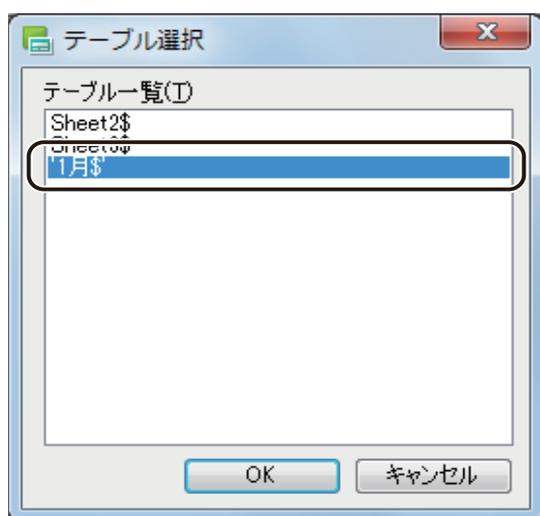
*2 絶対パス

ファイルパスをすべて記憶します。

例) C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample\青果ラベル.xls

5 テーブルを指定します。

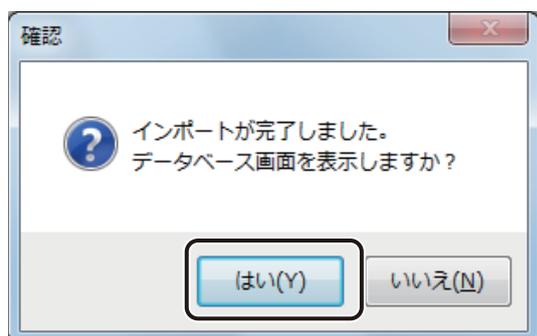
【テーブル一覧】には、参照したデータベースのシート名、またはテーブル名が表示されます。



6 [OK] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

7 データベース画面を表示したいときは、[はい] をクリックします。



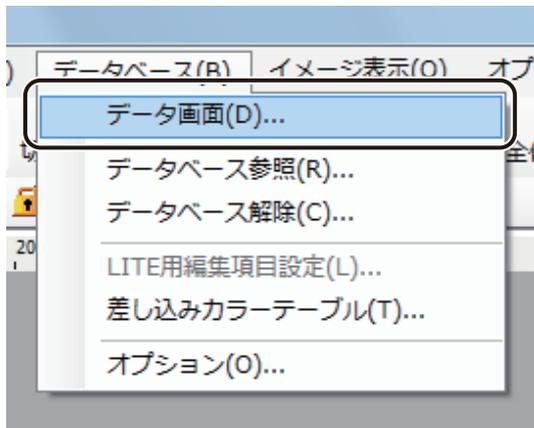
[はい] をクリックすると、データベース画面が表示されます。

8 内容を確認したら、 (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

 メモ

● データベース画面は、[データベース] メニューの [データ画面] をクリックして表示します。

・外部データベースのとき



・内部データベースのとき

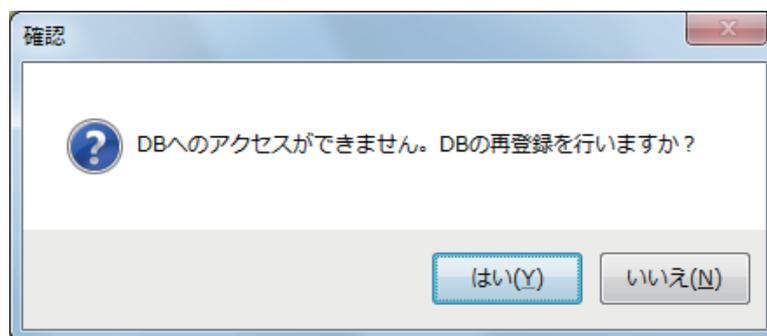


表示したデータをソートしたいときは、キーボードの [Alt] キーを押しながら、ソート対象の項目の見出しをクリックします。



[Alt] キー + クリックする。

● 外部データベースを参照しているデザインデータを開くとき、データベースのファイル位置が確認できなかった場合は次のようなメッセージが表示されます。[はい] をクリックしてデータベースを再設定してください。



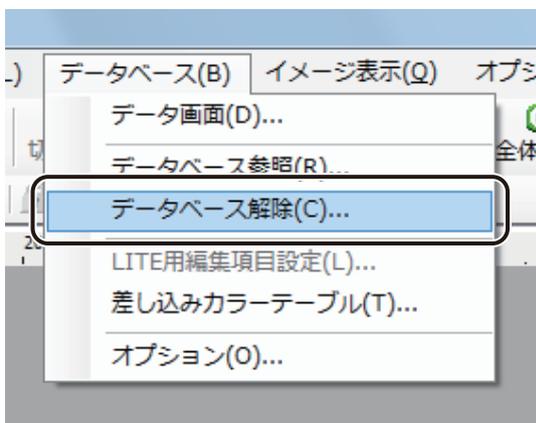
データベースを解除（または削除）する

外部データベースのときは、参照しているデータベースを解除し、内部データベースのときは、読み込んだデータベースを削除します。

1 データベースの形式に合わせて、次のように操作します。

- 外部データベースのとき

[データベース] メニューの [データベース解除] をクリックします。

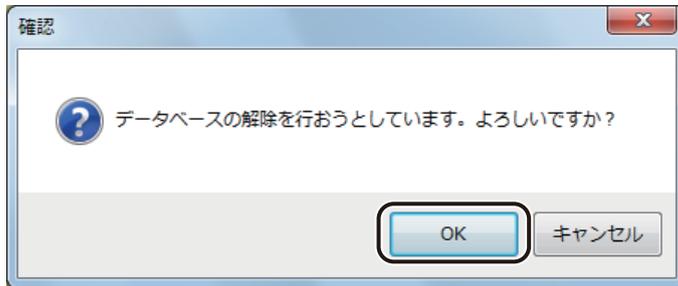


- 内部データベースのとき

[データベース] メニューの [データベース削除] をクリックします。



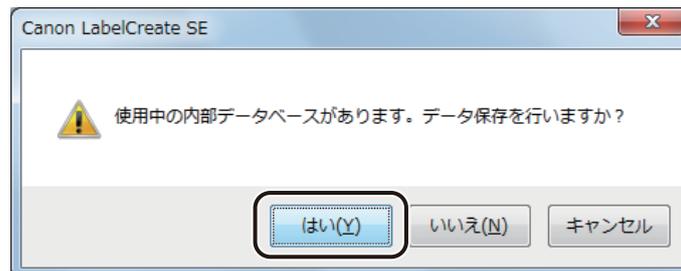
2 [OK] をクリックします。



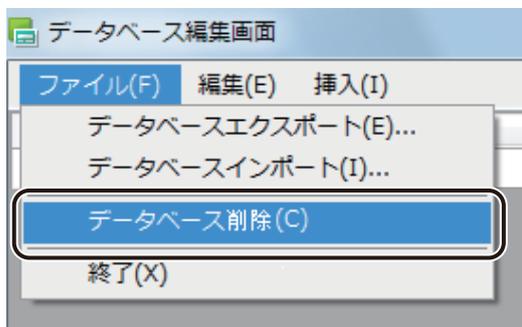
データベースが解除（または削除）されます。

メモ

- 内部データベースのとき、[データベース削除] を行うと、次のようなメッセージが表示されます。データベースの情報を保存するときは、[はい] をクリックしてください。データベースの保存については、「[内部データベースをエクスポートする \(P.277\)](#)」をご覧ください。



- 内部データベースのとき、[データベース削除] は、「データベース編集画面」のメニューから選択することもできます。
(内部データベースのとき)



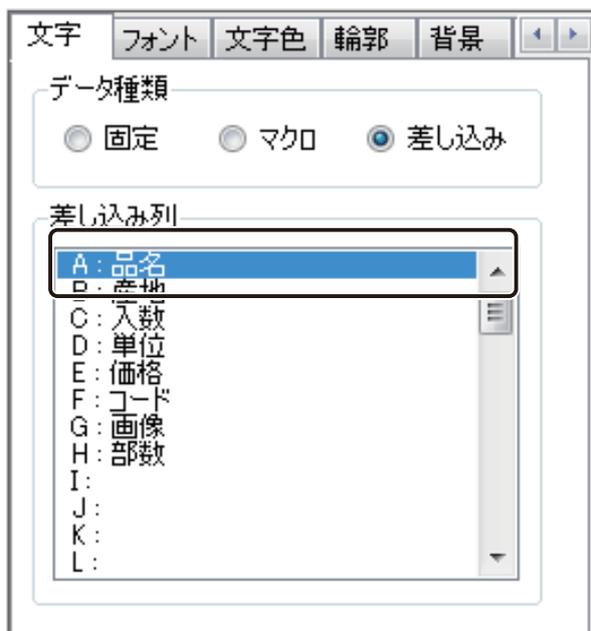
差し込み形式に設定する

オブジェクトにデータベースの項目（フィールド）を差し込み形式で設定します。

- 1 データベースを参照（またはインポート）します。
⇒「データベースを参照（またはインポート）する（P.252）」
- 2 データベースの項目を設定するオブジェクトを選択します。
- 3 [データ種類] で [差し込み] を選択します。



- 4 [差し込み列] からオブジェクトに割り当てる項目を選択します。



メモ

- 項目の見出し（列タイトル）が入力されていないデータは [差し込み] が設定できません。

外部データベースと内部データベース

データベース形式の設定とそれぞれのデータベースの編集のしかたについて説明します。

「外部データベース」と「内部データベース」について

本ソフトウェアは、データベースの形式として、「外部データベース」と「内部データベース」を選択できるようになっています。

<外部データベース>

「Microsoft Office Excel」や「Microsoft Office Access」などで作成した既存のデータベースファイルから内容を参照します。

既存のデータベースファイルを参照してラベル作成に利用するため、ラベル作成用として別のデータベースを管理する必要がありません。そのため、ひとつのデータベースファイルで「データ管理」と「ラベル作成」の2つの目的を兼ねることができます。

<内部データベース>

「Microsoft Office Excel」や「Microsoft Office Access」などで作成した既存のデータベースファイルの内容を本ソフトウェア内に読み込みます（インポート）。

内部データベースは、デザインファイル内に保持されるデータベースのため、本ソフトウェア上で内容の編集が可能です。ラベル作成専用のデータベースとして管理する場合に選択します。



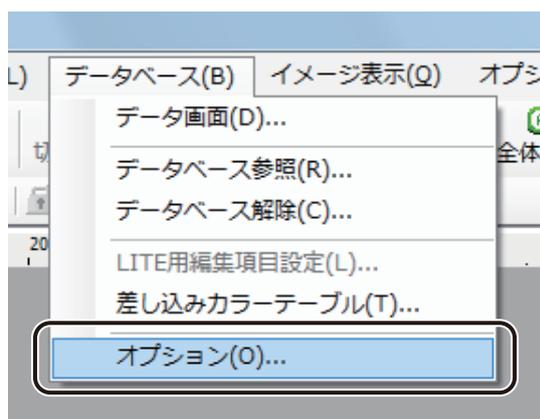
メモ

- 外部データベース形式を設定しているデザインファイルは、内部データベース形式を設定しているデザインファイルに比べて、ファイルを開くときに時間がかかります。

データベースの形式を設定する

データベースの形式を切り替えます。初期設定は、「外部データベース」となっています。

- 1 [データベース] メニューの [オプション] をクリックします。



- 2 データベースの形式を選択します。

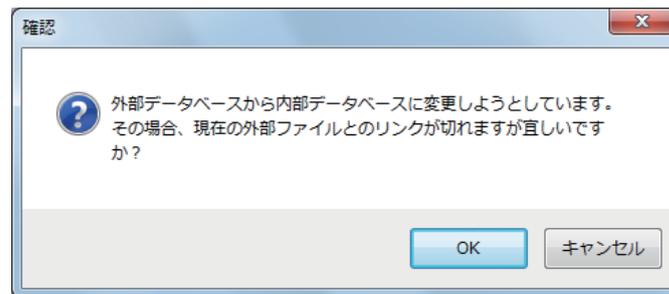


- 3 [OK] をクリックします。

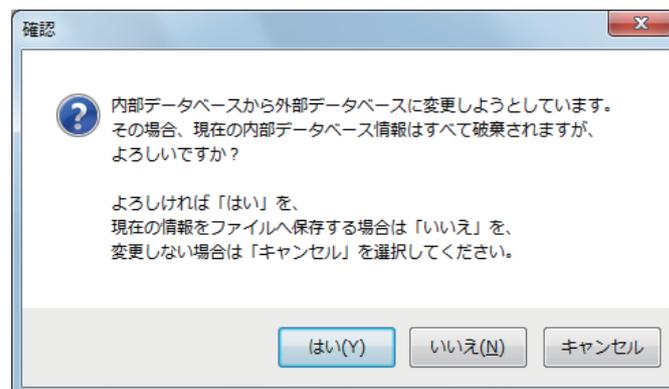
 メモ

- データベースを参照している（または読み込んだ）状態で形式の変更を行うと、次のようなメッセージが表示されます。表示されたメッセージの指示にしたがって、操作してください。

- ・「外部データベース」→「内部データベース」への変更



- ・「内部データベース」→「外部データベース」への変更



LITE 用編集項目を設定する

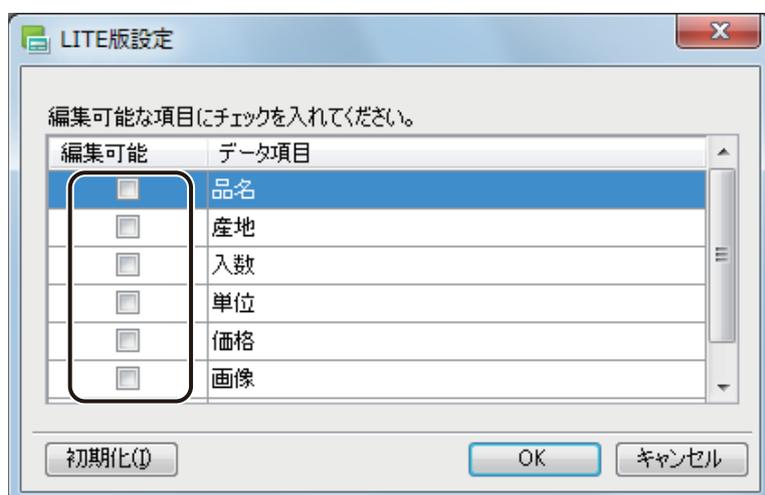
内部データベースを「LabelCreate LITE」でも編集できるように設定することができます。

- 1 [データベース] メニューの [LITE 用編集項目設定] をクリックします。



[LITE 版設定] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 編集を許可する項目にチェックマークを入れます。



メモ

- [初期化] をクリックすると、チェックマークをすべて外した状態にします。

- 3 [OK] をクリックします。



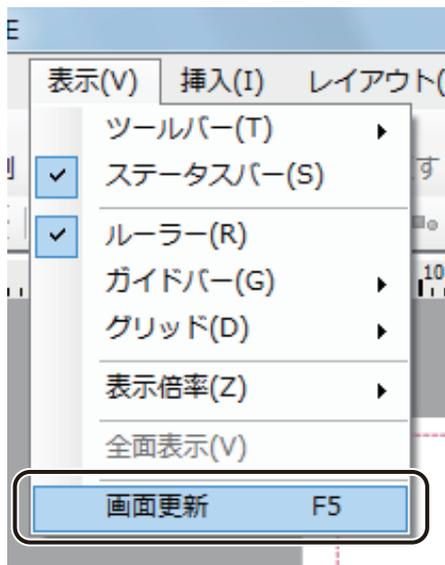
メモ

- 「Label Create LITE」の操作方法については、「[LabelCreate LITEの使いかた \(P.358\)](#)」をご覧ください。

外部データベースを編集する

外部データベース形式で設定したデータベースの編集について説明します。

- 1 参照元のデータベースを編集します。
- 2 [表示] メニューの [画面更新] をクリックします。
または、キーボードの「F5」をクリックします。



メモ

- デザインファイルを開いている状態で参照元のデータベースの内容を変更したときは、再度ファイルを開いたときに自動で更新が行われます。

内部データベースを編集する

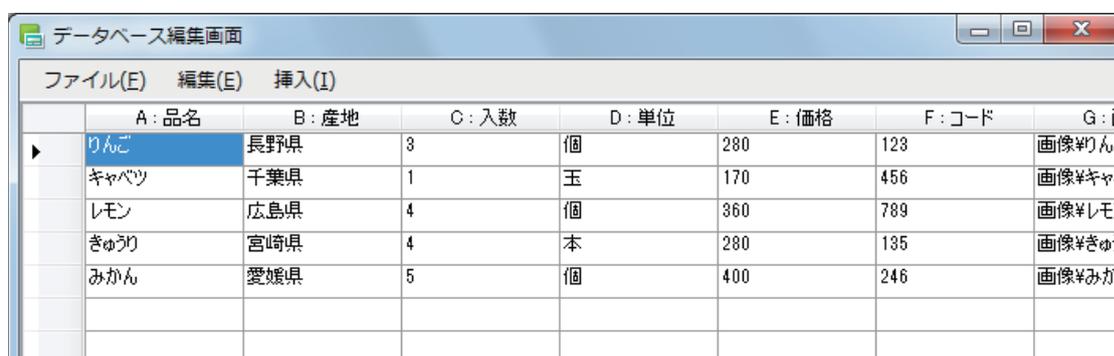
内部データベース形式で設定したデータベースの編集について説明します。

- 1 [データベース] メニューの [データ画面] をクリックします。



[データベース編集画面] ダイアログボックスが表示されます。

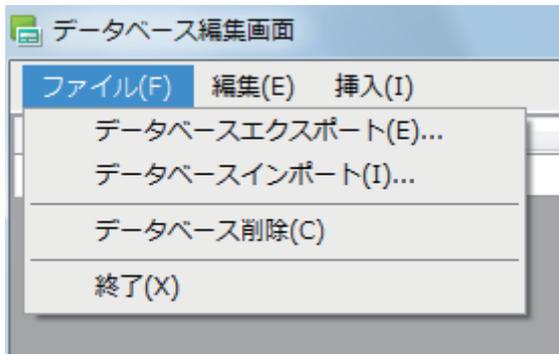
- 2 データを編集します。



The screenshot shows a dialog box titled 'データベース編集画面' (Database Edit Screen). It contains a table with columns labeled A through G. The table data is as follows:

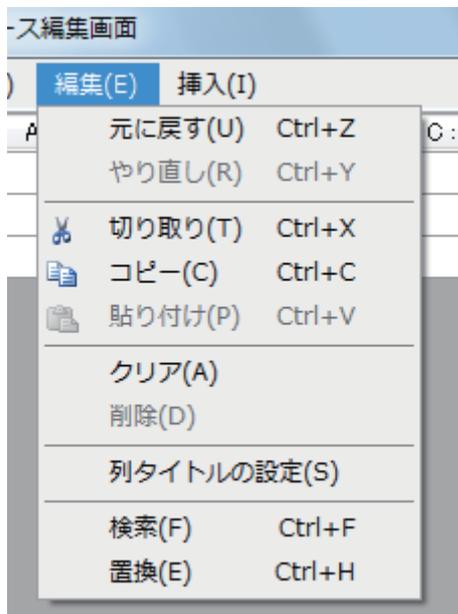
	A: 品名	B: 産地	C: 入数	D: 単位	E: 価格	F: コード	G: i
▶	りんご	長野県	3	個	280	123	画像りん
	キャベツ	千葉県	1	玉	170	456	画像キャ
	レモン	広島県	4	個	360	789	画像レモ
	きゅうり	宮崎県	4	本	280	135	画像きゅ
	みかん	愛媛県	5	個	400	246	画像みか

● [ファイル] メニュー



[データベースエクスポート]	データベースを任意のファイル形式で保存します。 ⇒「内部データベースをエクスポートする (P.277)」
[データベースインポート]	データベースを読み込みます。 ⇒「データベースを参照 (またはインポート) する (P.252)」
[データベース削除]	データベースを削除します。 ⇒「データベースを解除 (または削除) する (P.259)」
[終了]	ダイアログボックスを閉じます。

● [編集] メニュー



[元に戻す]	直前に実行した操作を無効とします。
[やり直し]	「元に戻す」で無効にした操作を、再び有効にします。
[切り取り]	選択しているセルを切り取ります。
[コピー]	選択しているセルをコピーをします。
[貼り付け]	コピーしたセルを貼り付けます。
[クリア]	選択しているセルの内容を削除します。クリアしたセルは、空白セルとなります。
[削除]	選択している行または列を削除します。行または列を削除すると、自動的に上方向または左方向にシフトします。
[列タイトルの設定]	列のタイトルを設定します。 ⇒ 「列タイトルを設定する (P.271)」
[検索]	データベースから任意の文字列を検索します。 ⇒ 「文字列を検索する (P.272)」
[置換]	データベースから任意の文字列を検索し、指定した文字列に置換します。 ⇒ 「文字列を置換する (P.274)」

● [挿入] メニュー



- | | |
|------|--|
| [セル] | セルを挿入します。
[セル挿入方法] ダイアログ ボックスが表示されますので、周辺のセルをシフトする方向を選択します。 |
| [行] | 行を挿入します。 |
| [列] | 列を挿入します。 |

3  (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

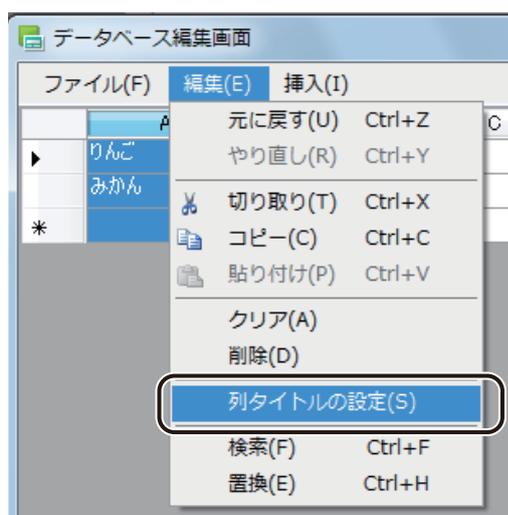
または、[ファイル] メニューの [終了] をクリックします。

■ 列タイトルを設定する

1 設定する項目の見出しをクリックします。

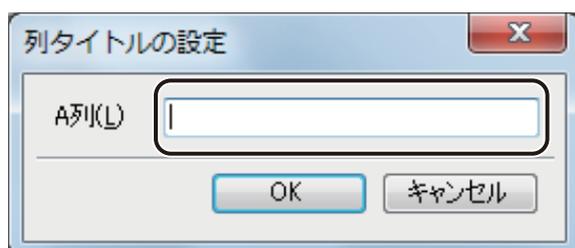
選択した項目が選ばれます。

2 [編集] メニューの [列タイトルの設定] をクリックします。



[列タイトルの設定] ダイアログボックスが表示されます。

3 列タイトル名を入力します。



4 [OK] をクリックします。

メモ

- 列タイトルの設定は、次のいずれかでも設定できます。
 - ・ 右クリックで表示されるメニューから選ぶ。
 - ・ 項目の見出しをダブルクリックして設定する。
- 列タイトルが入力されていないデータは「差し込み」が設定できません。

■ 文字列を検索する

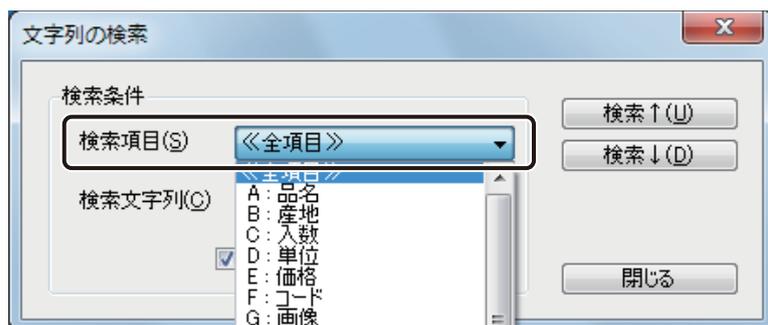
- 1 [編集] メニューの [検索] をクリックします。



[文字列の検索] ダイアログボックスが表示されます。

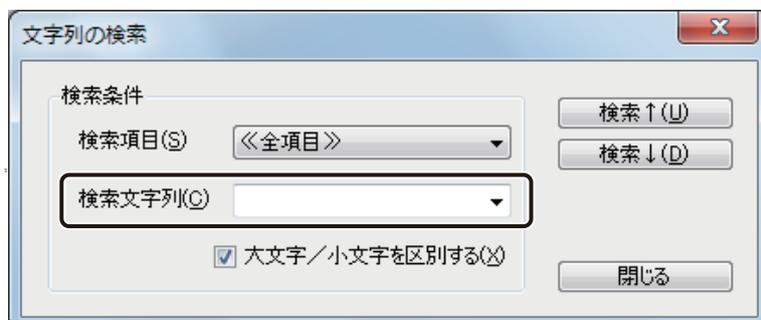
- 2 検索対象の項目を指定します。

データベース全体を検索するときは、「全項目」を、ある特定の項目内を検索するときは、対象の項目を指定します。



3 [検索文字列] を入力します。

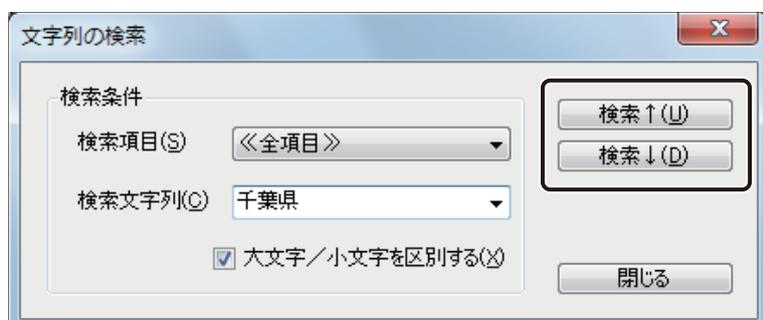
大文字と小文字が一致するデータだけを検索するときは、[大文字 / 小文字を区別する] にチェックマークを入れます。



メモ

- 入力ボックスのドロップダウンリストから検索文字列の履歴を選択することもできます。

4 [検索↑] または [検索↓] をクリックします。



[検索↑]

現在選択されているセル（青色セル）から上のレコードを検索します。

[検索↓]

現在選択されているセル（青色セル）から下のレコードを検索します。

5 [閉じる] をクリックします。

■ 文字列を置換する

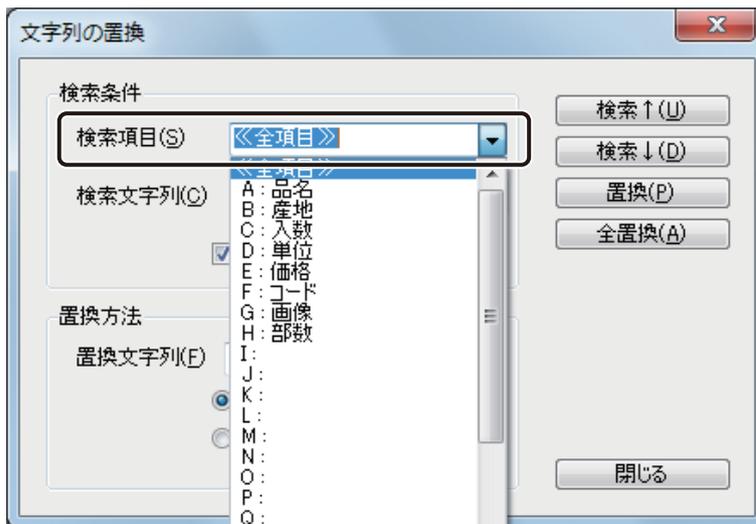
1 [編集] メニューの [置換] をクリックします。



[文字列の置換] ダイアログボックスが表示されます。

2 検索対象の項目を指定します。

データベース全体を検索するときは、「全項目」を、ある特定の項目内を検索するときは、対象の項目を指定します。



3 [検索文字列] を入力します。

文字列の置換

検索条件

検索項目(S) <<全項目>>

検索文字列(C) |

大文字/小文字を区別する(X)

置換方法

置換文字列(E)

部分文字列を置き換える(J)

セルを置き換える(H)

検索↑(U)

検索↓(D)

置換(P)

全置換(A)

閉じる

 メモ

- 大文字と小文字が一致するデータだけを検索するときは、[大文字/小文字を区別する] にチェックマークを入れます。
- 入力ボックスのドロップダウンリストから検索文字列の履歴を選択することもできます。

4 [置換文字列] を入力し、文字列の置換形式を選択します。

文字列の置換

検索条件

検索項目(S) <<全項目>>

検索文字列(C) 千葉県

大文字/小文字を区別する(X)

置換方法

置換文字列(E)

部分文字列を置き換える(J)

セルを置き換える(H)

検索↑(U)

検索↓(D)

置換(P)

全置換(A)

閉じる

[部分文字列を置き換える]

一致する部分の文字列だけを置換します。

[セルを置き換える]

検索文字列を含むセルのデータを置換文字列で置換します。



メモ

- 入力ボックスのドロップダウンリストから置換文字列の履歴を選択することもできます。

5 [検索↑] または [検索↓] をクリックします。



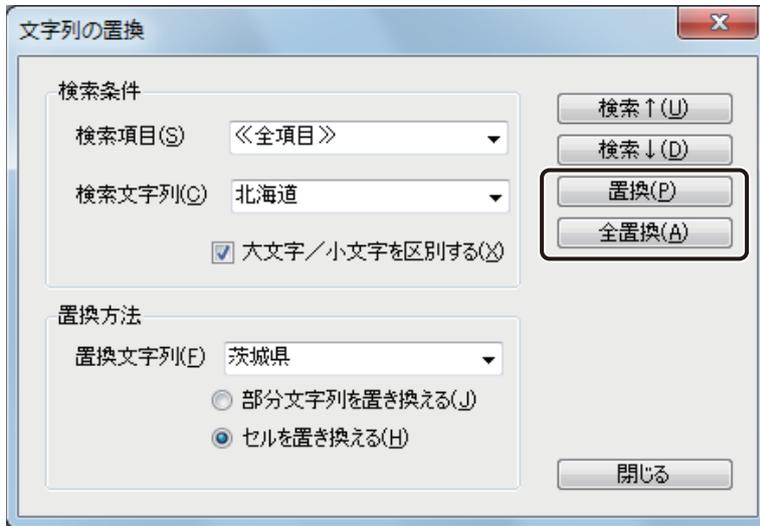
[検索↑]

現在選択されているセル（青色セル）から上のレコードを検索します。

[検索↓]

現在選択されているセル（青色セル）から下のレコードを検索します。

6 [置換] または [全置換] をクリックします。



[置換]

現在検索した文字列を置換します。

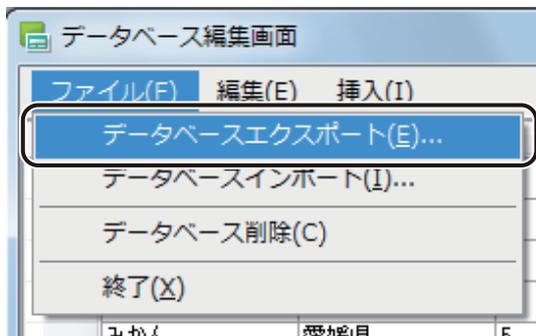
[全置換]

検索文字列と一致するデータベース内の文字列をすべて置換します。全置換すると、置換した数を示すメッセージが表示されます。

7 [閉じる] をクリックします。

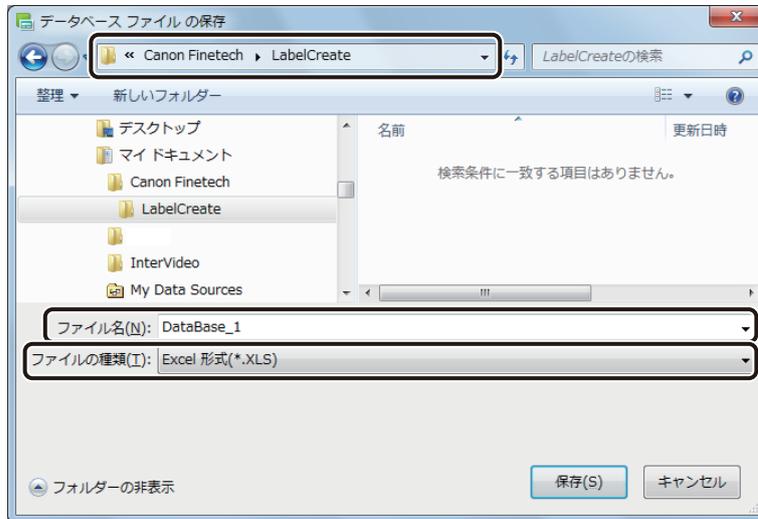
■ 内部データベースをエクスポートする

1 [ファイル] メニューの [データベースエクスポート] をクリックします。



[データベースファイルの保存] ダイアログボックスが表示されます。

2 [保存場所]、[ファイル名] および [ファイルの種類] を指定します。



メモ

- 保存できるファイル形式は次のとおりです。
 - ・ TEXT 形式 (*.txt)
 - ・ CSV (カンマ区切り) 形式 (*.csv)
 - ・ Excel 97-2003 ブック 形式 (*.xls)

3 [保存] をクリックします。



メモ

- エクスポートした内部データベースのインポート操作については、「[データベースを参照 \(またはインポート\) する \(P.252\)](#)」をご覧ください。
- Microsoft Office Excel 上でエクスポートしたデータベース (*.xls) のレコード (行) を削除する場合は、右クリックで表示されるメニューから [削除] を選択してください。
[Delete] キーを押してレコードを削除した場合、セル内のデータはクリアされますが行自体は削除されていないため、データベースをインポートしたときに空欄のレコード (行) が読み込まれます。

差し込みカラーテーブルの設定

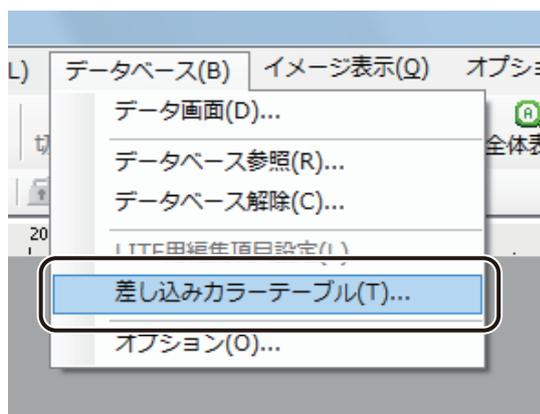
差し込みカラーテーブルの設定について説明します。

差し込みカラーテーブルを使うと、オブジェクトの線、塗潰し、および文字の色などをデータごとに変えることができます。また、登録したカラーテーブルは、エクスポート/インポートを行うことによって、別環境にインストールされた本ソフトウェアで利用することができます。

カラーテーブルを作成する

オブジェクトに設定するカラーテーブルを作成します。

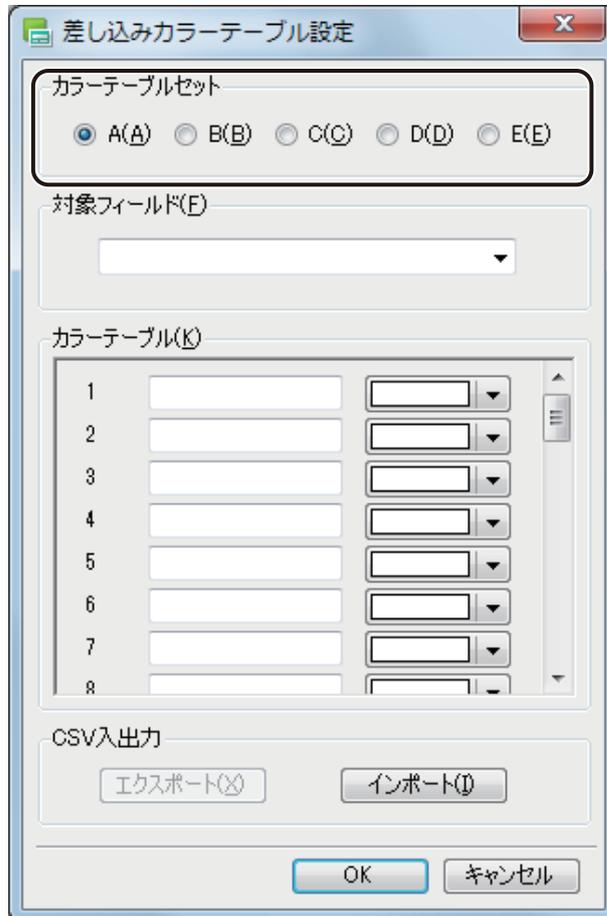
- 1 [データベース] メニューから [差し込みカラーテーブル] を選択します。



[差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスが表示されます。

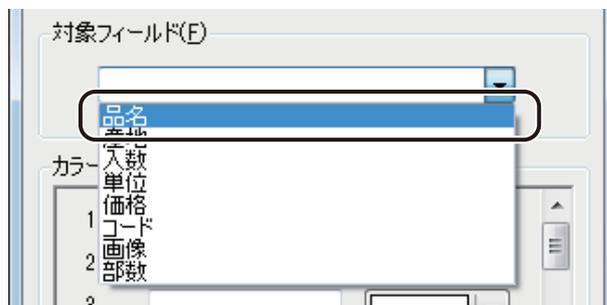
2 [カラーテーブルセット] を選択します。

カラーテーブルセットは、A～Eの5個まで設定できます。



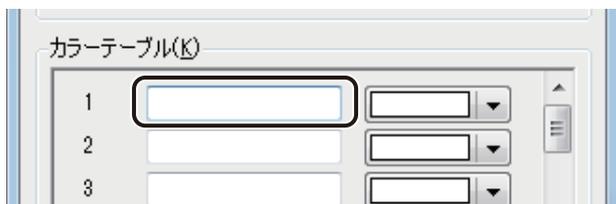
3 [対象フィールド] を選択します。

カラーテーブルの設定対象となるフィールド（項目）を選択します。



4 [カラーテーブル] を設定します。

- ① 入力ボックスに対象フィールド（項目）のデータを入力します。



- ② 変更したい色を指定します。

▼ をクリックして赤色 (■) を選択します。



クリックする。

カラーテーブルは、40個まで設定できます。

 メモ

- [カラーテーブル] は、データベースと同じ表記で入力してください。例えば、「りんご」を「リンゴ」と入力してしまうと、正しく色が反映されません。また、全角と半角も区別されます。



- パレットに新しい色を登録して設定したいときは、[色の編集] をクリックします。詳しくは、「[プロパティから色を登録する \(P.47\)](#)」をご覧ください。

5 [OK] をクリックします。

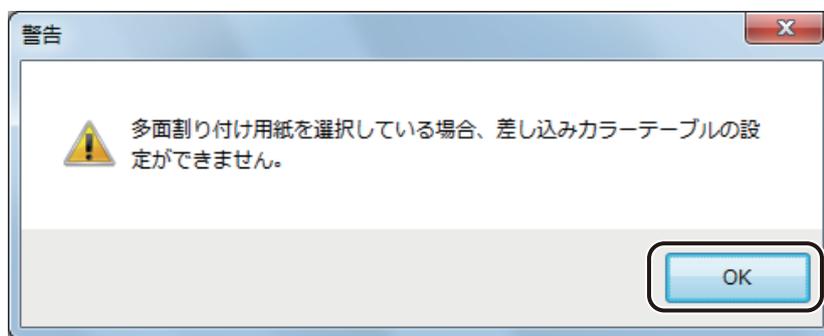
ダイアログボックスが閉じます。

カラーテーブルを設定する

カラーテーブルをオブジェクトに設定します。

メモ

- カラーテーブルを設定するときは、あらかじめカラーテーブルを作成しておく必要があります。カラーテーブルの作成については、「[カラーテーブルを作成する \(P.279\)](#)」をご覧ください。
- 次のメッセージが表示されたときは、内容を確認して [OK] をクリックします。面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、差し込みカラーテーブルを設定できません。「[13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について \(P.4\)](#)」をご覧ください。



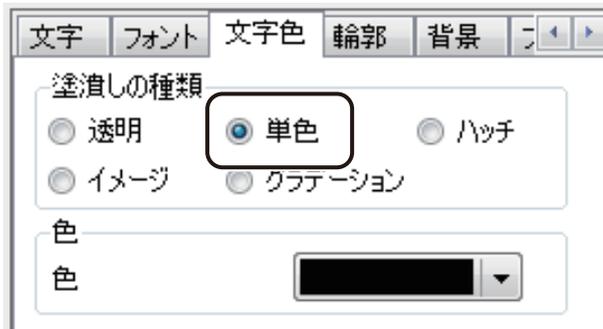
1 カラーテーブルを設定するオブジェクトを選択します。

 メモ

● カラーテーブルを設定できるオブジェクトは次のとおりです。

- ・文字オブジェクト
- ・画像オブジェクト
- ・直線オブジェクト
- ・円形オブジェクト
- ・四角形オブジェクト
- ・多角形オブジェクト
- ・円弧オブジェクト
- ・連続直線オブジェクト
- ・自由曲線オブジェクト
- ・ベジェ曲線オブジェクト
- ・ナンバリングオブジェクト
- ・背景オブジェクト

2 カラーテーブルを設定するプロパティを表示し、[単色] または [ハッチ] を選択します。



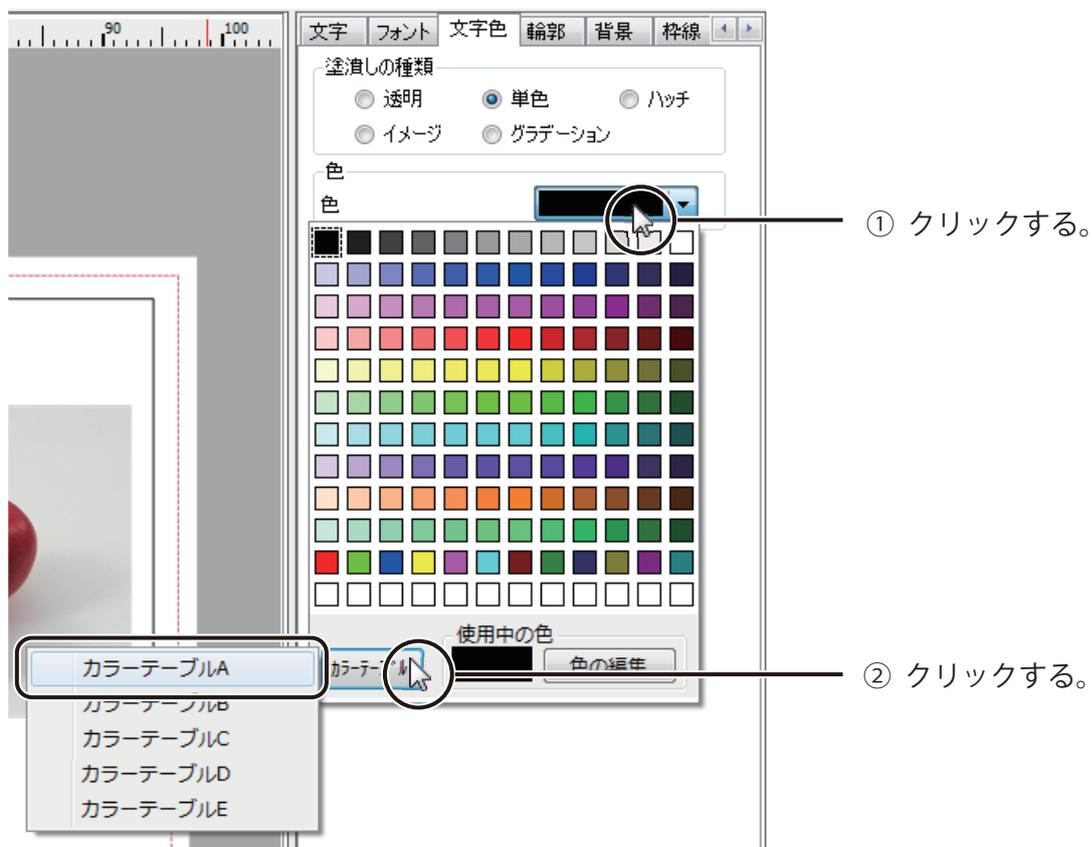
 メモ

● カラーテーブルを設定できるプロパティは次のとおりです。

- ・[線] プロパティ
- ・[輪郭] プロパティ
- ・[塗潰し] プロパティ
- ・[影] プロパティ
- ・[文字色] プロパティ
- ・[背景] プロパティ

● [ハッチ] については、「[ハッチングで塗潰す \(P.227\)](#)」をご覧ください。

3 パレットより、カラーテーブルを選択します。



メモ

- メニューバーの  (差し込みレコード番号) で表示レコードを切り替えることができます。

カラーテーブルをエクスポートする

登録したカラーテーブル情報をファイル保存します。

- 1 [差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスを表示します。

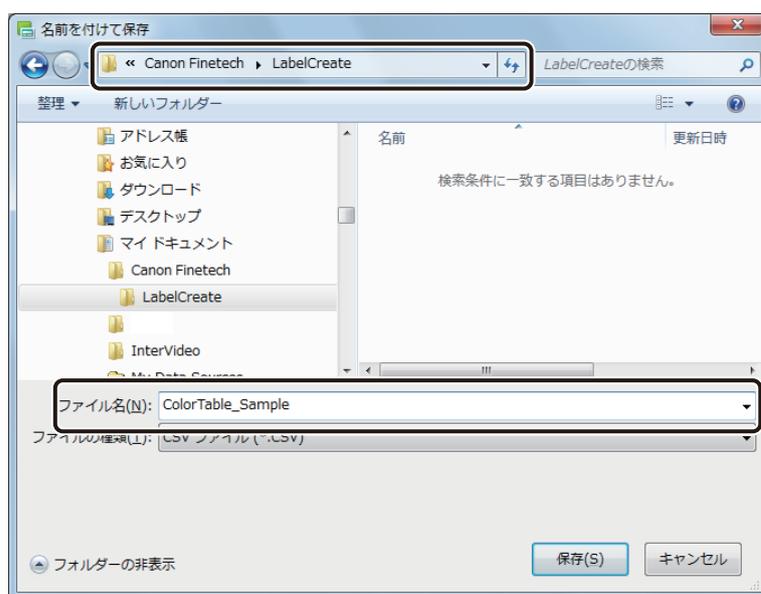
⇒「カラーテーブルを作成する (P.279)」

- 2 [エクスポート] をクリックします。



[名前を付けて保存] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。



- 4 [保存] をクリックします。

カラーテーブル情報をエクスポートしたファイル (*CSV) が保存されます。

カラーテーブルをインポートする

保存したカラーテーブル情報を読み込みます。

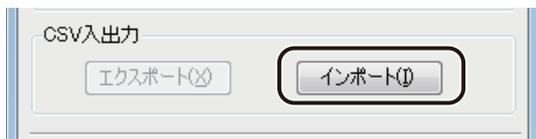
- 1 カラーテーブル情報をエクスポートしたファイル (*CSV) を用意します。

⇒「カラーテーブルをエクスポートする (P.286)」

- 2 [差し込みカラーテーブル設定] ダイアログボックスを表示します。

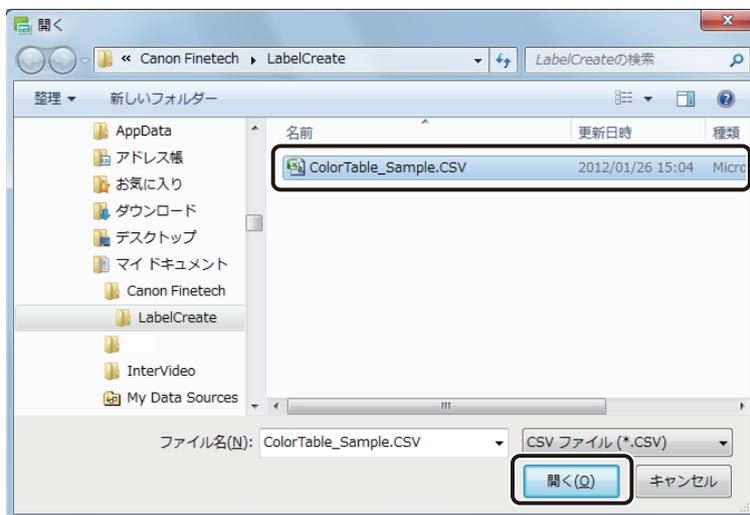
⇒「カラーテーブルを作成する (P.279)」

- 3 [インポート] をクリックします。



[開く] ダイアログボックスが表示されます。

- 4 カラーテーブル情報をエクスポートしたファイルを指定し、[開く] をクリックします。



カラーテーブル情報が読み込まれます。

6

マクロ機能の設定

オブジェクトのマクロ設定について説明します。

マクロの仕様
マクロ機能の操作

マクロの仕様

本ソフトウェアでは、次のような言語や関数を使ったマクロ構文が使用できます。

<言語定義>

定義	記述式 / 意味
式	関係式
関係式	文字式 { < < < > > } 文字式
文字式	算術式 { & } 算術式
算術式	項 { + - } 項 . . .
項	因子 { * / % } 因子
因子	{ 数値 関数 定数 文字列 括弧式
関数	関数名 (式 , 式 ,) かつ、「関数一覧」で定義されている関数。
数値	+ (プラス) - (マイナス) 或いは数字で始まり、数字だけで構成される値。(小数点は可)
定数	英字で始まり、英数字で構成される文字列。
関数名	英字で始まり、英数字で構成される文字列。
文字列	" " (ダブルクォーテーション) で囲まれた固定値。
括弧式	() で囲まれた式。

<関数一覧>

関数名	意味
FLD(" 列名 ")	列名に該当するデータ列の値を取得します。
LEFT(文字列 , 文字数)	文字列の左から文字数分を切り出します。
RIGHT(文字列 , 文字数)	文字列の右から文字数分を切り出します。
MID(文字列 , 位置 , 文字数)	文字列の指定位置から文字数分を切り出します。
REPLACE(文字列 , 検索文字列 , 置換文字列)	文字列内の検索文字列に合致する文字を置換文字列に置き換えます。
IF(論理値 , 真値 , 偽値)	論理値が真偽によって、真値、偽値を返します。
ADDDAYS(日時文字列 , 数値)	日時文字列において、日に数値を加算します。
ADDHOURS(日時文字列 , 数値)	日時文字列において、時に数値を加算します。
ADDMINUTES(日時文字列 , 数値)	日時文字列において、分に数値を加算します。
ADDMONTHS(日時文字列 , 数値)	日時文字列において、月に数値を加算します。
ADDYEARS(日時文字列 , 数値)	日時文字列において、年に数値を加算します。

関数名	意味
ADDSECONDS(日時文字列, 数値)	日時文字列において、秒に数値を加算します。
DATEFORMAT(日時文字列, 日付書式, 和暦区分)	日時文字列において、書式に合わせた編集をします。和暦区分が0以外であれば和暦で処理を行います。(和暦区分は省略可)
FORMAT(数値, 書式)	数値を書式に合わせて編集をします。
NOW(日付書式和暦区分)	現在日時において、書式に合わせた編集をします。和暦区分が0以外であれば和暦で処理を行います。(和暦区分は省略可)

<定数>

関数名	意味
BR	改行します。

<日付値>

書式文字	内容
yyyy/MM/dd hh:mm:ss.fff	日付や時間を指定します。

<書式指定>

- 日付書式

書式文字	内容
gg	年号を指定します。通常は「西暦」で表示し、和暦表示を指定のときは「昭和」、「平成」などとなります。
yyyy	4桁の「年」を指定します。和暦表示を指定のときは2桁表示となります。
yy	2桁の「年」を指定します。
MM	「月」を指定します。
dd	「日」を指定します。
hh	「時」を指定します。
mm	「分」を指定します。
ss	「秒」を指定します。
f	小数点以下の秒を指定します。

第6章 マクロ機能の設定

● 数値書式

書式文字	内容
#	数値を表示させます。(ゼロサプレス)
0	数値を表示させます。(ゼロパディング)
#,#	数値をカンマによる3桁区切りで表示します。(ゼロサプレス)
#,0	数値をカンマによる3桁区切りで表示します。(ゼロパディング)
.#	小数以下を表示します。(ゼロサプレス)
.0	小数以下を表示します。(ゼロパディング)

※「ゼロサプレス」 指定した桁数に満たない部分の「0」を削除する処理

※「ゼロパディング」 指定した桁数に満たない部分を「0」で表示する処理



メモ

- 本ソフトウェアのマクロ機能では、上記の構文のみが正常に動作します。

マクロ機能の操作

マクロ形式の設定のしかたとマクロウィザードを使ったマクロの作成について説明します。

マクロ形式に設定する

オブジェクトにマクロを設定します。

- 1 データベースの項目を使ってマクロを作成するときは、データベースを参照（またはインポート）します。

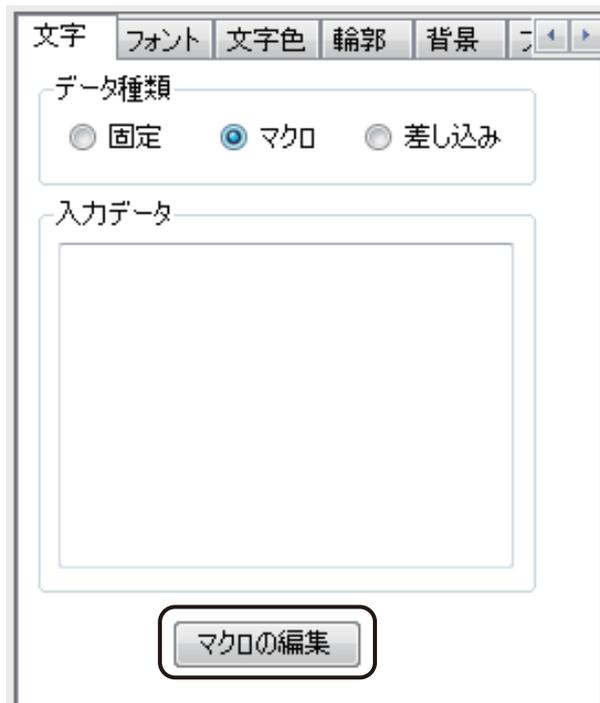
⇒「データベースを参照（またはインポート）する (P.252)」

- 2 マクロを設定するオブジェクトを選択します。

- 3 [文字] プロパティの [データ種類] で [マクロ] を選択します。



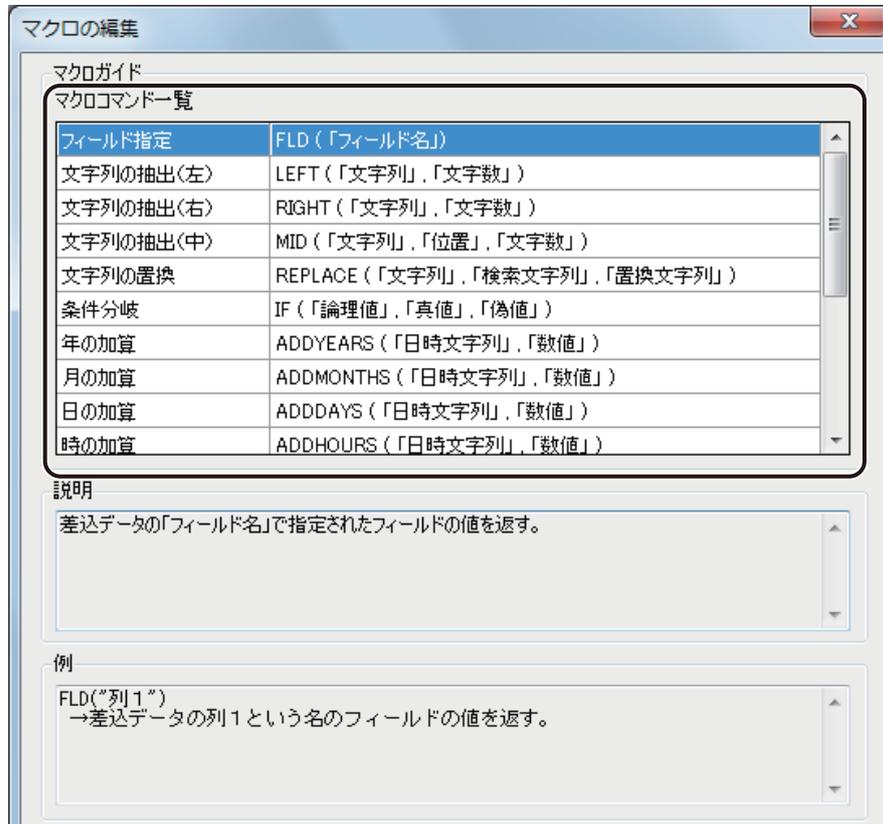
4 [マクロの編集] をクリックします。



[マクロの編集] ダイアログボックスが表示されます。

5 [マクロコマンド一覧] より、コマンドを選択します。

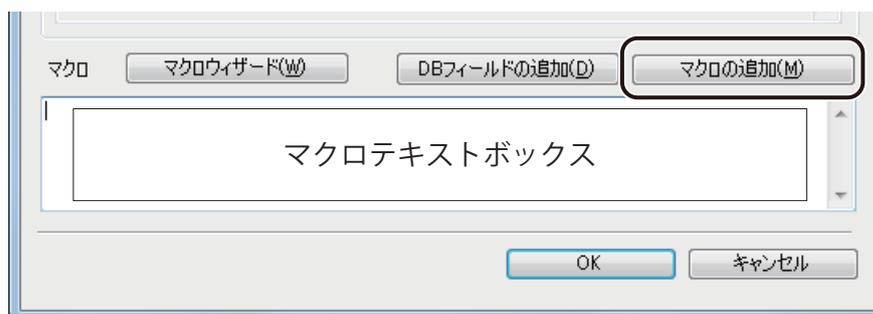
一覧からコマンドを選択すると、[説明] にコマンドの処理内容を、[例] に例文とその結果を表示します。



メモ

- 日時の計算は、マクロウィザードを使うと簡単に設定できます。マクロウィザードについては、「マクロウィザードを使う (P.296)」をご覧ください。

6 [マクロの追加] をクリックします。



選択したマクロコマンドが、マクロテキストボックスに入力されます。

第6章 マクロ機能の設定



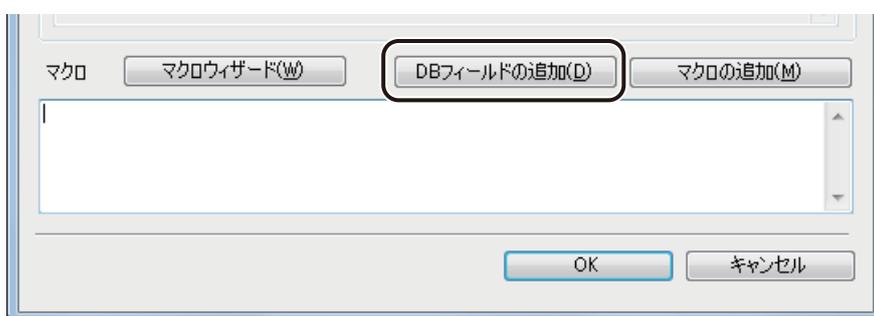
メモ

- [四則演算子]、[比較演算子] および [文字列の結合] は、[例] を参考にマクロ式を入力します。

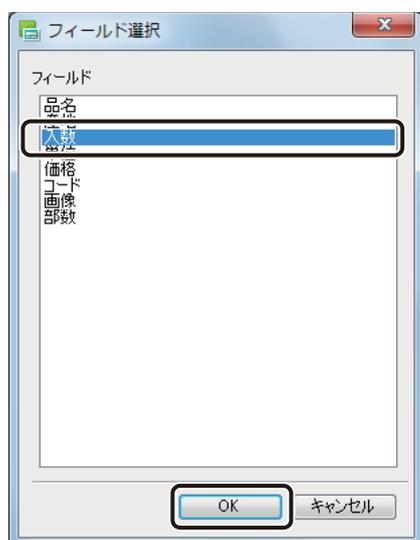
7 [例] を参考に、文字列、数値およびデータベースの項目などを入力します。

データベースの項目を入力するときは、次のように操作します。

- ① [DBフィールドの追加] をクリックします。



- ② 入力したいフィールド（項目）を選択し、[OK] をクリックします。



マクロテキストボックスに「FLD("フィールド名")」と入力されます。

8 マクロが入力できたら、[OK] をクリックします。

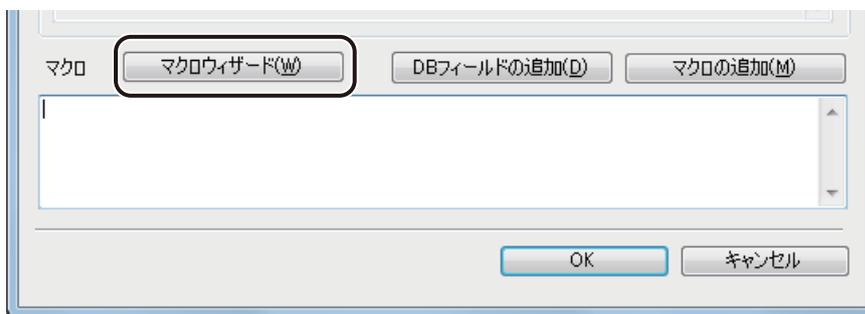
マクロウィザードを使う

日時を計算するマクロを、マクロウィザードを使って簡単に設定できます。

- 1 [マクロの編集] ダイアログボックスを表示します。

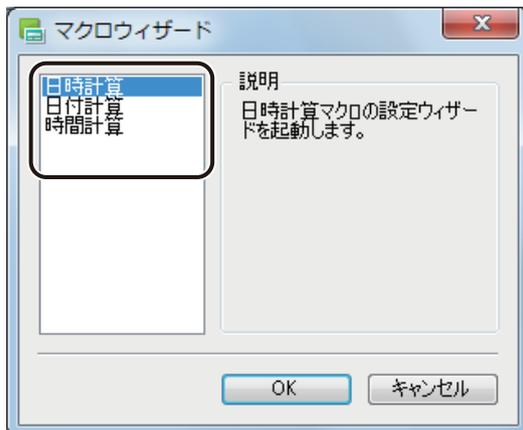
⇒「マクロ形式に設定する (P.292)」

- 2 [マクロウィザード] をクリックします。



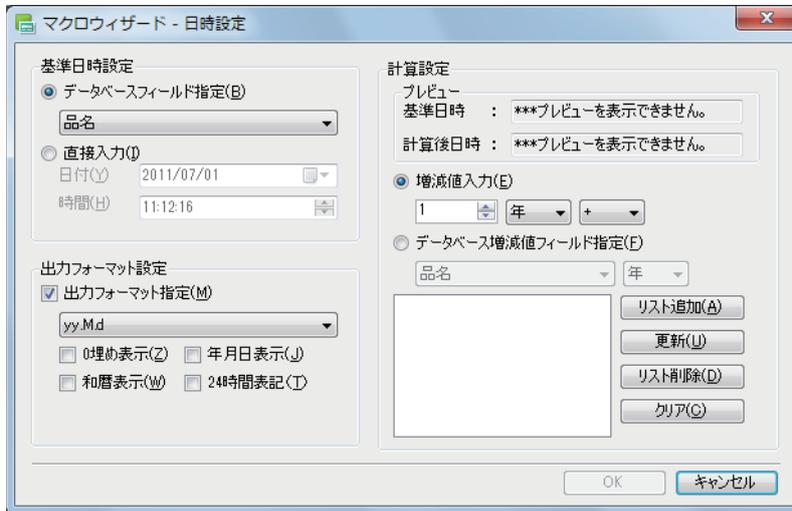
- 3 起動するウィザードを選択します。

項目をクリックすると、各ウィザードの説明が右側に表示されます。



4 [OK] をクリックします。

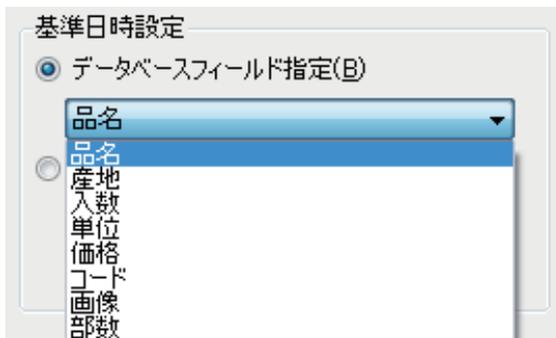
選択したウィザードが起動します。



5 基準日時を設定します。

計算の元となる日時を指定します。[基準日時設定] は、次のいずれかでを行います。

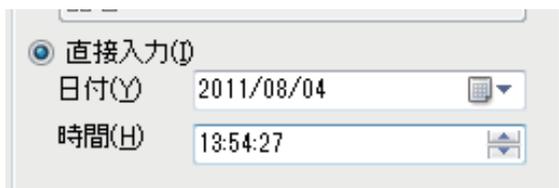
- データベースのフィールド（項目）で指定する



[データベースフィールド指定]

データベースの日時が入力されているフィールド（項目）を選択します。

- 任意の日時を指定する（直接入力）



[日付]

 をクリックすると、カレンダーが表示されます。日付をクリックすると、指定した日付が入力ボックスに表示されます。

また、入力ボックスにカーソルをあて、直接キーボードで入力することもできます。

[時間]

入力ボックスにカーソルをあて、 または、 で数値を増減させます。また、直接キーボードで入力することもできます。



メモ

- 日付計算ウィザードを起動しているときは、[直接入力] の [時間] を設定できません。
- 時間計算ウィザードを起動しているときは、[直接入力] の [日付] を設定できません。

6 [出力フォーマット] を設定します。

[出力フォーマット] では、日時の表示形式を設定します。

出力フォーマットを指定するときは、チェックマークを入れます。チェックマークを入れないときは、「yyyy/MM/dd H:mm:ss.ffffff」が適用されます。

[出力フォーマット指定]

表示形式を選択します。

[0埋め表示]

0埋めをして表示します。

例) y/M/d h:m:s → yyyy/MM/dd hh:mm:ss

[和暦表示]

和暦で表示します。

例) y/M/d h:m:s → 平成y年M月d日h時m分s秒

第6章 マクロ機能の設定

[年月日表示]

年月日で表示します。

例) y/M/d h:m:s → y年M月d日h時m分s秒

[24 時間表記]

時間を 24 進で表示します。

例) y/M/d h:m:s → y/M/d H:m:s



メモ

- 実際の表示は、[プレビュー] で確認できます。



- 日付計算ウィザードを起動しているときは、[24 時間表記] を設定できません。
- 時間計算ウィザードを起動しているときは、[和暦] を設定できません。

7 計算式を入力します。

計算式の入力は、[計算設定] で行います。[計算設定] は、次のいずれかで行います。

- 任意の数値を指定する



[増減値入力]

日時の増減値を指定します。

数値、日時の単位および増減 (+/-) を指定します。

- データベースのフィールド（項目）で指定する

[データベース増減値フィールド指定]

日時の増減値を設定しているフィールド（項目）を指定します。
フィールド（項目）および日時の単位を指定します。



メモ

- 日付計算ウィザードを起動しているときは、時間（時、分、秒）に関する設定ができません。
- 時間計算ウィザードを起動しているときは、日付（年、月、日）に関する設定ができません。

8

計算式を入力したら、「リスト追加」をクリックします。

計算式が「日付計算マクロリスト」に登録されます。

9 手順7～手順8を繰り返し、必要な計算式を登録します。

[日付計算マクロリスト] に計算式は、6件まで登録できます。

[リスト追加]

計算式を「日付計算マクロリスト」に登録します。

[更新]

選択した計算式を、現在の設定で上書きします。

[リスト削除]

選択した計算式を削除します。

[クリア]

計算式をすべて削除します。

メモ

- 実際の表示は、[プレビュー] の [計算後日時] で確認できます。

10 [OK] をクリックします。

「マクロの編集画面」にマクロが入力されます。

7

印刷設定

印刷設定について説明します。

印刷の基本操作
いろいろな印刷

印刷の基本操作

印刷の基本的な手順について説明します。

プレビューで確認する

印刷をする前に、印刷プレビュー画面でデザインデータを確認します。



メモ

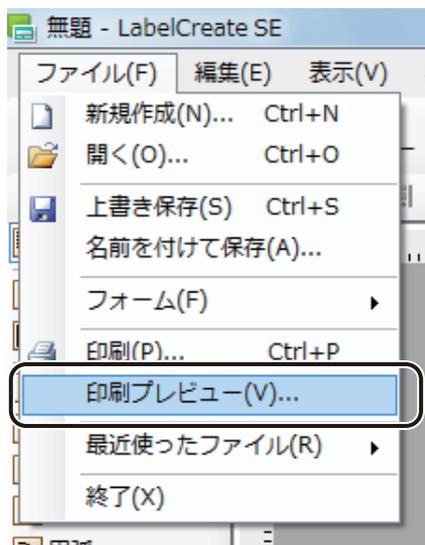
- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、ナンバリングオブジェクトの印刷ができません。そのため、面付け用紙にナンバリングオブジェクトが配置されているときは、ナンバリングオブジェクトを非表示にしてプレビュー画面を表示します。確認のメッセージが表示されたときは、メッセージの内容を確認したあと [OK] をクリックしてください。

■ 現在表示しているレコードをプレビューする

現在デザインエリアで表示しているレコードをプレビュー画面で確認します。

1 標準ツールバーの  をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [印刷プレビュー] をクリックします。



[印刷プレビュー] 画面が表示されます。

2 データを確認します。

現在デザインエリアで表示しているレコードが表示されます。

印刷プレビュー画面のツールバーでは、次のような操作が行えます。

[1] [2] [3]



- [1] [印刷] ボタン クリックすると、現在プレビューしているレコードを印刷対象に設定した状態で [印刷] ダイアログボックスを表示します。
- [2] [ズーム] ボタン プレビュー画面の倍率（ズーム）を指定します。
自動、10%、25%、50%、75%、100%、150%、200%、500%から選択できます。
- [3] [レコード選択] ボタン 現在プレビューしているレコード番号を示しています。
（前のレコードを表示）と、（次のレコードを表示）でプレビューするレコードを切り替えます。データベースが登録されていないときは、 / は表示されません。
レコード番号は、入力ボックスにカーソルをあて、直接キーボードで入力することもできます。

3 内容が確認できたら、[閉じる] をクリックします。



表示しているレコードを印刷したいときは、 をクリックして [印刷] ダイアログボックスを表示します。

■ 印刷対象のレコードをプレビューする

印刷対象のレコードのみを印刷プレビュー画面で確認します。

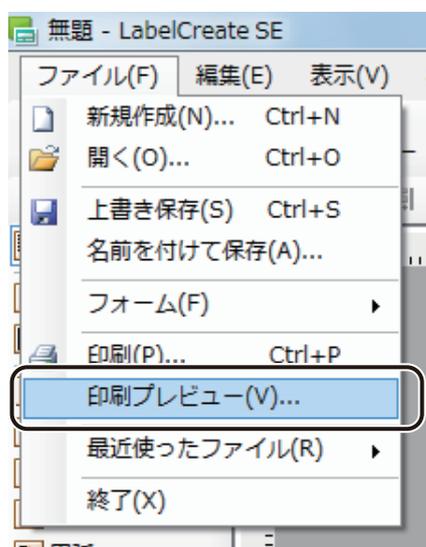


メモ

- 印刷対象レコードの設定については、「[レコードを指定して印刷する \(P.323\)](#)」をご覧ください。

1 標準ツールバーの  をクリックします。

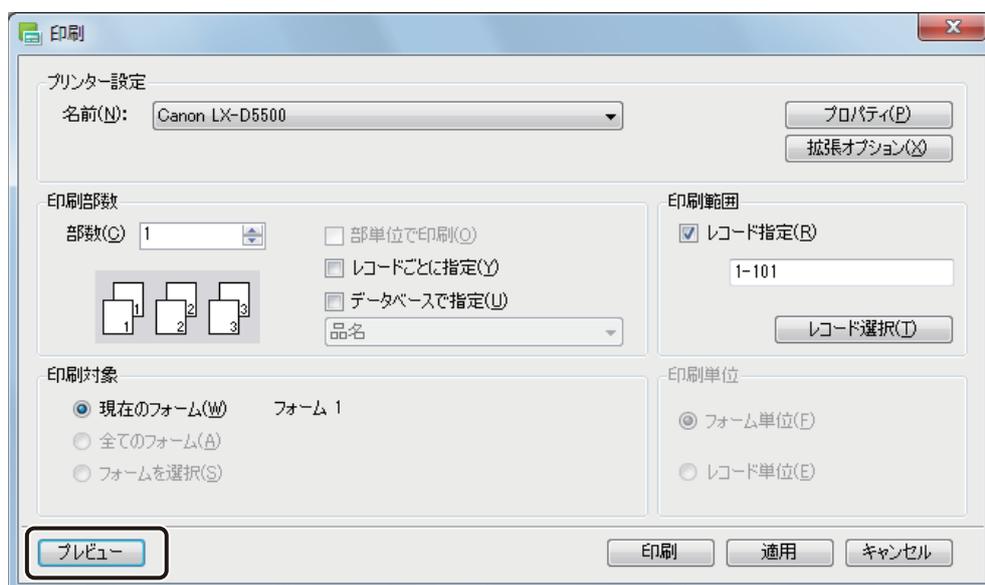
または、[ファイル] メニューの [印刷プレビュー] をクリックします。



[印刷プレビュー] 画面が表示されます。

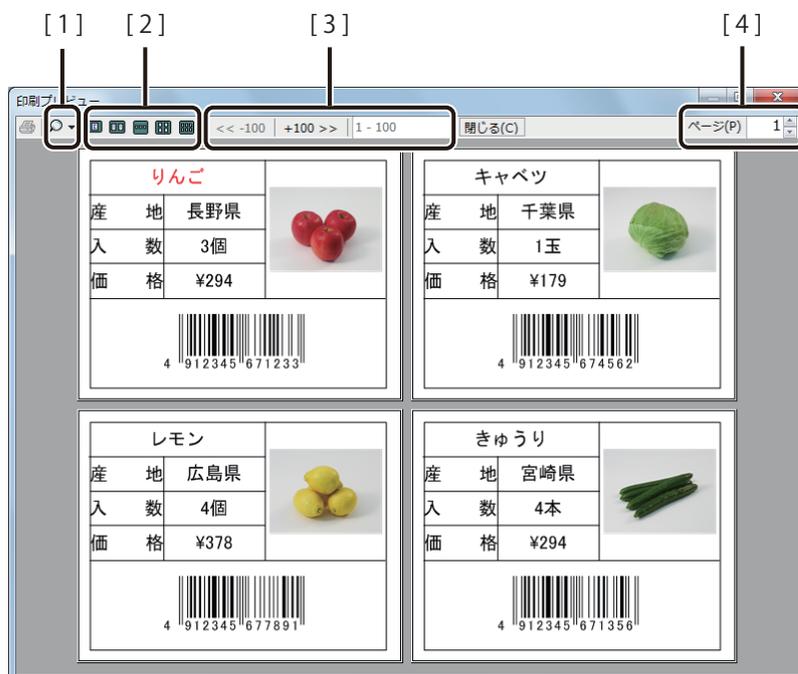
2 印刷対象レコードを設定します。

3 [プレビュー] をクリックします。



4 データを確認します。

ここでは、例としてプレビュー画面を4分割で表示しています。



- [1] [ズーム] ボタン プレビュー画面の倍率（ズーム）を指定します。
自動、10%、25%、50%、75%、100%、150%、200%、500%から選択できます。
- [2] [表示分割] ボタン プレビュー画面の分割を選択します。
左から、1分割、2分割、3分割、4分割、5分割、6分割となっています。
- [3] [プレビュー範囲切替] ボタン 印刷対象のレコードが100件以上の場合に表示されます。
 << -100 (前の100件) と +100 >> (次の100件) でプレビュー表示する範囲を切り替えます。
 範囲を切り替えると、プレビューの生成がその都度に行われます。プレビューが生成されると、+100 >> の右側に表示されている範囲のプレビューを確認できます。
- [4] [ページ切替] ボタン 表示するページを切り替えます。
 印刷対象のレコードが100件以上の場合は、[3] に表示されている範囲で切り替えます。
 入力ボックスにカーソルをあて、数値を直接キーボードで入力することもできます。

メモ

- [プレビュー] から [印刷プレビュー] 画面を表示したときの  [印刷] ボタンは無効です。

5 内容が確認できたら、[閉じる] をクリックします。

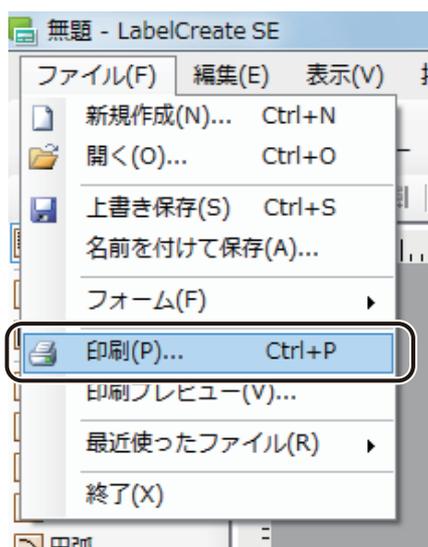


印刷する

プレビュー画面で内容を確認できたら、印刷を開始します。

1 標準ツールバーの  をクリックします。

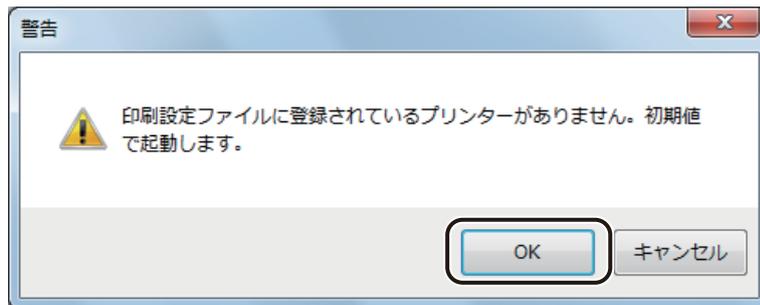
または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。



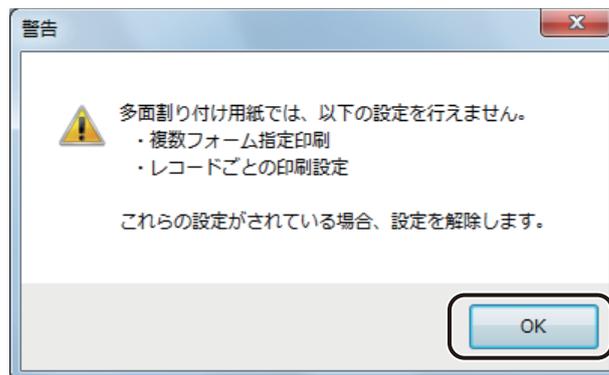
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

メモ

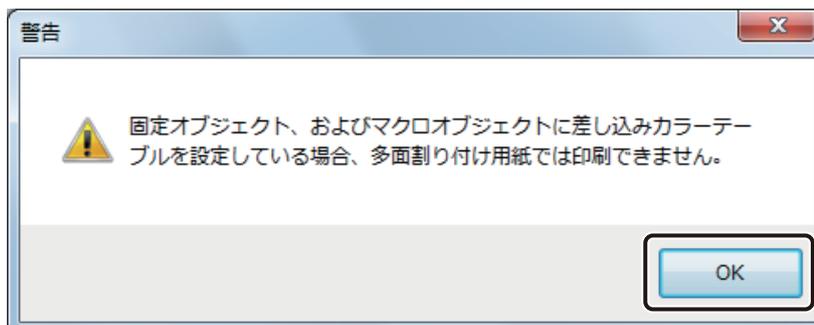
- 次のようなメッセージが表示されたときは、[OK] をクリックしてください。
[OK] をクリックすると、ご使用の環境で「通常使うプリンター」に指定されているプリンターを設定し、[印刷] ダイアログボックスを表示します。



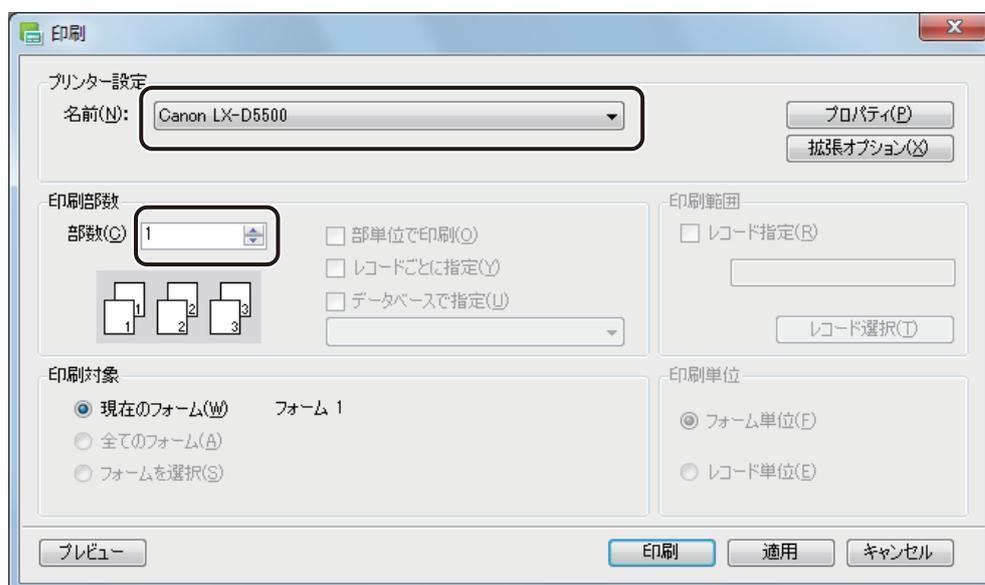
- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、次のメッセージが表示されます。内容を確認して、[OK] をクリックします。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について (P.4)」をご覧ください。



- 次のメッセージが表示されたときは、内容を確認して [OK] をクリックします。オブジェクトに差し込みカラーテーブルが設定されているときは、面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）を選択した印刷ができません。用紙の変更またはオブジェクトの差し込みカラーテーブル設定を解除してください。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について (P.4)」をご覧ください。

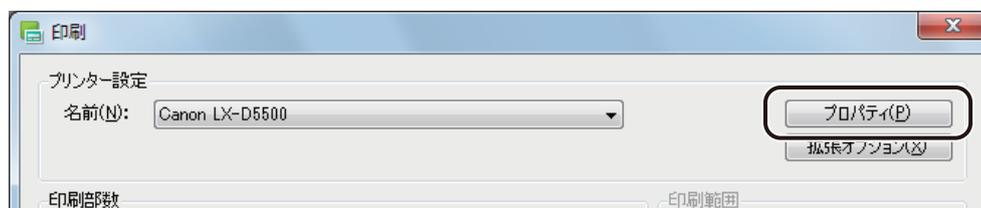


2 使用するプリンターと部数を設定します。



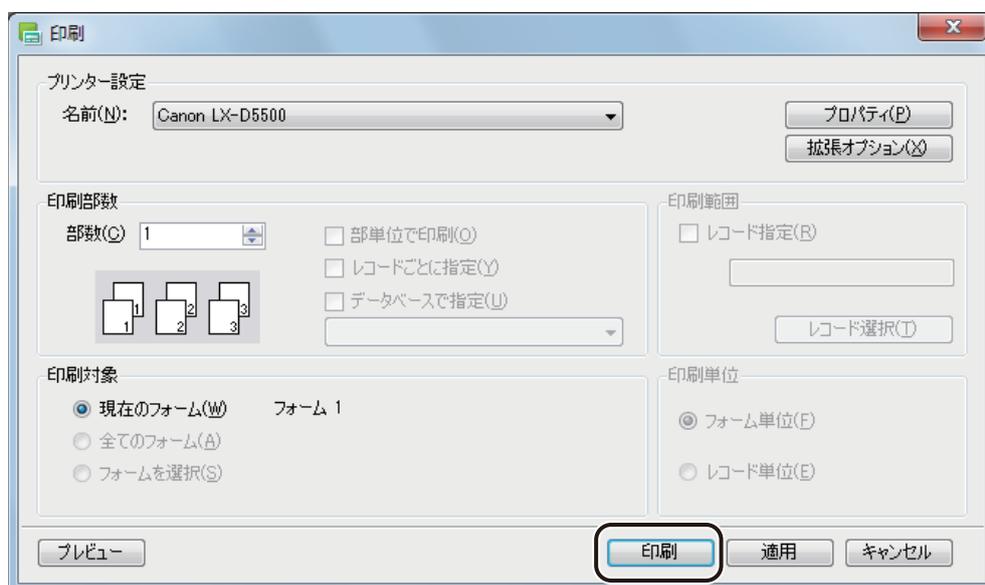
メモ

- [プロパティ] をクリックすると、用紙の種類や色設定など、プリンターの印刷設定を設定できます。詳しくは、プリンターの取扱説明書をご覧ください。



- バーコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定（解像度、用紙種類）を変更したときは、バーコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。
- 部単位で印刷するときは、[部単位で印刷] にチェックマークを入れます。複数の部数を印刷するときに指定できます。

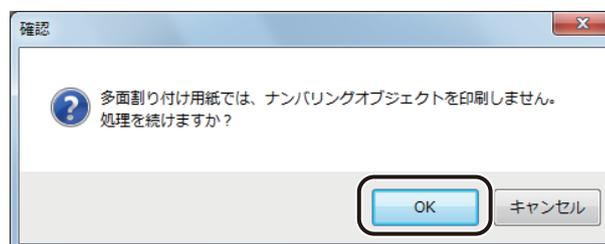
3 [印刷] をクリックします。



印刷が実行されます。

 メモ

- 印刷設定ファイル (*.LCI) について
 - ・ [印刷] ダイアログボックスの設定情報は、印刷設定ファイル (“デザインファイル名” (.LCI)) としてデザインファイル (*.LCD) と同じ場所に保存されます。印刷設定ファイルは、再度デザインファイルを開いた際、同時に本ソフトウェアに読み込まれます。
 - ・ デザインファイル (.LCD) と印刷設定ファイル (.LCI) は同一階層に置いてください。ふたつのファイルの位置が異なると、設定情報が読み込まれません。印刷設定ファイルが確認できなかったときは、初期値 (ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンター) で起動します。また、印刷設定ファイルを削除した場合も同様です。
- その他の印刷の設定については、「[いろいろな印刷 \(P.321\)](#)」をご覧ください。
- 印刷中にエラーが発生したときは、ステータスマニターに表示されるエラーの内容を確認して必要な対処を行ってください。エラーの対処については、プリンタードライバーのヘルプまたはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- 印刷したラベルのバーコード、GS1 データバー、二次元コードが読み取りにくいときは、バーコード設定を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.351\)](#)」をご覧ください。
- 面付け用紙 (フォームデザインが「面付け」) でナンバリングオブジェクトが配置されているときは、次のメッセージが表示されます。内容を確認して、[OK] をクリックします。「[13. 面付け用紙 \(フォームデザインが「面付け」\) のときの制限について \(P.4\)](#)」をご覧ください。



印刷履歴を確認する

本ソフトウェアを使って印刷した内容は、印刷履歴として保存されます。印刷履歴はレコードごとに、次の内容が保存されます。

<印刷履歴ファイル (*.CSV) を Microsoft Office Excel で開いたときの表示例>

A	B	C	D	E	F	G
印刷開始時間	ドキュメント名	プリンター名	フォーム名	印刷部数	データベースファイル名	レコード No
2012/12/18 11:08	Sample_1.LCD	Canon LX-D5500	フォーム 1	1	C:\Users\%Desktop% 青果ラベル.xls	1
2012/12/18 11:08	Sample_1.LCD	Canon LX-D5500	フォーム 1	1	C:\Users\%Desktop% 青果ラベル.xls	2
2012/12/18 11:08	Sample_1.LCD	Canon LX-D5500	フォーム 1	1	C:\Users\%Desktop% 青果ラベル.xls	3
2012/12/18 11:26	Sample_1.LCD	Canon LX-D5500	フォーム 3	3	C:\Users\%Desktop% 青果ラベル.xls	1

⇒

H	I	J	K	L	M	N
レコード情報 1	レコード情報 2	レコード情報 3	レコード情報 4	レコード情報 5	シート No	ジョブ開始
りんご					1	○
キャベツ					2	
レモン					3	
りんご					3	○

⇒

セル列	項目	内容
A	印刷開始時間	印刷を開始した時間
B	ドキュメント名	ファイル名
C	プリンター名	印刷に使用したプリンター名
D	フォーム名	印刷したフォーム名
E	印刷部数	印刷部数
F	データベースファイル名	外部データベースのとき：データベースファイルのパス 内部データベースのとき：“-”を表示
G	レコード No	データベース上の番号
H	レコード情報 1	印刷したレコードのデータベース情報 [※]
I	レコード情報 2	
J	レコード情報 3	
K	レコード情報 4	
L	レコード情報 5	
M	シート No.	ジョブ開始からの総印刷枚数
N	ジョブ開始	印刷を開始したとき（[印刷] をクリックしたとき）の状態を「○」で表示

※ 設定のしかたは、「レコード情報を設定する (P.320)」をご覧ください。



メモ

- 印刷履歴「シート No.」は次のように記録されます。

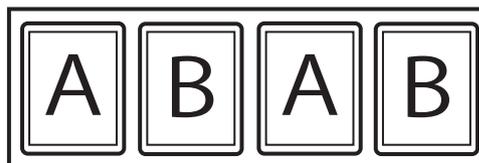
例1) 定形用紙に、商品 A、商品 B のデータを 2 枚ずつ印刷する

- ・部単位印刷 ON とき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	2
商品 A	2	3
商品 B	2	4

(印刷結果)

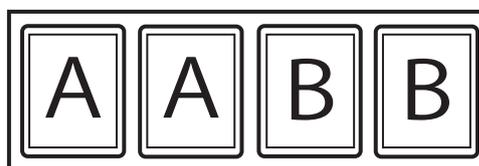


- ・部単位印刷 OFF のとき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	2

(印刷結果)

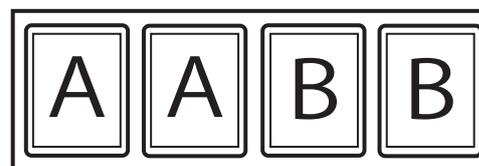


- ・レコードごとに部数設定するとき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	2
商品 B	2	4

(印刷結果)



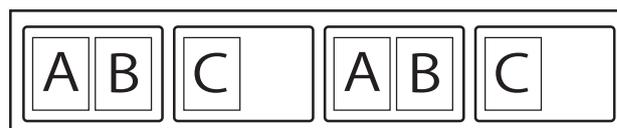
例2) 面付け用紙 (2 × 1) に、商品 A、商品 B、商品 C のデータを 2 枚ずつ印刷する

- ・部単位印刷 ON とき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	1
商品 C	2	2
商品 A	2	3
商品 B	2	3
商品 C	2	4

(印刷結果)

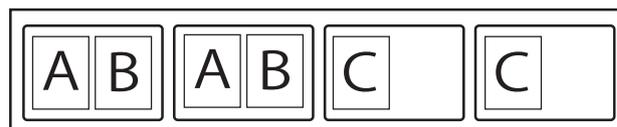


- ・部単位印刷 OFF のとき

(印刷履歴)

商品名	印刷部数	シート No
商品 A	2	1
商品 B	2	1
商品 C	2	2

(印刷結果)



■ 前月までの印刷履歴を確認する

前月までの印刷履歴は、月ごとに自動で次の場所へファイル保存（CSV形式）されます。

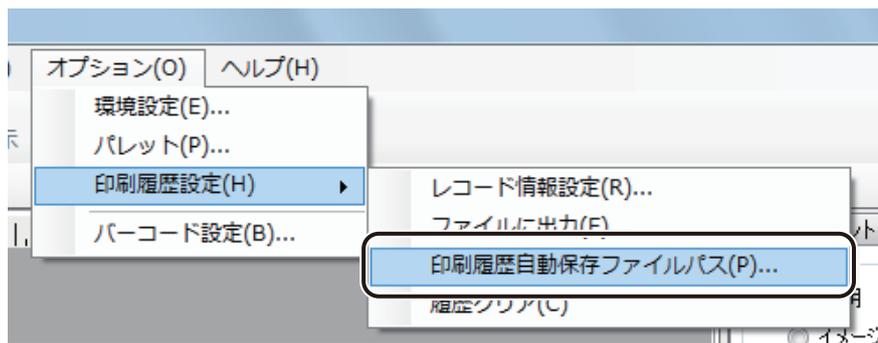
ファイル名： 例) 2012年2月の印刷履歴の場合
PrintLog_LCS20122.CSV

保存場所：
• Windows 8 / Windows 7 / Windows Vista のとき
< C:\ProgramData\Canon Finetech\LabelCreate SE\PrintLog >
• Windows XP のとき
< C:\Document and Settings\All Users\Application Data\Canon Finetech\LabelCreate SE\PrintLog >



メモ

- 印刷履歴ファイルの保存場所を変更するときは、[オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [印刷履歴自動保存ファイルパス] をクリックして設定します。



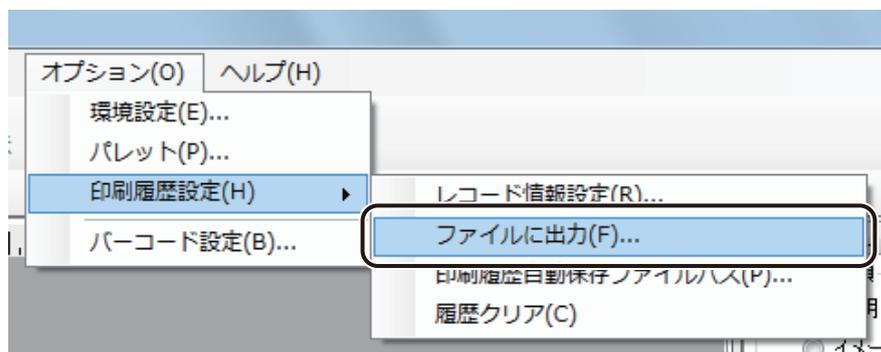
- 「LabelCreate LITE」の前月までの印刷履歴は、月ごとに自動で次の場所へファイル保存（CSV形式）されます。

ファイル名： 例) 2012年2月の印刷履歴の場合
PrintLog_LCL20122.CSV

保存場所：
• Windows 8 / Windows 7 / Windows Vista のとき
< C:\ProgramData\Canon Finetech\LabelCreate LITE\PrintLog >
• Windows XP のとき
< C:\Document and Settings\All Users\Application Data\Canon Finetech\LabelCreate LITE\PrintLog >

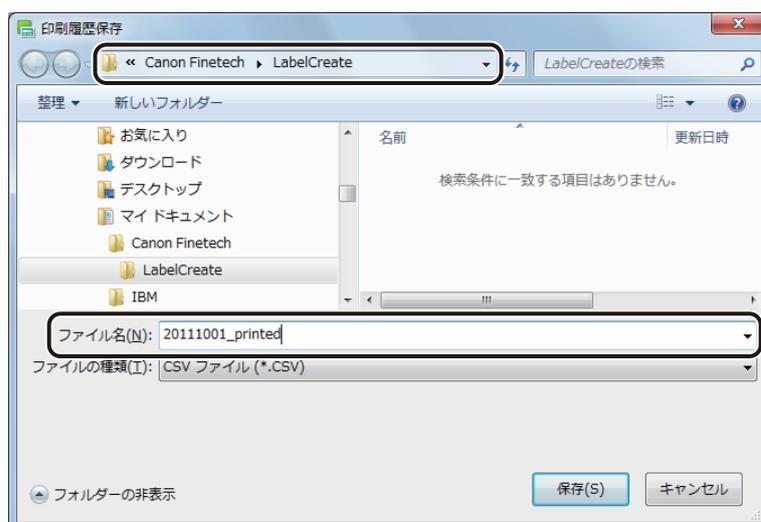
■ 当月分の印刷履歴を確認する

- 1 [オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [ファイルに出力] をクリックします。



[印刷履歴保存] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [保存場所] と [ファイル名] を指定します。



- 3 [保存] をクリックします。

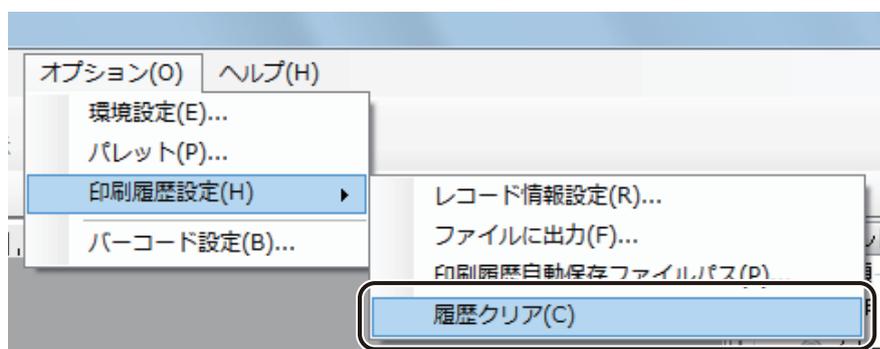
当月分の履歴が CSV 形式でファイル保存されます。

- 4 保存したファイルを任意のアプリケーションソフトウェアで開きます。

当月の印刷履歴が確認できます。

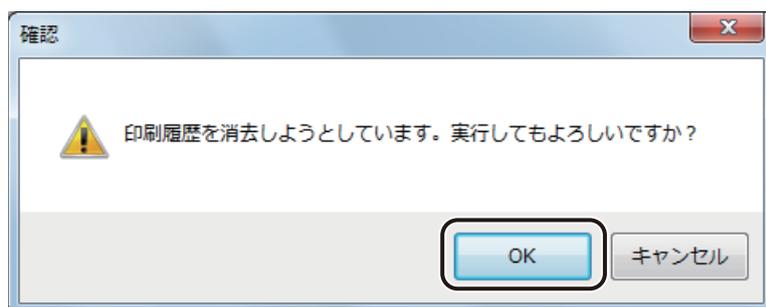
■ 当月分の印刷履歴を削除する

- 1 [オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [履歴クリア] をクリックします。



確認のメッセージが表示されます。

- 2 [OK] をクリックします。



当月分の印刷履歴が削除されます。

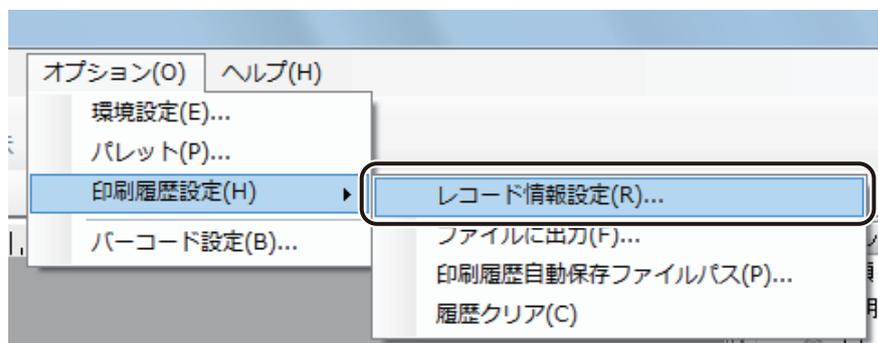


メモ

- 翌月に自動保存されるファイルには、削除された部分の印刷履歴は保存されません。

■ レコード情報を設定する

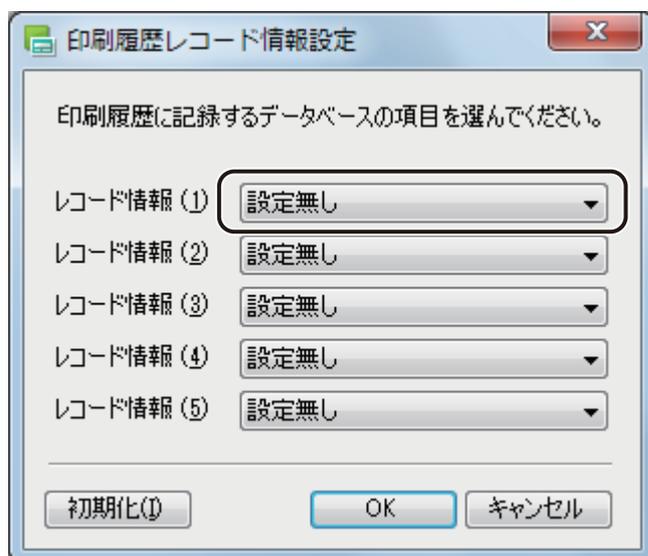
- 1 [オプション] メニューの [印刷履歴設定] から [レコード情報設定] をクリックします。



[印刷履歴レコード情報設定] ダイアログボックスが表示されます。

- 2 印刷履歴に記録する項目を選択します。

レコード情報は、5 個まで設定できます。



メモ

- [初期化] をクリックすると、すべてのレコード情報を「設定無し」の状態に戻します。

- 3 [OK] をクリックします。

いろいろな印刷

印刷したいレコードやフォームを指定した印刷を行うときは、[印刷] ダイアログボックスを設定します。
[印刷] ダイアログボックスでは、その他、オーバーレイ印刷やオートカッターについても設定できます。

データベースの部数指定項目を選んで印刷する

参照している（または読み込んだ）データベースから、印刷部数を指定している項目を選んで印刷します。

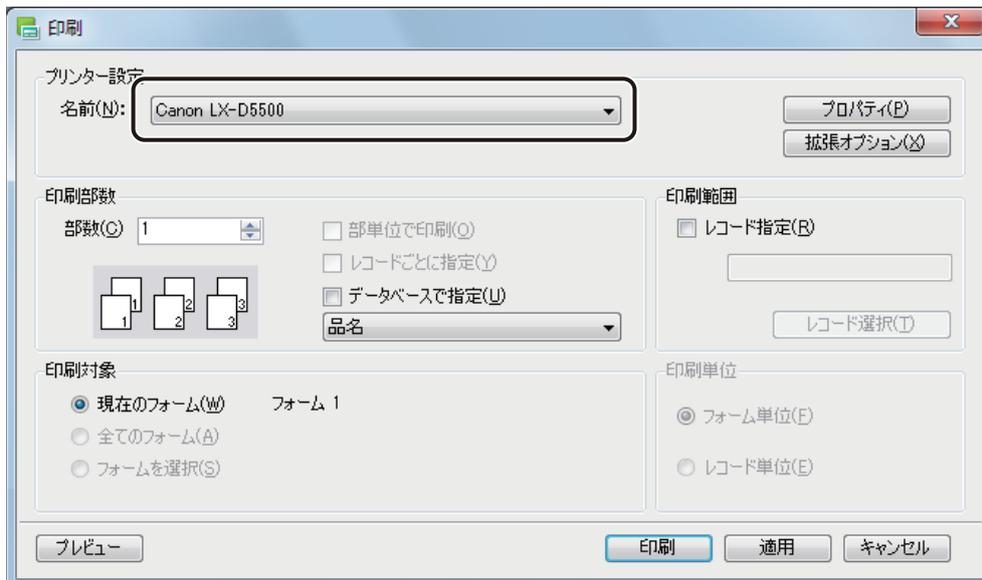
メモ

- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、データベースの部数指定項目を選んだ印刷ができません。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について（P.4）」をご覧ください。

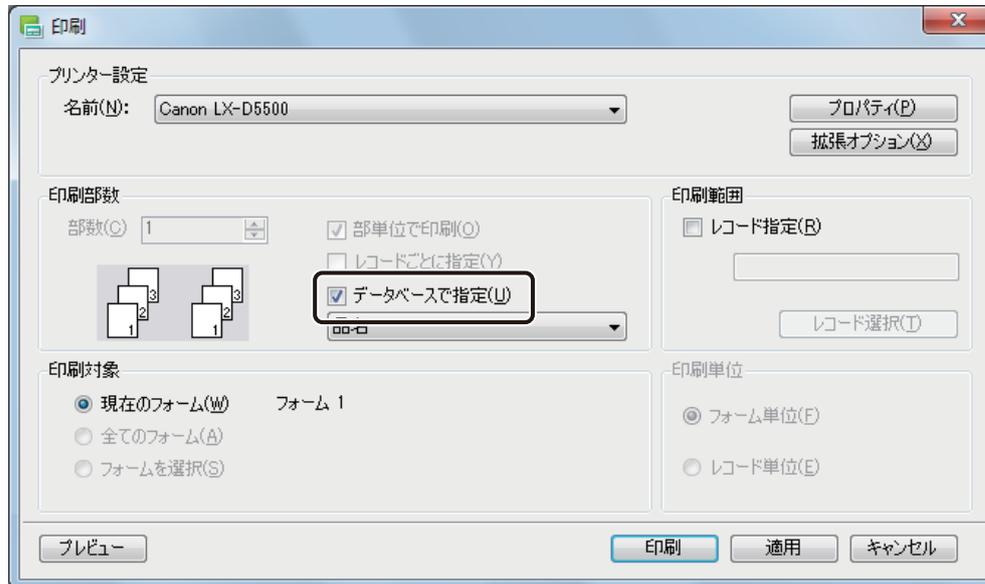
1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒「印刷する（P.310）」

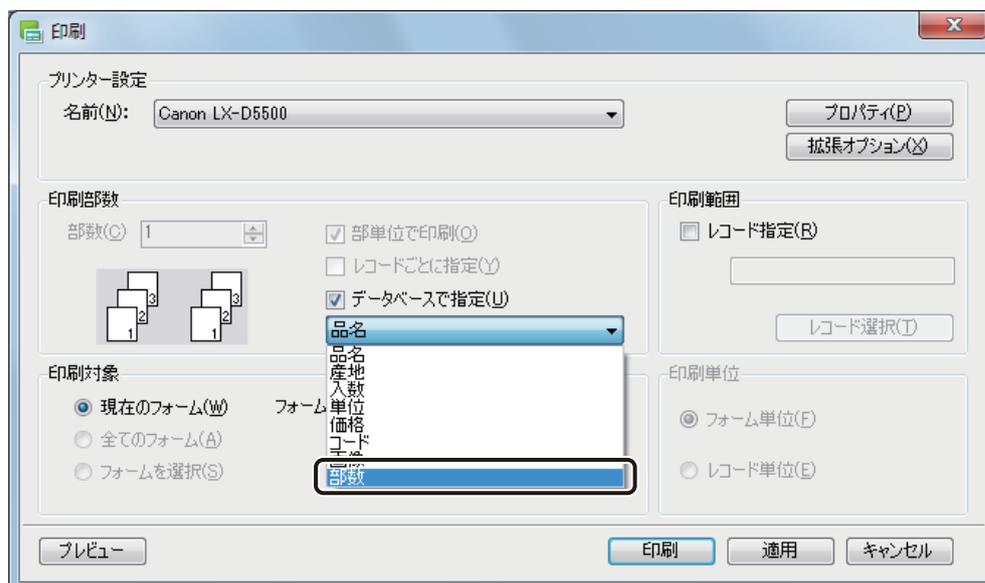
2 使用するプリンターを指定します。



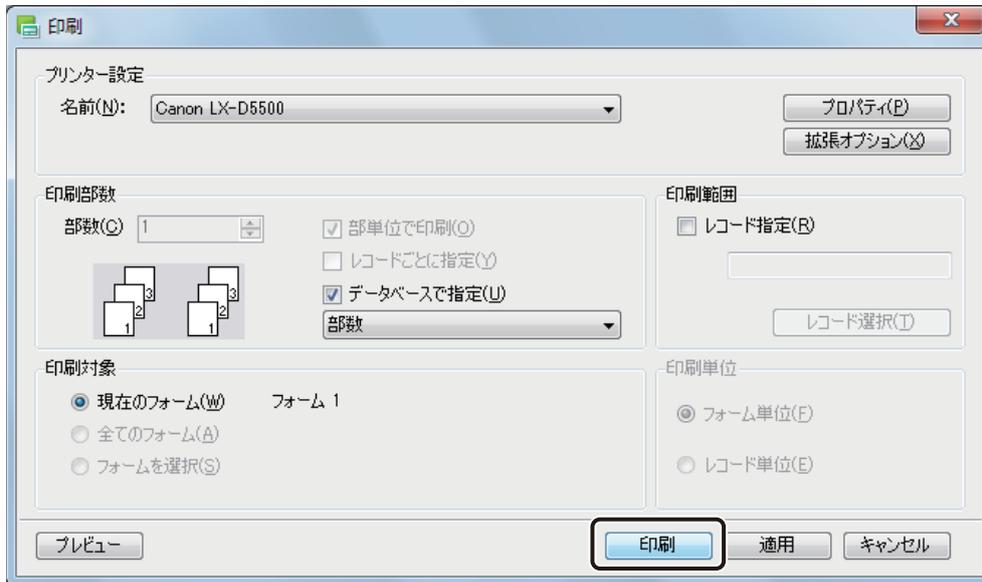
3 [データベースで指定] にチェックマークを入れます。



4 部数指定をしている項目を選択します。



5 [印刷] をクリックします。



メモ

- [データベースで指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[データベースで指定] のチェックマークを外します。

レコードを指定して印刷する

参照している（または読み込んだ）データベースから、任意のレコードを指定して印刷します。また、レコードごとに印刷部数を指定することもできます。

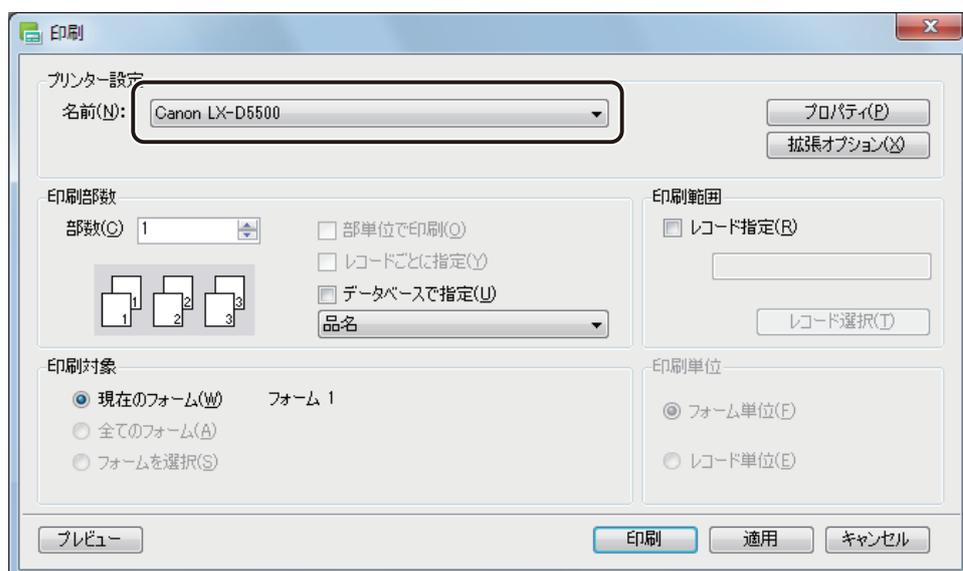
メモ

- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、レコードを指定した印刷ができません。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について (P.4)」をご覧ください。

1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒ 「印刷する (P.310)」

2 使用するプリンターを指定します。



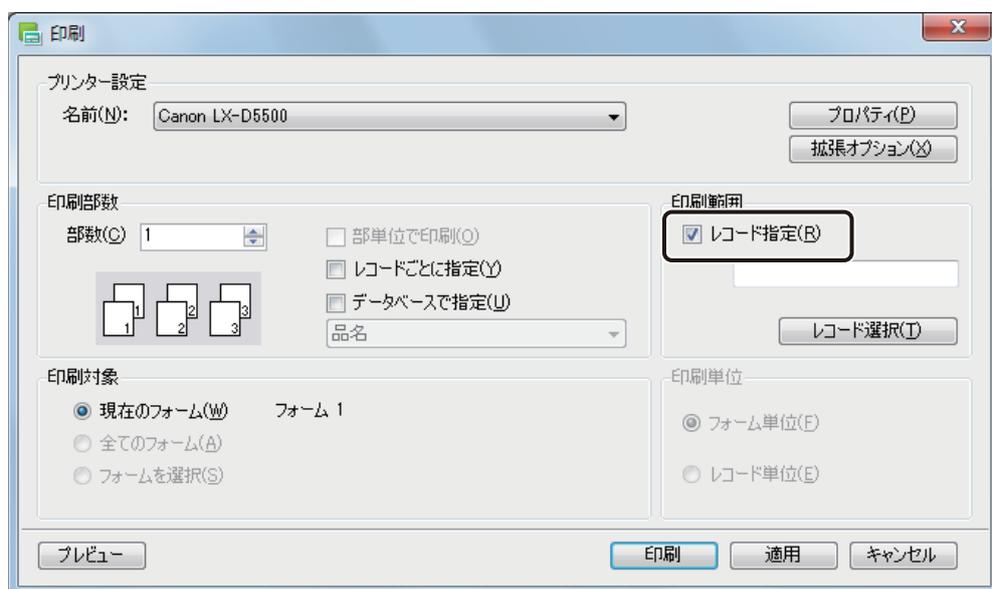
3 次の場合は、印刷部数を設定します。

- 印刷レコードがすべて同じ部数のとき
[部数] を入力します。

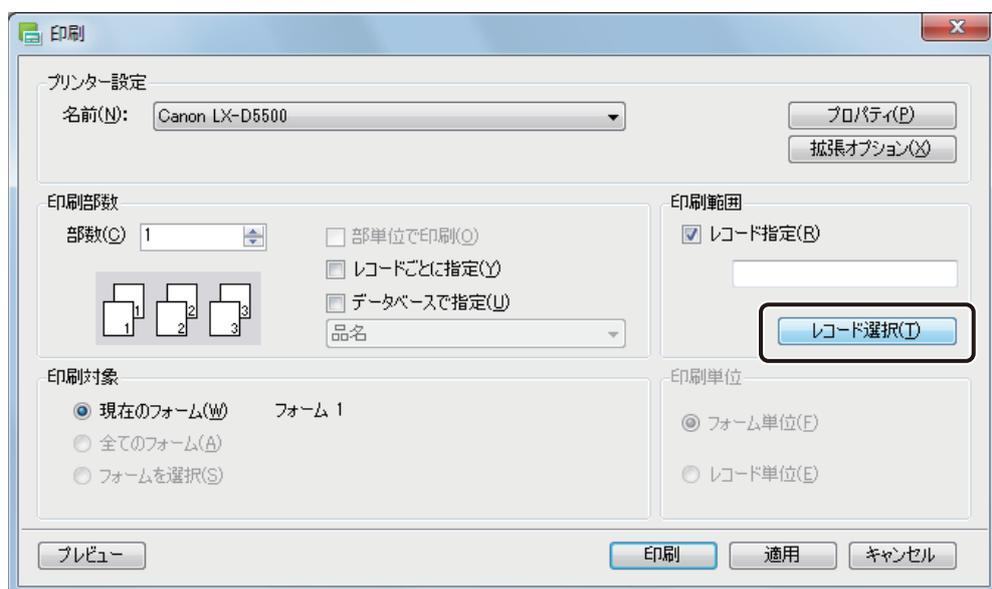


- データベースの部数指定項目を選んで印刷部数を設定するとき
「データベースの部数指定項目を選んで印刷する (P.321)」を参考に印刷部数を設定してください。

4 [レコード指定] にチェックマークを入れます。

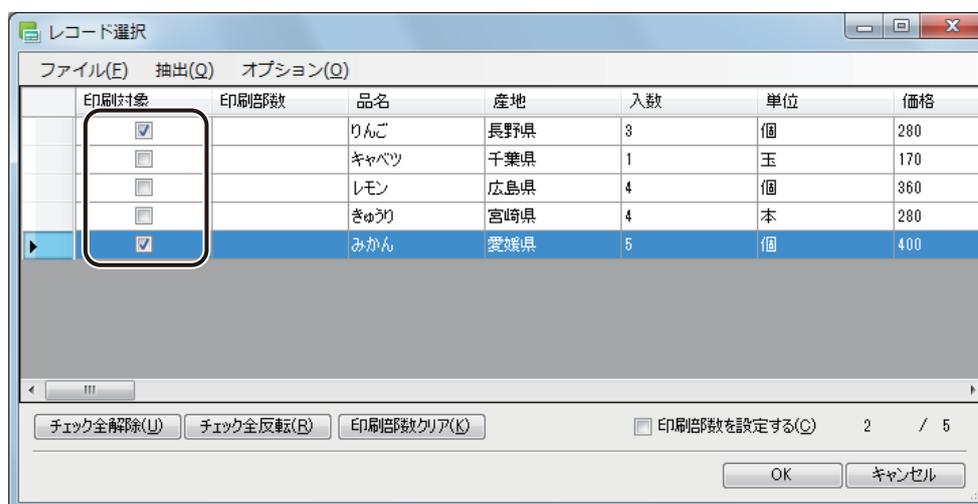


5 [レコード選択] をクリックします。



[レコード選択] ダイアログボックスが表示されます。

6 印刷したいレコードの [印刷対象] にチェックマークを入れます。



[チェック全解除]

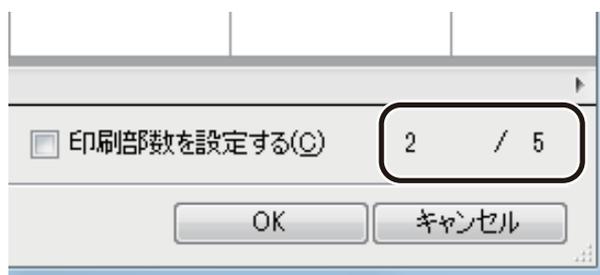
チェックマークをすべて外した状態にします。

[チェック全反転]

チェックマークの有無を反転させます。

メモ

- ダイアログボックスの右下に [印刷記録数] / [全記録数] が表示されます。



- 表示したデータをソートしたいときは、ソート対象の項目の見出しをクリックします。



- 指定した条件に該当するデータのみを印刷したいときは、データベースの抽出を行います。データベースの抽出については、「[条件を指定してレコードを抽出する \(P.333\)](#)」をご覧ください。

7 レコードごとに印刷部数を指定するときは、次のように操作します。

「手順3」で部数設定してあるとき（印刷レコードがすべて同じ部数のとき、またはデータベースの部数指定項目を選んで印刷部数を設定するとき）は、「手順8」に進みます。

- ① [印刷部数を設定する] にチェックマークを入れます。
または、[オプション] メニューの [印刷部数を設定する] をクリックします。



- ② 対象レコードを選択します。

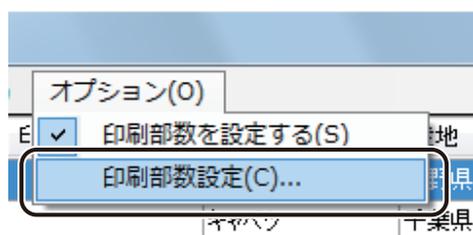


複数のレコードを選択するときは、次のいずれかで行います。

- ・連続した複数のレコードを選択するとき
始点をクリックして選択し、次にキーボードの [Shift] キーを押しながら終点をクリックします。選択が終わったら、[Shift] キーを離します。
- ・連続していない複数のレコードを選択するとき
キーボードの [Ctrl] キーを押しながら選択します。選択が終わったら、[Ctrl] キーを離します。

第7章 印刷設定

- ③ [オプション] メニューの [印刷部数設定] を選択します。



[印刷部数設定] ダイアログボックスが表示されます。

- ④ 部数を入力します。



- ⑤ [OK] をクリックします。

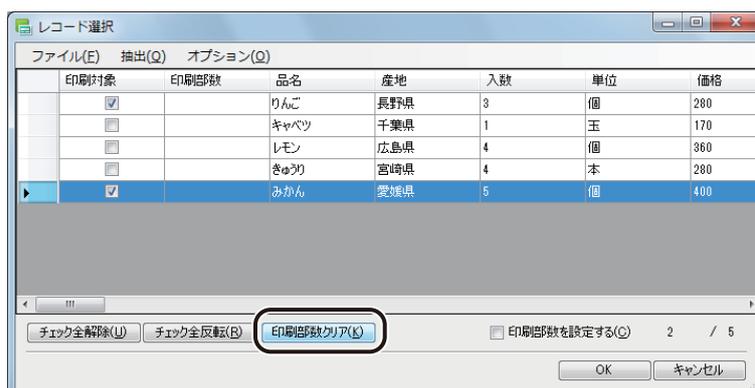
選択したレコードの [印刷部数] のセルに、④で入力した部数が設定されます。



- ⑥ 同様の手順ですべての対象のレコードについて印刷部数を入力します。

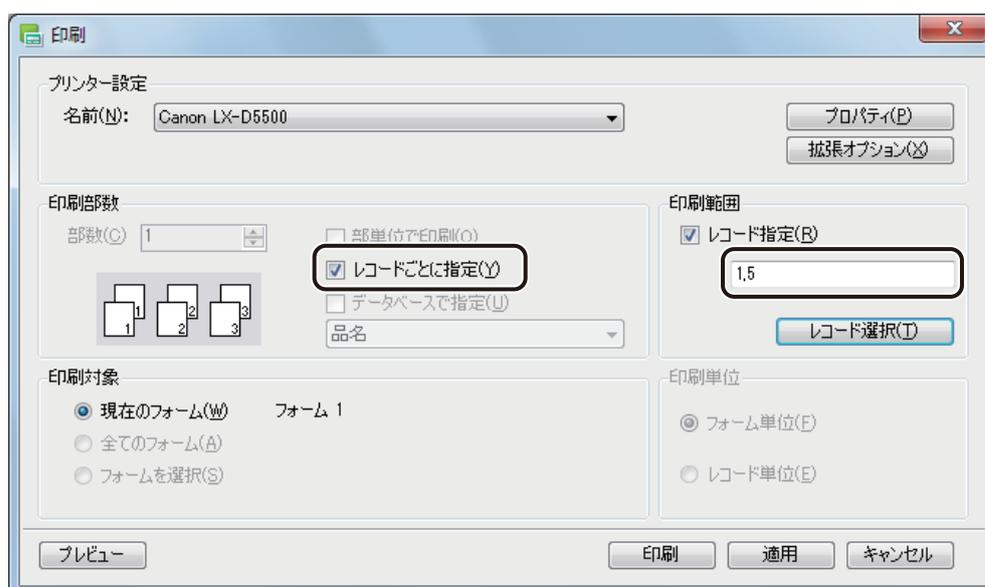
メモ

- [印刷部数] は、セルをダブルクリックして直接キーボードで入力することもできます。
- [印刷対象] にチェックマークされていないレコードの [印刷部数] を入力すると、自動で [印刷対象] にチェックマークが入ります。
- [印刷部数のクリア] をクリックすると、[印刷部数] の入力値はすべて削除されます。



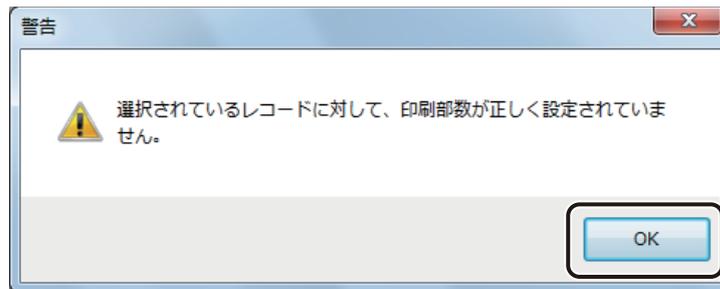
8 [OK] をクリックします。

[OK] をクリックすると、[印刷] ダイアログボックスの [印刷範囲] に設定したレコード No. が入力されます。また、レコードごとの印刷部数を設定した場合は、[レコードごとに指定] にチェックマークが入ります。

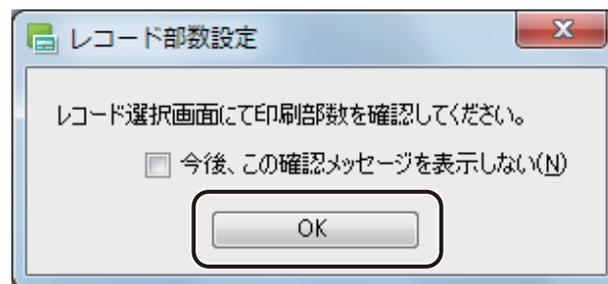


メモ

- レコードごとに部数設定するときは、[印刷対象] にチェックマークしているすべてのレコードについて印刷部数を入力してください。入力されていないレコードがあるときは、次のメッセージが表示されます。
[OK] をクリックして、印刷部数を入力してください。

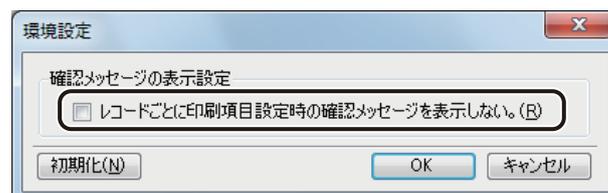


- [印刷] ダイアログボックス上で [レコードごとに指定] のチェックマークを操作すると、次のような確認のメッセージが表示されることがあります。内容を確認したら [OK] をクリックしてください。



[今後、このメッセージを表示しない] にチェックマークを付けると、次回からメッセージは表示されなくなります。

確認のメッセージの表示 / 非表示を設定は、[オプション] メニューの [環境設定] で行うこともできます。



- [レコードごとに指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[レコードごとに指定] のチェックマークを外します。
- [データベースで指定] にチェックマークがあるときは、その他の部数設定は無効となります。他の部数設定を有効にしたいときは、[データベースで指定] のチェックマークを外します。

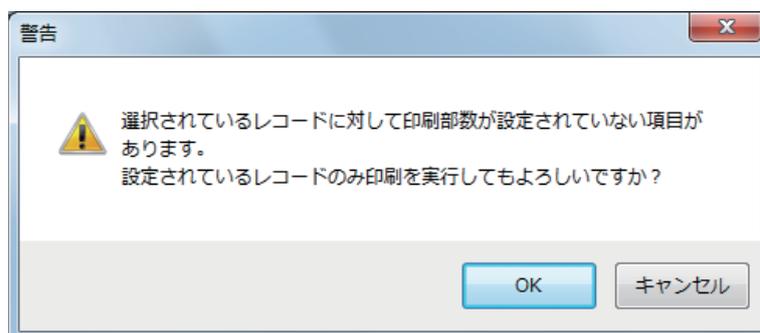
9 [印刷] をクリックします。

メモ

- レコードの指定は、[レコード指定] にチェックマークを入れたあと、[印刷範囲] の入力ボックスにカーソルをあてて直接キーボードで入力することもできます。



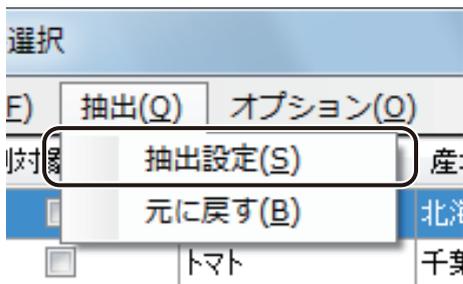
- レコードごとに印刷部数を指定する場合で、印刷部数が設定されていないレコードがあったときは、次のメッセージが表示されます。部数を指定しなおすときは、[キャンセル] をクリックしてください。



■ 条件を指定してレコードを抽出する

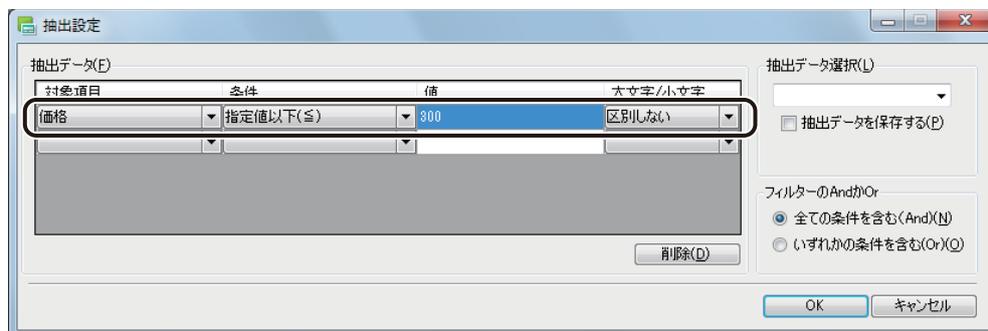
1 [レコード選択] ダイアログボックスを表示します。
⇒「レコードを指定して印刷する (P.323)」

2 [抽出] メニューの [抽出設定] をクリックします。



[抽出設定] ダイアログボックスが表示されます。

3 [抽出データ] を入力します。



[対象項目]

抽出対象の項目を指定します。

[条件]

抽出の条件を次のいずれかから選択します。

[一致] [～を含む] [～を含まない] [指定値より大きい (>)]
[指定値以上 (≥)] [指定値以下 (≤)] [指定値未満 (<)]

[値]

抽出する文字列または数値を入力します。

[大文字 / 小文字]

大文字と小文字を区別するか、しないかを指定します。

メモ

- 入力した条件を削除するときは、削除する条件を選択して [削除] をクリックします。
- 大文字と小文字の区別に関係しない抽出のときは、[大文字 / 小文字] の指定は必要ありません。

4 複数の条件を設定する場合は、次を選択します。

対象項目	条件	値	大文字/小文字
価格	指定値以下(≤)	300	区別しない
産地	一致	千葉県	区別しない

[全ての条件を含む (And)]

全ての条件に一致するデータを抽出するとき

[いずれかの条件を含む (Or)]

いずれかの条件に一致するデータを抽出するとき

5 抽出条件を保存するときは「抽出データ選択」の入力ボックスに名称を入力し、「抽出データを保存する」にチェックマークを入れます。

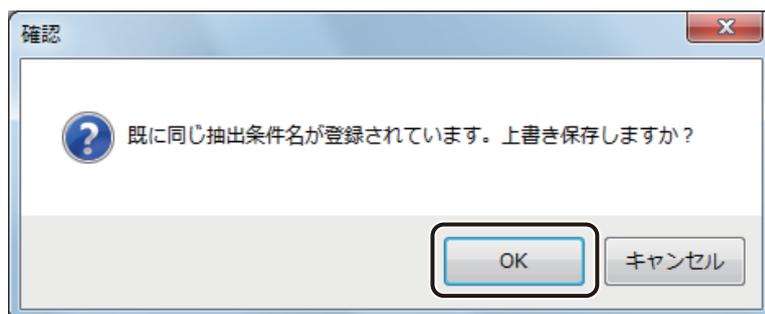
抽出データを保存しないときは、名称の入力を行わずに [抽出データを保存する] のチェックマークを外します。

メモ

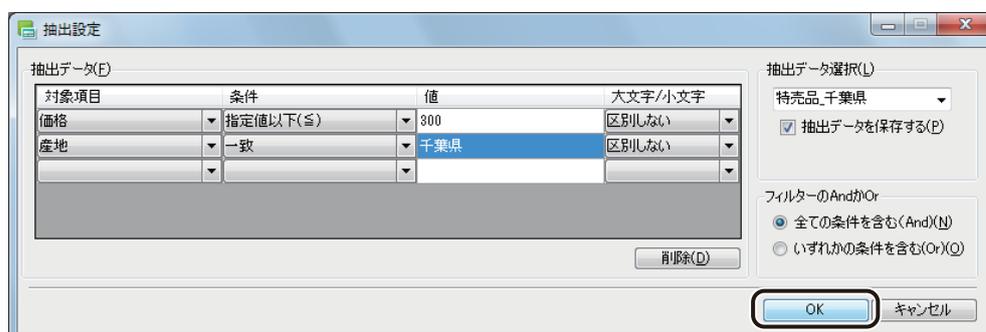
- よく利用する抽出条件を保存しておく、次回から「抽出データ選択」のドロップダウンリストから選択して使用することができます。



- 既存の抽出条件と同じ名称で保存した場合は、次のメッセージが表示されます。上書き保存するときは [OK] をクリックしてください。

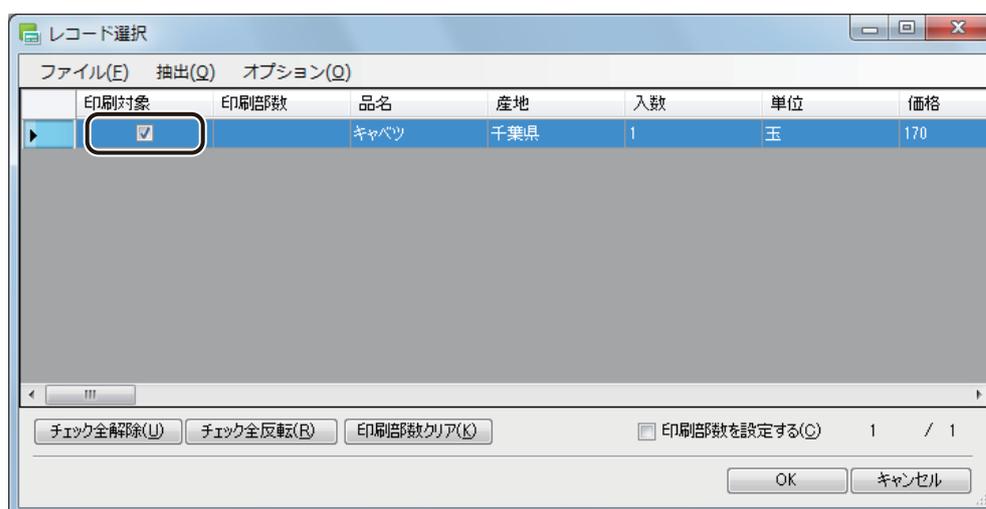


6 [OK] をクリックします。



[レコード選択] ダイアログボックスには、抽出されたレコードが表示されます。

7 抽出されたレコードの [印刷対象] にチェックマークを入れます。



8 [OK] をクリックします。

メモ

- 抽出条件の指定を解除するときは、[抽出] メニューの [元に戻す] をクリックします。

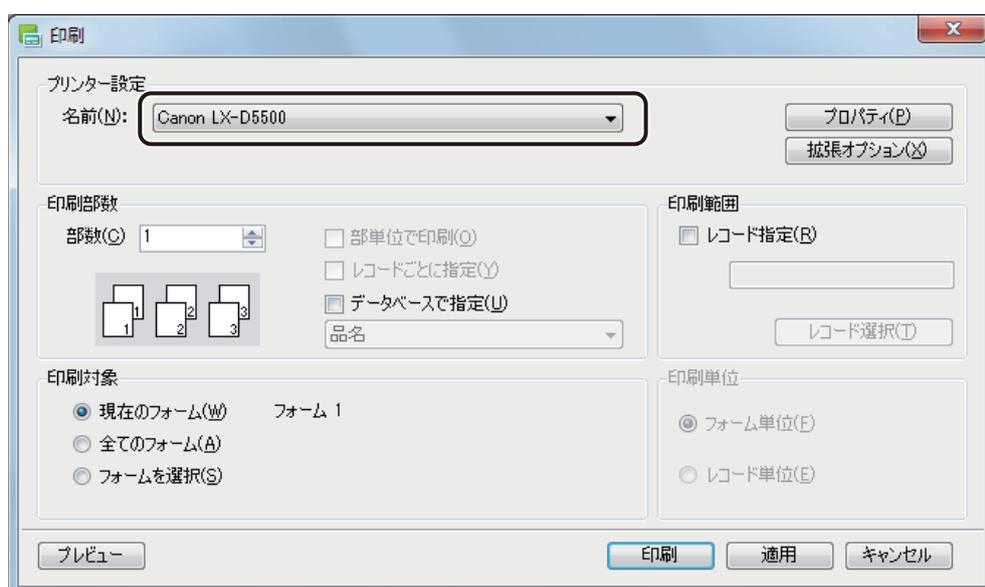
フォームを指定して印刷する

フォームを指定して印刷します。

1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒「印刷する (P.310)」

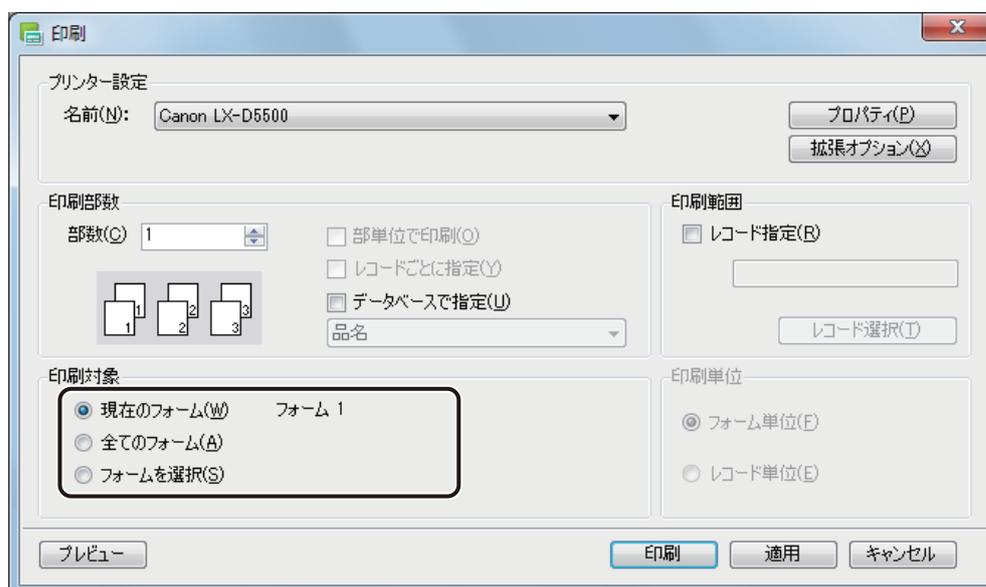
2 プリンターを指定します。



メモ

- [プロパティ] をクリックすると、用紙の種類や色設定など、プリンターの印刷設定を設定することができます。詳しくは、ご使用のプリンター取扱説明書をご覧ください。

3 フォームを選択します。



[現在のフォーム]

印刷レコードを現在表示しているフォームで印刷します。現在表示しているレコードが項目の右側に表示されます。

[全てのフォーム]

印刷レコードを全てのフォームについて印刷します。

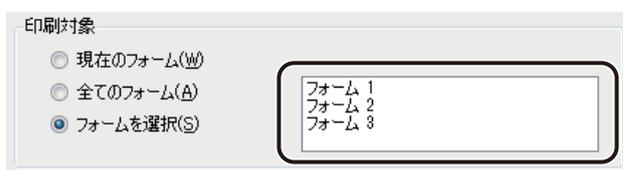
[フォームを選択]

印刷レコードを指定したフォームで印刷します。フォームの指定は、右側に表示されたリストから任意のフォームを選択します。



メモ

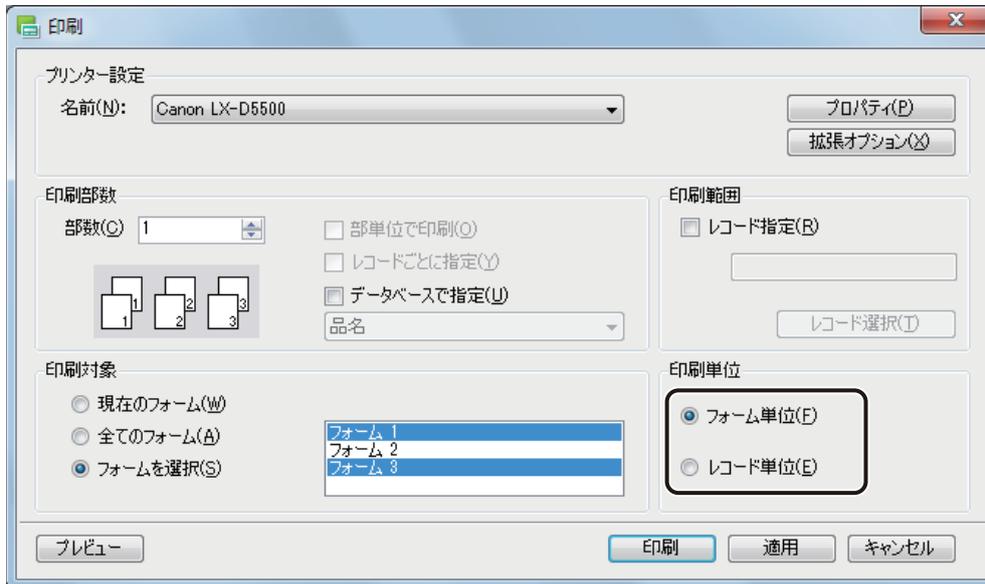
- [選択したフォーム] で複数のフォームをリストから選択するときは、次のように操作します。



- ・ 連続した複数のフォームを選択するとき
始点をクリックして選択し、次にキーボードの [Shift] キーを押しながら終点をクリックします。選択が終わったら、[Shift] キーを離します。
- ・ 連続していない複数のフォームを選択するとき
キーボードの [Ctrl] キーを押しながら選択します。選択が終わったら、[Ctrl] キーを離します。

- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、複数フォームを指定した印刷ができません。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について (P.4)」をご覧ください。

4 複数のフォームを選択したときは、[印刷単位] を選択します。



[フォーム単位]

同一フォームですべての印刷対象レコードについて印刷を行ったあと、次の印刷対象フォームの印刷に切り替わります。

[レコード単位]

印刷対象レコードごとに印刷対象フォームを印刷します。

5 [印刷] をクリックします。

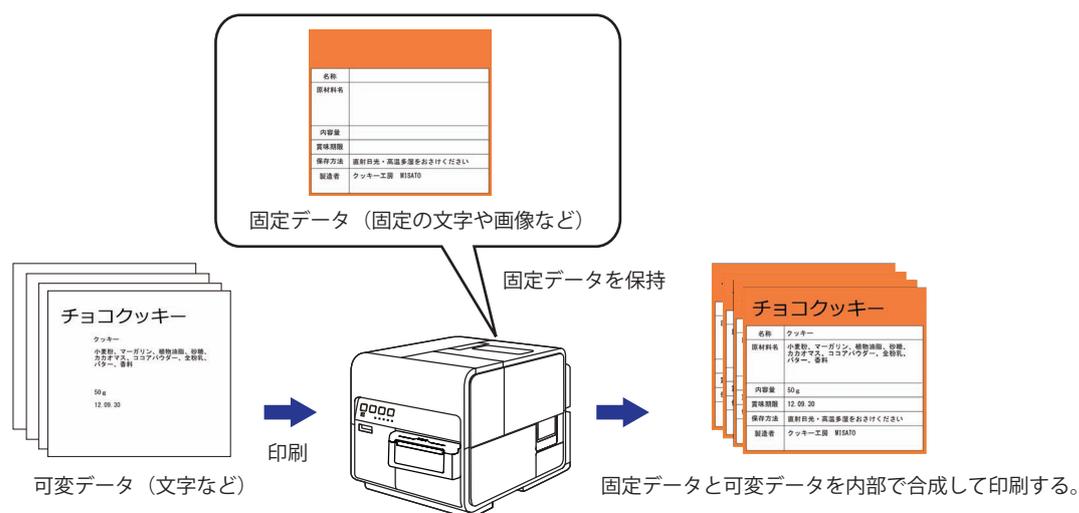


- 複数のフォームを印刷するときは、メイン画面の左側のフォームから順番に印刷されます。

オーバーレイ印刷をする

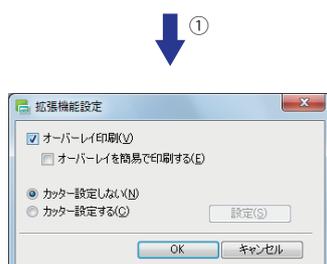
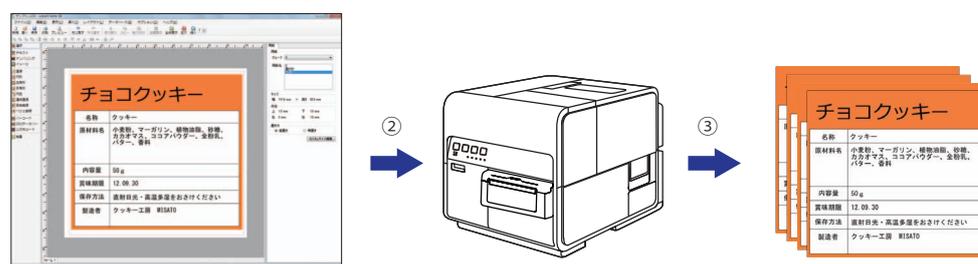
画像などを多く配置したデザインデータを印刷するときには、オーバーレイ印刷を使うと効率的に印刷できます。オーバーレイ印刷とは、プリンター内部で固定データを保持し、そのデータに文字などの可変データを合成して出力させる印刷機能です。そのような操作を行うことで、データ容量の大きい固定データを何度もプリンターに送信することなく印刷できるため、よりスピーディな印刷を行うことができます。

<オーバーレイ印刷とは>



また、本ソフトウェアでのオーバーレイ印刷は、プリンタードライバーでの印刷設定の必要はなく、本ソフトウェア上の簡単な設定のみで行うことが可能です。

<本ソフトウェアでのオーバーレイ印刷の流れ>



- ① 拡張機能設定でオーバーレイ印刷にチェックマークを入れる。
- ② 本ソフトウェアから [印刷] をクリックする。
- ③ オーバーレイ印刷が実行される。



- オーバーレイ印刷するときは、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500 または LX-P5500 をご使用ください。その他のプリンターではオーバーレイ印刷できません。
- 本ソフトウェアの [拡張オプション] から行ったオーバーレイ印刷の設定は、LX-D5500（または LX-P5500）プリンタードライバーの印刷設定（[印刷] ダイアログボックスの [プロパティ] をクリックして表示）から行ったオーバーレイの設定より優先されます。
- キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500（または LX-P5500）を共有している環境にて、管理者権限を持たないユーザーがオーバーレイ印刷を行った場合にユーザーアカウント制御画面が表示されることがあります。表示されたときは、管理者にお問い合わせください。
- 背景オブジェクトに差し込みカラーテーブルを設定しているときは、オーバーレイ印刷を行わないでください。設定どおりに色が反映されない場合があります。
- オーバーレイ印刷するときは、固定オブジェクトと可変オブジェクトがグループ化されていないことを確認してください。また、そのようなオブジェクトがあったときは、グループ化を解除してください。固定オブジェクトと可変オブジェクトをグループ化しているオブジェクトは、可変オブジェクトと判別されるため、条件によっては、印刷の処理速度に影響が出る場合があります。

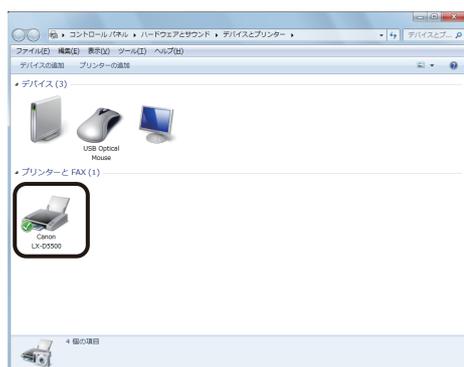


- キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500（または LX-P5500）を共有している環境にて、クライアント側のコンピューターからサーバー側のキヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500（または LX-P5500）を使ってオーバーレイ印刷するときは、プリンタードライバーのスパール形式を次のような手順で「RAW モード」に設定してください。初期設定の「EMF モード」では、本ソフトウェアからオーバーレイ印刷ができません。

- ① Windows の [スタート] をクリックし、[デバイスとプリンター] を選択します。
 - Windows 8 のとき
 - (1) Windows のスタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] をクリックします。
 - (2) [コントロールパネル] をクリックし、[ハードウェアとサウンド] から [デバイスとプリンターの表示] を選びます。
 - Windows Vista のとき

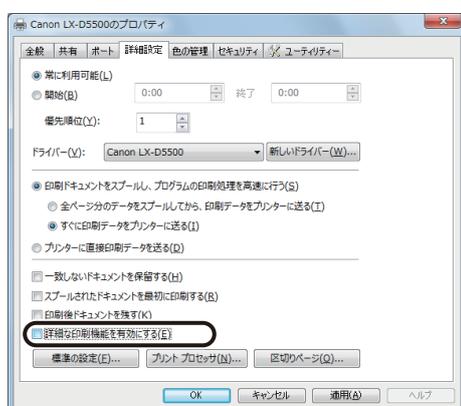
Windows の [スタート] をクリックし、[コントロールパネル] の [ハードウェアとサウンド] から [プリンター] を選びます。
 - Windows XP のとき

Windows の [スタート] をクリックし、[プリンターと FAX] を選びます。
- ② Canon LX-D5500（または LX-P5500）プリンターのアイコンを右クリックし、[プリンターのプロパティ] を選びます。



[Canon LX-D5500 のプロパティ]（または [Canon LX-P5500 のプロパティ]）ダイアログボックスが表示されます。

- ③ [詳細設定] タブをクリックし、「詳細な印刷機能を有効にする」のチェックマークを外します。



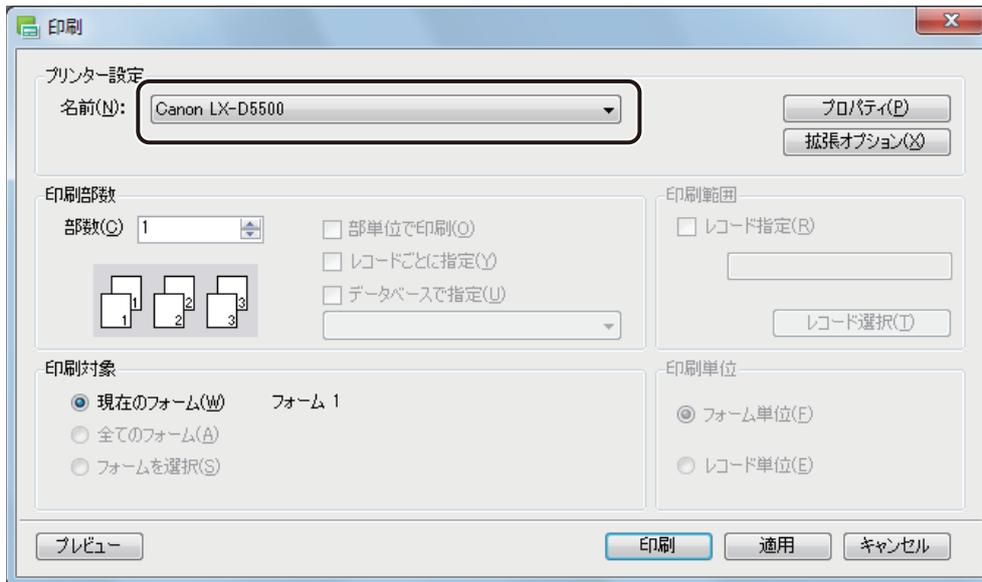
スパール形式が RAW モードに設定されます。

第7章 印刷設定

1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

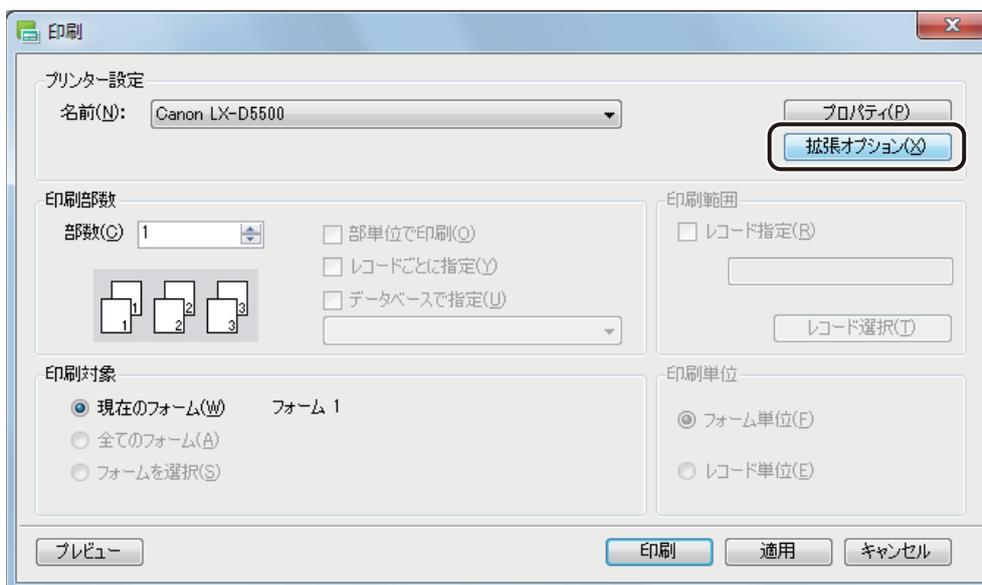
⇒「印刷する (P.310)」

2 印刷に使用するプリンターを「Canon LX-D5500」(または「Canon LX-P5500」) に指定します。



3 印刷部数や印刷範囲などを設定します。

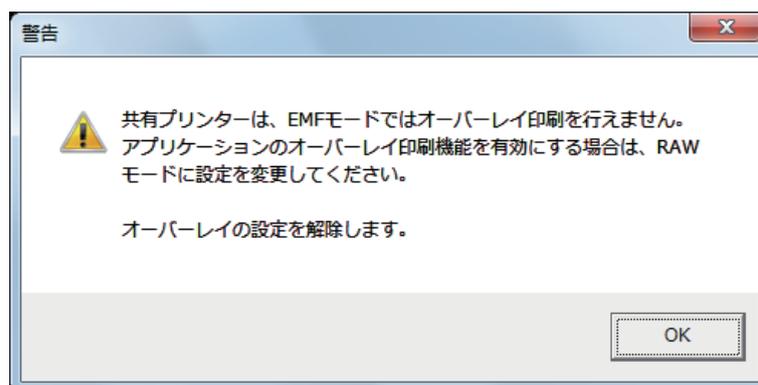
4 [拡張オプション] をクリックします。



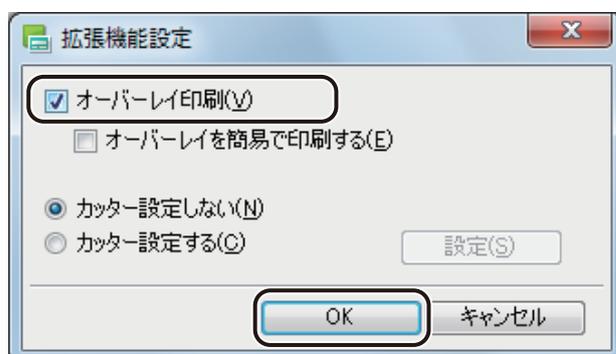
[拡張機能設定] ダイアログボックスが表示されます。

 メモ

- 次のようなメッセージが表示されたときは、オーバーレイ印刷は設定できません。本ソフトウェアからオーバーレイ印刷するときは、プリンタードライバーのスプール形式を「RAW モード」に設定してください。(⇒ P. 342 のメモ)

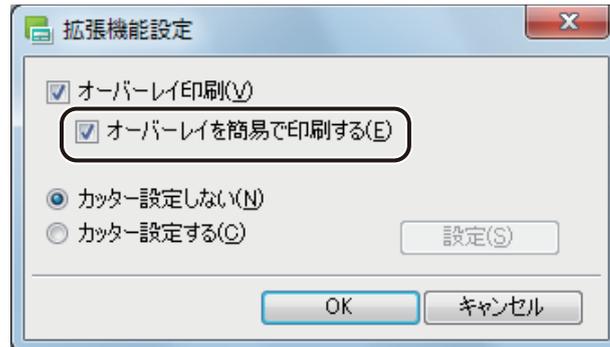


- 5 [オーバーレイ印刷] にチェックマークを入れて、[OK] をクリックします。



メモ

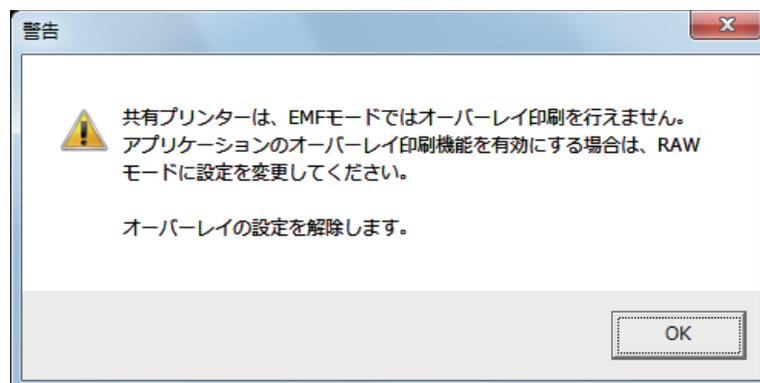
- [オーバーレイを簡易で印刷する] にチェックマークを入れて印刷すると、通常のオーバーレイ印刷（チェックマークが入っていないとき）よりも高速に印刷処理を行うことができます。ただし、固定オブジェクトと可変オブジェクトが重なる部分も印刷するため、重なった部分は色が混ざり合って印刷されます。通常のオーバーレイ印刷では、固定オブジェクトと可変オブジェクトの重なる部分は印刷されません。



6 [印刷] をクリックします。

メモ

- 次のようなメッセージが表示されたときは、オーバーレイ印刷できません。[OK] をクリックすると、印刷が中止され、また、本ソフトウェアのオーバーレイ印刷の設定は解除されます。本ソフトウェアからオーバーレイ印刷するときは、プリンタードライバーのスプール形式を「RAW モード」に設定してください。(⇒ P.342 のメモ)



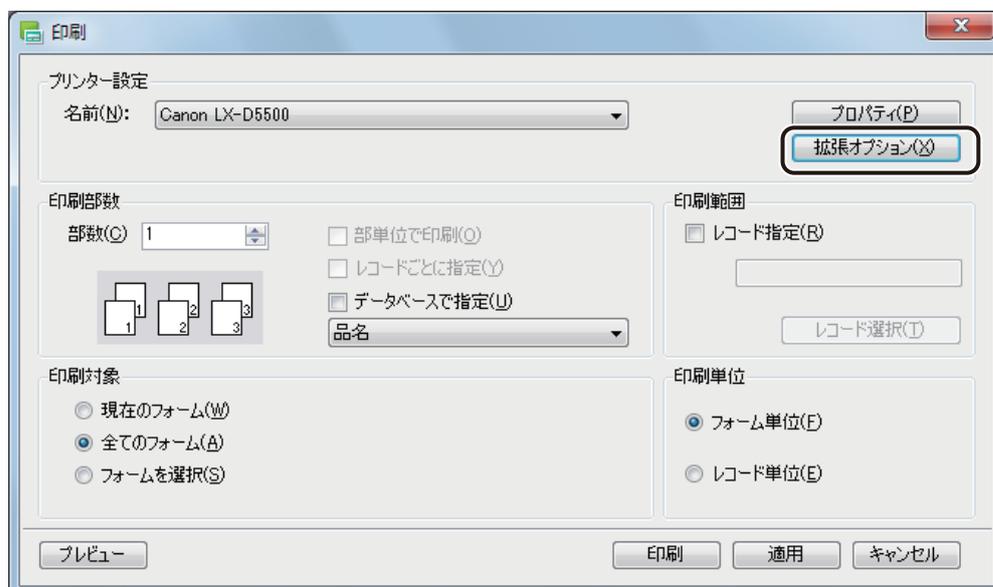
カッターを設定する

キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500 または LX-P5500 でオプションのオートカッターを使って印刷するときは、本ソフトウェアから用紙をカットするタイミングやカット間隔を設定できます。

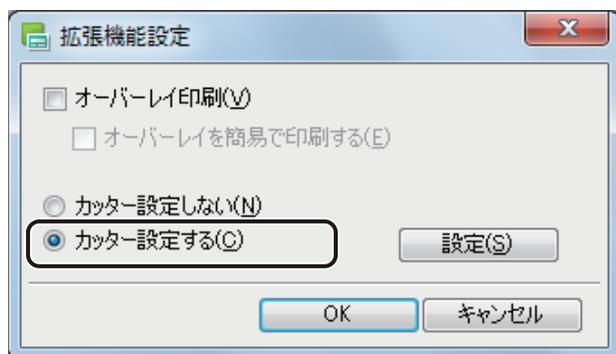
メモ

- 本ソフトウェアの [拡張オプション] から行ったカッターの設定は、LX-D5500（または LX-P5500）プリンタードライバーの印刷設定（[印刷] ダイアログボックスの [プロパティ] をクリックして表示）から行ったカッターの設定より優先されます。

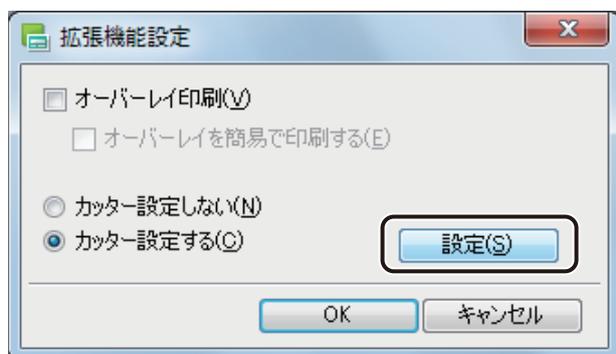
- 1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。
⇒ 「印刷する (P.310)」
- 2 印刷に使用するプリンターを「Canon LX-D5500」（または「Canon LX-P5500」）に指定します。
- 3 [拡張オプション] をクリックします。



4 [カッター設定する] を選択します。

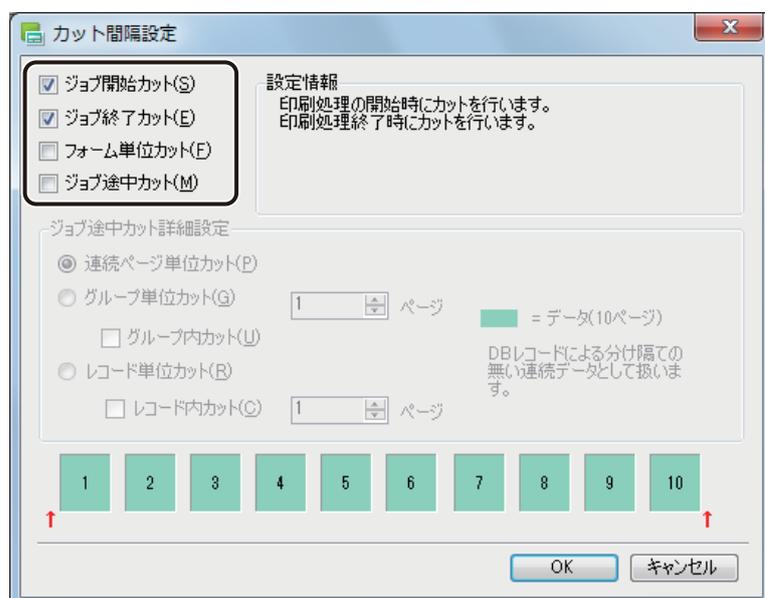


5 [設定] をクリックします。



[カッター間隔設定] ダイアログボックスが表示されます。

6 カット間隔を選択します。



[ジョブ開始カット]

印刷開始時にカットします。

[ジョブ終了カット]

印刷終了時にカットします。

[フォーム単位カット]

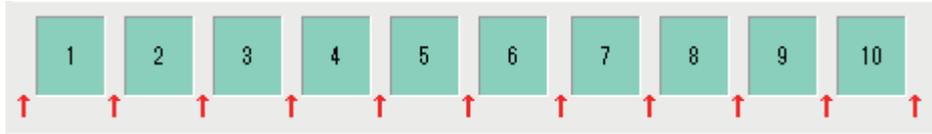
フォーム単位でカットします。複数のフォームがあるときに設定できます。

[ジョブ途中カット]

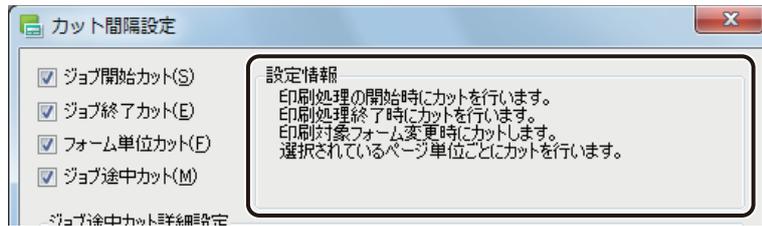
任意のタイミングでカットします。ページごとにカットしたいときや、ページ単位またはレコード単位にカットしたいときに選択します。

 メモ

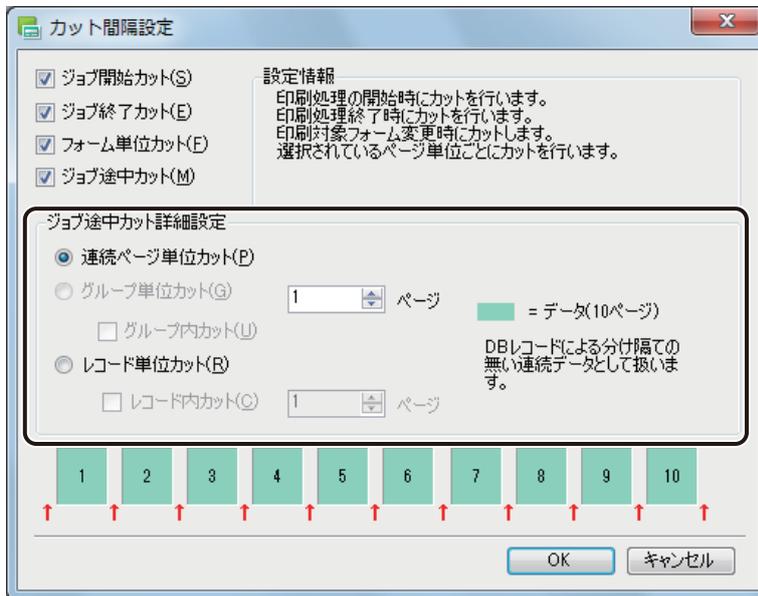
- カットのタイミングのイメージがプレビュー表示されます。



- カット間隔の設定情報がダイアログボックスの右側に表示されます。



7 [ジョブ途中カット] を選択したときは、[ジョブ途中カット詳細設定] を設定します。



[連続ページ単位カット]

レコードに関係なく、ページごとにカットします。 ページ に数値を入力すると、指定した枚数ごとにカットします。

[グループ単位カット]

同じページごとの単位でカットするときに選択します。

[グループ内カット] にチェックマークを入れると、グループ内を指定した枚数ごとにカットします。枚数の指定は、 ページ に入力します。

[レコード単位カット]

同じレコードごとにカットするときに選択します。

[レコード内カット] にチェックマークを入れると、レコード内を指定した枚数ごとにカットします。枚数の指定は、 ページ に入力します。



メモ

- [グループ単位カット] は、[印刷部数] で [部数] を設定しているときに設定できます。ただし、[部数単位で印刷] にチェックマークが入っているときは設定できません。
- [レコード単位カット] は、データベースを参照 (または内部データベースを保持) しているときに設定できます。

8 [OK] をクリックします。

用紙をカットするタイミングやカット間隔が設定されます。

9 [印刷] をクリックします。

用紙に合わせてバーコードを調整する

本ソフトウェアでは、印刷したバーコード、GS1 データバー、二次元コードが読み取りにくい場合に用紙にあわせた調整を「バーコード設定」で行うことができます。

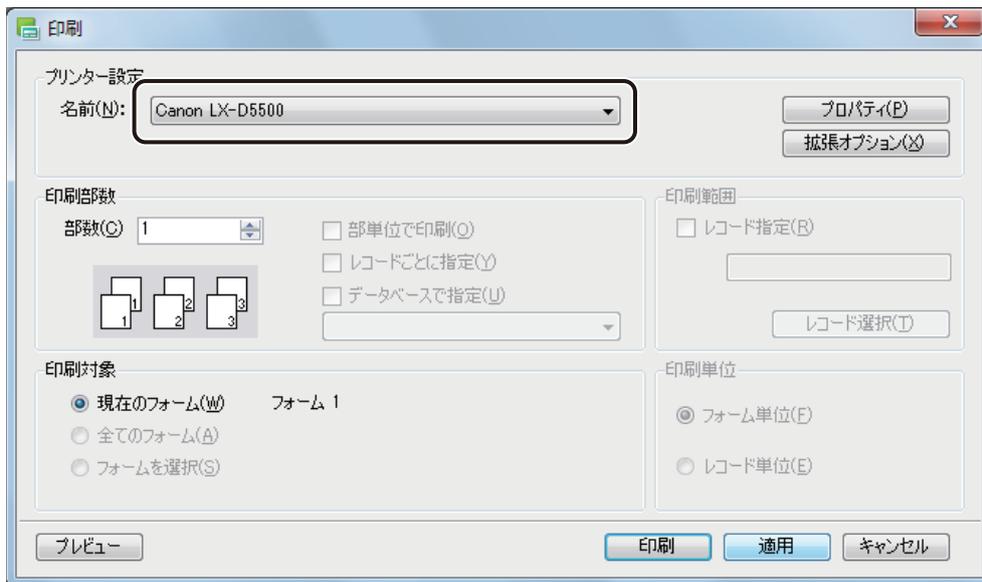
メモ

- 「バーコード設定」を行うときは、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500 または LX-P5000 をご使用ください。その他のプリンターでは設定できません。
- 用紙種類で「光沢紙」および「白 PET」が選択されているときは、「バーコード設定」できません。

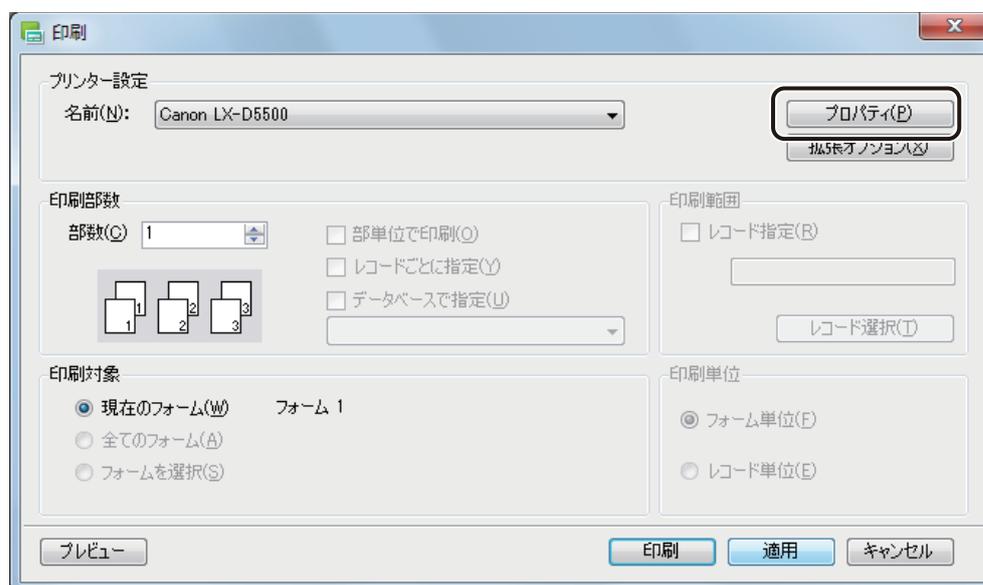
1 [印刷] ダイアログボックスを表示します。

⇒ 「印刷する (P.310)」

2 印刷に使用するプリンターを「Canon LX-D5500」(または「Canon LX-P5500」) に指定します。



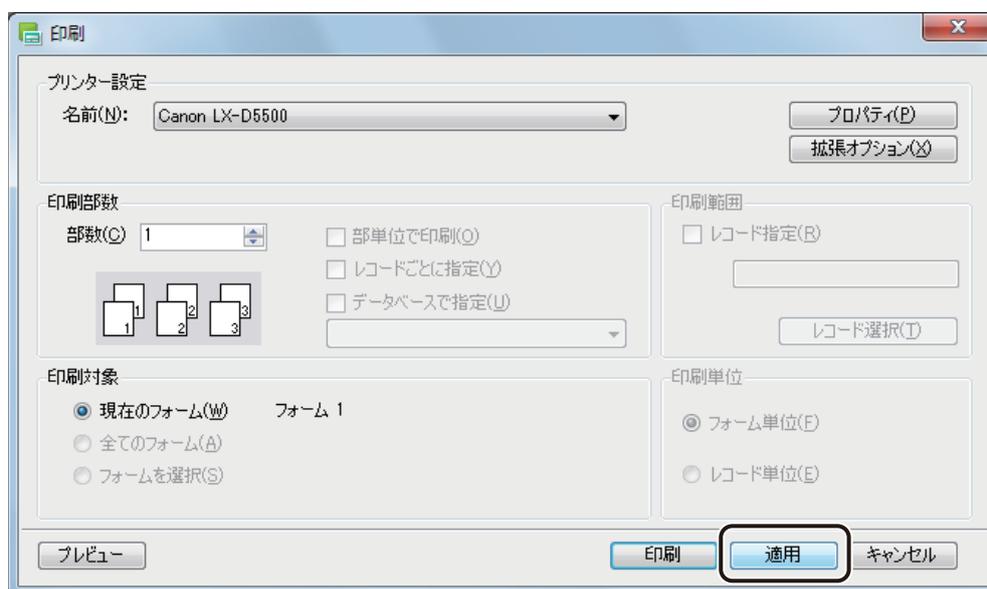
3 [プロパティ] をクリックし、[用紙種類] および [用紙形状] を印刷する用紙の仕様に設定します。



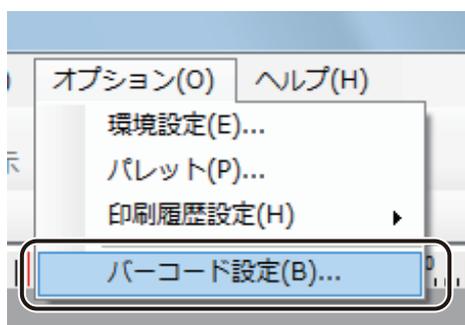
メモ

- 「Canon LX-D5500 プリンタードライバー」(または「Canon LX-P5500 プリンタードライバー」) の設定については、キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500/LX-P5500 のユーザーズガイドをご覧ください。
- バルコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷プリンターの変更またはプリンタードライバーの印刷設定(解像度、用紙種類)を変更したときは、バルコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。

4 [適用] をクリックします。



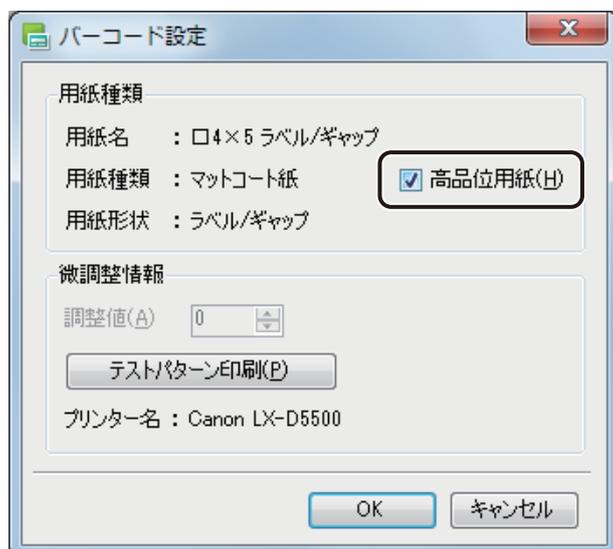
5 [オプション] メニューの [バーコード設定] をクリックします。



[バーコード設定] ダイアログボックスが表示されます。

6 用紙種類に合わせて、次のように操作します。

- 用紙種類「マットコート紙」の高品位用紙のとき
 - ① 「高品位用紙」のチェックボックスにチェックマークを入れます。



- ② [OK] をクリックします。

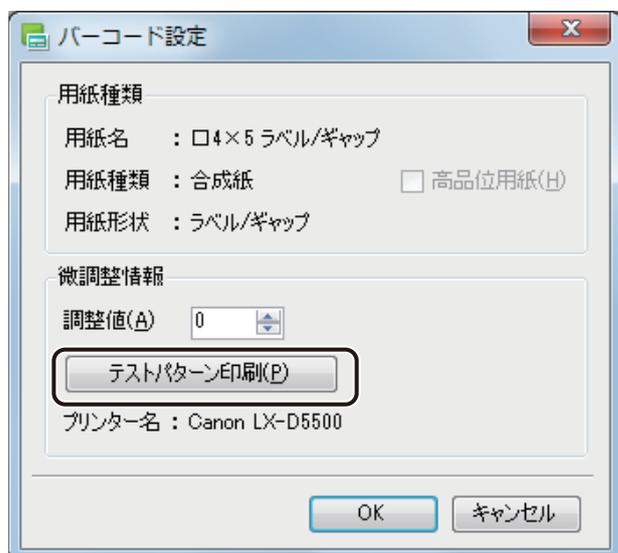
メモ

- 「高品位用紙」のチェックボックスは、用紙形状が「ラベル/ギャップ」、「ラベル/マーカ―」または「ラベル/TOF無し」のときに指定できます。

第7章 印刷設定

- 用紙種類「合成紙」、「薄紙マットコート紙」および、用紙種類「マットコート紙」の用紙形状「タグ/メーカー」または「タグ/TOF無し」のとき

① [テストパターン印刷] をクリックします。

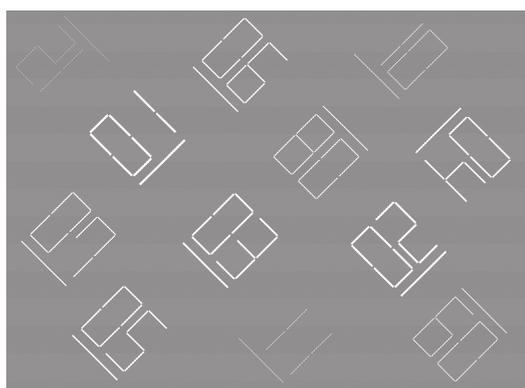


テストパターンが印刷されます。

② テストパターンから調整値を読み取ります。

テストパターンには、次のように数字が「01」～「12」まで印刷されます（数字の底には、アンダーバーが引いてあります）。数字は、大きな数字ほど薄く印刷されるようになっています。

印刷されている数字を「01」「02」「03」・・・と、順に確認していき、最後に読み取ることができた数字が調整値となります。



- ③ [調整値] に、テストパターンから読み取った数字を入力します。



- ④ [OK] をクリックします。

8

LabelCreate LITE の使いかた

「LabelCreate LITE」の使いかたについて説明します。

起動と終了
作業画面とツールバー
印刷のしかた
編集のしかた

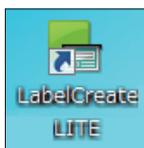
起動と終了

「LabelCreate LITE」の起動と終了について説明します。

起動する

「LabelCreate LITE」を起動します。

1 デスクトップ上のアイコン (LabelCreate LITE) をダブルクリックします。

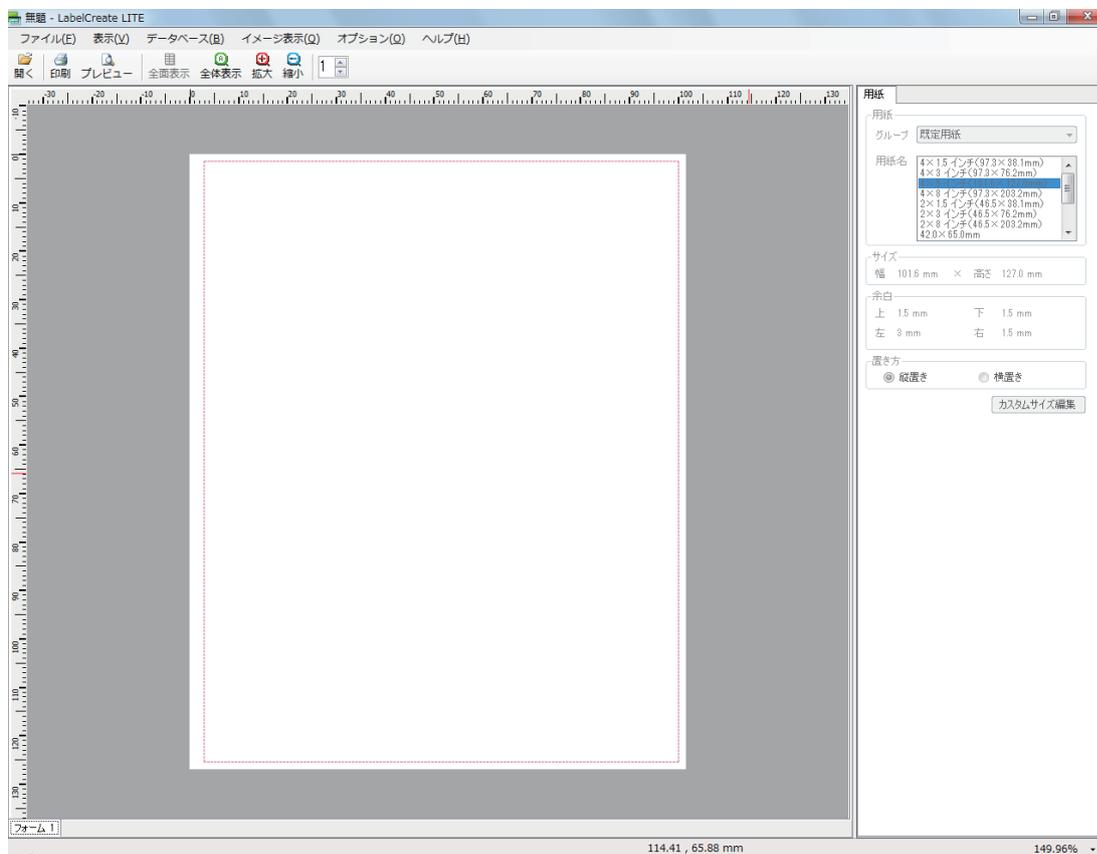


Windows の [スタート] メニューから表示するときは、[スタート] メニューをクリックし、[すべてのプログラム] - [Canon Finetech] - [LabelCreate LITE] - [LabelCreate LITE] を選択します。

・ Windows 8 のとき

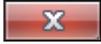
スタート画面から表示するときは、[LabelCreate LITE] のタイルをクリックします。

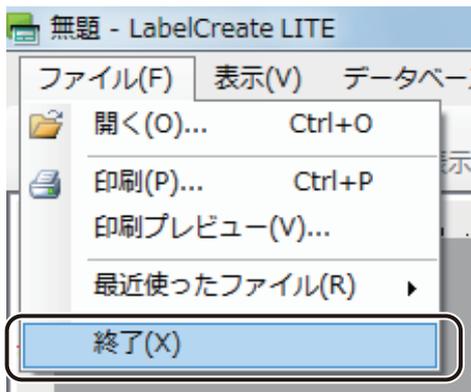
「LabelCreate LITE」が起動します。



終了する

「LabelCreate LITE」を終了します。

- 1 画面右上の （閉じる）をクリックします。
または、[ファイル] メニューの [終了] をクリックします。



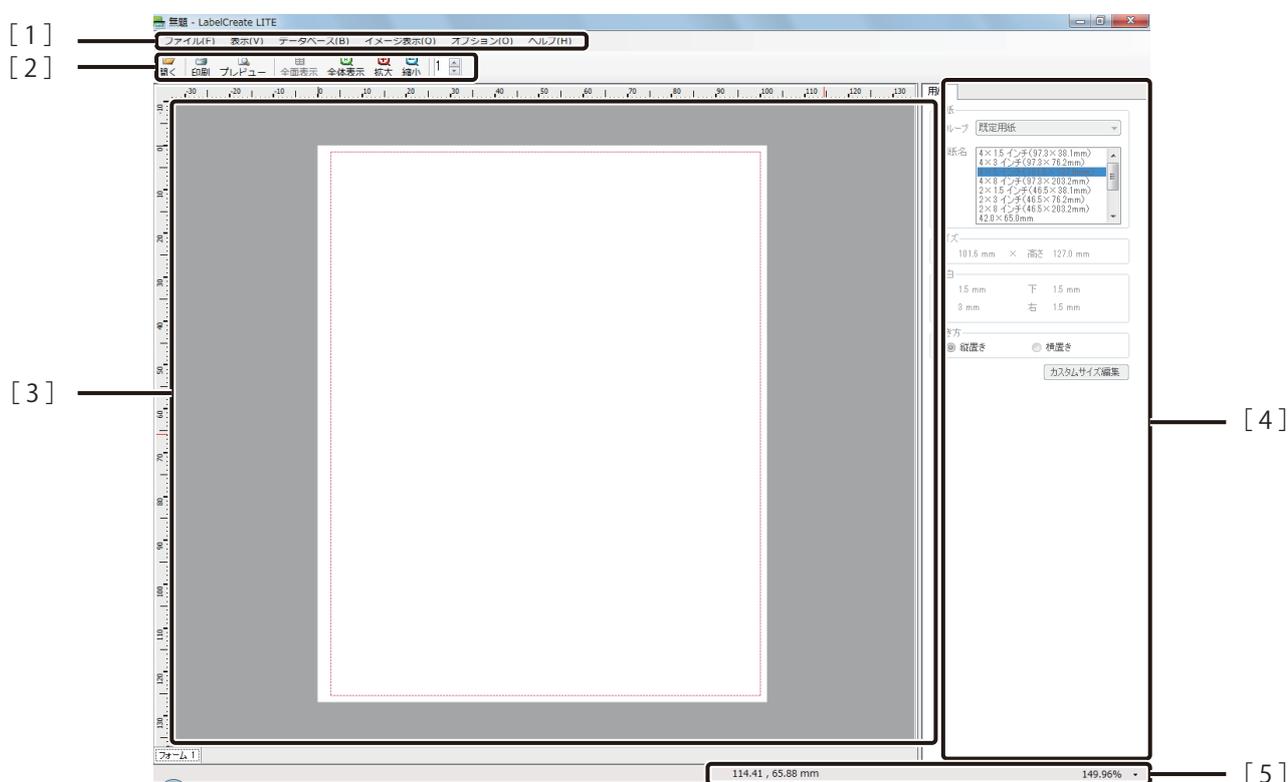
「LabelCreate LITE」が終了します。

作業画面とツールバー

「LabelCreate LITE」の作業画面とツールバーについて説明します。

作業画面の構成

「LabelCreate LITE」の作業画面は、次のように構成されています。



[1] メニューバー

「LabelCreate LITE」の操作を選択します。

メニューをクリックすると、サブメニューがドロップダウン表示されます。

⇒「メニューバー (P.362)」

[2] 標準ツールバー

印刷など、よく使うメニューをボタンとして表示しています。

⇒「標準ツールバー (P.364)」

[3] デザイン表示エリア

デザインを表示する画面です。フォームやレコードの切り替えはできますが、オブジェクトの編集作業を行うことはできません。

[4] プロパティエリア

デザインエリアで選択しているオブジェクトのプロパティが表示されます。オブジェクトを選択していないときは、[用紙] プロパティが表示されます。基本的に、プロパティの編集はできません。

[5] ステータスバー

デザインエリアの現在の状態に関する情報を表示します。

メニューバー

メニューバーでは、「LabelCreate LITE」の機能を表示しています。メニューをクリックすると、サブメニューがドロップダウン表示されます。

ファイル(F) 表示(V) データベース(B) イメージ表示(Q) オプション(O) ヘルプ(H)

■ ファイルメニュー

「LabelCreate LITE」のファイル作成や終了に関する項目が表示されます。

開く	ファイルを開きます。
印刷	[印刷] ダイアログボックスを表示します。
印刷プレビュー	印刷イメージを表示します。
最近使ったファイル	最近操作したファイルの一覧が表示されます。
終了	「LabelCreate LITE」を終了します。

■ 表示メニュー

作業画面の表示に関する項目が表示されます。

ツールバー	標準ツールバー、レイアウトツールバー、および挿入ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示 / 非表示を切り替えます。
ルーラー	ルーラーの表示 / 非表示を切り替えます。

第 8 章 LabelCreate LITE の使いかた

ガイドバー	ガイドバーの表示 / 非表示を切り替えます。
グリッド	グリッドの表示 / 非表示を切り替えます。
表示倍率	デザインエリアの表示に関する設定を行います。
全面表示 / 一面表示	面付けのデザインデータを作成するときに、全体の表示（[全面表示]）と、面付け一面の表示（[一面表示]）を切り替えることができます。 フォームデザインが [面付け] のときに有効です。
画面更新	外部データベースを参照しているとき、データベースを更新します。

■ データベースメニュー

データベース機能に関する項目が表示されます。

データ画面	[データベース確認画面] を表示します。
-------	----------------------

■ イメージ表示メニュー

本ソフトウェアの表示画質を目的にあわせて変更します。

動作優先モード	チェックマークを入れると、「動作優先モード」に設定されます。 動作優先モードを設定すると、ご使用の環境によっては、「通常モード」（チェックマークなし、初期設定）に比べて、操作性を向上させることができます。
---------	---

■ オプションメニュー

「LabelCreate LITE」の全般に関する項目が表示されます。

環境設定	[環境設定] ダイアログボックスを表示します。
バーコード設定	用紙に合わせてバーコード、GS1 データバーまたは二次元コードを調整します。

■ ヘルプメニュー

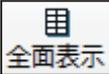
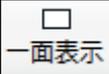
「LabelCreate LITE」のヘルプとバージョン情報が表示されます。

ヘルプ	ヘルプを表示します。
バージョン情報	バージョン情報を表示します。

標準ツールバー

標準ツールバーでは、よく使うメニューをボタンとして表示しています。



<p>[開く]</p> 	<p>ファイルを開きます。</p>
<p>[印刷]</p> 	<p>[印刷] ダイアログボックスを表示します。</p>
<p>[プレビュー]</p> 	<p>印刷イメージを表示します。</p>
<p>[全面表示]</p>  <p>[一面表示]</p> 	<p>面付けのデザインデータを作成するときに、全体の表示（[全面表示]）と、面付け一面の表示（[一面表示]）を切り替えることができます。 フォームデザインが「面付け」のときに有効です。</p>
<p>[全体表示]</p> 	<p>デザインエリア全体を表示します。</p>
<p>[拡大]</p> 	<p>クリックすると、デザインエリアの表示倍率を 5% ずつ拡大します。</p>
<p>[縮小]</p> 	<p>クリックすると、デザインエリアの表示倍率を 5% ずつ縮小します。</p>
<p>[差し込みレコード番号]</p> 	<p>データベースの表示レコードを切り替えます。</p>

印刷のしかた

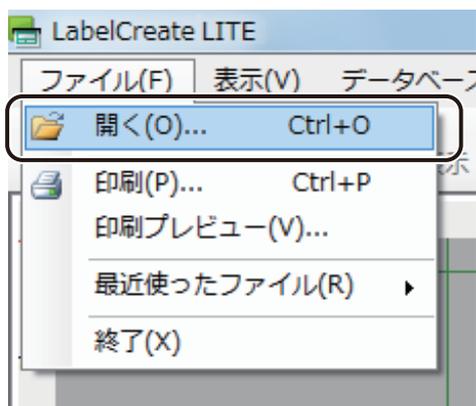
「LabelCreate LITE」の印刷のしかたについて説明します。

ファイルを開く

「LabelCreate SE」で作成したデザインデータを開きます。

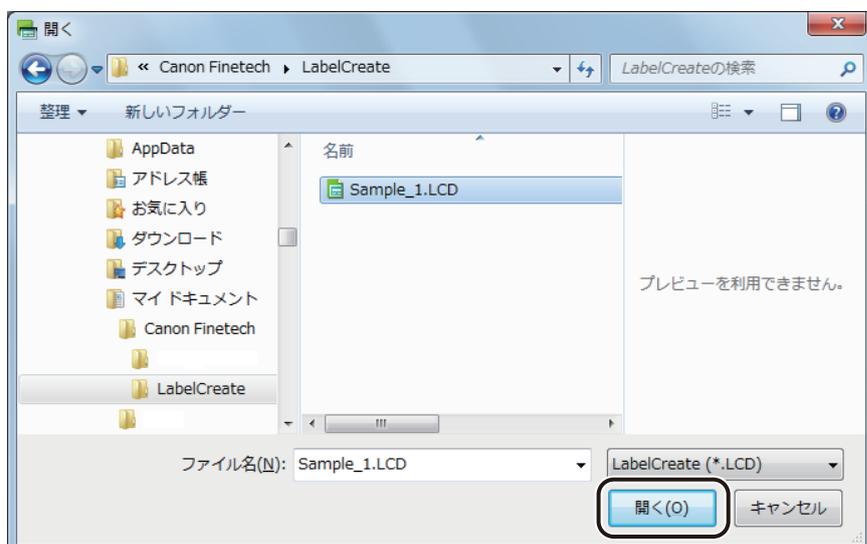
1 標準ツールバーの  をクリックします。

または、[ファイル] メニューの [開く] をクリックします。



[開く] ダイアログボックスが表示されます。

2 ファイル (*.LCD) を選択し、[開く] をクリックします。

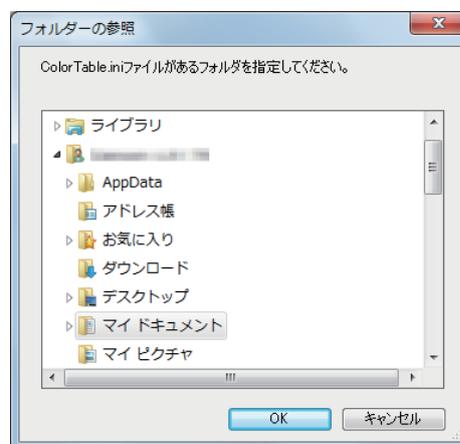


 メモ

- 「ラベル Pro-1」デザインファイル (*.SMD) を開く場合について
 - ・手順2でファイル形式を「LabelPro-1 (*.SMD)」に設定してください。
また、あらかじめ「ラベル Pro-1」デザインファイル (*.SMD) の読み込みに関する制限事項をご確認ください。
⇒「ラベル Pro-1 デザインファイルとの互換性について (P.386)」
 - ・「ラベル Pro-1」デザインファイル (*.SMD) を開く場合、カラーテーブル情報が登録されているときは、確認のメッセージが表示されます。カラーテーブル情報を読み込むときは、[はい] をクリックしてください。

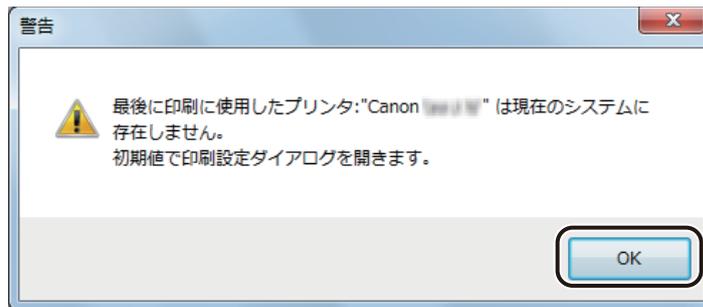


- ・上記手順にて [はい] をクリックした場合、カラーテーブルファイル (ColorTable.ini) の位置が確認できなかったときは、次の画面が表示されます。ファイルが格納されているフォルダーを指定して、[OK] をクリックしてください。

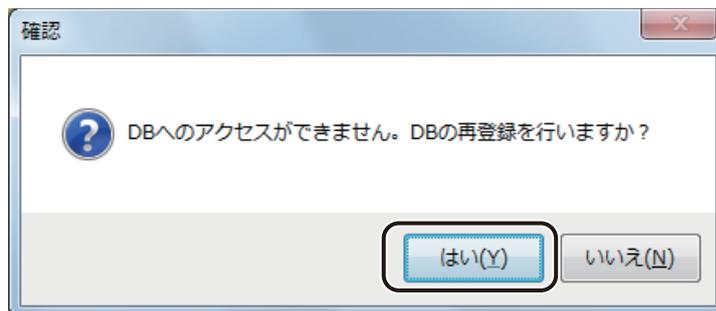


メモ

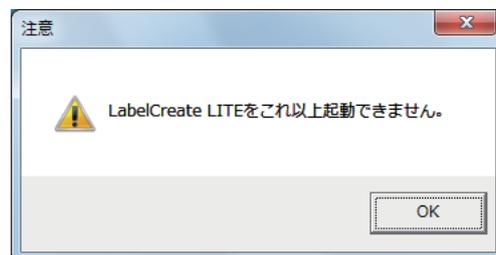
- 次のようなメッセージが表示されたときは、[OK] をクリックしてください。
[OK] をクリックすると、印刷に使用するプリンターに初期値（ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンター）を設定します。印刷を行うときは再度プリンターの設定を行ってください。



- 外部データベースを参照しているデザインデータを開いたとき、データベースファイルの位置が確認できない場合に次のようなメッセージが表示されることがあります。[はい] をクリックしてデータベースを再設定してください。操作については、「[データベースを参照（またはインポート）する \(P.252\)](#)」をご覧ください。



- 本ソフトウェアでは、デザインファイルを編集中に別のデザインファイルを開くと新たなウィンドウを起動しますが、同時に起動できるウィンドウは2つまでです。



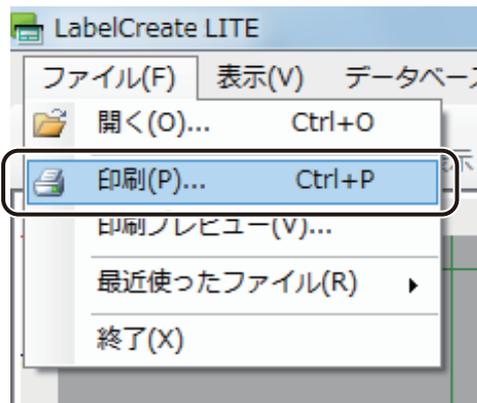
- 多くの画像や大きな容量の画像を配置しているデータの場合、ご使用になられている環境によっては、操作性に影響が出る場合があります。そのような場合は、「動作優先モード」に切り替えることで、操作性を向上させることができます。詳しくは、「[表示画質の設定 \(P.51\)](#)」をご覧ください

印刷する

デザインデータを印刷します。

1 標準ツールバー  をクリックします。

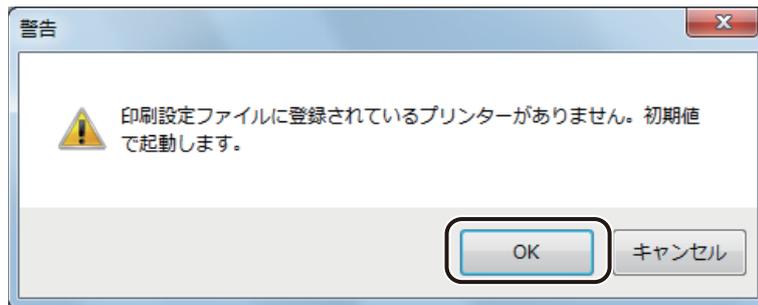
または、[ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。



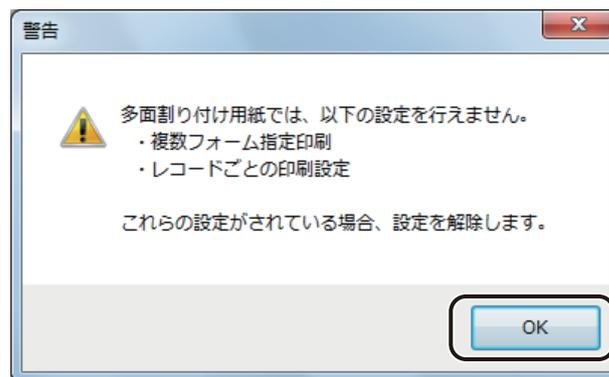
[印刷] ダイアログボックスが表示されます。

メモ

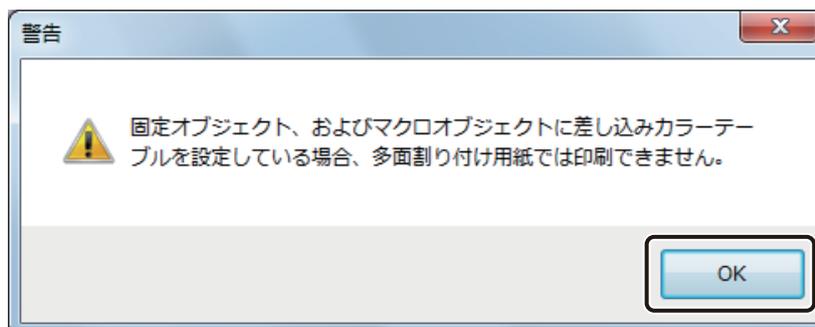
- 次のようなメッセージが表示されたときは、[OK] をクリックしてください。
[OK] をクリックすると、ご使用の環境で「通常使うプリンター」に指定されているプリンターを設定し、[印刷] ダイアログボックスを表示します。



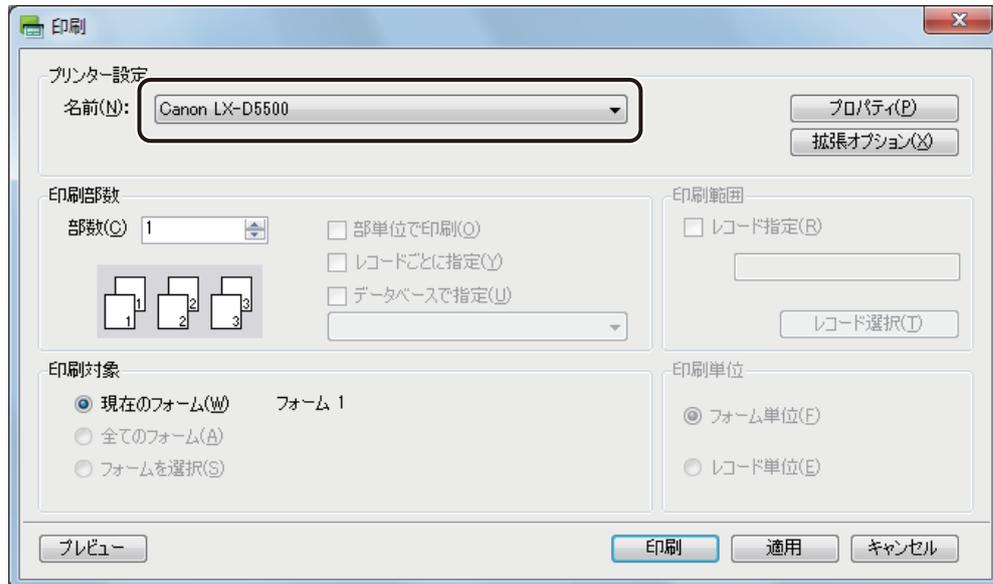
- 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときは、次のメッセージが表示されます。内容を確認して、[OK] をクリックします。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について (P.4)」をご覧ください。



- 次のメッセージが表示されたときは、内容を確認して [OK] をクリックします。オブジェクトに差し込みカラーテーブルが設定されているときは、面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）を選択した印刷ができません。用紙の変更またはオブジェクトの差し込みカラーテーブル設定を解除してください。「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について (P.4)」をご覧ください。

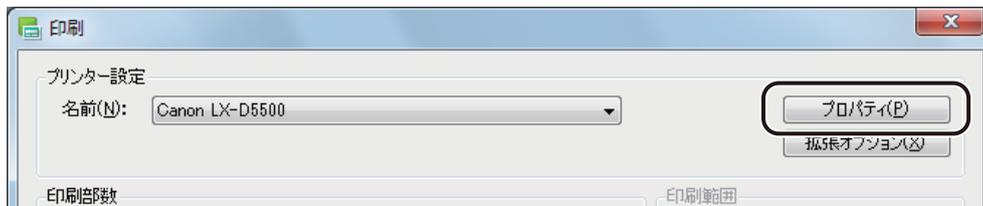


2 印刷に使うプリンターを指定します。



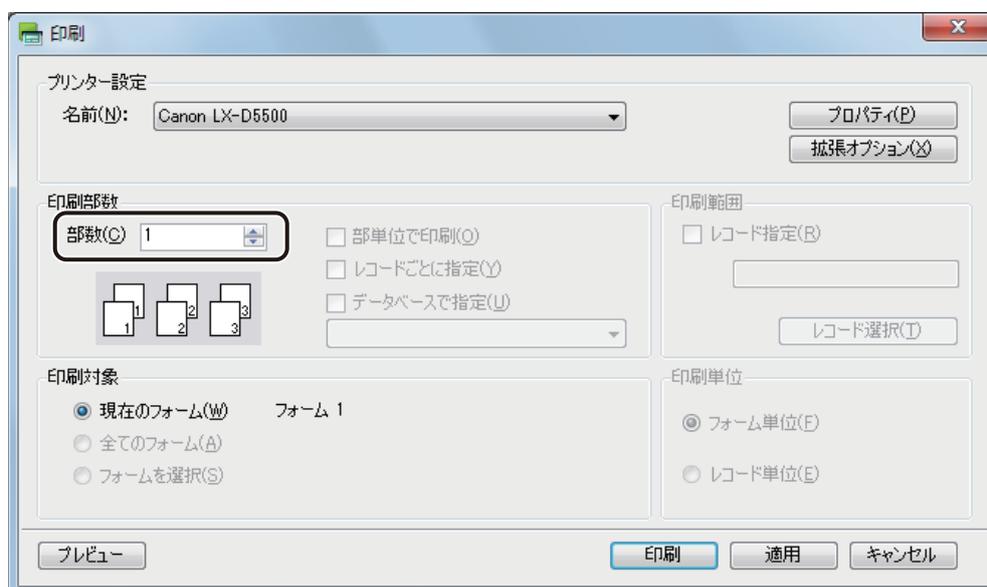
メモ

- [プロパティ] をクリックすると、用紙の種類や色設定など、プリンターの印刷設定を設定できます。詳しくは、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

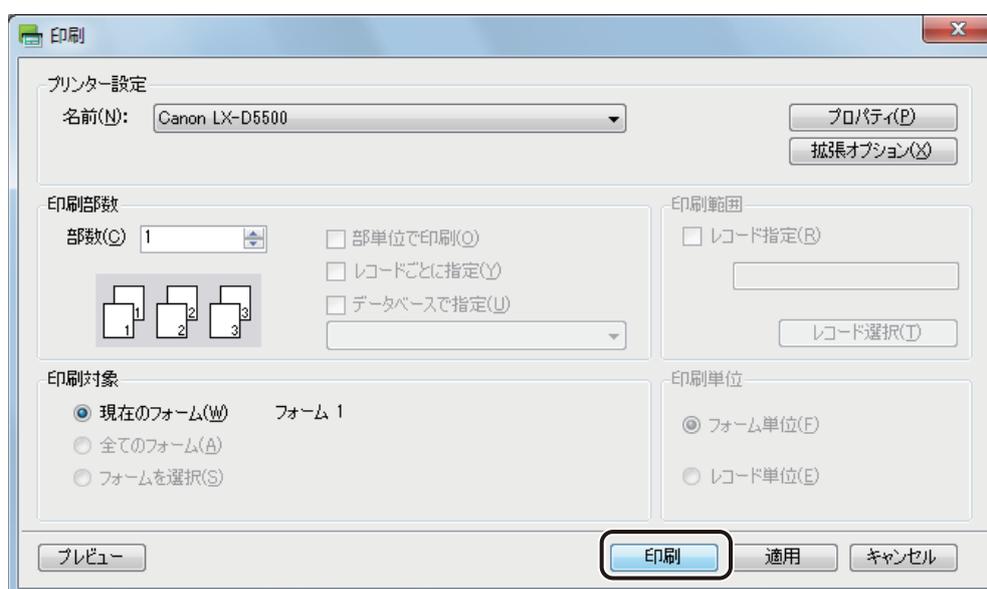


- バーコード、GS1 データバー、二次元コードが配置してあるデータの場合、印刷プリンターの変更またはプリンタードライバの印刷設定（解像度、用紙種類）を変更したときは、バーコード、GS1 データバー、二次元コードを再確認してください。印刷に使用するプリンターや印刷設定の違いによって、同じデータで作成したオブジェクトでも大きさが異なります。
- 部単位で印刷するときは、[部単位で印刷] にチェックマークを入れます。複数の部数を印刷するときに指定できます。

3 部数を設定します。

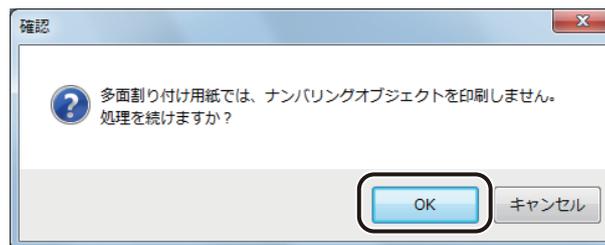


4 [印刷] をクリックします。



 メモ

- [印刷] ダイアログボックスの [プレビュー] (または、標準ツールバー  や [ファイル] メニューの [印刷プレビュー]) をクリックすると、印刷のプレビュー画面が表示されます。印刷プレビューについては、「[プレビューで確認する \(P.303\)](#)」をご覧ください。
- その他の印刷設定については、「[いろいろな印刷 \(P.321\)](#)」をご覧ください。
- デザインファイル (.LCD) と印刷設定ファイル (.LCI) は同一階層に置いてください。ふたつのファイルの位置が異なると、設定情報が読み込まれません。印刷設定ファイルが確認できなかったときは、初期値 (ご使用の環境で「通常使うプリンター」に設定されているプリンター) で起動します。
- 印刷したラベルのバーコード、GS1 データバー、二次元コードが読み取りにくいときは、「バーコード設定」を行ってください。バーコード設定については、「[用紙に合わせてバーコードを調整する \(P.351\)](#)」をご覧ください。
- 面付け用紙 (フォームデザインが「面付け」) でナンバリングオブジェクトが配置されているときは、次のメッセージが表示されます。内容を確認して、[OK] をクリックします。「[13. 面付け用紙 \(フォームデザインが「面付け」\) のときの制限について \(P.4\)](#)」をご覧ください。



編集のしかた

「LabelCreate LITE」では、基本的に編集作業を行うことはできませんが、「LabelCreate SE」にて編集許可の設定を行うことで、一部の操作において「LabelCreate LITE」での編集を可能にすることができます。「LabelCreate LITE」で編集が可能となる操作は、次のようになっています。

「文字オブジェクト（固定）の編集」

データ種類「固定」の文字オブジェクト（以下、文字オブジェクト（固定）とする）の [入力データ] が編集可能となります。文字オブジェクトに設定しているフォントや大きさやオブジェクトの位置など、その他のプロパティ設定については変更できません。

「内部データベースの編集」

内部データベースの指定した項目についてのデータ編集が可能です。



メモ

- 編集内容を保存したいときは、「LabelCreate SE」で編集してください。「LabelCreate LITE」で編集した内容は保存できません。
- ルーラーの表示 / 非表示を切り替えるときは、[表示] メニューの [ルーラー] をクリックします。
- ガイドバーの表示 / 非表示を切り替えるときは、[表示] メニューの [ガイドバー] から [表示する] をクリックします。「LabelCreate LITE」ではガイドバーの追加はできません。
- グリッドの表示 / 非表示を切り替えるときは、[表示] メニューの [グリッド] から [表示する] をクリックします。
- 表示倍率の変更するときは、[表示] メニューの [表示倍率] から任意の倍率をクリックします。

文字オブジェクト（固定）を編集する

文字オブジェクト（固定）を編集します。

「LabelCreate SE」で [LITE 用編集可能項目] 設定をした文字オブジェクト（固定）が編集可能となります。



メモ

- 編集できる項目は [文字] プロパティの [入力データ] のみです。
- [LITE 用編集可能項目] 設定は、文字オブジェクトの [ブロック] プロパティで行います。[LITE 用編集可能項目] 設定については、「[\[ブロック\] プロパティを設定する \(P.243\)](#)」をご覧ください。

1 デザインデータを開きます。

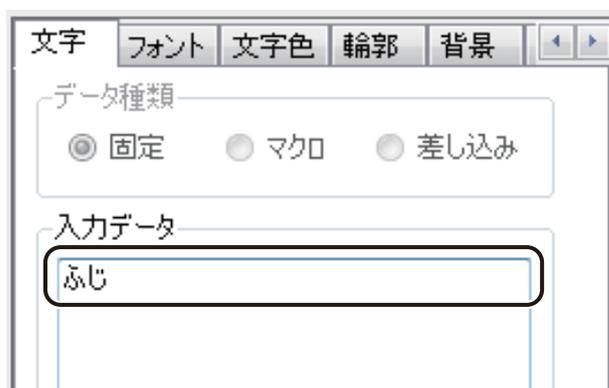
⇒「ファイルを開く (P.365)」

2 編集したい文字オブジェクト (固定) を選択します。

ここでは、「りんご」を選択します。「りんご」は、文字オブジェクト (固定) かつ、[LITE 用編集可能項目] に指定されていると仮定します。



3 [文字] プロパティの [入力データ] にカーソルを移動し、文字を編集します。



第8章 LabelCreate LITE の使いかた

文字オブジェクトが編集できました。



メモ

- 編集内容を保存したいときは、「LabelCreate SE」で編集してください。「LabelCreate LITE」で編集した内容は、保存できません。

内部データベースを編集する

内部データベースを編集します。

「LabelCreate SE」で、「LITE 用編集項目」設定をした項目が編集可能となります。

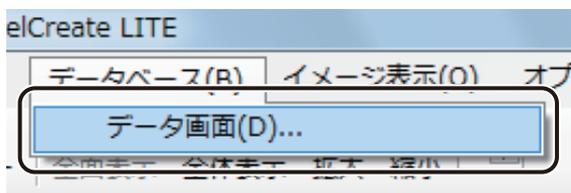
メモ

- 内部データベースの [LITE 用編集項目] 設定については、「[LITE 用編集項目を設定する \(P.265\)](#)」をご覧ください。
- 外部データベースの編集は、参照元のデータベースで直接行ってください。
- 外部データベースおよび内部データベースについては、「[外部データベースと内部データベース \(P.262\)](#)」をご覧ください。

1 デザインデータを開きます。

⇒ 「[ファイルを開く \(P.365\)](#)」

2 [データベース] メニューの [データ画面] をクリックします。



[データベース確認画面] ダイアログボックスが表示されます。

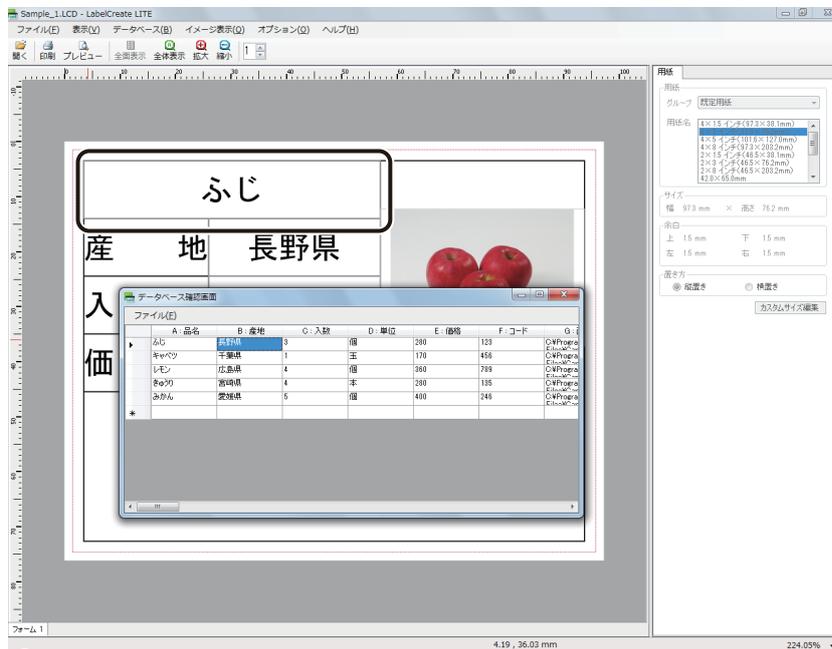
3 編集が可能な項目のデータを選択し、キーボードで変更内容を入力します。

ここでは、「りんご」を選択します。「A: 品名」のフィールドは、[LITE 用編集項目] に指定されていると仮定します。



第8章 LabelCreate LITE の使いかた

データを変更したあと、他のセルに移動する（キーボードの [Tab] キー、[Enter] キー、方向キーなどを押す）とオブジェクトに変更内容が反映されます。



- 4  (閉じる) をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
または、[ファイル] メニューの [終了] をクリックします。



メモ

- 編集内容を保存したいときは、「LabelCreate SE」で編集してください。「LabelCreate LITE」で編集した内容は、保存できません。
- [データベース編集画面] ダイアログボックスでデータをソートしたいときは、ソート対象の項目の見出しをクリックします。



- データベースから任意の文字列を検索するときは、[編集]メニューの[検索]をクリックします。操作手順については、「[文字列を検索する \(P.272\)](#)」をご覧ください。



9

付録

仕様

FAQ

ラベル Pro-1 デザインファイルとの互換性について

収録画像一覧

仕様

用紙サイズ	設定可能サイズ	幅 1.0 mm ~ 210.0 mm、長さ 1.0 mm ~ 400.0 mm		
	フォームデザイン	定形 面付け (最大 512 面 (横 16 × 縦 32))		
フォーム	登録上限数	1 デザインファイルあたり 8 フォーム		
オブジェクト	種類	文字、画像、直線、円形、四角形、多角形 (3 ~ 60 角形、星形)、円弧 (円弧、扇形、弓形)、連続直線、自由曲線、ベジェ曲線、バーコード、GS1 データバー、二次元コード、ナンバリング		
	文字	対応フォント	TrueType フォント	
		文字コード	Unicode (UTF16) 対応	
	画像	表示可能ファイル種類	ビットマップファイル形式 (*.bmp)、TIFF 形式 (*.tif) ※1、EMF 形式 (*.emf)、PNG 形式 (*.png)、GIF 形式 (*.gif)、JPEG 形式 (*.jpg)、WMF 形式 (*.wmf)、ICO 形式 (*.ico)	
	バーコード	コード種類	JAN-8、JAN-13、UPC-A、UPC-E、NW-7、ITF、CODE39、CODE128、GS1-128	
	GS1 データバー	コード種類	Omnidirectional、Truncated、Stacked、Stacked Omnidirectional、Limited、Expanded、Expanded Stacked、Composite Symbol with CC-A / CC-B、Truncated Composite Symbol with CC-A / CC-B、Stacked Composite Symbol with CC-A / CC-B、Stacked Omnidirectional Composite Symbol with CC-A / CC-B、Limited Composite Symbol with CC-A / CC-B、Expanded Composite Symbol with CC-A / CC-B、Expanded Stacked Composite Symbol with CC-A / CC-B	
	二次元コード	コード種類	QR Code、MaxiCode、PDF417、DataMatrix	
データベース	参照 (またはインポート) 可能ファイル種類	Microsoft Excel ファイル形式 (*.xls、*.xlsx) Microsoft Access データベースファイル (*.mdb、*.accdb) ※2 テキスト形式 (*.txt、*.csv) ※3		
	最大項目数	1 デザインファイルあたり 64 項目		
特殊機能 ※4		オーバーレイ印刷、オートカッター、バーコード設定		

※1 無圧縮 (インターリーブ)、LZW 圧縮のみ対応

※2 Microsoft Access データベースに OLE オブジェクト型で挿入したファイルは、ビットマップ形式ファイル (.bmp) のみが参照 (またはインポート) 可能

※3 テキスト形式は、Shift_JIS、Unicode (UTF-16) に対応

※4 キヤノン カラーラベルプリンター LX-D5500/LX-P5500 使用時

FAQ

Q. 本ソフトウェアの仕様について

A. 本ソフトウェアの仕様（対応フォント、画像貼り付け時の対応ファイル形式、対応バーコード種類、参照（またはインポート）可能なデータベースのファイル形式など）については、「仕様 (P.381)」をご覧ください。

Q. データベース機能について

A. 本ソフトウェアでは、Microsoft Office Excel や Microsoft Office Access などで作成したデータベースを参照（または、読み込み）、文字や画像など可変するオブジェクトにデータベースの情報を反映して表示させることができます。詳しくは、「データベース機能の設定 (P.250)」をご覧ください。

Q. 印刷部数の設定について

A. 本ソフトウェアでは、次のような方法で印刷部数を設定することができます。

- ・[部数] で設定する
⇒「印刷する (P.310)」
すべてのレコードを同じ部数印刷するときに使用します。
- ・データベースに印刷部数を指定する項目を設ける。
⇒「データベースの部数指定項目を選んで印刷する (P.321)」
あらかじめレコードごとに印刷部数が決まっているときに利用します。
- ・印刷レコードの選択時に印刷部数の項目を設定する。
⇒「レコードを指定して印刷する (P.323)」
印刷時に印刷枚数を選択したいときに利用します。

Q. 差込データの塗り込みについて

A. データベースの項目に応じて特定のオブジェクト（図形・文字）の色を変更して印刷することができます。詳しくは、「差し込みカラーテーブルの設定 (P.279)」をご覧ください。

Q. 印刷履歴について

A. 印刷日時や印刷部数などの印刷履歴を、CSV ファイルに保存することが可能です。詳しくは、「印刷履歴を確認する (P.315)」をご覧ください。

Q. 用紙サイズの登録について

A. あらかじめ登録された用紙サイズ以外に、新規で用紙サイズを登録することができます。詳しくは、「[カスタム用紙を使う \(P.120\)](#)」をご覧ください。

Q. オートカッターの設定方法について

A. オプションのオートカッターをご使用の場合は、本ソフトウェアから詳細なカット制御が可能です。詳しくは、「[カッターを設定する \(P.346\)](#)」をご覧ください。

Q. 本ソフトウェアで作成したデータの保存ファイル形式 (*.LCD)、(*.LCI) について

A. 本ソフトウェアで作成したデータを保存すると、2種類のファイルが生成されます。

- (*.LCD) ⇒ デザインファイル

- (*.LCI) ⇒ 印刷設定情報ファイル

印刷設定情報ファイル (*.LCI) には、[印刷] ダイアログボックス ([ファイル] メニュー - [印刷]) で設定した情報が保存されます。

詳しくは、「[印刷設定ファイル \(*.LCI\) について \(P.314\)](#)」(メモ欄)をご覧ください。

Q. 縦書き文字を入力したい

A. 文字の縦書きは、[文字] プロパティの [方向] で設定してください。詳しくは、「[\[フォント\] プロパティを設定する \(P.222\)](#)」をご覧ください。

Q. 対応 OS について

A. 本ソフトウェアの対応 OS についての最新情報は、キヤノンホームページのラベルプリンター製品情報から「サポートメニュー」をご確認ください。

Q. 最新バージョンの入手方法について

A. 本ソフトウェアの最新アップデートは、キヤノンホームページのラベルプリンター製品情報から「サポートメニュー」 - 「ダウンロードサービス」にアクセスして入手してください。

なお、本ソフトウェアの現在のバージョンは、[ヘルプ] メニューの [バージョン情報] から確認できます。

Q. Windows 8 環境にインストールできない

A. Windows 8 環境で本ソフトウェアを使用する場合は、あらかじめ「.NET Framework 3.5」を有効化しておく必要があります。本ソフトウェアをインストールする前に、下記の手順で「.NET Framework 3.5」を有効化してください。

- ① Windows のスタート画面を右クリックし、[すべてのアプリ] をクリックします。



- ② [コントロールパネル] をクリックします。



「コントロールパネル」が表示されます。

- ③ [プログラム] をクリックします。

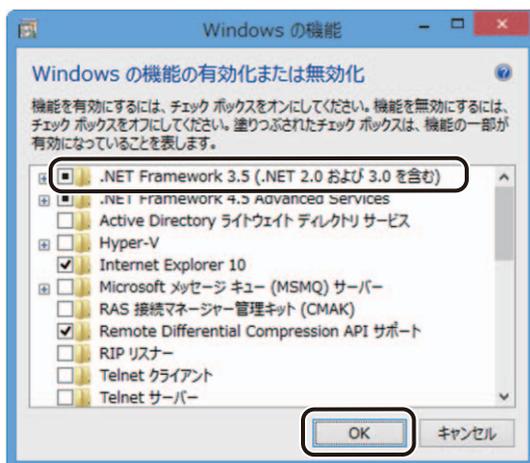


- ④ [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。



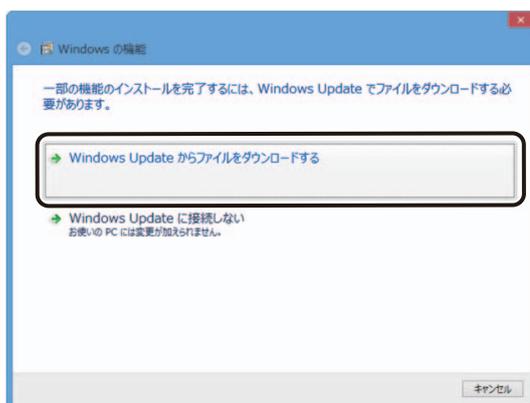
「Windows の機能」ダイアログボックスが表示されます。

- ⑤ 「.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)」にチェックを入れて、[OK] をクリックします。



[OK] をクリックしたあと、「Windows の機能」ダイアログボックスが閉じられたときは設定完了です。続いて画面が表示された場合は、手順⑥に進みます。

- ⑥ [Windows Update からファイルをダウンロードする] をクリックします。



- ⑦ 画面の指示に従って「.NET Framework 3.5」のインストールを完了させます。

ラベル Pro-1 デザインファイルとの互換性について

本ソフトウェアでラベル Pro-1 デザインファイル (*.SMD) を開いたとき、ソフトウェアの仕様の違いにより、ファイルが開けなかったり、本ソフトウェアの仕様に合わせた処理が行われたりすることがあります。

1. 用紙について

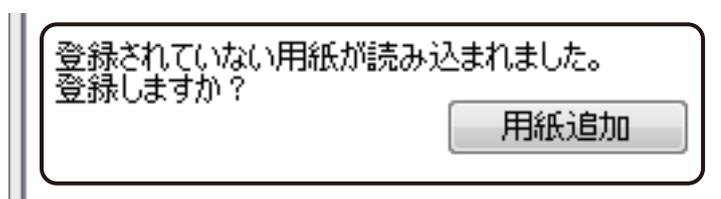
① 用紙サイズ

- ・ 用紙設定が、本ソフトウェアの最大用紙サイズ（幅 210.0 mm× 高さ 400.0 mm）より大きいときは、本ソフトウェアの最大用紙サイズに変換して表示します。
- ・ 本ソフトウェアの最大用紙サイズ（幅 210.0 mm× 高さ 400.0 mm）より大きく、用紙設定が「面付設計」のデザインファイルは読み込めません。
- ・ 用紙設定が「自由設計」および「面付設計」（ラベル別デザイン）のデザインファイルは読み込めません。
- ・ 用紙設定が「面付設計」（全ラベル同一）のデザインファイルを読み込んだときは、本ソフトウェアの面付け用紙のときの制限を併せてご確認ください。（⇒「13. 面付け用紙（フォームデザインが「面付け」）のときの制限について（P.4）」）

② 用紙名

本ソフトウェアに登録されていない用紙名が読み込まれたときは、[用紙] プロパティに次のようなメッセージとボタンが表示されます。

[用紙追加] をクリックして用紙を登録してください。レイアウトには影響ありません。



2. ガイダーおよびグリッドについて

設定されているガイドバーおよびグリッドは、本ソフトウェアで読み込んだときにいずれも削除されます。本ソフトウェアにて再度設定してください。

3. オブジェクトのグループ化およびロックについて

グループ化またはロックされているオブジェクトは、本ソフトウェアで読み込んだときに設定が解除されます。本ソフトウェアにて再度設定してください。

4. 差し込みカラーテーブルについて

本ソフトウェアでは、デザインファイルに設定されているカラーテーブル情報を読み込むことができます。詳しい手順については、「ラベル Pro-1 で作成したファイルを開く（P.23）」をご覧ください。

5. オブジェクトの表示について

データに配置されているオブジェクトに387ページ～409ページで示す項目が設定されているときは、設定情報が破棄されたり、本ソフトウェアの仕様に自動変換されたりするため、「ラベル Pro-1」と同じイメージで取り込むことができない場合があります。

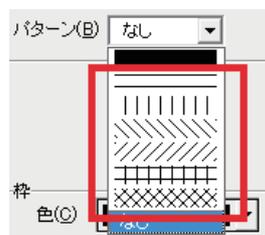
また、「同等のプロパティ」にてプロパティ名が記してある項目は、本ソフトウェアにて同等の設定を行うことが可能ですが、「-」が記してある項目は、本ソフトウェアに同等の機能がない、または仕様が異なるため、同じように設定することができません。

なお、同等のプロパティでの編集は、「LabelCreate SE」でファイルを開いたときに行うことが可能です。「LabelCreate LITE」では編集できません。

● 文字オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
文字設定	文字幅 文字高さ		[フォント] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 文字幅または文字高さを任意の数値で指定している文字の場合、選択しているフォントによっては、見た目の大きさが変わってしまうことがあります。(図1)
文字余白 / 丸み	丸み	縦・横を同じ値にする 縦 横	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、オブジェクトの角の丸みはなくなります。(図2) オブジェクトの丸み機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。四角形オブジェクトの[形状]プロパティで丸みを設定することができます。
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[背景] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> パターンに網掛け(ハッチ)※¹を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。(図2) 網掛け(ハッチ)の目が細くなります。(図2)
	枠	太さ	[枠線] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 本ソフトウェアの設定可能範囲0.1mm～50.0mmに変換されます。(図2) 0.01mm以下のとき→0.1mmに変換 50.0mm以上のとき→50.0mmに変換 上記の場合を除いて、オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外→中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。(四角形オブジェクト_図4)
		線種		<ul style="list-style-type: none"> 破線の間隔が異なるため、表示が変わります。(四角形オブジェクト_図5)

※1 パターン_網掛け (ハッチ) (赤枠部分)



(図1)

【ラベル Pro-1】

文字幅 / 文字高さを任意の値で指定している。

フォント A

ABC

フォント B

ABC

【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

フォントによつての大きさが変わってしまうことがある。(文字幅 / 文字高さの値は保持。)

フォント A

ABC

フォント B

ABC



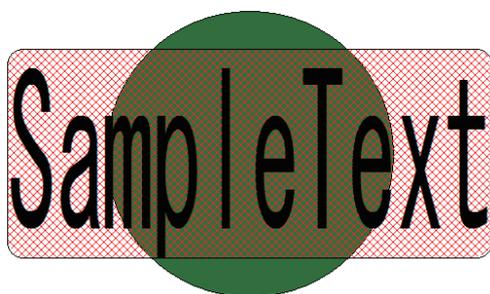
(図2)

【ラベル Pro-1】

パターン_網掛け: 背景色が透明 (固定)

丸み: あり

枠_太さ: 0.01 mm



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

ハッチ: 背景色が白色

目が細くなる

丸み: なし

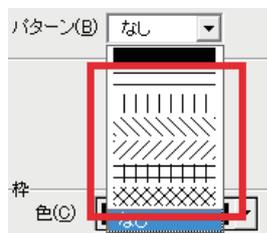
枠_太さ: 0.1 mm



● 四角形オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[塗潰し] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> パターンに網掛け（ハッチ）^{※1}を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。（図3） 網掛け（ハッチ）の目が細かくなります。（図3）
		枠	太さ	<ul style="list-style-type: none"> 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ~ 50.0 mm に変換されます。（図3） 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換 オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外 → 中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。（図4）
		線種	<ul style="list-style-type: none"> 破線の間隔が異なるため、表示が変わります。（図5） 	

※1 パターン_網掛け（ハッチ）（赤枠部分）

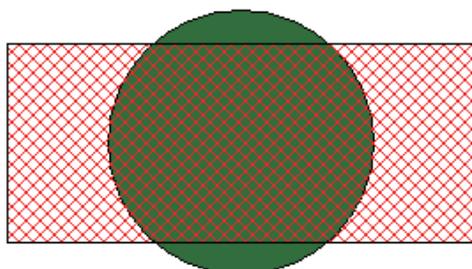


(図 3)

【ラベル Pro-1】

パターン_網掛け：背景色が透明（固定）

枠_太さ：0.01 mm

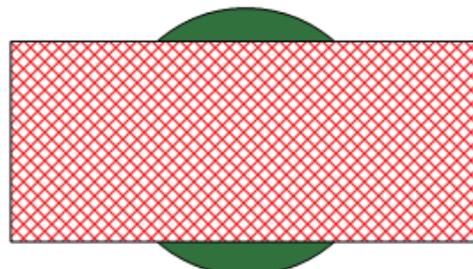


【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

ハッチ：背景色が白色

目が細くなる

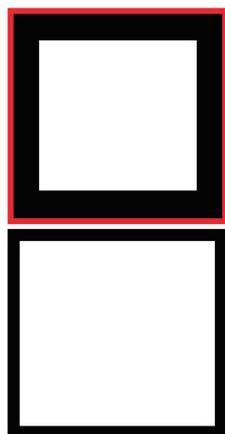
枠_太さ：0.1 mm



(図 4)

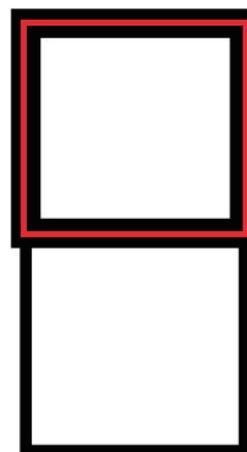
【ラベル Pro-1】

枠の基準位置：線幅に対して外（下図赤線）



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

枠の基準位置：線幅に対して中心（下図赤線）



(図 5)

【ラベル Pro-1】



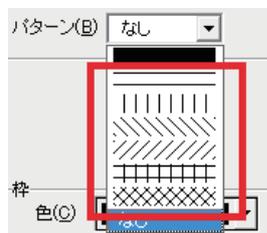
【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】



● 楕円オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[塗潰し] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> パターンに網掛け（ハッチ）^{*1}を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。（図6） 網掛け（ハッチ）の目が細かくなります。（図7）
	枠	太さ	[線] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 本ソフトウェアの設定可能範囲0.1 mm～50.0 mmに変換されます。（図6） 0.01 mm以下のとき→0.1 mmに変換 50.0 mm以上のとき→50.0 mmに変換 オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外→中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。（図7）
		線種		<ul style="list-style-type: none"> 破線の間隔が異なるため、表示が変わります。（四角形オブジェクト_図5）

^{*1}パターン_網掛け（ハッチ）（赤枠部分）



(図6)

【ラベル Pro-1】

パターン_網掛け：背景色が透明（固定）

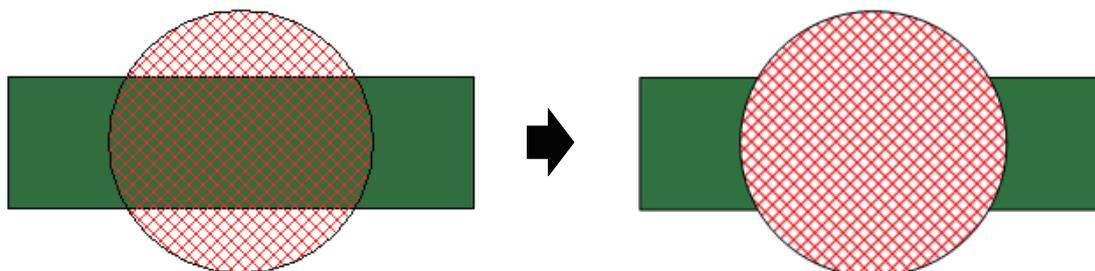
枠_太さ：0.01 mm

【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

ハッチ：背景色が白色

目が細くなる

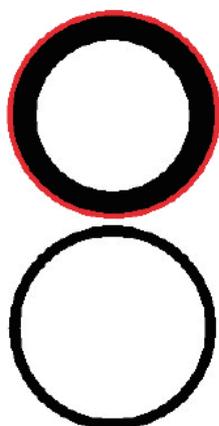
枠_太さ：0.1 mm



(図 7)

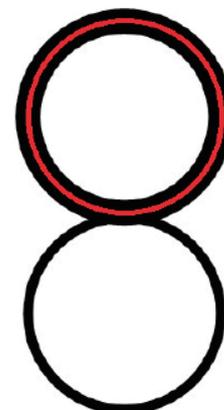
【ラベル Pro-1】

枠の基準位置：線幅に対して外（下図赤線）



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

枠の基準位置：線幅に対して中心（下図赤線）



● 線オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名		同等の プロパティ	結果
線種 / 矢印	枠	太さ	[線] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ~ 50.0 mm に変換されます。(図 8) 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換 破線の間隔が異なるため、表示が変わります。(四角形オブジェクト _ 図 5)
		線種		

(図 8)

【ラベル Pro-1】

線_太さ：0.01 mm



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

線_太さ：0.1 mm



● 画像オブジェクト / 差込画像オブジェクト

ラベル Pro-1		LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名	同等のプロパティ	結果
画像設定 (画像オブジェクトのとき) 差込画像 (差込画像オブジェクトのとき)	種類	-	・ 情報は破棄されます。
	背景色を透過にする	-	・ 情報は破棄されます。(図 9) ・ 背景色透過機能と同等の表示になるように設定したいときは、[修飾] プロパティの「透過指定する」にチェックマークをいれ、背景色と同じ色を透明色に指定します。

- ・ 画像処理が自動で行われ、輪郭がなめらかになります。
- ・ 他のソフトウェアで透過処理した画像を配置している場合、画面上の見え方が同じでも印刷結果に違いがでることがあります。(図 10)
同等の表示になるように設定にしたいときは、画像を選択し、[修飾] シートの「透過指定する」にチェックマークを入れてください。(⇒「[修飾] プロパティを設定する (P.245)」)
設定後は、画像を確認してください。設定する前と比べて大きさが変わっている場合があります。

(図 9)

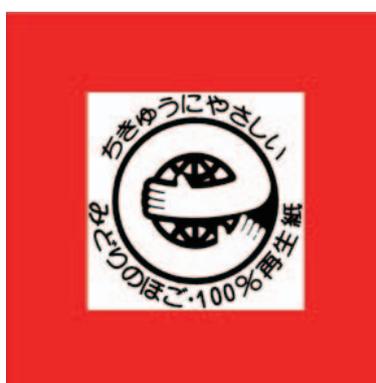
【ラベル Pro-1】

背景色を透過にする：ON
(下図点線がオブジェクト枠)



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

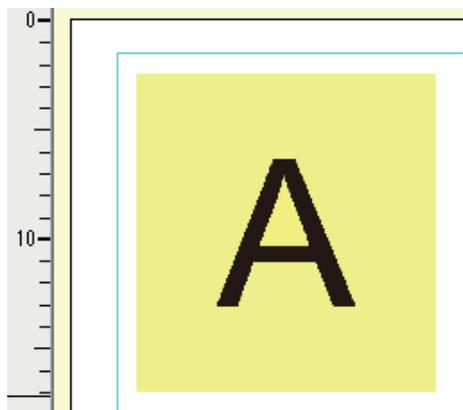
透過設定が解除される



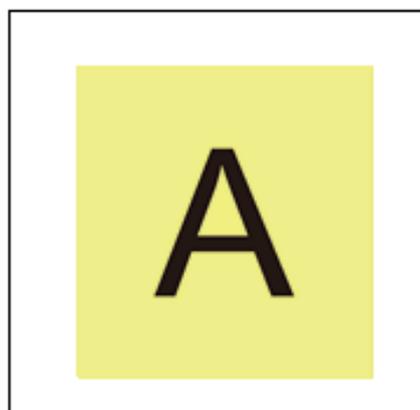
(図 10)

【ラベル Pro-1】

画面表示：透明処理されている画像を配置する。
(" A " の背面に透明処理あり)

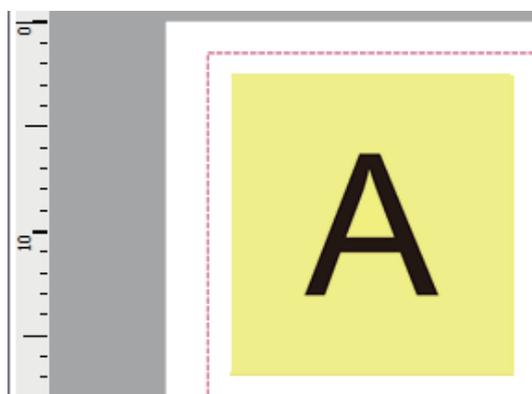


印刷結果：画面表示どおりの画像が印刷される。

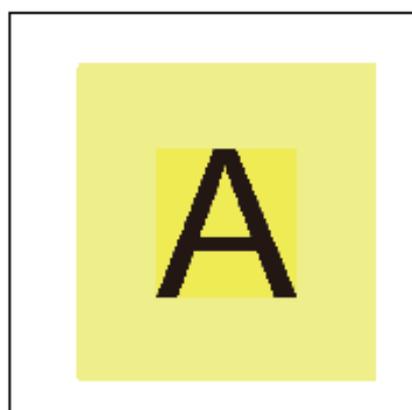


【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

画面表示：画像表示に変化なし。



印刷結果：画面表示と異なる画像が印刷される。
(透明処理部分(" A " の背面)の色が変化)

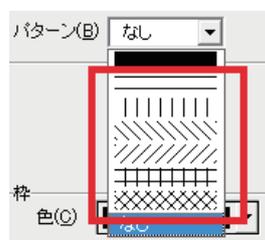


● ナンバリングオブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
ナンバリング	書式文字列	カンマ区切り	[ナンバリング]プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 次のように処理します。 「カンマ区切り」のみ設定されているとき： <ul style="list-style-type: none"> → 情報は保持されます。 「カンマ区切り」および「0 埋め」が設定されているとき： <ul style="list-style-type: none"> → 「0 埋め」の設定情報が保持され、「カンマ区切り」の設定情報は破棄されます。(図 11)
		書式		<ul style="list-style-type: none"> N進の場合、情報は破棄され、10 進に変換されます。(図 11)
		日付・時刻スタンプ	-	<ul style="list-style-type: none"> オブジェクトは削除されます。
		固定文字のみ	-	<ul style="list-style-type: none"> オブジェクトは削除されます。(図 11)
	全角半角	全角	-	<ul style="list-style-type: none"> 全角文字は半角文字に変換されます。(図 12)
文字設定	文字幅 文字高さ		[フォント]プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 文字幅または文字高さを任意の数値で指定している文字の場合、選択しているフォントによっては、見た目の大きさが変わってしまうことがあります。(文字オブジェクト_図 1)
文字余白 / 丸み	丸み	縦・横を同じ値にする 縦 横	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、オブジェクトの角の丸みはなくなります。(図 12) オブジェクトの丸み機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。四角形オブジェクトの [形状] プロパティで丸みを設定することができます。

塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[背景] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> パターンに網掛け（ハッチ）^{※1}を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。（図 13） 網掛け（ハッチ）の目が細かくなります。（図 13）
	枠	色 線種 太さ	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、オブジェクトの枠はなくなります。（図 13） オブジェクトの枠機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。 四角形オブジェクトの [線] プロパティで色、線種、太さを設定することができます。

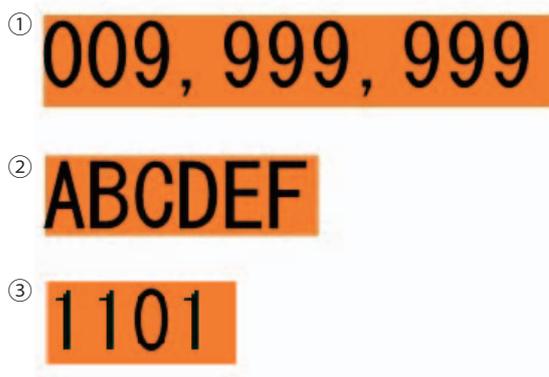
※1 パターン_網掛け（ハッチ）（赤枠部分）



(図 11)

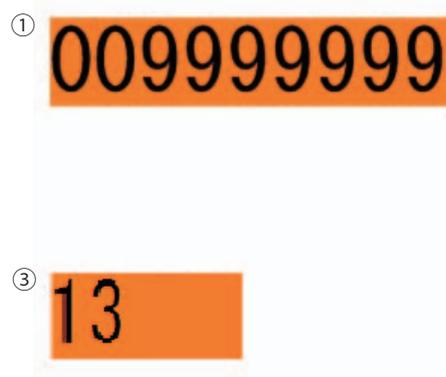
【ラベル Pro-1】

- ① カンマ区切り：ON
0 埋め：ON
- ② 固定文字列のみ
- ③ 書式（N進）：2進



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

- ① 桁区切り：OFF
ゼロ埋め：ON
- ② オブジェクトは削除される
- ③ 10進



(図 12)

【ラベル Pro-1】

丸み：あり

文字：全角



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

丸み：なし

文字：半角（固定）



(図 13)

【ラベル Pro-1】

パターン_網掛け：背景色が透明（固定）

枠：あり



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

ハッチ：背景色が白色

目が細くなる

枠：なし



● バーコードオブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE/LabelCreate LITE		
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果	
バーコード	バー	種類	[バーコード] プロパティ または [二次元コード] プロパティ	• 下表 1 【バーコードの互換情報】 参照	
		バーコード 設定 (バーコード のとき)	チェックデ ジット	[設定] プロパティ (バーコード)	• チェックディジットの種類情報は破棄されます。 本ソフトウェアではチェックディジットの種類は選択できません。
			キャラクタ 間ギャップ	-	• 情報は破棄されます。
		二次元バー コード設定 (二次元コー ドのとき)	誤り訂正	[設定] プロパティ (二次元コード)	• 項目名が次のように変わります。 「超高信頼度レベル」 → 「H」 「高信頼度レベル」 → 「Q」 「標準レベル」 → 「M」 「高密度レベル」 → 「L」
			モジュール 幅 セルサイズ	[二次元コード] プロパティ	• 項目名が「最小単位」となります。
			シンボル 比	[設定] プロパティ (二次元コード)	• 項目名が「段高さ」となります。 整数でない値が設定されていた場合には、 四捨五入されます。

	コード文字	フォント	文字幅 文字高さ	[設定] プロパティ (バーコード)	<ul style="list-style-type: none"> 文字幅、文字高さの情報は破棄されます。コード文字の文字幅または文字高さを任意の数値で指定しているバーコードオブジェクトがあるデータは、エラーメッセージが表示され、本ソフトウェアで開くことができません。(図 15) 「ラベル Pro-1」でサイズ (ポイント) を再指定してください。
		位置・配置	位置	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、「バーの下」に配置します。(JAN-8/JAN-13/UPC-A/UPC-E はロングバー付き) (図 14)
			文字配置	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、「中央揃え」で配置します。(図 14)
			バーとの距離	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄されます。(図 14)
	色・枠・回転・他	色	前景色	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、前景色は黒色に変換されます。(図 14)
			背景色	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、背景色は白色に変換されます。(図 14)
		枠	色 線種 太さ	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、オブジェクトの枠はなくなります。(図 14)
		ITF ベアラバー印刷		[設定] プロパティ (バーコード)	<ul style="list-style-type: none"> バー幅に 0.00 以外の値が設定されているときは、「物流用枠追加」にチェックマークが入ります。 設定値の情報は破棄されます。
ナンバリング	書式文字列		-	<ul style="list-style-type: none"> 下表 1【バーコードの互換情報】参照 	

表 1 【バーコードの互換情報】

ラベル Pro-1	LabelCreate SE/LabelCreate LITE
バーコード種類	結果
JAN8 JAN13 ITF NW7 CODE39 UPC-A	<ul style="list-style-type: none"> • バーコード種類の情報は保持されます。 • [書式文字列] が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されます。 <ul style="list-style-type: none"> a) 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) <ul style="list-style-type: none"> → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "123456" → 123456 b) 先頭だけにダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) <ul style="list-style-type: none"> → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "123456 → 123456 c) 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき <ul style="list-style-type: none"> → 固定文字列として読み込みます。 例) 123456 → 123456 • 上記 a)、b)、c) 以外のバーコードを配置したデータを本ソフトウェアで開いたときは、次のようなメッセージが表示されます。 [OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 <div data-bbox="596 1160 1129 1375" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="font-size: small; margin: 0;">Canon LabelCreate SE</p> <p style="text-align: center; margin: 5px 0;"> 非サポート形式データを含むバーコードが読み込まれたため、該当バーコードのデータを削除します。 </p> <p style="text-align: right; margin: 5px 0;">OK</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • [バーコード] プロパティの [入力データ] は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。(図 16)

<p>CODE128</p>	<ul style="list-style-type: none"> • バーコード種類の情報は保持されます。 • [書式文字列] が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されます。 <ul style="list-style-type: none"> a) 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) <ul style="list-style-type: none"> → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123" → AB-0123 b) 先頭のみダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) <ul style="list-style-type: none"> → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123 → AB-0123 c) 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき <ul style="list-style-type: none"> → 固定文字列として読み込みます。 例) AB-123 → AB-123 • 上記 a)、b)、c) 以外のバーコードが配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、次のようなメッセージが表示されます。 [OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 <div data-bbox="555 992 1090 1205" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <p>[バーコード] プロパティの [入力データ] は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 制御コードを囲む括弧は、" <> " → " [] " に自動変換されます。(図 18) 本ソフトウェアでは、" [] " に囲まれた文字列を制御文字と判断しています。(⇒ P. 190 のメモ) • 文字列に "[" があるときは、" [[" に自動変換されます。(図 18) 本ソフトウェアでは、" [[" を " [" 一文字と認識しています。(⇒ P. 190 のメモ)
<p>UPC-E</p>	<ul style="list-style-type: none"> • バーコード種類の情報は保持されます。 • 入力規則がラベル Pro-1 (UPC-A と同じ書式) と本ソフトウェア (UPC-A から変換した書式) で異なるため、UPC-E が配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、次のようなメッセージが表示されます。 [OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 <div data-bbox="555 1727 1090 1939" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <p>[バーコード] プロパティの [入力データ] は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。(図 17)</p>

UCC/EAN128	<ul style="list-style-type: none"> • 同等のコード種類「GS1-128」に変わります。 • [書式文字列] が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されず。 <ul style="list-style-type: none"> a) 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) <ul style="list-style-type: none"> → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込ます。 例) "AB-0123" → AB-0123 b) 先頭のみダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) <ul style="list-style-type: none"> → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込ます。 例) "AB-0123 → AB-0123 c) 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき <ul style="list-style-type: none"> → 固定文字列として読み込ます。 例) AB-123 → AB-123 • 上記 a)、b)、c) 以外のバーコードが配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、次のようなメッセージが表示されます。 [OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 <div data-bbox="596 994 1129 1205" style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">Canon LabelCreate SE</p> <p style="text-align: center;">  非サポート形式データを含むバーコードが読み込まれたため、該当バーコードのデータを削除します。 </p> <p style="text-align: right;">OK</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • [バーコード] プロパティの [入力データ] は空欄となり、バーコードは赤いバツ印で表示されます。
郵便局カスタマーコード	<ul style="list-style-type: none"> • 情報は破棄されます。

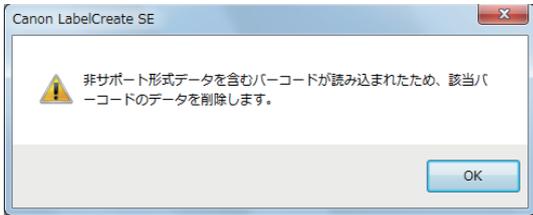
MAXI CODE PDF QR/MicroQR	<ul style="list-style-type: none"> • 次のように、同等のコード種類に変わります。 「MAXI CODE」 のとき → 「MaxiCode」 に変換 「PDF」 のとき → 「PDF417」 に変換 「QR/MicroQR」 のとき → 「QR Code」 に変換 • [書式文字列] が次のいずれかの条件で入力されている場合は、データが保持されず。 a) 先頭および末尾にダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123" → AB-0123 b) 先頭のみダブルクォーテーション (") があり、それ以外の書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき (固定文字の「0」は可) → ダブルクォーテーション (") を削除し、固定文字列として読み込みます。 例) "AB-0123 → AB-0123 c) 書式文字 (「表 2【書式文字一覧】(P.403)」) を含まない文字列のとき → 固定文字列として読み込みます。 例) AB-123 → AB-123 • 上記 a)、b)、c) 以外の二次元コードが配置されているデータを本ソフトウェアで開いたときは、次のようなメッセージが表示されます。 [OK] をクリックすると、文字列情報を破棄し、データが開きます。 <div style="text-align: center;">  </div> <p>[二次元コード] プロパティの [入力データ] は空欄となります。 オブジェクトが配置されていた位置をクリックすると、オブジェクトの領域が表示されます。(図 19)</p>
--------------------------------	---

表 2【書式文字一覧】

#	c	aaa	dddddd	mm	g	y	hh	ss	A/P
0	d	dddd	w	mmm	gg	yy	n	ttttt	a/p
:	dd	aaaa	ww	mmmm	e	yyyy	nn	AM/PM	AMPM
/	ddd	dddddd	m	q	ee	h	s	am/pm	"

(図 14)

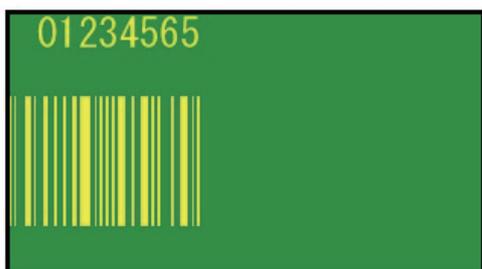
【ラベル Pro-1】

コード文字：バーの上
右寄せ

前景色：黄色

背景色：緑色

枠：あり



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

コード文字：バーの下（固定）

ロングバー付き（JAN8/JAN13/
UPC-A/UPC-E）

中央揃え（固定）

前景色：黒色（固定）

背景色：白色（固定）

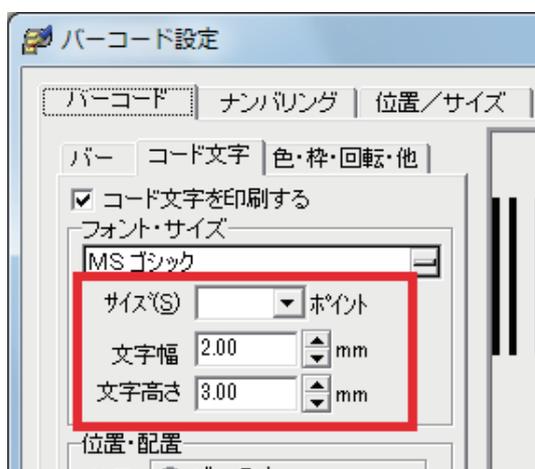
枠：なし



(図 15)

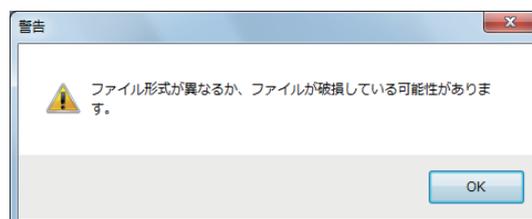
【ラベル Pro-1】

コード文字の文字幅 / 文字高さを任意の値で指定している。



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

エラーメッセージが表示されます。



(図 16)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：JAN-8

書式文字列：123#456

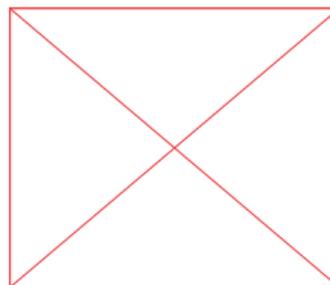


【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

コード種類：JAN-8

入力データ：空欄（書式文字列に" #" があるため、データは破棄される。）

→ バーコードは赤いバツ印で表示される。

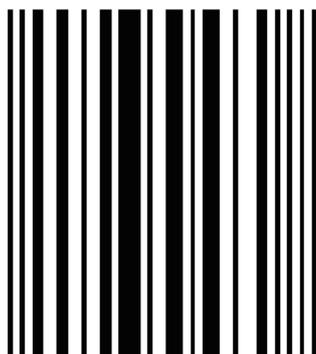


(図 17)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：UPC-E

書式文字列："01200000345"

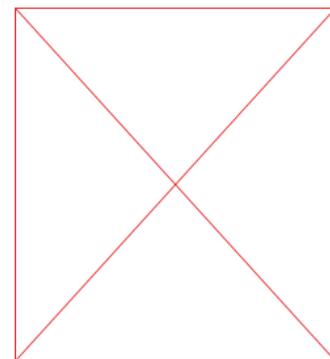


【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

コード種類：UPC-E

入力データ：空欄（入力規則がラベル Pro-1 と異なるため、データは破棄される。）

→ バーコードは赤いバツ印で表示される。



(図 18)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：CODE128

書式文字列：91<NUL>12[45]



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

コード種類：CODE128

入力データ：91[NUL]12[[45]

→ 同等のバーコードが表示される。



(図 19)

【ラベル Pro-1】

バーコード種類：QR/MicroQR

書式文字列：あいうえお #



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

コード種類：QR Code

入力データ：空欄（書式文字列に" #" があるため、データは破棄される。）



● 差込文字オブジェクト

ラベル Pro-1			LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名		同等のプロパティ	結果
差込	マクロ指定		[文字] プロパティ (マクロ)	<ul style="list-style-type: none"> 下表 3 【マクロ書式の互換情報】 参照
文字設定	文字幅 文字高さ		[フォント] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 文字幅または文字高さを任意の数値で指定している文字の場合、選択しているフォントによっては、見た目の大きさが変わってしまうことがあります。(文字オブジェクト_図 1)
文字余白 / 丸み	丸み	縦・横を同じ値にする 縦 横	-	<ul style="list-style-type: none"> 情報は破棄され、オブジェクトの角の丸みはなくなります。(文字オブジェクト_図 2) オブジェクトの丸み機能と同等の表示になるように設定したいときは、四角形オブジェクトを背面に作成します。四角形オブジェクトの [形状] プロパティで丸みを設定することができます。
塗り込み / 枠線	塗り込み	パターン	[背景] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> パターンに網掛け (ハッチ) ^{*1} を設定している場合は、背景色が透明→白色に変換されます。(文字オブジェクト_図 2) 網掛け (ハッチ) の目が細くなります。(文字オブジェクト_図 2)

	枠	太さ	[枠線] プロパティ	<ul style="list-style-type: none"> 本ソフトウェアの設定可能範囲 0.1 mm ~ 50.0 mm に変換されます。(文字オブジェクト_図2) 0.01 mm 以下のとき → 0.1 mm に変換 50.0 mm 以上のとき → 50.0 mm に変換 上記の場合を除いて、オブジェクトのサイズや枠の太さの設定値は変わりませんが、線幅に対する枠の基準位置が線幅に対して外 → 中心に変換されるため、オブジェクトの表示が大きくなります。(四角形オブジェクト_図4)
		線種		<ul style="list-style-type: none"> 破線の間隔が異なるため、表示が変わります。(四角形オブジェクト_図5)

※1 パターン_網掛け (ハッチ) (赤枠部分)

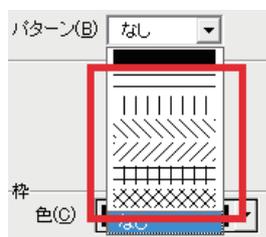


表3【マクロ書式の互換情報】

ラベル Pro-1		LabelCreate SE/LabelCreate LITE
マクロ書式	内容	結果
FLD("フィールド名")	フィールド指定	<ul style="list-style-type: none"> 情報は保持されます。
"文字"	文字出力	<ul style="list-style-type: none"> 情報は保持されます。
+	結合	<ul style="list-style-type: none"> 書式が「+」→「&」に変換されますが、表示に影響はありません。
&	行結合	<ul style="list-style-type: none"> 「&」の表す内容が異なるため、改行情報が失われます。 「&」を「& BR」と入力すると、同等の結果が得られます。
REP("文字 A","文字 B")	文字置換	<ul style="list-style-type: none"> 左記書式を含むマクロオブジェクトは、書式エラーと判断し、「0」と表示されます。 「"対象文字列" REP("文字列 A","文字列 B")」を「REPLACE("対象文字列","文字列 A","文字列 B")」と入力すると、同等の結果が得られます。
	パイプ	<ul style="list-style-type: none"> 左記書式を含むマクロオブジェクトは、書式エラーと判断し、「0」と表示されます。
LT(位置,桁数)	左切り出し	
RT(位置,桁数)	右切り出し	
ZIP7("文字")	郵便番号生成	
XLD("文字")	文字除去	
JPC("文字")	カスタマーコード生成	
ZEN()	全角変換	
EXT(位置)	行切り取り	
CAT()	複数行結合	

● 差込バーコードオブジェクト

ラベル Pro-1		LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
設定シート名	項目名	同等のプロパティ	結果
差込	マクロ指定	-	・ オブジェクトは削除されます。
バーコード		-	・ 「バーコードオブジェクト_バーコード」参照

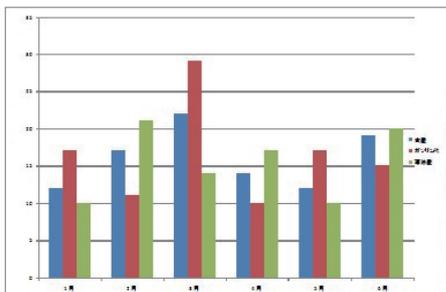
● OLE オブジェクト

ラベル Pro-1		LabelCreate SE/LabelCreate LITE	
オブジェクト名		同等のプロパティ	結果
OLE		-	・ オブジェクトは削除されます。(図 20)

(図 20)

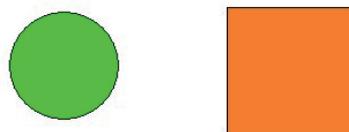
【ラベル Pro-1】

OLE オブジェクト_下図グラフ



【LabelCreate SE/LabelCreate LITE】

OLE オブジェクトは削除される。



収録画像一覧

本ソフトウェアには、GHS マーク、ケアマークおよびリサイクルマークの画像が収録されています。収録画像は、ソフトウェアのインストールを行うと、次の場所に保存されます。

- Windows 8 (32 ビット) / Windows 7 (32 ビット) / Windows Vista (32 ビット) / Windows XP (32 ビット) のとき
< C:\Program Files\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample >
- Windows 8 (64 ビット) / Windows 7 (64 ビット) / Windows Vista (64 ビット) / Windows XP (64 ビット) のとき
< C:\Program Files (x86)\Canon Finetech\LabelCreate SE\Sample >

1. GHS マーク



acid_l.bmp



acid_m.bmp



acid_s.bmp



aquatic_pollut_red_l.bmp



aquatic_pollut_red_m.bmp



aquatic_pollut_red_s.bmp



bottle_l.bmp



bottle_m.bmp



bottle_s.bmp



exclam_l.bmp



exclam_m.bmp



exclam_s.bmp



explos_l.bmp



explos_m.bmp



explos_s.bmp



flamme_l.bmp



flamme_m.bmp



flamme_s.bmp



round_flamme_l.bmp



round_flamme_m.bmp



round_flamme_s.bmp



silhouette_l.bmp



silhouette_m.bmp



silhouette_s.bmp



skull_l.bmp

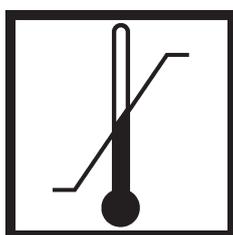


skull_m.bmp



skull_s.bmp

2. ケアマーク



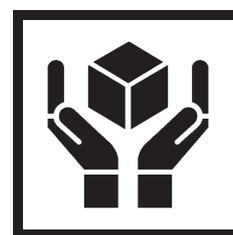
温度制限 .bmp



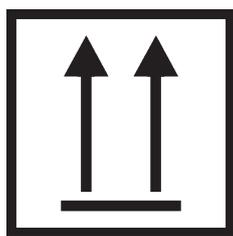
火気厳禁 .bmp



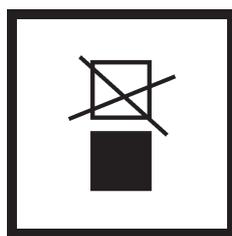
壊れ物 .bmp



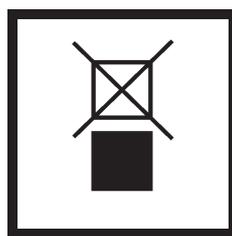
取扱い注意 .bmp



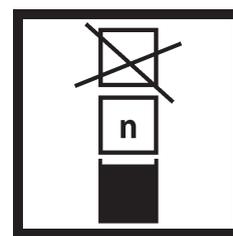
上向き .bmp



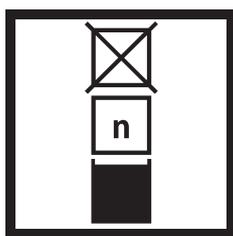
上積み禁止 1.bmp



上積み禁止 2.bmp



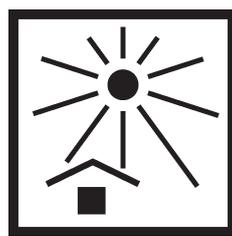
上積み段数制限 1.bmp



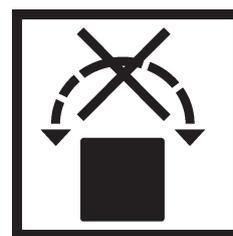
上積み段数制限 2.bmp



水濡れ防止 .bmp



直射日遮蔽 .bmp



転がし禁止 .bmp

3. リサイクルマーク



アルミ .bmp



スチール .bmp



プラ .bmp



ペット .bmp



紙 .bmp



ダンボール

段ボール 1.bmp



段ボール 2.bmp

索引

欧字

D

DB フィールドの追加 295

G

[GS1 データバー] ツール 195

[GS1 データバー] プロパティ 196

L

LITE 用編集可能項目 244, 373

LITE 用編集項目設定 13, 265, 376

かな

い

位置合わせ 13, 16, 157

一面表示 12, 15, 363, 364

[イメージ] ツール 167

[イメージ] プロパティ 167

印刷 11, 14, 310, 364

印刷設定ファイル (.LCI) 314

印刷履歴設定 14, 318

え

[円形] ツール 172

[円弧] ツール 178

お

オーバーレイ印刷 340

か

回転 12, 152

ガイドバー 12, 28, 363

外部データベース 262

拡大 / 縮小 151

[影] プロパティ 241

囲み選択 16, 143

重ね順 12, 16, 154

カスタムサイズ編集 118, 120

カスタム用紙サイズ 120

画面更新 12, 266, 363

環境設定 14, 331

ガンマ補正 245

き

既定用紙 119

く

グリッド 12, 40, 363

グループ化 13, 16, 160

グループ化解除 13, 16, 161

け

[形状] プロパティ 174, 176, 179, 181, 183, 185

こ

交差選択 16, 143

コピー 15, 149

さ

再グループ化 13, 161

差し込み 261

差し込みカラーテーブル 13, 279

し

[四角形] ツール 173

[自由曲線] ツール 182

[修飾] プロパティ 245

す

ステータスバー 10, 12, 142, 362

せ

[設定] プロパティ 190, 202, 210, 215

[選択] ツール 141

[線] プロパティ 247

全面表示 12, 15, 363, 364

- そ
挿入ツールバー10, 17
- た
タイル表示 231
[多角形] ツール 175
- ち
[直線] ツール 171
- つ
通常モード 13, 51, 363
ツールバー 12
- て
データ画面 13, 258, 267, 363, 376
データベースインポート 13, 253, 254, 268
データベースエクスポート 268, 277
データベース解除 13, 259
データベース確認画面 13, 363, 376
データベース削除 13, 259, 268
データベース参照 13, 253, 254
データベース編集画面 13, 267
[テキスト] ツール 163
デザインエリア 10, 362
- と
透過 245
動作優先モード 13, 51, 52, 363
- な
内部データベース 262
[ナンバリング] ツール 214
- に
[二次元コード] ツール 204
[二次元コード] プロパティ 205
- ぬ
[塗潰し] プロパティ 225
- は
バーコード設定 14, 351
[バーコード] ツール 186
[バーコード] プロパティ 187
バージョン情報 14, 383
[背景] ツール 218
[背景] プロパティ 249
配置 13, 16, 155
ハッチ 227
パレット 14, 44
反転 12, 153
- ひ
表示倍率 12, 15, 42, 363, 364
標準ツールバー 9, 14, 361, 364
- ふ
フォーム 133
フォームデザイン 121
[フォント] プロパティ 222
プレビュー 11, 14, 303, 364
[ブロック] プロパティ 243
プロパティエリア 10, 362
- へ
[ベジェ曲線] ツール 184
ヘルプ 14
- ほ
保存 14, 19
- ま
マクロ 292
マクロウィザード 296
- め
メニューバー 9, 361
面付け 121
- も
文字オブジェクト (固定) 373

索引

文字サイズ優先 222
[文字色] プロパティ 236
[文字] プロパティ 164

り

[輪郭] プロパティ 237

る

ルーラー 12, 27, 362

れ

レイアウトツールバー 10, 16
レコード指定 325
レコード情報設定 320
列タイトルの設定 269, 271
[連続直線] ツール 180

ろ

ロック 13, 16, 161
ロック解除 13, 16, 162

わ

枠サイズ優先 222
[枠線] プロパティ 239

Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

お客様相談センター
全国共通電話番号 **050-555-90064**

受付時間 [平日] 9:00~12:00 / 13:00~17:00

(土・日・祝祭日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます)

*海外からのご利用の方、または050からはじまるIP電話番号をご利用いただけない方は03-5428-1344をご利用ください。

*受付時間は予告無く変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6